平成24年度

アニュアルレポート 年報

独立行政法人 国立病院機構
京都医療センター

序　文

日頃より京都医療センターの運営にご支援頂き感謝申し上げます。

さてこの度、２０１２年度の本センターの活動をまとめた平成２４年度アニュアルレポートが完成いたしましたのでご報告申し上げます。復活して２回目の年報になります。

２０１２年度は民主党の分裂により政権が混迷を深め、経済の再建や震災復興、財政再建など多くの課題を抱える中で、決められない政治がつづき、１２月１６日の選挙により民主党が大敗し、自民公明の連立政権が復活した年でした。さらに、竹島や尖閣列島の帰属の問題から韓国や中国との関係悪化による様々な課題が生まれ、北朝鮮の核の問題とともに東アジアの安定にとって大きな困難を生じています。

医療においては医師不足や地域や診療科での医師の偏在が依然として大きな問題とされ、医療費を含めた社会保障費の抑制と財政赤字の解消の課題解決がいわれてきました。財政赤字の中で医療費など社会保障費の自然増に対応して消費税の値上げが政治日程にあがってきた年でもありました。一方では京都大学の山中伸弥教授のノーベル賞受賞があり、日本のすべての人たちを歓喜させた年でもありました。

京都医療センターのこの一年をみると、平成２３年より始まった新病棟やNICUやGCUの運営も２４年度にも順調に成果をあげ、また、救急救命では「ことわらない医療」が実践されてきました。また、各診療科でも、診療内容が充実し患者数の増加と入院稼働率、診療点数の増加が得られています。これには、地域医療連携室の活動や事務職の方々の支えがあって実現してきたものと思います。２３年度は２月から３月にかけて、インフルエンザの院内での流行により病室の閉鎖や入院制限を経験しましたが、本年度は感染対策チームを中心に病院一丸となって早期よりきめ細かな対策を徹底することで、発生を最小限に押さえ、診療に影響することを防ぐことができました。これは、一昨年の経験を生かし、本院のすべての職種の職員がチーム医療を発展させた成果と考えています。そして、国立病院機構１４３病院の中で最も大きな収支の伸びにつながったものと思います。さらに、この成果は２５年度のPET-CTを備えた新外来棟の建設に向けて展望を開くものと思います。

しかし、今後を展望すると、間近では医療費の改定や京都の初期研修医枠の大幅な減少、さらに長期的には２０２５年度の医療介護機能再編など多くの課題が生まれてきています。そのためには、国立病院機構のもとでの本センターの使命を踏まえて、準備を怠らず、柔軟に対応して行くことが求められています。２０１２年度の成果を踏まえ更なる本センターの発展の為に、職員の努力はもとより、センターに関係する皆様の一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

院長　中　村　孝　志

京都医療センター診療年報　目次

京都医療センターの理念

私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、
患者さんが安心できる医療を提供します。

□ 基本方針

一、常に高度で先進的な医療を導入し、地域の医療機関との連携を図り、急性期医療を中心とした質の高い医療を提供することで患者さんに信頼される病院となることを目指します。
一、十分な説明のうえで患者さんの同意を得た医療を提供します。
一、臨床医学の発展を常に念頭におき、臨床研究を積極的に推進し、新しい医療技術の研究開発に努めます。
一、教育研修病院として医師、看護師等、医療に従事する人材の育成に努めます。
一、職員の働きやすい職場環境であることが、安全で高度かつ効率的な医療提供に不可欠であると考え、職員の福利厚生の向上に努めます。

□ 患者さんの権利の尊重に関して

京都医療センターでは、患者さんと医療従事者との信頼関係のもとで患者さんとともに歩む病院をめざしています。ここに患者さんの権利に関する事項と守っていただく事項について記します。

□ 患者さんの権利に関する事項

1. 尊厳ある人間として医療を受ける権利を大切にします。
2. 良質で適切な医療を平等に提供します。
3. 検査や治療について充分に理解していただけるように説明します。
4. 検査や治療について自ら選択する権利を尊重します。
5. 医療のどの段階においても他の医師の意見(セカンドオピニオン)を求める権利を尊重します。
6. 自分に関する医療情報の開示を求める権利を尊重します。
7. プライバシーを守ります。

□ 守っていただく事項

1. 健康状態及び診療に必要な情報の提供をお願いします。
2. 医療内容について理解していただけない場合にはお知らせください。
3. 病院のルールを守り他の人の迷惑をかけないようにお願いします。

概要

（平成２５年４月１日現在）

●所　在　地　京都府京都市伏見区深草向畑町１－１

●沿　　　革

明治４０年　６月	京都衛戍病院として設立
昭和１２年	京都陸軍病院と名称変更
昭和２０年１２月	国立京都病院として厚生省に移管
昭和５３年　４月	臨床研究部（内分泌代謝疾患）設置
昭和５８年　５月	外来管理診療棟竣工
昭和５９年１２月	救命救急センター開設
昭和６０年　７月	中央診療棟竣工
昭和６３年　３月	第一病棟竣工
昭和６３年１１月	ＷＨＯより糖尿病協力センターに指定
平成　元年　３月	第二病棟竣工
平成　７年　４月	結核病床廃止（６５０床から６００床に変更）
平成　７年　４月	開放型病院に認定
平成　７年　７月	エイズ治療拠点病院に指定
平成１０年　６月	臓器提供施設に指定
平成１１年　３月	国の政策医療で高度専門医療施設（内分泌代謝性疾患）に位置付け
平成１１年　３月	病院情報システム導入
平成１２年　４月	(財)日本医療機能評価機構・病院機能評価認定
平成１４年　６月	地域医療連携室の開設
平成１５年１０月	臨床研究センター（内分泌代謝性疾患）設置
平成１６年　３月	電子カルテシステム導入
平成１６年　４月	独立行政法人へ移行。京都医療センターと改称
平成１７年　４月	(財)日本医療機能評価機構・病院機能評価Ver.4認定
平成１９年　１月	地域がん診療連携拠点病院に指定
平成２０年　８月	地域医療支援病院に指定
平成２２年　６月	(財)日本医療機能評価機構・病院機能評価Ver.6認定
平成２３年　１月	新中央診療棟竣工、緩和ケア病棟開設

●病床数　６００床　（一般病床）

●標榜診療科（３９科）

内科、血液内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、腫瘍内科、精神科、
神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、アレルギー科、心臓外科、血管外科、
小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、皮膚科、
泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、頭頸部外科、放射線科、
麻酔科、リハビリテーション科、緩和ケア内科、緩和ケア外科、歯科口腔外科、小児歯科、
病理診断科、臨床検査科、救急科

●当院が担う政策医療

1．内分泌代謝性疾患（高度専門医療施設）
2．成育医療（近畿ブロック基幹医療施設）
3．がん（専門医療施設）
4．循環器（専門医療施設）
5．腎疾患（専門医療施設）
6．感覚器疾患（専門医療施設）
7．高度総合医療施設
8．エイズ拠点病院
9．国際医療協力施設
10．ＮＨＯ災害ブロック拠点病院

●主な機能、施設認定等

・地域がん診療連携拠点病院
・地域医療支援病院
・救命救急センター
・ＥＲ（北米型救急外来）
・地域周産期母子医療センター
・エイズ拠点病院
・臓器提供施設
・京都府難病医療協力施設
・ＷＨＯ糖尿病協力センター
・健診センター
・外来化学療法センター
・人工透析センター
・(財)日本医療機能評価機構　病院機能評価（Ver.6）認定

●教育研究機能

・臨床研究センター
・臨床研修指定病院（管理型）
・各学会認定専門医研修施設
・附属京都看護助産学校（看護師科・助産師科）

●職　員　数　　１，２２６名　（常勤職員９６２名、非常勤職員２６４名）

●敷地面積

区　　分	面　　　積
病院敷地	５４，６９５㎡
宿舎敷地	１１，５７２㎡
合　　計	６６，２６７㎡

●建物面積

区　　　分	建　築　面　積	延　床　面　積
病　　　　棟	２，９７６㎡	１８，７４８㎡
外来診療棟	２，７１１㎡	１０，８４０㎡
中央診療棟	２，４０５㎡	１３，３０１㎡
新中央診療棟	１，９５２㎡	８，６７２㎡
臨床研究センター	８２７㎡	３，１１７㎡
看護学校	３，２９８㎡	６，５６０㎡
そ　の　他	４，６６０㎡	１０，５６０㎡
合　　　　計	１８，８２９㎡	７１，７９８㎡

京都医療センター　組織図

（平成２５年４月１日現在）

- 院長
  - 副院長
  - 副院長
    - 統括診療部長
      - 診療部長（内科系担当）
        - 総合内科、血液内科、糖尿病内科、内分泌・代謝内科、
        - 腎臓内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、
        - 循環器内科、アレルギー科、小児科、リハビリテーション科
      - 診療部長（外科系担当）
        - 外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、
        - 心臓外科、血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、
        - 産科、婦人科、耳鼻咽喉科、気管食道科、頭頸部外科、
        - 歯科口腔外科、小児歯科、麻酔科
      - 診療部長（がん診療担当）
        - 腫瘍内科、緩和ケア内科、緩和ケア外科
      - 診療部長（救命救急担当）
        - 救急科
      - 診療部長（医療技術担当）
        - 放射線科
        - 臨床検査科
        - 臨床栄養科
          - 栄養管理室
        - 病理診断科
        - 臨床工学科
      - 診療部長（手術管理担当）
      - 診療部長（病棟管理担当）
      - 診療部長（外来管理担当）
      - 診療部長（健診担当）
        - 健診センター
      - 診療部長（地域医療担当）
        - 地域医療連携室
      - 診療部長（併）（医療安全担当）
        - 医療安全管理室
      - 診療部長（感染制御担当）
      - 診療部長（先進医療担当）
    - 医療情報部長
      - 情報システム管理室、診療情報管理室
    - 教育研修部長
    - 薬剤科長
    - 看護部長
    - 事務部長
      - 企画課、管理課、経営企画室
  - 臨床研究センター長
    - 副センター長
    - 臨床研究企画運営部長（併）
      - 情報化推進研究室、予防医学研究室、治験管理室
    - 内分泌代謝高血圧研究部長
      - 分子内分泌代謝研究室、臨床内分泌代謝研究室、
      - 高血圧研究室、内分泌系腫瘍研究室、臨床疫学情報研究室
    - 糖尿病研究部長（併）
      - 糖尿病研究室、糖尿病合併症研究室、血管障害研究室、
      - 臨床代謝栄養研究室
    - 展開医療研究部長
      - 先端医療技術開発研究室、生命情報科学研究室、
      - がん医療研究室

- 学校長
  - 副学校長
    - 附属京都看護助産学校

京都医療センター　幹部職員


院長　中村　孝志


副院長　塚原　徹也


副院長　髙倉　賢二


臨床研究センター長
島津　章


統括診療部長
猪飼　伊和夫


内科系診療部長
教育研修部長
小山　弘


外科系診療部長
中川　泰彰


がん診療部長
土屋　宣之


救命救急部長
白神　幸太郎


医療技術部長
伊藤　剛


手術管理部長
七野　力


病棟管理部長
田上　哲也


外来管理部長
三尾　直士


健診部長
前川　高天


地域医療部長
秋山　祐一


医事管理部長
勝島　慎二


感染制御部長
奥野　博


先進医療部長
喜多　美穂里


医療情報部長
北岡　有喜


臨床研究センター副センター長
内分泌代謝高血圧研究部長
成瀬　光栄


展開医療研究部長
長谷川　浩二

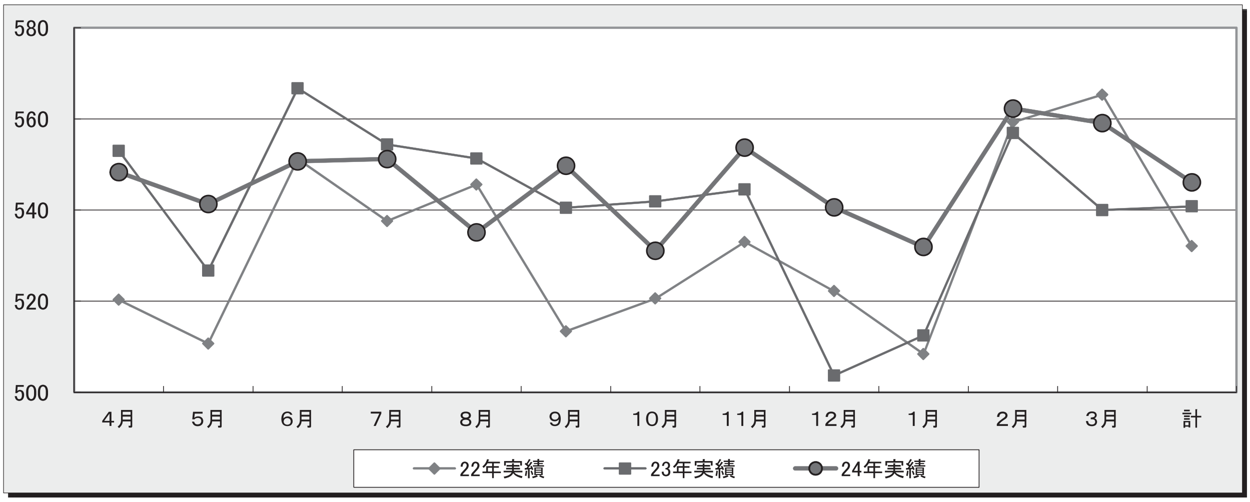

薬剤科長
北村　良雄


看護部長
三井　佐代子


事務部長
原　敏清

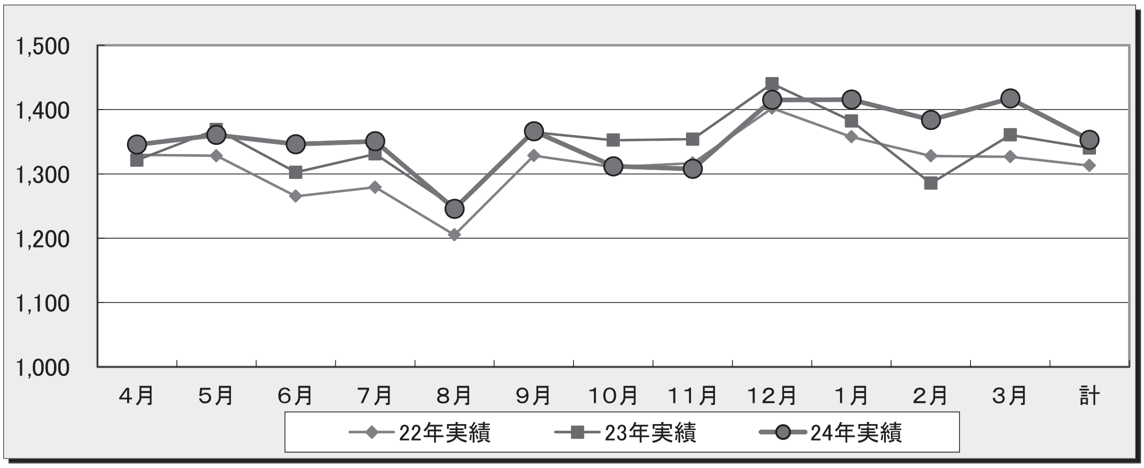
診療実績（年度別統計）

〇平均入院患者数（年間目標数＝544.9人）　　（単位：人/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	利用率
22年実績	520.3	510.7	551.2	537.6	545.6	513.4	520.6	533.0	522.2	508.4	559.3	565.3	532.1	91.7%
23年実績	553.0	526.7	566.7	554.4	551.3	540.5	541.9	544.5	503.7	512.5	556.9	540.0	540.8	90.1%
24年実績	548.3	541.3	550.7	551.2	535.1	549.7	531.1	553.7	540.6	531.9	562.3	559.1	546.1	91.0%

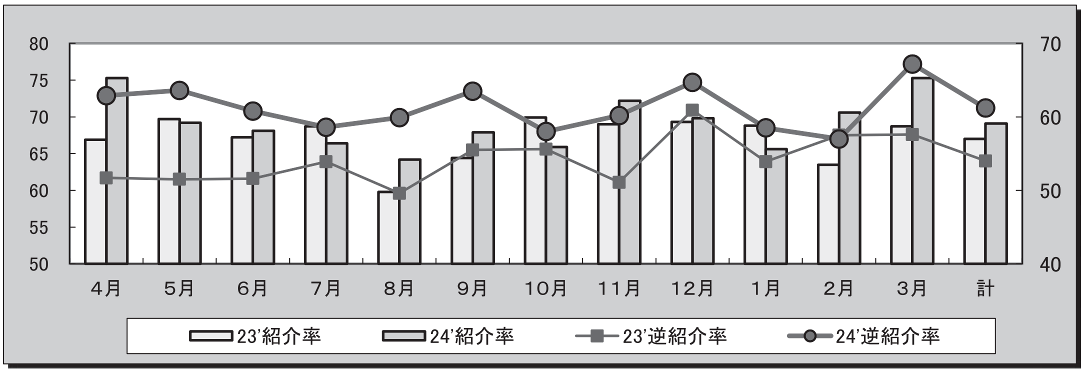
〇平均外来患者数（年間目標患者数＝1343.5人）　　（単位：人/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22年実績	1,329.5	1,328.2	1,265.5	1,279.3	1,205.4	1,328.6	1,310.7	1,317.0	1,402.4	1,357.8	1,328.1	1,326.8	1,313.0
23年実績	1,321.5	1,369.1	1,302.6	1,331.1	1,248.7	1,364.8	1,352.5	1,354.0	1,440.3	1,382.3	1,285.6	1,360.8	1,340.4
24年実績	1,345.6	1,360.7	1,346.4	1,350.9	1,245.8	1,366.5	1,312.0	1,307.9	1,415.3	1,415.7	1,384.1	1,417.3	1,353.1

○紹介率、逆紹介率の推移

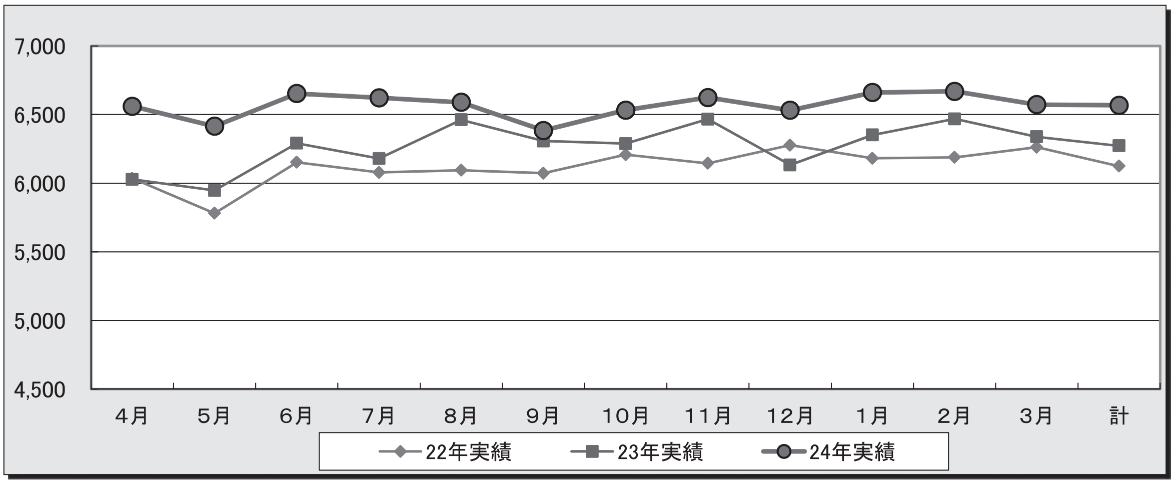
（単位：%）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
23'紹介率	66.9	69.7	67.2	68.7	59.8	64.4	69.9	69.0	69.3	68.8	63.5	68.7	67.0
24'紹介率	75.3	69.2	68.1	66.4	64.2	67.9	65.9	72.2	69.8	65.6	70.6	75.3	69.1
23'逆紹介率	51.7	51.5	51.6	53.9	49.6	55.5	55.6	51.1	60.9	53.9	57.5	57.6	54.0
24'逆紹介率	62.9	63.6	60.8	58.6	59.9	63.5	58.0	60.2	64.7	58.5	57.0	67.2	61.2

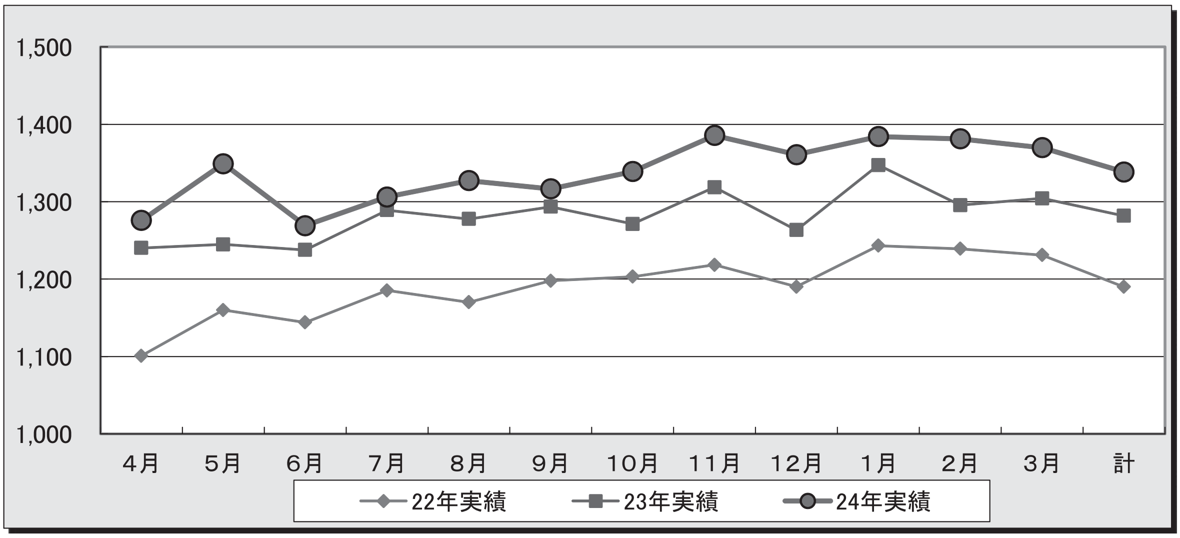
○入院平均診療点数

（単位：点/日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22年実績	6,034.7	5,781.4	6,152.6	6,077.9	6,094.0	6,072.3	6,207.2	6,144.8	6,277.1	6,181.4	6,188.1	6,262.1	6,124.3
23年実績	6,028.0	5,946.6	6,291.2	6,179.0	6,461.4	6,306.5	6,287.7	6,466.2	6,132.6	6,351.0	6,468.1	6,338.2	6,271.8
24年実績	6,559.7	6,414.3	6,652.7	6,621.9	6,589.5	6,383.9	6,531.4	6,623.8	6,530.9	6,660.3	6,669.1	6,572.5	6,567.1

○外来平均診療点数　（単位：点／日）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
22年実績	1,100.8	1,160.0	1,144.0	1,185.3	1,170.1	1,197.9	1,203.1	1,218.4	1,190.1	1,243.1	1,239.1	1,231.0	1,189.9
23年実績	1,240.2	1,244.9	1,237.7	1,289.0	1,277.7	1,293.4	1,271.3	1,318.6	1,263.3	1,347.2	1,295.5	1,304.3	1,281.8
24年実績	1,275.8	1,349.1	1,269.1	1,306.1	1,327.3	1,316.6	1,339.0	1,385.6	1,360.9	1,384.1	1,381.2	1,369.8	1,338.5

総合内科

専門医資格等　日本内科学会総合内科専門医
専 門 分 野　内科一般
得 意 疾 患　内科一般

診療科長
小山　弘

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	小田垣孝雄	日本内科学会総合内科専門医 Infection Control Doctor 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 アメリカ心臓協会ACLSコースディレクター、BLSインストラクター 日本救急医学会ICLSコースディレクター 日本医師会認定産業医	内科一般	内科一般、感染制御、救急蘇生法教育
医　　師	桂　　敏明	日本内科学会認定内科医	内科一般	内科一般
専 修 医	大倉　敬之	日本内科学会認定内科医	内科一般	内科一般
専 修 医	小見山麻紀	日本医師会認定産業医	内科一般	内科一般、禁煙外来、予防医学

□ 診療科の特徴

1. 器官系を横断的に考えます
2. 患者と病院のインターフェースとして、窓口機能を果します
3. 専門診療科との連携を重視します
4. 医学的なエビデンスに配慮します

□ 主な対象疾患

急性感染症（気道、尿路、皮膚軟部組織、骨、その他）
不明熱、多発関節痛など診断の確定していない症候
免疫膠原病（関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症など。診断後自科で治療または必要に応じ専門診療科に紹介）

□ 診療（業務）内容

外来では重篤でない急性疾患の診断・管理や、不明熱や多発関節痛など診断の確定していない症候の診断・管理と必要に応じての専門診療部門・機関への紹介などを行っております。健診その他での高血圧や脂質異常症などについて相談に受診される方もおられ、生活指導や薬物療法が継続的に必要と考えられた場合、地域の医療機関を紹介することがありますので、よろしくお願い致します。

入院では、おもに救急外来から緊急入院した内科系非重篤患者のうち、肺炎、腎盂腎炎などの急性感染症、

原因不明の発熱（最終的には薬剤熱、血管炎症候群、血液学的腫瘍、自然治癒するウイルス感染症や一過性の肺への吸引など）や意識障害、電解質異常、栄養不良を受け持ち、診断および管理、必要に応じて他科への紹介を行っています。他科入院中の患者の感染症や原因不明の発熱についての共診も主たる活動の一部になっています。

□ 診療実績（平成24年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
11.8名	234名	18.7日

外来患者数

1日平均患者数
33.0名

主な疾患の件数など

感染症	リューマチ性疾患	悪性腫瘍	精神神経疾患	血液疾患
129件	15件	7件	7件	7件

□ 地域医療連携・広報活動

伏見医師会理事

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国際学会	Maki Komiyama, Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Sayaka Shimada, Akira Shimatsu, Hiroshi Koyama, Koichi Kono, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Influence of weight gain after smoking cessation on cardiovascular risk biomarkers.	the 19th Asian Pacific Society of Cardiology 2013 Congress、Feb 21-24 2013、Pattaya, Thailand
国際学会	Maki Komiyama, Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Hiroshi Koyama, Koichi Kono, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Analysis of factors that determine weight gain after smoking cessation.	the 19th Asian Pacific Society of Cardiology 2013 Congress、Feb 21-24 2013、Pattaya, Thailand
国内学会	小見山麻紀, 和田啓道, 浦修一, 山陰一, 浅原（佐藤）哲子, 島津章, 小山弘, 河野公一, 高橋裕子, 長谷川浩二	禁煙後体重増加の予測因子についての検討	第7回日本禁煙科学会学術総会、2012/11/17-18、福岡
国内学会	小見山麻紀, 和田啓道, 浦修一, 山陰一, 浅原（佐藤）哲子, 嶋田清香, 島津章, 小山弘, 河野公一, 高橋裕子, 長谷川浩二	心血管リスクバイオマーカーに対する禁煙後肥満の影響	第7回日本禁煙科学会学術総会、2012/11/17-18、福岡
国内学会	大倉敬之, 桂敏明, 小見山麻紀, 小田垣孝雄, 小山弘	前立腺癌多発骨転移に伴う血球貪食症候群の1例	第198回日本内科学会近畿地方会、2012/9/8、京都
国内学会	中谷理恵子, 小見山麻紀, 大倉敬之, 桂敏明, 小田垣孝雄, 澤井聡, 小山弘	発熱、汎血球減少症、呼吸不全を来し骨髄肉芽腫性病変、胸腔鏡下肺生検から診断を得た粟粒結核の一例	第198回日本内科学会近畿地方会、2012/9/8、京都
国内学会（座長）	白山武司（京都府立医科大学）, 小山弘（京都医療センター）	内科診療・マネジメントの基本	ACP日本支部総会・講演会、2012/4/14、京都
国内学会（座長）	小山弘	ポスターセッション　総合内科６	第109回 日本内科学会総会 サテライトシンポジウム　研修医、医学生の内科学会京都、2012/4/14-15、京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ
レジデントノート増刊 外科の基本ー手術前後の患者さんを診る	大倉敬之, 小山弘	手術患者のリスクを評価しよう	14巻17号 Page23-34（2013.1）
medicina	小山弘	今月の主題　内科診断の本道-病歴と身体診察情報からどこまでわかるか？呼吸器疾患　間質性肺炎	49巻9号 Page1540-1544（2012.9）
medicina	小山弘	特集　いま、内科薬はこう使う　呼吸器薬メディエーター遊離抑制薬	49巻11号 Page134-135（2012.9）
JIM	大倉敬之, 桂敏明, 小田垣孝雄, 小山弘	What's your diagnosis? 115ローン払いは丁寧に	22巻7号（2012.7）

血液内科

診療科長
奥野　芳章

専門医資格等	日本内科学会内科専門医
	日本血液学会専門医
	指導医 京都大学医学博士
専 門 分 野	血液一般

□ 診療科の特徴

1. 当科では貧血から、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など血液悪性疾患に至るまでいろいろな血液疾患の診断、治療をおこなっています。血液疾患は自覚症状に乏しく、血液検査をして初めて異常が明らかになることが多いため、まず、お近くのかかりつけの医師に診察して頂いて、血液疾患の疑いがあれば当科にご紹介して頂いています。
2. 血液疾患の治療法の進歩はめざましく、血液幹細胞移植の適応になることもありますが、残念ながら当院では移植治療は行っておりません。そのような治療が必要な場合、移植施設をご紹介いたします。

□ 主な対象疾患

貧血・出血傾向・リンパ腫・白血病・骨髄腫　など

□ 診療（業務）内容

再生不良性貧血に対する免疫抑制療法や血液悪性疾患に対する通常量化学療法、貧血などに対する輸血などの対症療法を行っています。治療法を選択するにあたっては、広く認められている標準療法であること、患者さんが十分ご理解、ご納得頂けることを重視しています。

血液疾患は診断、あるいは治療の選択に困難を伴う場合が多いかと思いますが、患者さんと常にご相談しながらよりよい治療法を探していきます。

・貧血
・出血傾向
・リンパ腫
・白血病
・骨髄腫など

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
10.1名	62名	54.6日

外来患者数

1日平均患者数
12.4名

内分泌・代謝内科

診療科長
田上　哲也

専門医資格等	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医・教育責任者 日本甲状腺学会　専門医 厚生労働省　臨床研修指導医 京都大学医学部　臨床教授 京都大学　医学博士
専門分野	内科 内分泌・代謝
得意疾患	甲状腺疾患

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	立木　美香	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医 東京女子医科大学　医学博士	内科、内分泌・代謝	
医　　師	難波　多挙	日本内科学会　認定内科医	内分泌・代謝	
専修医	中尾佳奈子	日本内科学会　認定内科医	内分泌・代謝	
専修医	中谷理恵子	日本内科学会　認定内科医	内分泌・代謝	
レジデント	革嶋　幸子	日本内科学会　認定内科医	内分泌・代謝	
レジデント	垣田真以子	日本内科学会　認定内科医 日本医師会　認定産業医	内分泌・代謝	
レジデント	植田　洋平	日本内科学会　認定内科医	内分泌・代謝	
臨床研究センター・センター長	島津　章	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本糖尿病学会　専門医 京都大学医学部　臨床教授 京都大学　医学博士	内科、内分泌・代謝、臨床検査医学	神経内分泌・下垂体疾患
臨床研究センター・副センター長（内分泌代謝高血圧研究部長）	成瀬　光栄	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医 日本糖尿病学会　専門医 日本腎臓学会　専門医・指導医 東京医科歯科大学医学部臨床教授 東京女子医科大学　医学博士	内分泌・代謝	高血圧・副腎疾患

臨床研究センター・室長（臨床内分泌代謝研究室）	臼井　　健	日本内科学会　認定内科医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科（内科）専門医・指導医 日本人類遺伝学会/日本遺伝カウンセリング学会　臨床遺伝専門医 厚生労働省　臨床研修指導医 京都大学医学部　臨床教授	内分泌・代謝、臨床遺伝学	神経内分泌・遺伝性疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本内分泌学会研修施設 日本甲状腺学会認定施設

1. 内分泌代謝疾患に関する良質で高水準の医療を提供している。
2. 満足のいく十分な説明を行い、安心できる医療を提供している。
3. 十分な診療情報提供と逆紹介により、病診連携を促進している。
4. 地域における内分泌代謝疾患の専門診察を担っており、1999年には内分泌代謝性疾患に関する高度専門医療施設(準ナショナルセンター)として国の指定を受け、全国の内分泌・代謝疾患の「専門医療施設」と内分泌・代謝疾患ネットワークを構築している(EMネット)。

□ 主な対象疾患

●下垂体疾患

下垂体腫瘍：先端巨大症、クッシング病、プロラクチノーマ、TSH産生腫瘍など

下垂体機能低下症：汎下垂体機能低下症（シーハン症候群を含む）、下垂体ホルモン単独欠損症（低身長症を含む）、中枢性尿崩症*、リンパ球性下垂体炎など

●甲状腺疾患

甲状腺機能亢進症（甲状腺中毒症）：バセドウ病、プランマー病など

破壊性甲状腺中毒症：亜急性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎など

甲状腺機能低下症：慢性甲状腺炎（橋本病）、術後または放射性ヨード療法後の甲状腺機能低下症、先天性甲状腺機能低下症（甲状腺ホルモン不応症*を含む）など

甲状腺腫瘍（腺腫様甲状腺腫を含む）

●カルシウム・骨疾患

高カルシウム血症：原発性副甲状腺機能亢進症、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症など

低カルシウム血症：副甲状腺機能低下症（偽性副甲状腺機能低下症を含む）など

骨粗鬆症

●副腎疾患

副腎腫瘍：クッシング症候群、原発性アルドステロン症（特発性アルドステロン症を含む）、褐色細胞腫*、副腎偶発腫など

副腎皮質機能低下症：アヂソン病、急性副腎不全（副腎クリーゼを含む）など

先天性副腎過形成*

●性腺疾患

ターナー症候群、クラインフェルター症候群、性腺機能低下症など

●メタボリックシンドローム

高血圧、肥満、糖尿病などの生活習慣病の中にも内分泌の病気が隠れています。

●内分泌性高血圧

高血圧の約15％はホルモンの異常による内分泌性高血圧で、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、腎臓などのホルモン過剰が原因となります。適確な診断と治療で治癒可能なことが多いので、専門医の受診を勧めます。

原発性アルドステロン症が代表です。

●その他

腎性尿崩症*、多発性内分泌腺腫症(Ⅰ型, Ⅱ型)*

電解質異常(低カリウム血症、低ナトリウム血症など)、高脂血症、高尿酸血症など

*遺伝子検査が可能

□ 診療(業務)内容

●内分泌代謝疾患とは「ホルモンの乱れに起因する病気」を総称するもので、下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性ホルモンの異常をきたす疾患の他、内分泌疾患を疑う必要のある、高血圧、糖尿病、肥満、高脂血症などの生活習慣病、電解質異常、骨粗鬆症などを対象として、診療にあたっている。

●外来では、血液検査、画像検査(レントゲン、CT、MRI、アイソトープ検査や甲状腺エコー)、甲状腺の細胞診などを行っている。遺伝子診断・遺伝相談、セカンドオピニオン外来を実施している。

●入院では、上記疾患の診断と治療の他、バセドウ病のアイソトープ治療、甲状腺眼症のステロイドパルス療法、原発性アルドステロン症の副腎静脈サンプリング検査などを実施している。

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

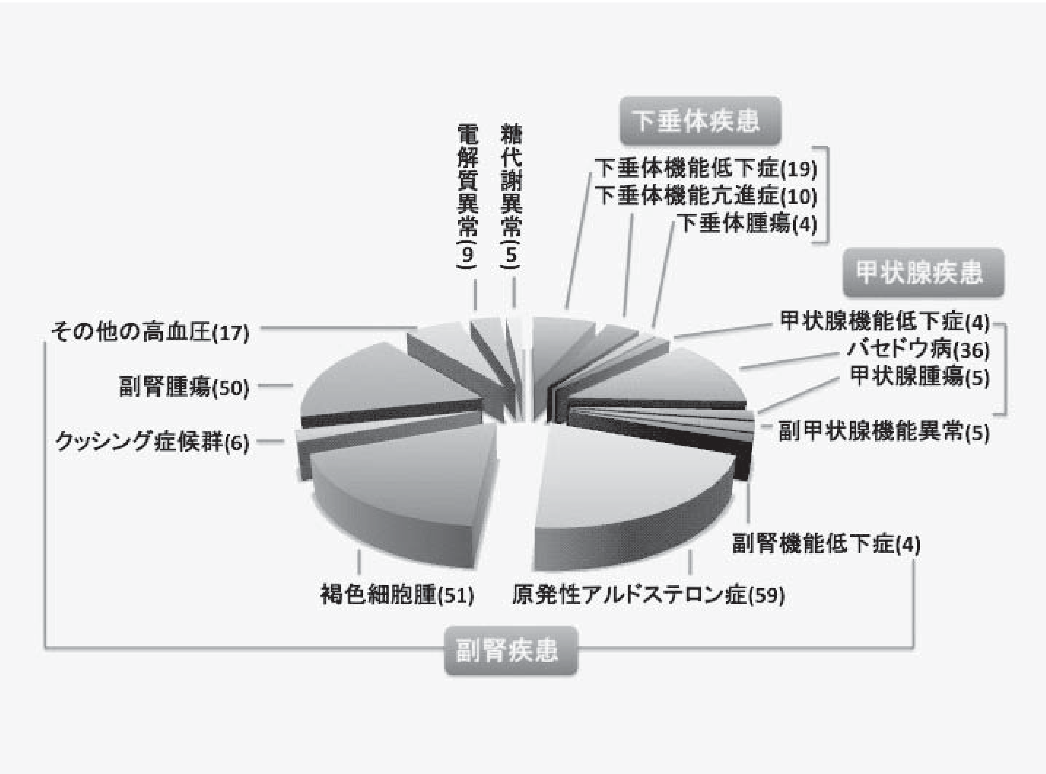
1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
7.4名	267名	10.0日

外来患者数

1日平均患者数
56.1名

主な検査の件数など

甲状腺エコー	甲状腺細胞診	遺伝子検査	遺伝カウンセリング
1,615件	194件	74件	9件



□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者	演 題	学 会 名
国際学会	Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Mukai K, Nakao K, Tamanaha T, Usui T, Tagami T, Okuno H, Yamamoto T, Shimatsu A, Naruse M	Pathophysiological significance of CYP11B2 immunohistochemical staining in primary aldosteronism	15th International Congress of Endocrinology、May 5-9,2012、Florence
国際学会	Nakao K, Nanba K, Tamanaha T, Tuiki M, Tagami T, Usui T, Shimatsu A, Naruse M	Predicting factors of the post-surgical decline in renal function in patients with primary aldosteronism.	15th International Congress of Endocrinology、May 5-9,2012、Florence
国際学会	Nakao K, Usui T, Mori Y, Kawasima S, Nanba K, Tamanaha T, Tagami T, Naruse M, Yamamoto T, Shimatsu A	A novel tandem germline RET mutations on the same allele in a patient with MEN 2B	15th International Congress of Endocrinology、May 5-9,2012、Florence
国際学会	Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Mukai K, Nakao K, Tamanaha T, Usui T, Tagami T, Okuno H, Yamamoto T, Nishimoto K, Shimatsu A, Tanabe A, Naruse M	Histopathological diagnosis of primary aldosteronism using CYP11B2 immunohistochemistry	38th Meeting of the International Aldosterone Conference、Jun 21-22,2012、Houston
国際学会	Nanba K, Tagami T, Tamanaha T, Nakao K, Ueda Y, Kakita M, Tsuiki M, Usui T, Shimatsu A, Naruse M	Cosyntropin stimulation test for the subtype classification in primary aldosteronism	38th Meeting of the International Aldosterone Conference、Jun 21-22,2012、Houston
国際学会	Nakao K, Nanba K, Tamanaha T, Tuiki M, Tagami T, Usui T, Shimatsu A, Naruse M	Predicting factors of the post-surgical renal function in Primary Aldosteronism	The Endocrine Society's 94th Annual Meeting、Jun 23-26,2012、Houston
国際学会	Nanba K, Tagami T, Ueda Y, Kakita M, Nakao K, Tamanaha T, Tsuiki M, Usui T, Shimatsu A, Naruse M	Cosyntropin stimulation test in primary aldosteronism	24th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension、Sep 30-Oct 4,2012、Sydney
国際学会	Tsuiki M, Nanba K, Nakao K, Tamanaha T, Usui T, Tagami T, Shimatsu A, Naruse M	Re-evaluation of the saline infusion test for primary aldosteronism: duration, the subtype classification and cut-off limits for aldosterone	24th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension、Sep 30-Oct 4,2012、Sydney
国内学会	田上哲也, 臼井健, 島津章, 成瀬光栄, BBGD研究班	抗甲状腺剤によるバセドウ病治療におけるβ遮断薬併用の有用性	第109回日本内科学会講演会、2012/4/14-15、京都
国内学会	湯野暁子(北海道勤医協札幌病院), 臼井健, 山家由子, 東輝一朗, 篠田純治, 真尾泰生, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	Methylation-specific multiplex ligation-dependent probe amplification(MS-MLPA)法を用いた偽性副甲状腺機能低下症(PHP)におけるGNAS遺伝子群のメチル化解析	第109回日本内科学会講演会、2012/4/14-15、京都
国内学会	垣田真以子, 植田洋平, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 難波多挙, 玉那覇民子, 臼井健, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	女性が「医師」として働くにあたって　～当院でのアンケート結果報告～	第109回 日本内科学会総会 サテライトシンポジウム、2012/4/14-15、京都
国内学会	植田洋平, 難波多挙, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 玉那覇民子, 田上哲也, 臼井健, 山本鉄郎, 三品睦輝, 相羽元彦, 島津章, 成瀬光栄	臨床的に鑑別診断が困難であった副腎腫瘍の1例	第109回 日本内科学会総会 サテライトシンポジウム、2012/4/14-15、京都
国内学会	垣田真以子, 難波多挙, 植田洋平, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 立木美香, 玉那覇民子, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	Subclinical Cushing症候群を合併した原発性アルドステロン症の臨床的特徴	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	森山賢治(武庫川女子大学), 李娟娥, 二若久美, 山本裕之, 安宅麻美, 田上哲也	PPARsに対するアゴニスト探索と作用評価の試み	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	植田洋平, 井口梓, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 難波多挙, 玉那覇民子, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	R316C変異による甲状腺ホルモン不応症の臨床像	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	田上哲也, 二若久美, 森山賢治, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章	GH/IGF-1下流の転写因子群と脂質・エネルギー代謝に関わる核内受容体ファミリー間のクロストークの解析	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	難波多挙, 立木美香, 澤井邦子, 植田洋平, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 玉那覇民子, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 山本鉄郎, 島津章, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 成瀬光栄	アルドステロン産生腺腫におけるCYP11B2免疫染色と臨床所見の比較研究	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	難波多挙, 臼井健, 中村道三, 豊田有子, 廣田圭昭, 植田洋平, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	新規GATA3遺伝子変異を認めたHDR症候群の親子例	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	玉那覇民子, 難波多挙, 革嶋幸子, 中尾佳奈子, 垣田真以子, 植田洋平, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	副腎皮質癌の臨床的特徴　自験6例での検討	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	立木美香, 難波多挙, 澤井邦子, 玉那覇民子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 山本鉄郎, 島津あきら, 田辺晶代, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の球状層におけるCYP11B2染色陽性細胞の病態生理学的意義	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	成瀬光栄, 田中剛史, 大谷すみれ, 宮崎康, 波多史朗, 小河淳, 田辺真紀人, 荒木里香, 伊勢拓之, 鈴木知子, 立木美香, 田上哲也	国立病院機構(NHO)におけるガイドラインに基づく原発性アルドステロン症の診療実態に関する多施設共同研究(PHAS-J2)	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	中尾佳奈子, 難波多挙, 玉那覇民子, 革嶋幸子, 植田洋平, 垣田真以子, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症術後の腎機能と血清K濃度の予知因子	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋

国内学会	金本巨哲(京都大学), 田上哲也, 上田依利子, 山下唯, 近藤絵里, 藤井寿人, 曽根正勝, 三浦晶子, 八十田明宏, 荒井宏司, 中尾一和	ヒト1型脱ヨード酵素遺伝子の肝臓における転写調節	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	中尾佳奈子, 臼井健, 池田真悠実, 革島幸子, 難波多挙, 玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 森祐輔, 安里亮, 山本鉄郎, 島津章	多発性内分泌腫瘍症2B型(MEN2B)におけるRET遺伝子重複変異の解析	第85回日本内分泌学会学術総会、2012/4/19-21、名古屋
国内学会	玉那覇民子, 垣田真似子, 植田洋平, 中尾佳奈子, 難波多挙, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 南口早智子, 島津章, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 笹野公伸, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症(PA)の2例　CYP11B2免疫染色による病型診断	第1回日本高血圧学会　臨床高血圧フォーラム、2012/5/12-13、豊中
国内学会	中尾佳奈子, 難波多挙, 植田洋平, 垣田真以子, 玉那覇民子, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症における術後腎機能の予知因子	第1回日本高血圧学会　臨床高血圧フォーラム、2012/5/12-13、豊中
国内学会	立木美香, 難波多挙, 澤井邦子, 玉那覇民子, 中尾 佳奈子, 革嶋幸子, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 山本 鉄郎, 島津章, 田辺晶代, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症におけるAldosterone-Producing Cell Cluster(APCC)の病態生理学的意義	第1回日本高血圧学会　臨床高血圧フォーラム、2012/5/12-13、豊中
国内学会	難波多挙, 立木美香, 澤井邦子, 植田洋平, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 玉那覇民子, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 山本鉄郎, 島津章, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 成瀬光栄	CYP11B2免疫組織化学染色による原発性アルドステロン症の新たな病型診断と病態の解明	第1回日本高血圧学会　臨床高血圧フォーラム、2012/5/12-13、豊中
国内学会	革嶋幸子, 難波多挙, 中尾佳奈子, 玉那覇民子, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 黒田昌志, 伊藤剛, 奥野博, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症における副腎CT所見と副腎静脈サンプリングによる局在診断の比較	第1回日本高血圧学会　臨床高血圧フォーラム、2012/5/12-13、豊中
国内学会	垣田真以子, 植田洋平, 中尾佳奈子, 臼井健, 難波多挙, 玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	無症候性RET遺伝子変異キャリアーに対するカルシウム(Ca)刺激試験	第197回内科学会近畿地方会、2012/6/9、神戸
国内学会	白田全弘, 難波多挙, 臼井健, 眞鍋由美, 直原駿平, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 立木美香, 田上哲也, 奥野博, 山本鉄郎, 成瀬光栄, 島津章	副腎偶発腫として発見され診断された神経線維腫症１型に合併した褐色細胞腫の１例	第13回日本内内分泌学会近畿支部学術集会、2012/10/20、豊中
国内学会	中谷理恵子, 垣田真衣子, 村田敬, 安井久晃, 植田洋平, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 津曲綾, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄, 花田圭太, 畑啓昭, 小田垣孝雄	副腎偶発腫で発見された副腎結核の１例	第13回日本内内分泌学会近畿支部学術集会、2012/10/20、豊中
国内学会	津曲綾, 難波多挙, 立木美香, 中尾佳奈子, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷里恵子, 革嶋幸子, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症における迅速ACTH試験とCaptpril試験の比較	第13回日本内内分泌学会近畿支部学術集会、2012/10/20、豊中
国内学会	立木美香, 難波多挙, 中尾佳奈子, 津曲綾, 植田洋平, 垣田真以子, 革嶋幸子, 中谷理恵子, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の診断における生食負荷試験の再評価	第13回日本内内分泌学会近畿支部学術集会、2012/10/20、豊中
国内学会	革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 植田洋平, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 津曲綾, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄, 黒田昌志, 広川侑奨, 伊藤剛, 奥野博	原発性アルドステロン症(PA)の局在診断に及ぼす副腎静脈サンプリング(AVS)の診断基準の影響	第13回日本内内分泌学会近畿支部学術集会、2012/10/20、豊中
国内学会	植田洋平, 難波多挙, 津曲綾, 中尾佳奈子, 垣田真以子, 中谷理恵子, 革嶋幸子, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	アルドステロン関連高血圧におけるBMIとアルドステロン分泌動態との関連	第13回日本内内分泌学会近畿支部学術集会、2012/10/20、豊中
国内学会	中尾佳奈子, 中谷理恵子, 植田洋平, 垣田真衣子, 革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 臼井健、田上哲也, 奥野博, 姫野桂郎, 向井邦晃, 島津章、成瀬光	片側副腎摘出術を施行した両側性アルドステロン産生腺腫(APA)の一例	第13回日本内内分泌学会近畿支部学術集会、2012/10/20、豊中
国内学会	難波多挙, 田上哲也, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 津曲綾, 立木美香, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章	40歳で診断された下垂体茎断裂症候群の１例	第13回日本内内分泌学会近畿支部学術集会、2012/10/20、豊中
国内学会	難波多挙, 植田洋平, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 玉那覇民子, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の病型診断における迅速ACTH試験の有用性に関する検討	第３５回日本高血圧学会、2012/9/20-22、名古屋
国内学会	立木美香, 難波多挙, 中尾佳奈子, 玉那覇民子, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 田辺晶代, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症における短時間生食負荷試験の診断的意義	第３５回日本高血圧学会、2012/9/20-22、名古屋
国内学会	成瀬光栄, 難波多挙, 立木美香, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 田辺晶代	原発性アルドステロン症診療の基礎知識と課題	第３５回日本高血圧学会、2012/9/20-22、名古屋
国内学会	臼井健, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章, 高桜明子, 小河淳, 内薗広匡, 古庄知己, 田中藤樹	複合性下垂体機能低下症が疑われた6例に対する遺伝子解析	第39回日本神経内分泌学会、2012/9/28-29、北九州
国内学会	難波多挙, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 津曲綾, 立木美香, 田中義人, 山口高史, 山本鉄郎, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	Composite paraganglioma-ganglioneuromaの一例	第16回日本内分泌病理学会、2012/10/11-12、仙台
国内学会	垣田真以子, 植田洋平, 中尾佳奈子, 臼井健, 中谷理恵子, 革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 渡邉佳紀, 森裕輔, 安里亮, 山本鉄郎, 島津章	C細胞過形成での甲状腺全摘術が施行されたMEN2型の一例	第16回日本内分泌病理学会、2012/10/11-12、仙台
国内学会	植田洋平, 難波多挙, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 玉那覇民子, 田上哲也, 臼井健, 山本鉄郎, 三品睦輝, 相羽元彦, 島津章, 成瀬光栄	臨床的、病理組織学的に診断が困難であった副腎皮質腫瘍の1例	第16回日本内分泌病理学会、2012/10/11-12、仙台

国内学会	垣田真以子, 植田洋平, 中尾佳奈子, 臼井健, 難波多挙, 玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 山本鉄郎, 渡邉佳紀, 森祐輔, 安里亮, 島津章	無症候性RET遺伝子変異キャリアーに対するカルシウム(Ca)刺激試験	第66回国立病院総合医学会、2012/11/16-17、神戸
国内学会	安宅麻美(武庫川女子大学), 二若久美, 山本裕之, 島津章, 成瀬光栄, 田上哲也, 森山賢治	新規甲状腺ホルモン受容体アイソフォームβ4の細胞内機能に関する基礎的検討	第55回日本甲状腺学会学術総会、2012/11/29-12/1、福岡
国内学会	垣田真以子, 植田洋平, 中尾佳奈子, 臼井健, 中谷理恵子, 革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 渡邉佳紀, 森裕輔, 安里亮, 山本鉄郎, 島津章	原発性アルドステロン症(PA)の2例CYP11B2免疫染色による病型診断	第55回日本甲状腺学会学術総会、2012/11/29-12/1、福岡
国内学会	中尾佳奈子, 植田洋平, 垣田真以子, 革嶋幸子, 難波多挙, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	TSH不適切分泌症候群の鑑別における2STEP競合法を用いた再検査の有用性についての検討	第55回日本甲状腺学会学術総会、2012/11/29-12/1、福岡
国内学会	森山賢治(武庫川女子大学), 松田紀実子, 荒井宏司, 赤水尚史, 田上哲也, 中尾一和	バセドウ眼症自験症例における基礎的検討	第55回日本甲状腺学会学術総会、2012/11/29-12/1、福岡
国内学会	田上哲也, 森山賢治, 二若久美, 島津章, 成瀬光栄	甲状腺ホルモンによる骨代謝、糖・脂質代謝に関わる遺伝子の転写調節	第55回日本甲状腺学会学術総会、2012/11/29-12/1、福岡
国内学会	M. Kakita, Y. Ueda, R. Nakatani, K. Nakao, S. Kawashima, K. Nanba, M. Tsuiki, H. Iogawa, T. Usui, M. Naruse, A. Shimatsu, T. Tagami	The case who repeated Thyrotoxic Periodic Paralysis due to Painless Thyroiditis	第55回日本甲状腺学会 橋本病100周年シンポジウム、2012/12/1-4、福岡
国内学会	難波多挙, 澤井邦子, 立木美香, 中尾佳奈子, 方波見卓行, 奥村中, 河源, 田辺晶代, 臼井健, 田上哲也, 向井邦晃, 島津章, 成瀬光栄	CYP11B2免疫染色による原発性アルドステロン症の病型診断	第22回臨床内分泌代謝Update、2013/1/18-19、さいたま
国内学会	津曲綾, 難波多挙, 立木美香, 中尾佳奈子, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷里恵子, 革嶋幸子, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症におけるACTH試験とCaptopril試験の比較	第22回臨床内分泌代謝Update、2013/1/18-19、さいたま
国内学会	立木美香, 難波多挙, 中尾佳奈子, 津曲綾, 植田洋平, 垣田真以子, 革嶋幸子, 中谷理恵子, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の診断における生食負荷試験の再評価	第22回臨床内分泌代謝Update、2013/1/18-19、さいたま
国内学会	北村憲子, 井口梓, 臼井健, 難波多挙, 玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 岡村美里, 島津章	異所性ADH産生腫瘍SIADHに対するV2受容体拮抗薬単回投与の有効性	第22回臨床内分泌代謝Update、2013/1/18-19、さいたま
国内学会	植田洋平, 難波多挙, 津曲綾, 中尾佳奈子, 垣田真以子, 中谷理恵子, 革嶋幸子, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	アルドステロン関連高血圧におけるBMIとアルドステロン分泌動態との関連	第22回臨床内分泌代謝Update、2013/1/18-19、さいたま
国内学会	革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 植田洋平, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 津曲綾, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄, 黒田昌志, 広川侑奨, 伊藤剛, 奥野博	PAの局在診断に及ぼす副腎静脈サンプリング診断基準の影響	第22回臨床内分泌代謝Update、2013/1/18-19、さいたま
国内学会	中尾佳奈子, 臼井健, 池田真悠実, 中谷理恵子, 植田洋平, 垣田真以子, 革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 森祐輔, 安里亮, 山本鉄郎, 島津章	新規RET遺伝子重複変異によるMEN2Bのin silico解析	第22回臨床内分泌代謝Update、2013/1/18-19、さいたま
国内学会	垣田真以子, 植田洋平, 中尾佳奈子, 臼井健, 中谷理恵子, 革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 渡邉佳紀, 森祐輔, 安里亮, 山本鉄郎, 島津章	RET遺伝子変異キャリアーに対するCa刺激試験の有用性の検討	第22回臨床内分泌代謝Update、2013/1/18-19、さいたま
国内学会	難波多挙, 田上哲也, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 津曲綾, 立木美香, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章	40歳まで未治療であった下垂体茎断裂症候群の1例	第22回臨床内分泌代謝Update、2013/1/18-19、さいたま
国内学会	難波多挙, 臼井健, 中久木卓也, 植田洋平, 垣田真衣子, 中谷理恵子, 中尾佳奈子,立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	カベルゴリン２回投与で気脳症をきたしたMEN１型合併マクロプロラクチノーマの１例	第23回間脳下垂体腫瘍学会、2013/3/15-16、鹿児島
研究会	難波多挙, 臼井健, 森祐輔, 安里亮, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 玉那覇民子, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 秋山祐一, 島津章	機能性結節性甲状腺腫におけるTSH受容体遺伝子体細胞変異	第45回発達異常研究会、2012/6/9、大阪
研究会	難波多挙	PA研究における最近の動向	第5回臨床副腎フォーラム、2012/7/6、京都
研究会	中尾佳奈子, 植田洋平, 垣田真衣子, 革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 臼井健、田上哲也, 奥野博, 姫野桂郎, 向井邦晃, 島津章, 成瀬光栄	片側副腎摘出術を施行した両側性原発性アルドステロン症の一例	第5回臨床副腎フォーラム、2012/7/6、京都
研究会	垣田真衣子, 植田洋平, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 玉那覇民子, 臼井健, 成瀬光栄, 島津 章, 田上哲也	周期性四肢麻痺を繰り返した無痛性甲状腺炎の一例	第12回京滋臨床甲状腺懇話会、2012/7/7、京都
研究会	田上哲也	ガイドラインと保険診療をふまえた「甲状腺疾患の診かた, 考えかた」	第645回社会保険研究会、2012/7/28、京都
研究会	植田洋平, 革嶋幸子, 臼井健, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 難波多挙, 中谷理恵子, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 北条雅人, 島津章	Atypical adenomaに対する集学的治療経過	第45回間脳下垂体疾患研究会、2012/9/1、京都
研究会	廣田圭昭, 難波多挙, 臼井健, 中村道三, 豊田有子, 植田洋平, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	新規GATA3遺伝子変異を認めたHDR症候群の１家系	第83回京都内分泌同好会、2012/9/8、京都
研究会	中尾佳奈子, 難波多挙, 植田洋平, 垣田真以子, 革嶋幸子, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 奥野博, 島津章, 成瀬光栄	(ポスター)原発性アルドステロン症における腎機能低下の予知因子と対策に関する研究	第22回東京高血圧研究会、2012/9/8、東京

研究会	難波多挙、立木美香, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 津曲綾, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷理恵子, 臼井健, 田上哲也, 西本紘嗣郎, 向井邦晃, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症におけるCYP11B2免疫染色の臨床的意義	第35回近畿「内分泌と高血圧」研究会、2012/11/7、豊中
研究会	立木美香, 難波多挙, 中尾佳奈子, 津曲綾, 革嶋幸子, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷理恵子, 臼井健, 田上哲也, 島津章, 成瀬光栄	原発性アルドステロン症の病理診断における機能確認検査の意義	第35回近畿「内分泌と高血圧」研究会、2012/11/7、豊中
研究会	植田洋平, 伊藤遼, 臼井健, 垣田真以子, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 難波多挙, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 岸純一郎, 村田敬, 加藤星河, 島津章	αリポ酸によると考えられたインスリン自己免疫症候群の臨床経過	第17回京都生活習慣病科学カンファランス、2012/11/10、京都
研究会	臼井健	内分泌・代謝の新たなトレンド：エピゲノムと腸内フローラ	第17回京都生活習慣病科学カンファランス、2012/11/10、京都
研究会	難波多挙	原発性アルドステロン症におけるCYP11B2免疫染色の臨床的意義	第9回京都レニンアルドステロンフォーラム、2013/1/23、京都
研究会	木戸愛, 垣田真以子, 難波多挙, 植田洋平, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 津曲綾, 立木美香, 臼井健, 成瀬光栄, 島津章, 田上哲也	ステロイドハーフパルス療法後に再燃し, 再治療で肝障害をきたしたバセドウ病眼症の一例	第３５回京都甲状腺研究会、2013/1/26、京都
研究会	田上哲也	核内転写因子を介したスタチン・ARBの代謝改善効果について	第８４回京都内分泌同好会、2013/3/2、京都
研究会	室伏佑香, 中谷理恵子, 臼井健, 植田洋平, 垣田真以子, 津曲綾, 立木美香, 難波多挙, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	複合型下垂体ホルモン欠損症を呈した成人男性例	第８４回京都内分泌同好会、2013/3/2、京都
研究会	革嶋幸子, 木戸愛, 中野重治, 臼井健, 植田洋平, 垣田真以子, 中谷理恵子, 立木美香, 難波多挙, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章, 加藤純子	非典型的な臨床所見を呈した副甲状腺機能亢進症の２例	第８４回京都内分泌同好会、2013/3/2、京都
研究会	垣田真衣子, 難波多挙, 村田敬, 安井久晃, 植田洋平, 中谷理恵子, 中尾佳奈子, 立木美香, 臼井健, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	多発肝転移を伴う肺原発神経内分泌腫瘍による異所性ACTH産生腫瘍に対するエベロリムスの治療効果	第24回間脳・下垂体・副腎系研究会、2013/3/23、東京
研修会	田上哲也	内分泌疾患の診断と治療：最近のトピックス 甲状腺疾患	平成23年度内分泌・代謝性疾患専門医研修会、2013/2/1、京都
研修会	島津章	内分泌疾患の診断と治療：最近のトピックス 下垂体疾患	平成23年度内分泌・代謝性疾患専門医研修会、2013/2/1、京都
研修会	成瀬光栄	内分泌疾患の診断と治療：最近のトピックス 副腎疾患	平成23年度内分泌・代謝性疾患専門医研修会、2013/2/1、京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者	タイトル	巻・ページ
Head Neck	Nakao KT, Usui T, Ikeda M, Mori Y, Yamamoto T, Kawashima ST, Nanba K, Yuno A, Tamanaha T, Tagami T, Naruse M, Asato R, Shimatsu A.	Novel tandem germline RET proto-oncogene mutations in a patient with multiple endocrine neoplasia type 2B: Report of a case and a literature review of tandem RET mutations with in silico analysis.	doi:10.1002/hed.23241. (2013)
J Clin Endocrinol Metab.	Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Mukai K, Nishimoto K, Usui T, Tagami T, Okuno H, Yamamoto T, Shimatsu A, Katabami T, Okumura A, Kawa G, Tanabe A, Naruse M.	Histopathological Diagnosis of Primary Aldosteronism Using CYP11B2 Immunohistochemistry.	2013
Endocr Pract	Nanba K, Usui T, Nakamura M, Toyota Y, Hirota K, Tamanaha T, Kawashima ST, Nakao K, Yuno A, Tagami T, Naruse M, Shimatsu A.	A Novel GATA3 Nonsense Mutation in a Newly Diagnosed Adult Patient of Hypothyroidism, Deafness, and Renal Dysplasia (HDR) Syndrome.	19(1):e17-20. doi:10.4158/EP12186.CR. (2013)
Intern Med	Tagami T, Yambe Y, Tanaka T, Tanaka T, Ogo A, Yoshizumi H, Kaise K, Higashi K, Tanabe M, Shimazu S, Usui T, Shimatsu A, Naruse M; BBGD Study Group.	Short-term effects of β-adrenergic antagonists and methimazole in new-onset thyrotoxicosis caused by Graves' disease.	51(17):2285-90. Epub 2012 Sep 1.
J Clin Endocrinol Metab	Nanba K, Tamanaha T, Nakao K, Kawashima ST, Usui T, Tagami T, Okuno H, Shimatsu A, Suzuki T, Naruse M.	Confirmatory testing in primary aldosteronism.	97(5):1688-94. doi:10.1210/jc.2011-2504. Epub 2012 Mar 14.
Endocrinology	Kanamoto N, Tagami T, Ueda-Sakane Y, Sone M, Miura M, Yasoda A, Tamura N, Arai H, Nakao K.	Forkhead box A1 (FOXA1) and A2 (FOXA2) oppositely regulate human type 1 iodothyronine deiodinase gene in liver.	153(1):492-500. doi:10.1210/en.2011-1310. Epub 2011 Nov 8.
Endocr J	Nanba K, Usui T, Minamiguchi S, Mori Y, Watanabe Y, Honda K, Asato R, Nakao K, Kawashima ST, Yuno A, Tamanaha T, Tagami T, Naruse M, Akiyama Y, Shimatsu A.	Two rare TSH receptor amino acid substitutions in toxic thyroid adenomas.	59(1):13-9. Epub 2011 Oct 15.
日本医師会雑誌	中村浩淑(隈病院), 浜田昇, 宮川めぐみ, 田上哲也, 杉野公則	【甲状腺疾患-診断と治療】 甲状腺疾患 日常診療のポイント	141巻11号 Page2385-2399(2013. 02)
日本内分泌学会雑誌	島津章, 難波多挙, 沖隆, 桑原智子[島津], 金本巨哲, 臼井健, 田上哲也, 成瀬光栄	下垂体炎の臨床例からみた"リンパ球性"漏斗下垂体炎の診断について	88巻suppl. Page68-71(2012.08)
日本内分泌学会雑誌	臼井健, 革嶋幸子, 植田洋平, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 難波多挙, 玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 北条雅人, 島津章	Atypical adenomaによるクッシング病に対する集学的治療経過	88巻suppl. Page59-60(2012.08)

日本臨床内科医会会誌	成瀬光栄, 難波多挙, 立木美香, 中尾佳奈子, 津曲綾, 革嶋幸子, 臼井健, 田上哲也, 広川侑奨, 奥野博, 島津章, 田辺晶代	原発性アルドステロン症の診断と治療　診療ガイドラインの現状と課題	27巻2号 Page153-160(2012.09)
日本外科学会雑誌	成瀬光栄, 立木美香, 難波多挙, 中尾佳奈子, 田上哲也,　田辺晶代	【内分泌外科稀少疾患の日本の現状把握と診療指針の作成】 褐色細胞腫の実態および診断基準と診療アルゴリズム	113巻4号 Page378-383(2012.07)
日本内科学会雑誌	成瀬光栄, 田辺晶代, 立木美香, 難波多挙, 中尾佳奈子, 津曲綾, 臼井健, 田上哲也, 島津章	医学と医療の最前線　悪性褐色細胞腫の診断と治療	101巻8号 Page2330-2338(2012.08)
日本内分泌学会雑誌	廣田圭昭, 難波多挙, 臼井健, 中村道三, 豊田有子, 中尾佳奈子, 革嶋幸子, 湯野暁子, 玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章	新規GATA3遺伝子変異を認めたHDR症候群の一例	88巻Suppl. Page38-39(2012.06)
Modern Physician	田上哲也	診療の秘訣　甲状腺機能異常症の診断	32巻6号 Page773(2012.06)
医学と薬学	植田洋平, 革嶋幸子, 臼井健, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 難波多挙, 中谷理恵子, 立木美香, 田上哲也, 成瀬光栄, 北条雅人, 島津章	Atypical　AdenomaによるCushing病に対する集学的治療経過	自然科学社、 vol.68 no.6 Page976(2012.12)
内科	立木美香, 成瀬光栄	プレクリニカルクッシング症候群	南江堂、 vol.109 no.6 Page1292-1293(2012.6)
腫瘍内科	立木美香, 津曲綾, 難波多挙, 田上哲也, 始末章, 成瀬光栄	副腎皮質がん	科学評論社、 vol.11 no.2 Page214-220(2013.2)
ACTH RELATED PEPTIDES	植田洋平, 革嶋幸子, 垣田真以子, 中尾佳奈子, 難波多拳, 玉那覇民子, 田上哲也, 成瀬光栄, 島津章, 臼井健	D2R陽性のCushing病に対するカベルゴリン治療中に急激な副腎不全を発症した1例	三菱化学メディエンス、 vol.23 Page54-55(2012)
甲状腺疾患の診かた, 考えかた	田上哲也	甲状腺疾患の診かた, 考えかた	中外医学社、 Page1-145(2012.04)
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第3版	田上哲也	Basedow病	診断と治療社、 Page145-152(2012.11)
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第3版	田上哲也	慢性甲状腺炎(橋本病)	診断と治療社、 Page153-156(2012.11)
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第3版	田上哲也	粘液水腫性昏睡	診断と治療社、 Page157-158(2012.11)
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第3版	田上哲也	薬剤誘発性甲状腺機能異常	診断と治療社、 Page173-175(2012.11)
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第3版	立木美香, 田辺晶代	subclinical Cushing症候群	診断と治療社、 Page221-223(2012.11)
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第3版	立木美香	内分泌負荷試験の判定基準一覧	診断と治療社、 Page398-399(2012.11)
内分泌代謝専門医ガイドブック改訂第3版	立木美香	内分泌緊急症対応一覧	診断と治療社、 Page400-401(2012.11)
下垂体疾患診療マニュアル	中尾佳奈子	下垂体腫瘍の症候	診断と治療社、 Page66-67(2012.04)
下垂体疾患診療マニュアル	立木美香, 難波多挙, 田上哲也	下垂体機能検査	診断と治療社、 Page75-77(2012.04)
下垂体疾患診療マニュアル	立木美香, 成瀬光栄, 難波多挙	視床下部障害と下垂体障害の鑑別診断	診断と治療社、 Page78-79(2012.04)
下垂体疾患診療マニュアル	立木美香	おもな下垂体機能検査・画像検査の判定基準・所見一覧	診断と治療社、 Page266-267(2012.04)
What's new in oncology がん治療エッセンシャルガイド改訂2版	田上哲也, 成瀬光栄	甲状腺がん	南山堂、 Page626-635(2012.04)
What's new in oncology がん治療エッセンシャルガイド改訂2版	立木美香, 成瀬光栄, 田辺晶代, 田上哲也	副腎がん	南山堂、 Page635-645(2012.04)

糖尿病センター（糖尿病内科）

診療科長
（外来部門）
山田　和範

専門医資格等
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　糖尿病

診療科長
（入院部門）
河野　茂夫

専門医資格等
　日本糖尿病学会　糖尿病専門医
　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
　日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医
　日本糖尿病学会　評議員
　京都大学医学博士
　京都大学臨床教授
専門分野
　糖尿病
得意疾患
　足病変

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	中川内玲子	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医	糖尿病	足病変
医　師	村田　敬	日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医 東京大学医学博士	糖尿病	若年者糖尿病
医　師	小鳥　真司	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医 日本内科学会　認定内科医 日本肥満学会　肥満症専門医 日本抗加齢医学会　専門医 京都大学医学博士	糖尿病	糖尿病
医　師	岸　純一郎		糖尿病	糖尿病
専修医	伊藤　遼		糖尿病	糖尿病
専修医	水谷結香子		糖尿病	糖尿病
専修医	渡邊　知一		糖尿病	糖尿病
臨床研究センター長	島津　章	日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本病態栄養学会　認定NSTコーディネーター 京都大学医学博士 京都大学臨床教授	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌	内分泌代謝疾患、検査医学、神経内分泌
予防医学研究室長	坂根　直樹	日本内科学会　認定医 日本肥満学会　評議員 京都府立医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病教育

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
臨床代謝栄養研究室　長	浅原　哲子	日本内科学会　認定内科医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・評議員 日本心血管内分泌代謝学会　評議員 日本肥満学会　肥満症専門医・指導医・評議員 日本肥満症治療学会　評議員 日本動脈硬化学会　評議員 日本病態栄養学会　評議員 京都大学医学博士 京都大学非常勤講師	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患	糖尿病、肥満（メタボリックシンドローム）疾患
非常勤医師	重光　松崇		糖尿病	糖尿病
非常勤医師	吉良　友里	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内科学会　認定内科医	糖尿病	糖尿病
非常勤医師	小谷　和彦	日本内科学会　総合内科専門医 日本臨床検査医学会　臨床検査専門医 日本動脈硬化学会　評議員 自治医科大学医学博士	糖尿病	糖尿病

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定専門病院

1. 生活習慣病である糖尿病の治療には、患者さんご自身が自己管理能力を身につけることが大事です。当科では糖尿病教育、すなわち患者さんへの教育を実施すると同時に、患者さんに対する指導能力を高めた教育スタッフを育成し、より一層の治療実績アップに努めます
2. 地域の糖尿病基幹病院としての責務を果たすべく、地域連携に努めます

□ 主な対象疾患

2型糖尿病、耐糖能異常、1型糖尿病、肥満症、メタボリック症候群、糖尿病神経障害と糖尿病足病変、糖尿病腎症、糖尿病網膜症（眼科）、妊婦糖尿病、脂質異常症（高脂血症）、糖尿病性昏睡、重症低血糖

□ 診療（業務）内容

糖尿病センターでは一般糖尿病外来および入院での診療に加えてさまざまな専門外来を開設し、さまざまなタイプの糖尿病および関連疾患およびそれらの合併症の充実した診療活動につながっている。

下記に専門外来の診療活動について紹介する。

・フットケア外来　毎週月曜日14時～/フットセンター外来　毎週火曜日14時～　(2000年開設)　フットケア外来では、主に糖尿病に由来する足病変に対応し、全国各地からの紹介患者を集めている。また、非糖尿病足病変患者に対する問い合わせも多く、難治性の足病変を扱う集学的な欧米型のフットセンターを目指している。フットセンター外来では初診は糖尿病センターで行い、一般診察をした上で、関係担当診療科へ紹介している。

・フットウェア外来(月2回：木曜日13時～16時　完全予約制)　フットウェア外来では義肢装具士がオーストリア人の整形外科靴マイスター(Orthopedic Shoe Meister）と協力して、靴・装具の指導や調整にあたっている。

・1型糖尿病外来（2005年開設）毎週　火曜日9時～16時・金曜日9時～12時/インスリンポンプ外来（2010年開設）毎週　月曜日　14時～16時

1型糖尿病はインスリン分泌の廃絶を特徴とする。生命維持のみならず慢性の合併症予防のためにはインスリンを上手に用いて平均血糖レベルや血糖値のバラツキをコントロールすることが重要である。1型糖尿病外来で

は、重症低血糖を起こすことなく平均血糖レベルを改善する方法（カーボカウント、修正インスリンなどによるインスリン自己注射）につき、医師・看護師・管理栄養士のチームがわかりやすく指導している。インスリンポンプ療法（CSII）はこのためのきわめて有効な血糖管理法である。2013年3月末の１型糖尿病外来通院患者数は194名（うち新患33名）、インスリンポンプ療法を行っている患者は65名（2012年度新規導入14名）であった。

・肥満・メタボリックシンドローム外来(2001年開設)　毎週　月曜日・水曜日9時～14時　肥満・メタボリックシンドローム外来では、医師・看護師・栄養士によるチーム医療をベースに、体重グラフや食事記録表を登載した当院独自の「ダイエットノート」を活用して日本肥満学会が提唱する行動療法的アプローチに基づく減量指導を行っている。また動脈硬化や睡眠時無呼吸症候群等の合併症も定期的に評価している。また、外来患者を中心として2006年よりメタボリックシンドローム会（患者会）を定期的に開催。さらにメタボ通信、メタボランチなどをチーム医療で展開している。2009年には本活動をまとめた「チームで撲滅！メタボリックシンドローム」（診断と治療社）を刊行。外来開設からの延べ患者数12,800人以上、他院・他科からの紹介率も高く、新患100人以上（年間）に昇る。

・高脂血症外来（2005年開設）毎週木曜日10時～13時/高脂血症療養指導外来（2006年開設）毎週木曜日10時～13時。家族性コレステロール血症（FH）、家族性複合型高脂血症（FCHL）などの脂質異常症受診者を対象。頸動脈や特殊検査による動脈硬化リスク評価を行い、管理目標値を設定。管理栄養士による療養指導を併設し、飲酒問題を抱える高中性脂肪血症に対する節酒指導（HAPPYプログラム）を実施。スタチン副作用例への対応なども行っている。症例数505例（2005年11月～2013年3月）内訳；家族性高コレステロール血症（79例）、Ⅱa型（159例）、Ⅱb型（131例）、Ⅳ型（81例）、Ⅲ・Ⅴ型（3例）、その他（52例）。

・妊娠糖尿病外来(2007年3月開設)　毎週金曜日13時～15時　妊娠糖尿病は妊娠中に初めて発見された軽度の（糖尿病には至っていないレベルの）耐糖能異常で巨大児その他の周産期合併症の原因となる。また出産後の糖尿病発症リスクが増大する。妊娠前に糖尿病を発症した場合、糖尿病合併妊娠となり、胎児奇形が大きな問題となり、妊娠前血糖管理が重要となる。平成24年度当外来を受診した新規患者数は57名（妊娠糖尿病：14名、2型糖尿病合併妊娠：5名）であった。

・糖尿病血管合併症外来　毎週金曜日13時～16時　　糖尿病血管合併症外来では、糖尿病血管合併症のスクリーニングを行い、他科との緊密な連携によって治療にあたっている。特に、閉塞性動脈硬化症などの合併症に加え腎機能障害を有する糖尿病患者の短期入院で、外来での施行が困難な造影剤による画像検査を施行し、定期的なスクリーニング・治療への展開も検討している。

・糖尿病透析予防指導外来　(2012年4月の診療報酬改訂に基づき新設）糖尿病性腎症2期以上の患者を対象とし、医師、看護師、管理栄養士が連携して自己管理指導を行う。当センターでは2012年10月に開設され、2013年3月末までの受診者数は66名であった。毎週月、水、木曜日に1名ずつの予約枠となっている。さらに、糖尿病センターではコメディカルスタッフによる指導として一般糖尿病食事指導（管理栄養士）および糖尿病療養指導外来（インスリン自己注射、血糖自己測定、フットケア指導など：看護師）を開設している。また、自己管理（療養）を患者に指導する医療スタッフである糖尿病療養指導士(CDEJ)は、当院内で21名(看護部：12名、薬剤科：7名、栄養科：1名、検査科：1名）を擁し、綿密な糖尿病セルフケアを支援している。

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
18.4名	412名	16.6日

外来患者数

1日平均患者数
102.7名

主な手術・検査の件数など

CGM(連続皮下ブドウ糖測定)	CAVI/ABI測定	CT(内臓脂肪面積測定)
41件	240件	76件

リポプリント解析
225件

□ 地域医療連携・広報活動

・糖尿病センターだより(糖尿病センター広報紙):2008年4月に糖尿病センター創立40周年を記念して発刊された患者向け広報紙。2012年3月現在、季刊発行となっていて通巻23号を数えている。糖尿病センターおよび関連診療科、伏見医師会の医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師等が分担して執筆。 毎号4000部を通院患者と糖尿病センター関連医療施設に配送付している。全号を京都医療センターHP上で閲覧できる。
・糖友会(患者会):日本糖尿病協会傘下の糖尿病患者会として昭和36年に発足した。初代会長は大村春男氏(後に日本糖尿病協会会長)、現会長は藤井弘氏である。2012年度総会は2012年11月10日に開催(参加者24名、ウェスティン都ホテル)。2013年3月23日例会(血糖値を測ってみよう、参加者17名)。
・糖尿病市民公開講座「第27回DM京都」 糖尿病と脂肪肝 2012年5月27日 参加者120名
　特別講演 「糖で痛んだ肝臓のお手入れ法」 講師:高知大学医学部消化器内科 西原 利治 教授
　講演「HbA1cの値が変わったのを知ってますか?」京都医療センター検査科 小原 伸之
　講演「脂肪肝と食事」 京都医療センター栄養科 後 沙苗
　運動指導「はじめよう!今日からあなたもA(歩く)・K(筋トレ)・B(バランス)!」 洛和会音羽病院 リハビリテーションセンター 福田 公雄・荒尾 早紀・起塚 美典・田路 真由
・第13回メタボリックシンドローム会 2012年12月8日 参加者150名
　特別講演「今日からどこでも実践できる運動療法」講師:同志社大学 スポーツ健康科学部 石井 好二郎 教授
　モーニングレクチャー「専門医が解説!カロリー制限食と糖質制限食の違いについて〜安全に糖質制限をするためのコツ〜」 姫野病院 糖尿病腎臓内科 姫野 亜紀裕医師
　かんたん体力測定「自分のからだを知ろう!〜かんたん体力テストにみんなでチャレンジ〜」 健康運動指導士 小峰圭子・2-8看護師
　栄養指導「メタボランチで意識改革!〜患者アンケートより〜」 管理栄養士 片山 蘭
・1型交流会(1型糖尿病外来患者会、2006年4月発足)
　第19回例会 2012年 6月3日 夏の勉強会 特別講演「iPS細胞が拓く新しい医療」 参加者22名
　第20回例会 2012年11月18日 茶話会 参加者17名
・1型ニュース(2006年2月〜)2013年3月第44号を発行(京都医療センターHP上にPDFファイルにて紹介)。
・第9回京都医療センター1型糖尿病セミナー「1型糖尿病合併妊娠」2012年10月27日
・平成24年度JICA研修「生活習慣病予防対策研修コース:糖尿病対策について」 2012年6月6日
・臨床研究実践セミナー「上手なアンケートの作り方とエクセルでできる統計1」 2012年7月31日
・臨床研究実践セミナー「エクセルでできる統計2と統計ソフトの活用」 2012年8月6日
・京都医療センター臨床研究センター予防医学研究室夏季セミナー2012 2012年8月27日
・平成24年度内分泌・代謝性疾患研修会「行動科学と最新のエビデンスに基づいた糖尿病教育の実践」 2012年10月2日-4日
・米国国立衛生研究所日本人研究会、「脂質異常症の研究について」 2012年12月7日
・京都医療センター臨床研究センター予防医学研究室学術研究発表会2012〜糖尿病予防と糖尿病教育〜 2012年12月15日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国際学会	Isojima T, Shimatsu A, Yokoya S, Chihara K, Tanaka T, Hizuka N, Teramoto A, Tatsumi K, Tachibana K, Katsumata N, Fujieda K. Establishment of the standardized centile curves and reference intervals of serum insulin-like growth factor-I (IGF-I) levels in Japanese population using LMS method. The 51st Annual Meeting of the European Society for Paediatric Endocrinology (ESPE). September 20-23, 2012; Leipzig, Germany.
国内学会	磯島豪、島津章、横谷進、田中敏章、立花克彦、勝又規行、堀川玲子. 小児期から成人期を通して使用可能なInsulin-like growth factor-I (IGF-I)の基準値の設定. 第46回日本小児内分泌学会学術集会. 2012年9月27-29日;大阪市
国内学会	島津 章、磯島 豪、横谷 進、千原和夫、田中敏章、肥塚直美、寺本 明、巽 圭太、立花克彦、勝又規行、堀川玲子. 全年齢における血中インスリン様成長因子-1(IGF-1)濃度の基準範囲. 第59回日本臨床検査医学会学術集会. 2012年11月28-30日;京都市
国内学会	島津 章. ランチョンセミナー1 日本人のIGF-I基準値とその活用. 第22回臨床内分泌代謝Update. 2013年1月18-19日;大宮市
国内学会	垣田真以子、難波多挙、村田敬、安井久晃、植田洋平、中谷理恵子、中尾佳奈子、立木美香、臼井健、田上哲也、成瀬光栄、島津章. 多発肝転移を伴う肺原発神経内分泌腫瘍による異所性ACTH産生腫瘍に対するエベロリムスの治療効果.　第24回日本間脳下垂体副腎系研究会. 2013年3月23日;東京
国内学会	塚原徹也、浅原哲子、大谷良、中久木卓也. 急性期脳梗塞患者における薬物治療法の効果. 第37回日本脳卒中学会総会. 2012年4月26日-28日;福岡
国内学会	中久木卓也、浅原哲子、村中和哉、佐々木洋介、山陰一、塚原徹也、大谷良、園部眞、江面正幸、高橋立夫、吉岡亮、矢坂正弘、堤圭介.　脳梗塞と血中アディポサイトカイン、炎症マーカーとの関連について. 第37回日本脳卒中学会総会. 2012年4月26日-28日;福岡
国内学会	浅原哲子、村中和哉、佐々木洋介、山陰一、塚原徹也.　頸動脈プラーク内のマクロファージ浸潤と炎症性サイトカインの発現に対する糖尿病の影響. 第37回日本脳卒中学会総会. 2012年4月26日-28日;福岡
国内学会	大谷良、浅原哲子、中久木卓也、山陰一、端祐一郎、村瀬永子、中村道三、塚原徹也. 脳梗塞危険因子と頚部超音波所見、アディポサイトカインとの関連. 第37回日本脳卒中学会総会. 2012年4月26日-28日;福岡
国内学会	小鳥真司、冨田努、孫徹、藤倉純二、岩倉浩、日下部徹、海老原健、細田公則、中尾一和.　新規のG蛋白共役型-脂質受容体GPR119の臨床的意義. 第109回日本内科学会講演会. 2012年4月13日-15日;京都
国内学会	冨田努、細田公則、小鳥真司、孫徹、藤倉純二、岩倉浩、野口倫生、日下部徹、海老原健、中尾一和.　新規のインスリン分泌調節因子GPR40の遺伝性肥満モデルでの発現調節と機能的意義. 第109回日本内科学会講演会. 2012年4月13-15日;京都
国内学会	吉良友里、細田公則、冨田努、小鳥真司、孫徹、藤倉純二、岩倉浩、日下部徹、海老原健、中尾一和.　G蛋白共役型-脂質受容体GPR40の遺伝子発現と臨床的意義. 第109回日本内科学会講演会. 2012年4月13-15日;京都
国内学会	冨田努、細田公則、小鳥真司、孫徹、藤倉純二、岩倉浩、野口倫生、日下部徹、海老原健、中尾一和.　新規のインスリン分泌促進因子GPR40の遺伝性肥満モデルの発現調節と機能的意義. 第85回日本内分泌学会学術総会. 2012年4月19-21日;名古屋
国内学会	冨田努、細田公則、小鳥真司、孫徹、藤倉純二、岩倉浩、野口倫生、日下部徹、海老原健、中尾一和. G 蛋白共役型-脂質受容体GPR119 の臨床的意義 ヒト膵島およびインスリノーマにおける遺伝子発現と膵島機能との連関. 第85回日本内分泌学会学術総会. 2012年4月19-21日;名古屋
国内学会	小鳥真司、中川内玲子、島田典生、能登裕、梅本琢也、山家由子、田中剛史、林野泰明、島津章、服部正和、泉有紀、渡邊知一、宮本恵宏、平尾利恵子、肥田和之、吉田和矢、小河淳、川邊庸次郎、木村博典、東輝一朗、河野茂夫.　糖尿病足病変ハイリスク患者への外来での予防的フットケアの有効性に関する多施設共同研究(中間報告). 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日. 横浜
国内学会	冨田努、細田公則、小鳥真司、藤倉純二、日下部徹、海老原健、中尾一和.　新規のG蛋白共役型ー脂質受容体群GPR40、GP119の臨床的意義. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日. 横浜
国内学会	小鳥真司、細田公則、冨田努、藤倉純二、日下部徹、海老原健、中尾一和. G 蛋白共役型ー脂質受容体GPR119 のヒトにおける遺伝子発現と生理的意義. 第33回日本肥満学会. 2012年10月11-12日;京都
国内学会	冨田努、細田公則、小鳥真司、藤倉純二、日下部徹、海老原健、中尾一和.　蛋白共役型ー中・長鎖脂肪酸受容体GPR40の遺伝性肥満モデルの膵島での発現調節. 第33回日本肥満学会. 2012年10月11-12日;京都
国際学会	T. Tomita, K. Hosoda, S. Odori, J. Fujikura, T. Kusakabe, K. Ebihara, K. Nakao. Clinical Implications of G Protein-Coupled Lipid Receptors, GPR40 and GPR119. 9thInternational Diabetes Federation Western Pacific Region Congress,4thScientific Meeting of the Asian Association for the Study of Diabetes.　2012年11月24-27日;京都
国内学会	村田敬. 近未来のインスリンポンプ療法、これでいいのか?インスリン治療. 京都インスリンセミナー. 2012年4月21日;京都
国内学会	村田敬、岡田浩、坂根直樹、山田和範.　カーボカウント指導のためのロールプレイプログラムの開発.　第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;横浜
国内学会	岸純一郎、岡嶋昭、村田敬、坂根直樹、山田和範. 1型糖尿病の血糖変動に及ぼす因子の検討. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;横浜
国内学会	和田啓道、尾野亘、佐藤哲子、川村晃久、森本達也、上北和実、東堂龍平、山田和範、赤尾昌治、小坂田元太、島津章、長谷川浩二.　プラバスタチンもしくはアトルバスタチンとロサルタンの併用が初期心血管病変に及ぼす影響. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;横浜
国内学会	津崎こころ、小谷和彦、山田和範、坂根直樹.　脂質異常症者の心血管病発症に及ぼす要因:糖尿病の影響.　第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;横浜
国内学会	吉岡二三、坂根直樹、山田和範、村田敬、岸純一郎、小谷和彦、津崎こころ、　納心、真鍋悟、佐野喜子、松岡幸代、岡田浩.　1型糖尿病骨折予防の研究. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;横浜
国内学会	岸純一郎.　京都医療センターにおけるビクトーザの使用経験.　糖尿病を考える会 - 糖尿病患者の血糖管理の現状と課題 - .　2012年7月31日;京都
国内学会	岡嶋昭、真鍋悟、藤本容子、岸純一郎、村田敬、山田和範. SMBG解析ソフトを利用した1型糖尿病血糖自己管理評価. 第49回日本糖尿病学会近畿地方会. 2012年11月17日;京都
国内学会	藤本容子、真鍋悟、岡嶋昭、岸純一郎、村田敬、山田和範.　SMBG解析ソフトをもちいた1型糖尿病患者の血糖変動評価、症例提示.　第49回日本糖尿病学会近畿地方会. 2012年11月17日;京都
国内学会	水谷結香子、中川内玲子、伊藤逵、渡邊知一、岸純一郎、村田敬、山田和範、浅原哲子、島津章、小鳥真司、河野茂夫.　著名な足変形による高足底圧のために慢性難治性潰瘍を生じた2症例. 第49回日本糖尿病学会近畿地方会. 2012年11月17日;京都
国内学会	松岡幸代、山田和範. 2型糖尿病外来患者の食事自己管理状況. 第49回日本糖尿病学会近畿地方会. 2012年11月17日;京都

国内学会	村田敬、岡崎研太郎、岡田浩、真鍋悟、片山欄、三浦あゆみ、内川厳志、後沙苗、藤本容子、坂根直樹、山田和範. 1型糖尿病診療に関わる医療従事者を対象としたエンパワーメント研修会の効果. 第49回日本糖尿病学会近畿地方会. 2012年11月17日;京都
国内学会	中川内玲子. 西太平洋地域の糖尿病シャルコー足病変の特徴に関する国際共同研究-ASIPAC Foot. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;神奈川
国内学会	伊藤遼. 西太平洋地域における糖尿病足病変ハイリスク患者におけるライフスタイルに関する国際共同研究-ASIPAC3-. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;神奈川
国内学会	浅原哲子、佐々木洋介、椽谷真由、村中和哉、山陰一、河野茂夫、和田啓道、長谷川浩二、島津章. メタボリック症候群におけるEPAの抗動脈硬化作用の分子機構-単球・マクロファージPPARγを介するIL-10の上昇作用-. 第55回日本糖尿病学会年次学術集. 2012年5月17-19日 神奈川
国内学会	中川内玲子、Yunir Em、Gang Zhao Zhi、梶尾裕、野田光彦、清野裕、Binh Ta Van、Jesus Enrico A. de、Krittiyawong Sirinate、河野茂夫. 西太平洋地域の糖尿病シャルコー足病変の特徴に関する国際共同研究-ASIPAC Foot Study 2-. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日 神奈川
国内学会	伊藤遼、Khun Touch、Yunir Em、Zhao Gang Zhi、中川内玲子、梶尾裕、野田光彦、清野裕、泉有紀、Ta Bin Van、Jesus Enrico A. de、Krittiyawong Sirrinate、河野茂夫. 西太平洋地域における糖尿病足病変ハイリスク患者におけるライフスタイルに関する国際共同研究-ASIPAC 3-. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;神奈川
国内学会	椽谷真由、浅原哲子、小谷和彦、姫野亜紀裕、村中和哉、佐々木洋介、山陰一、岡崎泰一郎、田邊真紀人、加藤泰久、荒木里香、大石まり子、河野茂夫、島津章. 日本人肥満症の減量成功とリバウンドに影響する因子の検討-国立病院機構肥満症多施設共同研究(JOMS). 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;神奈川
国際学会	河野茂夫. Diabetic foot care in Western Pacific Region. Forum on Diabetic Foot and Related Diseases 2012 2012年10月12-13日、Guangzhou, China
国際学会	河野茂夫:Diabetic Foot Care Project in WPR. 第9回国際糖尿病連合太平洋地区(IDF-WPR)会議 第4回アジア糖尿病学会(AASD)学術集会. 2012年11月24-27日;京都
国内学会	村田敬、青木雄次、加藤泰久、田中剛史、荒木里香、加藤研、肥田和之、河村智一、吉田和矢、今村洋一、豊永哲至. ＮＨＯ１型糖尿病研究グループ:国立病院機構における CSII の使用状況と患者特性. 2012/12/1 岡山
国際学会	T. Murata, Y. Aoki, Y. Kato, T. Tanaka, R. Araki, K. Kato, K. Hida, T. Kawamura, K. Yoshida, Y. Imamura, T. Toyonaga, K. Yamada, N. Sakane, NHO T1DM Research Group. THE INSULIN PUMP USAGE AND THE PATIENT CHARACTERISTICS IN THE T1DM COHORT AT NATIONAL HOSPIATL ORGANIZ ATION HOSPITALS IN JAPAN. The 6th International Conference on Advanced Techn ologies & Treatments for Diabetes. 2013年2月27日-3月2日 Paris, France
国内学会	片山蘭、村中和哉、佐々木洋介、山陰一、真鍋悟、山地聡子、内川厳志、三浦あゆみ、後沙苗、安藤由美、谷川清、浅原哲子. 当院における外来患者向け体験型食事教育「メタボランチ」を通して. 第66回国立病院総合医学会. 2012年11月16-17日;兵庫
国内学会	浅原哲子、小谷和彦、和田啓道、宮永史子、大谷すみれ、米澤一也、小河淳、西藤亮子、岡嶋泰一郎、田邊真紀人、荒木里香、吉田和朗、齋藤美穂、長岡匡、豊永哲至、田中剛史、山田努、太田逸朗、大石まり子、島津章. 肥満症・糖尿病のCVD・CKD予防の為の脂質管理指標の検討-国立病院機構多施設共同研究-. 第33回日本肥満学会. 2012年10月11-12日;京都
国内学会	浅原哲子、佐々木洋介、村中和哉、山陰一、小鳥真司、河野茂夫、和田啓道、長谷川浩二、島津章. インクレチン関連薬による単球・マクロファージのM1/M2タイプとその機能への影響. 第33回日本肥満学会. 2012年10月11-12日;京都
国内学会	山陰一、佐々木洋介、村中和哉、塚原徹也、浅原哲子. 頸動脈プラークのM1/M2マクロファージ浸潤と炎症性サイトカインに対する肥満・糖尿病の影響. 第33回日本肥満学会. 2012年10月11-12日;京都
国内学会	椽谷真由、浅原哲子、姫野亜紀裕、村中和哉、佐々木洋介、山陰一、岸本一郎、島津章. 日本人肥満症における減量成功率とその後のリバウンドに関連する因子の特徴. 第33回日本肥満学会. 2012年10月11-12日;京都
国内学会	伊藤遼、小鳥真司、山陰一、村中和哉、佐々木洋介、河野茂夫、島津章、浅原哲子. 肥満症・メタボリック症候群におけるDUALインピーダンス法を用いた内臓脂肪面積測定の臨床的意義. 第33回日本肥満学会. 2012年10月11-12日;京都
国内学会	佐々木洋介、浅原哲子、村中和哉、山陰一、後藤伸子、勝浦五郎、中尾一和、島津章. 高脂肪食誘発肥満モデルマウスにおけるGLP-1受容体のエネルギー代謝調節作用. 第33回日本肥満学会. 2012年10月11-12日;京都
国内学会	Satoh-Asahara N, Sasaki Y, Muranaka K, Yamakage H, Wada H, Hasegawa K, Shimatsu S. Anti-inflammatory Effects of Eicosapentaenoic Acid in Metabolic Syndrome-Increase in Interleukin 10 Levels of Peripheral Blood Monocytes through a PPARγ dependent pathway. The 44th Annual Scientific Meeting of the Japan Atherosclerosis Society. 2012年7月19-20日;Japan, Fukuoka
国内学会	Yamakage H, Satoh-Asahara N, Kotani K, Kato Y, Araki R, Okajima T, Tanabe M, Ohishi M, Shimatsu A. Evaluation of oxidized LDL and CAVI in Japanese obese patients for prevention of atherosclerosis in multi-centered National Hospital Organization Japan Obesity and Metabolic Syndrome Study. The 44th Annual Scientific Meeting of the Japan Atherosclerosis Society. 2012年7月19-20日;Japan, Fukuoka
国内学会	Wada H, Ura S, Kitaoka S, Satoh-Asahara N, Horie T, Ono K, Akao M, Abe M, Morimoto T, Murayama T, Yokode M,Shimatsu A, Hasegawa K . Serum vascular endothelial growth factor-C levels are associated with dyslipidemia and atheroscrelosis. The 44th Annual Scientific Meeting of the Japan Atherosclerosis Society. 2012年7月19-20日;Japan, Fukuoka
国内学会	Wada H, Masunaga N, Akao M, Ura S, Ishii M, Unoki T, Abe M, Ogawa H, Satoh-Asahara N, Takahashi Y, Shimatsu A, Hasegawa K. α 1-Antitrypsin-low-density-lipoprotein, a smoking-related oxidatively modified LDL, is increased in sera from patients with severe arteriosclerosis obliterans. The 44th Annual Scientific Meeting of the Japan Atherosclerosis Society. 2012年7月19-20日 Japan, Fukuoka
国内学会	浅原哲子. フォーミュラ食の理論とその実践. 第30回日本肥満症治療学会学術集会ワークショップ5. 2012年6月29-30日;東京
国内学会	浅原哲子. フォーミュラ食品による生活習慣病の是正 第30回日本肥満症治療学会学術集会ランチョンセミナー2 2012年6月29-30日;東京
国内学会	宮永史子、浅原哲子、森崎裕子、山中到、小久保喜弘、宮本恵宏、島津章、森崎隆幸. チロシンホスファターゼ1B遺伝子多型は日本人の肥満発症及び減量治療抵抗性に関連する. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;東京
国内学会	益永信豊、和田啓道、浦修一、赤尾昌治、石井充、鵜木崇、阿部充、小河尚、竹中淑夏、中島康代、金崎幹彦、佐藤哲子、島津章、長谷川浩二. 喫煙に密接に関連したα1-anti-trypsin-LDLの血中レベルは閉塞性動脈硬化症で上昇する. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;東京
国内学会	浦修一、和田啓道、北岡修二、佐藤哲子、堀江貴裕、尾野亘、高谷智英、森利依子、赤尾昌治、阿部充、森本達也、村山敏典、横出正之、藤田正俊、島津章、長谷川浩二. 血管内皮増殖因子Cは脂質異常及び動脈硬化と関連している. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;東京
国内学会	浅原哲子、村中和哉、佐々木洋介、山陰一、塚原徹也. 頸動脈プラーク内のマクロファージ浸潤と炎症性サイトカイン発現に対する糖尿病の影響. 第37回日本脳卒中学会総会. 2012年4月26-28日;福岡

国内学会	浅原哲子、佐々木洋介、椽谷真由、村中和哉、山陰一、河野茂夫、島津章.　メタボリック症候群における高脂血症薬・EPAの抗動脈硬化作用の分子機構-PPARγを介するIL-10の上昇作用-. 第85回日本内分泌学会学術総会. 2012年4月19-21日;愛知
国内学会	椽谷真由、浅原哲子、小谷和彦、姫野亜紀裕、村中和哉、佐々木洋介、山陰一、河野茂夫、岡嶋泰一郎、田邉真紀人、加藤泰久、荒木里香、大石まり子、島津章. 日本人肥満症の減量成功率とリバウンド率に影響を与える因子とアウトカム-国立病院機構肥満症多施設共同研究（JOMS）-. 第85回日本内分泌学会学術総会. 2012年4月19-21日;愛知
国際学会	Sakane N, Yanagisawa Y, Katashima M, Dohi S, Sakanta K, Hagiwara S. Japanese study of visceral adiposity and lifestyle information: utilization and evaluation. 19th European Congresss on Obesity.　2012年5月9-12日;Lyon, France
国際学会	Okada H, Nakagawa Y, Onda M, Fukuoka K, Sakane N. COMPASS Project: a cluster rodomized Intervention Trial by community pharmacists' for lifestyle support for type 2 diabetes patients in Japan. 17th international social pharmacy workshop.　2012年7月23-26日;Phuket,Thailand
国際学会	Okada H, Nakagawa Y, Onda M, Shoji M, Sakane N. Assessing pharmacists' YARIGAI or job satisfaction change within COMPASS project: a cluster sandomized intervention trial by community pharmacists for type 2 diabetes patients in Japan. 24th Federation of Asian Pharmaceutical Association bongress.　2012年9月13-16日;Bali, Indonesia
国際学会	Okada H, Nakagawa Y, Onda M, Shoji M, Sakane N. Community pharmacists for diabetes patients intervention study in Japan (COMPASS-Project1). International Pharmaceutical Federation.　2012年10月3-8日;Amusterdam,Netherlands
国際学会	Okada H, Sakane N. A Comparison of practices at community pharmacies in Japan and Australia. PAC12　2012年10月19-21日;Melbourne, Australia
国内学会	岡田浩、中川康司、福岡勝志、恩田光子、坂根直樹. 保険薬局における糖尿病患者への動機づけ面接の効果：COMPASSプロジェクト結果報告. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;横浜
国内学会	岡田浩、大澤理代、佐藤和生、河本一真、野村真洋、小山智美、安尾めぐみ、庄司雅紀、厚田幸一郎、朝倉俊成.　糖尿病エンパワーメントを主題にしたシンポジウムの試み～「糖尿病劇場」実施結果報告. 第1回くすりと糖尿病学会学術集会. 2012年9月22-23日;東京
国内学会	津崎こころ、松岡幸代、小谷和彦、山田和範、坂根直樹. 脂質異常症者の心血管発症に及ぼす要因：糖尿病の影響. 第55回日本糖尿病学会年次学術集会. 2012年5月17-19日;横浜
国内学会	佐野喜子、坂根直樹. 毎食の炭水化物摂取量に注目した食事診断システムの開発と妥当性・再現性についての検討（タブレット端末を活用した食事診断システム：カウントJOY）. 日本糖尿病学会. 2012年5月17-19日;横浜
国内学会	佐野喜子、高波嘉一、河津捷二. パネルディスカッション「職場の糖尿病対策」. 関東産業健康管理研究会. 2012年11月1日;東京
国内学会	岡幸代. 患者心理を踏まえた糖尿病療養指導あ～誰にでもできる栄養指導. コメディカルのための糖尿病看護セミナー. 2012年4月22日;福島
国内学会	河野茂夫. 糖尿病フットケアの実際とトピックス. 第１７回北海道CDEスキルアップセミナー. 2012年4月7日；北海道札幌市
国内学会	河野茂夫. 糖尿病フットケアの実際とトピックス. 第8回北摂四医師会ほくせつフットケアカンファレンス. 2012年4月21日；大阪府高槻市
国内学会	河野茂夫. 糖尿病フットケアの実際. 中央区フットケアを考える会. 2012年6月21日；大阪府大阪市
国内学会	河野茂夫. 糖尿病重症化予防（フットケア）推進. JADECサイエンスフォーラム UNITE Study. 2012年9月1日；東京都千代田区
国際学会	河野茂夫. Diabetic foot care in Western Pacific Region. シンガポール国立大学病症カンファレンス. 2012年10月9日；シンガポール
国際学会	河野茂夫. Diabetic foot care in Western Pacific Region. ベトナム内分泌代謝研究カンファレンス. 2012年10月10日；ベトナム
国内学会	河野茂夫. フットケアの実際と展望. 第29回京都インスリン治療研究会. 2012年10月27日；京都市
国際学会	河野茂夫. Diabetic Foot in Western Pacific Region. the Lautoka Diabetes Hub. 2012年11月5日；Lautoka ,Fiji
国際学会	河野茂夫. Diabetic Foot in Western Pacific Region. MOH フィジー厚労省主催. 2012年11月7日；Suva ,Fiji
国内学会	河野茂夫. 糖尿病足病変治療の最前線. 糖尿病チーム医療フォーラム. 2012年11月10日；和歌山県和歌山市
国内学会	河野茂夫. 内科診療から診るASO. 第7回ASOフォーラム. 2012年12月1日；愛知県名古屋市
国内学会	河野茂夫. 糖尿病足病変治療の実際とトピックス. 大阪南学術セミナー. 2013年1月25日；大阪府河内長野市
国内学会	河野茂夫. 糖尿病フットケアのトピックスと実際. 第27回福岡県臨床糖尿病医会. 2013年3月2日；福岡県福岡市
国内学会	浅原哲子. Jes We Can 肥満症における減量治療と心腎合併症予防-国立病院機構多施設共同研究を主導して-.　第13回日本内分泌学会近畿支部学術集会. 2012年10月20日. 大阪
国内学会	浅原哲子. メタボリックシンドロームにおけるSAA/LDL上昇と動脈硬化進展に及ぼす喫煙の影響-減量および薬物療法と禁煙の併用治療による心血管病リスクへの効果-.　第27回平成23年度喫煙科学研究財団助成研究発表会. 2012年7月18日. 東京
国内学会	浅原哲子. メタボリック症候群における心血管病リスク指標としてのCAVIの有用性と生活指導.　第3回京都呼吸・循環セミナー. 2012年6月23日. 京都
国内学会	浅原哲子. メタボリック症候群におけるEPAの多面的効果.　京都南部病院DMカンファレンス. 2012年6月21日. 京都
国内学会	浅原哲子. メタボリック症候群におけるEPAの多面的効果.　EPA/AAを考える会～動脈硬化のリスクマーカーとしての展望～. 2012年6月16日. 京都
国内学会	Unoki T, Wada H, Akao M, Ura S, Masunaga N, Ishii M, Abe M, Ogawa H, Iguchi M, Takabayashi K, Yamashita Y, Hamatani Y, Nakashima Y, Osakada G, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K. Vascular Endothelial Growth Factor-C Levels are Inversely Associated with the Risk of Restenosis After Drug-eluting Stent Implantation (FRS-103). 第77回日本循環器学会学術集会　2013年3月15-17日. 横浜
国内学会	Ishii M, Wada H, Akao M, Ura S, Unoki T, Masunaga N, Abe M, Ogawa H, Iguchi M, Takabayashi K, Yamashita Y, Hamatani Y, Nakashima Y, Osakada G, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K. The Serum-amyloid-A/LDL Complex Level is Associated with Positive Remodeling and Plaque Growth in Coronary Artery Disease (OE-015). 第77回日本循環器学会学術集会　2013年3月15-17日、横浜
国内学会	Ura S, Wada H, Satoh-Asahara N, Akao M, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K. Serum Lipoprotein-associated Phospholipase A2 Mass Levels Significantly Decrease Following Smoking Cessation (OE-171). 第77回日本循環器学会学術集会　2013年3月15-17日、横浜
国内学会	Masunaga N, Wada H, Akao M, Ura S, Unoki T, Ishii M, Abe M, Ogawa H, Iguchi M, Takabayashi K, Yamashita Y, Hmatani Y, Nakashima Y, Osakada G, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K. Serum Levels of Vascular Endothelial Growth Factor-C are Inversely Associated with Severe Arteriosclerotic Obliterans in Male Patients (PE-039). 第77回日本循環器学会学術集会. 2013年3月15-17日. 横浜

国内学会	Iguchi M, Wada H, Akao M, Ura S, Masunaga N, Ishii M, Unoki T, Abe M, Ogawa H, Takabayashi K, Yamashita Y, Hamatani Y, Nakashima Y, Osakada G, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Hasegawa K. High Leptin Levels are Associated with Future Cardiovascular Events in Chronic Heart Failure Patients (PE-072). 第77回日本循環器学会学術集会. 2013年3月15-17日. 横浜
国内学会	Wada H, Ura S, Satoh-Asahara N, Akao M, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K. Increase in Serum Soluble VEGF Receptor-2 during Smoking Cessation is Associated with the Risk of Diabetes (PE-328). 第77回日本循環器学会学術集会. 2013年3月15-17日. 横浜
国内学会	Wada H, Ura S, Satoh-Asahara N, Akao M, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K. Self-rating Depression Scale Score is Independently Associated with Smoking Cessation Failure (PJ-481). 第77回日本循環器学会学術集会. 2013年3月15-17日. 横浜
国内学会	Hasegawa K, Wada H, Satoh-Asahara N, Komiyama M, Takahashi Y. Nicotine Dependency, Obesity and Cardiovascular Risk Biomarkers (SY22-1). 第77回日本循環器学会学術集会. 2013年3月15-17日. 横浜
国内学会	Shimada S, Wada H, Ura S, Terashima S, Satoh-Asahara N, Yamakage H, Komiyama M, Akao M, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K. Relationship between Poor Blood Fluidity and Atherosclerotic SAA- and AT-LDL Complexes in Smoking Patients (PJ-480). 第77回日本循環器学会学術集会. 2013年3月15-17日. 横浜

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Endocrine Journal	Isojima T, Shimatsu A, Yokoya S, Chihara K, Tanaka T, Hizuka N, Teramoto A, Tatsumi K, Tachibana K, Katsumata N, Horikawa R. Standardized centile curves and reference intervals of serum insulin-like growth factor-I(IGF-I) levels in a normal Japanese population using the LMS method. Endocrine Journal 59(9): 771-780, Sept 30, 2012
臨牀消化器内科	島津 章. 膵・消化管神経内分泌腫瘍に対するソマトスタチンアナログ治療. 特集「消化管神経内分泌腫瘍」. 臨牀消化器内科. 28(1): 107-112, 2013
Metabolism	Odori S, Hosoda K, Tomita T, Fujikura J, Kusakabe T, Kawaguchi Y, Doi R, Takaori K, Ebihara K, Sakai Y, Uemoto S, Nakao K. GPR119 expression in normal human tissues and islet cell tumors: evidence for its islet-gastrointestinal distribution, expression in pancreatic beta and alpha cells, and involvement in islet function. Metabolism. Vol 62(1):70-8. January 2013
OBESITY(Silver Spring)	Ida M, Hirata M, Odori S, Mori E, Kondo E, Fujikura J, Kusakabe T, Ebihara K, Hosoda K, Nakao K. Early changes of abdominal adiposity detected with weekly dual bioelectrical impedance analysis during calorie restriction. OBESITY (Silver Spring) in press,2013
Metabolism	Satoh-Asahara N, Sasaki Y, Wada H, Tochiya M, Iguchi A, Nakagawachi R, Odori S, Kono S, Hasegawa K, Shimatsu A. A dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, sitagliptin, exerts anti-inflammatory effects in type 2 diabetic patients. Metabolism. 62(3):347-51.2013 Mar.
Current Therapy	小鳥真司、冨田努、細田公則、藤倉純二、中尾一和. 特集 糖尿病の薬物療法―最新の治療と将来展望 治療薬解説 GPR119受容体作動薬. Current Therapy Vol.30 No.7 Page97-102　2012
Diabetes Care	Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Sasaki Y, Nakaoka H, Himeno A, Tochiya M, Kono S, Takaya T, Ono K, Wada H, Suganami T, Hasegawa K, Ogawa Y. Highly Purified Eicosapentaenoic Acid Increases Interleukin-10 Levels of Peripheral Blood Monocytes in Obese Patients with Dyslipidemia. Diabetes Care 35:2631-2639, 2012
Obesity Research & Clinical Practice	Shirai K, Saiki A, Oikawa S, Teramoto T, Yamada N, Ishibashi S, Tada N, Miyazaki S, Inoue I, Murano S, Sakane N, Satoh-Asahara N, Bujo H, Miyashita Y, Saito Y. The Effect of Partial Use of Formula Diet on Weight Reduction and Metabolic Variables in Obese Type 2 Diabetic Patients-Multicenter Trial-. Obesity Research & Clinical Practice in press, 2012
Clin Endocrinol (Oxf)	Usui T, Tochiya M, Sasaki Y, Muranaka K, Yamakage H, Himeno A, Shimatsu A, Inaguma A, Ueno T, Uchiyama S, Satoh-Asahara N. Effects of natural S-equol supplements on overweight or obesity and metabolic syndrome in the Japanese, based on sex and equol status. Clin Endocrinol (Oxf). 2012 Apr 3. [Epub ahead of print]
J Atheroscler Thromb	Wada H, Ura S, Satoh-Asahara N, Kitaoka S, Mashiba S, Akao M, Mitsuru Abe M, Ono K, Morimoto T, Fujita M, Shimatsu A, Takahashi Y, Hasegawa K. α1-Antitrypsin-low-density-lipoprotein Serves as a Marker of Smoking-specific Oxidative Stress. J Atheroscler Thromb 19:47-58, 2012.
Metabolism	Himeno A, Satoh-Asahara N, Usui T, Wada H, Tochiya M, Kono S, Yamada-Goto N, Katsuura G, Hasegawa K, Nakao K, Shimatsu A. Salivary cortisol levels are associated with outcomes of weight reduction therapy in obese Japanese patients. Metabolism 61:255-261, 2012.
Obesity Research & Clinical Practice	Shirai K, Saiki A, Oikawa S, Teramoto T, Yamada N, Ishibashi S, Tada N, Miyazaki S, Inoue I, Murano S, Sakane N, Satoh-Asahara N, Bujo H, Miyashita Y, Saito Y. The effects of partial use of formula diet on weight reduction and metabolic variables in obese type 2 diabetic patients—Multicenter trial. Obesity Research & Clinical Practice 7-1: e43-54, 2013.
Clin Chim Acta	Kotani K, Sakane N, Ueda M, Mashiba S, Hayase Y, Tsuzaki K, Yamada T, Remaley AT. Oxidized high-density lipoprotein is associated with increased plasma glucose in non-diabetic dyslipidemic subjects. Clin Chim Acta 414:125-9, 2012
BMC Public Health	Sakane N, Kotani K, Takahashi K, Sano Y, Tsuzaki K, Okazaki K, Sato J, Suzuki S, Morita S, Izumi K, Kato M, Ishizuka N, Noda M, Kuzuya H. Japan Diabetes Outcome Intervention Trial-1(J-DOIT1), a nationwide cluster randomized trial of type 2 diabetes prevention by telephone-delivered lifestyle support for high-risk subjects detected at health checkups: rationale, design, and recruitment. BMC Public Health 13:81, 2013
日本糖尿病情報学会誌	村田敬、岡田浩、岸純一郎、真鍋悟、片山蘭、山地聡子、坂根直樹、山田和範. インスリンポンプに関する医療従事者向け教育プログラムの開発. 日本糖尿病情報学会誌 Vol.10:28-32.
はじめてのカーボカウント第2版	坂根直樹　佐野喜子（編著）．中外医学社
この1冊でカーボカウント・インスリンポンプ・CGMがわかる！糖尿病3Cワークブック	村田　敬　中山書店
すぐわかる！すぐできる！糖尿病の食事療法カーボカウントナビ２．	佐野喜子（著者）　坂根直樹（監修）：株式会社エクスナレッジ 2012年4月
カーボカウントに役立つ食品成分表ひと目でわかる！糖質．	佐野喜子（著者）　坂根直樹（監修）：株式会社エクスナレッジ 2012年9月

日本糖尿病情報学会誌	タブレット端末を活用した糖尿病患者のための食物頻度調査法の開発と妥当性の検討. 日本糖尿病情報学会誌 Vol.1 未発行　2012.6.20付受理
糖尿病UP・DATE賢島セミナー28　糖尿病の診断と管理のイノベーション　早期診断と適切な管理フローチャート	河野茂夫.　末梢循環障害の予知・予防と対応.糖尿病UP・DATE賢島セミナー28　糖尿病の診断と管理のイノベーション　早期診断と適切な管理フローチャート vol.28　P200-211. 時事通信社. 2012年6月
日本臨床増刊号 最新臨床糖尿病学(下)	河野茂夫. 糖尿病足病変の疫学（IX　糖尿病合併症・糖尿病関連疾患　各種糖尿病合併症の概念・成因・診断・治療　糖尿病性足病変とフットケア）. 日本臨床増刊号最新臨床糖尿病学(下) vol.70 増刊号5　P458-462. 日本臨床社. 2012年7月
糖尿病ケア2012年秋季増刊 患者さんのいま・これからがわかる　チャートで学ぶ糖尿病と合併症	河野茂夫. 糖尿病足病変. 糖尿病ケア2012年秋季増刊 患者さんのいま・これからがわかる チャートで学ぶ糖尿病と合併症 No.112 P128-136. メディカ出版. 2012年9月
糖尿病の療養指導2012　療養指導士を育てるために	河野茂夫. その他の糖尿病合併症. 内分泌代謝専門医ガイドブック　改訂第3版 P375-377. 診断と治療社. 2012年11月
糖尿病最新の治療 2013-2015	河野茂夫. 足潰瘍・足壊疽. 糖尿病最新の治療 2013-2015 P255-259. 南江堂. 2013年1月
最新　内分泌代謝学	河野茂夫. 糖尿病の慢性合併症. 最新　内分泌代謝学 P531-534. 診断と治療社. 2013年3月
最新　内分泌代謝学	河野茂夫. 糖尿病足病変. 最新　内分泌代謝学 P538-540. 診断と治療社. 2013年3月
J Atheroscler Thromb	Takanabe-Mori R, Ono K, Wada H, Takaya T, Ura S, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Takahashi Y, Fujita M, Fujita Y, Sawamura T, Hasegawa K. Lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 plays an important role in vascular inflammation of current smokers. J Atheroscler Thromb, in press, 2013
Diabetes Care	Response to Comment on: Satoh-Asahara et al. Highly Purified Eicosapentaenoic Acid Increases Interleukin-10 Levels of Peripheral Blood Monocytes in Obese Patients with Dyslipidemia 2012;35:2631-2639. Diabetes Care, in press, 2013
最新　内分泌代謝学	浅原哲子. 肥満・やせ のフローチャート. 最新　内分泌代謝学 P882-883. 診断と治療社. 2013年3月
最新　内分泌代謝学	浅原哲子. 過食と食欲不振 のフローチャート. 最新　内分泌代謝学 P890-891. 診断と治療社. 2013年3月
糖尿病学の進歩2012　第46集　日本糖尿病学会編	浅原（佐藤）哲子. 「血管機能と糖尿病（1）-PWVとCAVI」. 糖尿病学の進歩2012 第46集 日本糖尿病学会編 P266-272. 診断と治療社. 2012年9月
肥満研究	浅原哲子. 総説企画テーマ チームで取り組む肥満症治療「チームで取り組む肥満症の外来治療」. 肥満研究 vol.18 No.2（通巻53号） P85-91. 肥満研究. 2012年8月
最新医学	浅原哲子.　2011年度井村臨床研究奨励賞記念論文「日本人肥満症における心腎合併症予防のためのアディポサイトカインの臨床的意義と減量治療効果に関する多施設共同研究」. p.1323-1330. 最新医学 6月号. 2012年6月.

腎臓内科

診療科長
八幡　兼成

専門医資格等　日本腎臓学会専門医・指導医
日本透析医学会専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医
日本内科学会専門医
京都大学医学博士

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	瀬田　公一	日本腎臓学会専門医 日本透析医学会専門医 日本高血圧学会専門医 日本内科学会認定医 ICD制度協議会認定インフェクションコントロールドクター 日本急性血液浄化学会認定指導者 京都大学医学博士		
医　　師	菊地　祐子	日本内科学会認定医 日本透析医学会専門医		
医　　師	小泉　三輝	日本内科学会認定医		
医　　師	金子　惠一	日本内科学会認定医		
専 修 医	村田　真紀	日本内科学会認定医		

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設

1．積極的に腎生検を行い、早ければ翌日には診断がつく体制を取っている
2．血液透析だけでなく、血漿交換や持続血液ろ過透析など急性血液浄化に対応できる
3．腹膜透析も多く導入している
4．学会発表・論文執筆・臨床研究を積極的に行っている

□ 主な対象疾患

急性腎不全、慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病性腎症、急速進行性糸球体腎炎、多発性嚢胞腎、Gitelman症候群、高血圧症

□ 診療（業務）内容

1．慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群などに対して腎生検を行い、その結果に基づいて治療を行っている。
2．保存期腎不全に対し、血圧管理を始めとした腎保護療法を行い、末期腎不全への進行を抑制できるようにしている。

3. 末期腎不全に陥った場合、腎移植・腹膜透析・血液透析の3つの選択肢を提示し、患者に合った治療を提供している。

□ 診療実績（平成24年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14.7名	341名	14.9日

外来患者数

1日平均患者数
35.2名

主な疾患の件数など

腎生検数	血液浄化療法延べ件数	血液透析導入患者数	腹膜透析導入患者数
74件	2, 397件	28件	6件

□ 地域医療連携・広報活動

・CKDに関する学術講演会 in 南京都
「当院における腎疾患診療と病診連携」　八幡　兼成
2012年4月21日　京都タワーホテル
・先行的移植を行った血液型不適合生体腎移植の2例
金子　惠一、村田　真紀、小泉　三輝、菊地　祐子、瀬田　公一、八幡　兼成
2012年6月30日　第2回京滋腎移植・腎不全治療研究会
・伏見CKD医療連携の会講演会
「糖尿病性腎症患者で注意する薬」　菊地　祐子
「CKD患者の降圧療法」　瀬田　公一
「腎性貧血治療への取り組み」　八幡　兼成
「糖尿病患者の腎障害　–腎生検50例の検討-」　金子　惠一
「日本人2型糖尿病の心血管イベント　～多施設共同研究の結果から～」　大石クリニック　大石まりこ先生
2012年9月8日　京都ロイヤルホテル&スパ
・腎臓病教室応用編
2012年9月29日　京都医療センター多目的ホール
・糖尿病臨床カンファレンス
「CKD診療のコツ」　八幡　兼成
2012年10月13日　京都センチュリーホテル
・糖尿病患者の腎障害腎生検50例の検討
金子　惠一、村田　真紀、小泉　三輝、菊地　祐子、瀬田　公一、八幡　兼成
2013年10月18日　糖尿病と透析を語る会
・世界腎臓デー関連イベント
2013年3月14日　京都医療センターロビー
・糖尿病看護スキルアップセミナー
「糖尿病透析予防外来に期待すること」　八幡　兼成 2013年3月20日　メルパルク京都

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

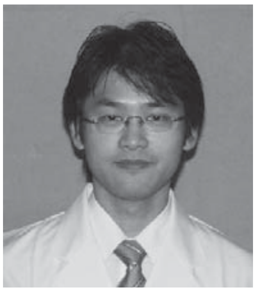
区　分	演者・演題・学会名
国内学会	Cryoglobulin陽性かつ補体低下を認める膜性腎症を合併した慢性C型肝炎の1例 袴田　圭祐, 金子　惠一, 村田　真紀, 小泉　三輝, 菊地　祐子, 瀬田　公一, 八幡　兼成 第199回日本内科学会近畿地方会
国内学会	基礎疾患の鑑別に難渋したAAアミロイドーシスによるネフローゼ症候群の1例 垣田　真以子, 小泉　三輝, 村田　真紀, 金子　惠一, 菊地　祐子, 瀬田　公一, 奥野　芳章, 小山　弘, 八幡　兼成 第199回日本内科学会近畿地方会

国内学会	半年後に細胞性半月体を伴う再燃を認めた管内増殖性腎炎 村田 真紀, 菊地 祐子, 金子 惠一, 小泉 三輝, 瀬田 公一, 八幡 兼成 日本腎臓学会誌(0385-2385)54巻6号 Page870(2012.08)
国内学会	糖尿病合併患者における腎生検診断と臨床所見 金子 惠一, 村田 真紀, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成 日本腎臓学会誌(0385-2385)54巻6号 Page868(2012.08)
国内学会	Sunitinib使用から2.3年後の腎生検でThrombotic microangiopathyを呈していたネフローゼ症候群の症例 菊地 祐子, 村田 真紀, 金子 惠一, 小泉 三輝, 瀬田 公一, 八幡 兼成 日本腎臓学会誌(0385-2385)54巻6号 Page865(2012.08)
国内学会	当院でのsustained low-efficiency dialysis(SLED)について 瀬田 公一, 小泉 三輝, 金子 惠一, 菊地 祐子, 八幡 兼成 日本透析医学会雑誌(1340-3451)45巻Suppl.1 Page443(2012.05)
国内学会	異なる臨床経過をたどったコレステロール結晶塞栓症の2例 小泉 三輝(, 村田 真紀, 金子 惠一, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成 日本透析医学会雑誌(1340-3451)45巻Suppl.1 Page408(2012.05)
国内学会	CKD患者の降圧目標達成率についての検討 瀬田 公一, 金子 惠一, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 八幡 兼成 日本腎臓学会誌(0385-2385)54巻3号 Page317(2012.04)
国内学会	Bevacizumabによる蛋白尿のリスク因子の検討 金子 惠一, 村田 真紀, 小泉 三輝, 菊地 祐子, 瀬田 公一, 八幡 兼成 日本腎臓学会誌(0385-2385)54巻3号 Page253(2012.04)

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Gamma 1-Heavy Chain Deposition Disease Accompanied by IgG kappa in Serum, Urine, and Bone Marrow	IKeiichi Kaneko, M.D., Koichi Seta, M.D., Ph.D., Jun Soma, M.D., Ph.D., Takashi Kuwahara, M.D., Ph.D., Mitsuteru Koizumi, M.D., Yuko Kikuchi, M.D., Akira Sugawara, M.D, Ph.D., Kensei Yahata, M.D., Ph.D. Clin Exp Nephrol. accepted.　2012
Glomerular Endotheliosis in a Pregnant Woman with Severe Gestational Proteinu-ria	Mitsuteru Koizumi, Kensei Yahata, Shoko Ohno, Kenichi Koga, Yuuko Kikuchi, Chinatsu Hasegawa, Koichi Seta, Takashi Kuwahara, Akira Sugawara. Intern Med. accepted.　2012
Chaga mushroom-induced oxalate nephropathy.	Kikuchi Y, Seta K, Ogawa Y, Takayama T, Nagata M, Taguchi T, Yahata K. Clin Nephrol. 2012 Nov 14.
Tolvaptan in patients with autosomal dominant polycystic kidney disease.	Seta K As one of the TEMPO 3:4 Trial Investigators; Torres VE, Chapman AB, Devuyst O, et al. N Engl J Med. 367:2407-18, 2012
心房性ナトリウム利尿ペプチド(ANP), 脳性ナトリウム利尿ペプチド(BNP, NT-proBNP).	瀬田公一,菅原照.　臨床検査ガイド2013～2014　文光道　Page511-516, 2013
新痛みのマネージメント　各立場からみた鎮痛薬の適正使用と使い方	瀬田公一.　腎臓内科の立場から　Prog. Med 33:37-40, 2013
診療の秘訣 「急速進行性糸球体肝炎」	瀬田公一.　Modern Physician. 32:1403, 2012
私の処方 「利尿剤を見直す」	瀬田公一.　Modern Physician. 32:903, 2012
脱水と血管内容量の評価.	小泉三輝.　原則から処方の具体例までわかる　輸血のコツとポイント　文光堂.　Page 30-37, 2012

腫瘍内科



診療科長
外来化学療法
センター長
安井　久晃

専門医資格等	日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医／指導医 がん治療認定医／がん治療認定医機構暫定教育医 日本内科学会　認定内科医
専 門 分 野	腫瘍内科学（臨床腫瘍学） 緩和医療
得 意 疾 患	固形腫瘍（消化器がん） 原発不明がん

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	岡崎　俊介	日本臨床腫瘍学会　がん薬物療法専門医 日本内科学会　認定内科医	腫瘍内科学(臨床腫瘍学) 緩和医療	消化器がん

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本臨床腫瘍学会認定研修施設

1. 患者さんが納得し満足いただける医療を提供します
2. 患者さんとご家族を徹底的に支援します
3. エビデンスに基づいた最善の化学療法を行ないます
4. 化学療法と並行して、緩和医療を提供します
5. 患者さんと一緒に歩み、成長する姿勢を大切にします
6. 地域の医療機関との連携を大切にします

□ 主な対象疾患

・消化器がん（食道がん、胃がん、大腸がん、消化管間質腫瘍など）
・膵臓がん、胆道がん
・原発不明がん
・その他の固形腫瘍

□ 診療（業務）内容

・化学療法（がん薬物療法）の実施
・緩和医療の実施
・緩和ケアチーム参加
・他職種カンファレンスの実施
・他科からのコンサルテーション
・セカンドオピニオン
・外来化学療法センターの運営

・化学療法委員会の運営
・中心静脈ポート造設
・臨床試験・治療への参加

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
17.5名	410名	15.5日

外来患者数

1日平均患者数
21.6名

□ 地域医療連携・広報活動

摂南大学薬学部講義「腫瘍内科医が行うがん薬物療法の実際」2012年5月11日（安井久晃）
NST勉強会「CVポートの管理」2012年9月10日（安井久晃）
市民公開講座　京都市内の抗がん薬治療専門医によるがん医療の最前線「腫瘍内科医が変えるこれからのがん医療」2013年3月10日（安井久晃）

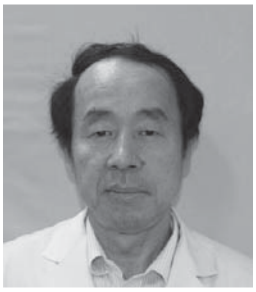
□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	村上隆英、安井久晃、岡崎俊介. Efficacy and safety of S-1 combined with weekly cisplatin for metastatic gastric cancer. 切除不能進行・再発胃癌に対するweekly S - 1+CDDP療法の治療成績. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2012年7月27日；大阪
国内学会	岡崎俊介、安井久晃、福田明輝、山口高史. Impact of primary tumor resection on survival for incurable and asymptomatic stage IV colorectal cancer and incidence of primary tumor related complications in unresected patients: results of a single-institution retrospective study.切除不能かつ無症候性のIV期大腸癌における原発巣予防切除の有無とその予後および原発巣関連合併症への影響. 第10回日本臨床腫瘍学会学術集会. 2012年7月28日；大阪
教育講演	安井久晃. 緩和的化学療法. 平成24年度 第20回日本外科学会生涯教育セミナー(近畿地区). 2012年5月26日；大阪
研究会	安井久晃. 消化器がん化学療法と 間質性肺炎 ー症例提示ー. 第13回京滋外来化学療法懇話会. 2012年6月22日；京都
国内学会	安井久晃. 切除不能進行再発大腸癌化学療法の治司会療戦略におけるコンセンサスシンポジウム. 第50回日本癌治療学会学術集会. 2012年10月27日；横浜
研修会	安井久晃. がん薬物療法における 副作用マネジメント 〜ガイドラインの先へ〜. 京都がん薬剤業務連携協議会研修会. 2013年3月24日；京都
国内学会	細田敦規、畝佳子、辻琢己、岡崎俊介、安井久晃、河野武幸、北村良雄. FOLFOX療法に伴うアレルギー反応の危険因子の検討. 第22回日本医療薬学会年会. 2012年10月27日；新潟
国内学会	畝佳子、馬場雅子、上野裕之、中村慶、安井久晃、北村良雄. 外来化学療法センターへの薬剤師常駐化とその有用性評価. 第22回日本医療薬学会年会. 2012年10月27日；新潟

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	タイトル	著　者
新臨床腫瘍学（改訂第３版）日本臨床腫瘍学会、南江堂、304-3072012年12月	19. 分子標的治療薬　19-3)-(D) HER2に対する抗体薬	安井久晃
Gastric Cancer、日本胃癌学会、Springer、vol.16、No.1、41-47、2013年1月	A feasibility study of outpatient chemotherapy with S-1 + cisplatin in patients with advanced gastric cancer.	Okazaki S, Nakajima TE, Hashimoto J, Yamamoto S, Takahari D, Kato K, Hamaguchi T, Yamada Y, Shimada Y, Tamura K.
原発不明癌(CUP)第１版、日本臨床腫瘍学会、臨床研究情報センター、2012年7月	NCCNガイドライン　日本語版｜原発不明がん（監訳）	安井久晃
ハリソン内科学　第４版、福井次矢、黒川清監修、メディカルサイエンスインターナショナル、2013年3月	Chapter 42　黄疸（翻訳）	安井久晃
医薬品 副作用、技術情報協会、2012年9月	第1章 がん化学療法（殺細胞剤）　第14節　血栓症（予防）	安井久晃

精神科



診療科長
杉崎　全良

専門医資格等　精神保健指定医
日本精神神経学会認定　精神科専門医
専 門 分 野　精神病理学

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	吉田　貴子	精神保健指定医 日本精神神経学会認定　精神科専門医	精神病理学	
非常勤臨床心理士	梶川　和行			
非常勤臨床心理士	中前　純治			
非常勤臨床心理士	義江多恵子			
非常勤臨床心理士	平塚　　梓			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本精神神経学会精神科専門医研修施設

1．確定診断と精神療法的な意味を兼ねて、初診時診察に十分な時間をかける。
2．精神疾患の病態を自然科学的、人間学的視点から多角的に把握する。
3．共感的、探究的な診察態度を心がけ、繊細な薬物療法を工夫する。
4．器質性精神障害が疑われるときには、他科と連携し、頭部ＭＲＩ等を利用して病態検索が可能である。

□ 主な対象疾患

・睡眠障害
・身体表現性自律神経機能不全、その他の身体表現性障害
・パニック障害、その他の不安障害
・適応障害、その他のストレス関連障害
・強迫性障害、その他の神経症性障害
・躁うつ病、その他の気分障害
・統合失調症、妄想性障害等
・器質性あるいは症状性精神障害

□ 診療（業務）内容

1. 精神科入院病棟は無いため、入院治療が必要と判断される時は、精神科病院等に紹介する。
2. 医師による診療後、病態として心理学的に複雑な葛藤が想定される場合は、心理療法士による標準型精神分析療法等を併用することが可能。
3. 一般病棟の他科入院患者に対し、依頼に応じて、リエゾン・コンサルテーション精神科医療に従事している。

□ 診療実績(平成24年度)

外来患者数

1日平均患者数
48.9名

□ 地域医療連携・広報活動

講演

教育講座　講師　吉田貴子

日時；2012年8月4日

場所；ウィメンズセンター大阪

演題；「からだと心のつながり」

神経内科

診療科長
中村　道三

専門医資格等	日本神経学会専門医　指導医 日本内科学会認定医　指導医 日本神経学会近畿地方会代議員 京都大学医学部神経内科臨床教授 京都大学医学博士
専門分野	神経内科
得意疾患	ミオパチー、認知症

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長	大谷　良	日本神経学会専門医　指導医 日本脳卒中学会専門医　評議員 日本認知症学会専門医　指導医 日本内科学会認定医　指導医 京都脳神経超音波研究会世話人 京都大学臨床准教授 京都大学医学博士	神経内科、脳血管障害、認知症	脳血管障害 認知症
医長	村瀬　永子	日本神経学会専門医　指導医 日本内科学会認定医　指導医 脳波筋電図学会認定医 京都大学医学部　高次脳機能総合解析センター・非常勤講師 関西脳波・筋電図研究会世話人 京都大学医学博士	神経内科、電気生理、運動異常症	ジストニア パーキンソン病 運動異常症
専修医	端　祐一郎	日本内科学会認定医	神経内科	
専修医	吉永　健二	日本内科学会認定医	神経内科	
専修医	安田　謙		神経内科	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本神経学会研修施設

1. 納得できる医療を目指します
2. 紹介医との密な連絡（病診連携）および大学や機関病院との連携に努めます
3. 看護師、薬剤師、理学療法士など他の医療従事者とのチーム医療を推進します
4. 若手医師の教育に尽力します

□ 主な対象疾患

脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、認知症（アルツハイマー病など）、パーキンソン病、ジストニア脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの数多の神経難病、多発性硬化症、重症筋無力症などの免疫神経疾患、脳炎、髄膜炎など神経感染症、頭痛、てんかんなどの発作性疾患、ギランバレー症候群、種々のニューロパチーなどの末梢神経疾患、筋炎、筋ジストロフィーなどの筋疾患など

□ 診療（業務）内容

神経内科一般

脳血管障害外来：脳血管障害の予防及び再発予防（臨床研究対象も含む）、頸部血管エコー検査

電気生理外来：電気診断学にもとずく神経・筋疾患の電気生理検査

ボツリヌス治療：対象疾患　ジストニア、脳卒中後の痙縮、半側顔面痙攣

深部脳刺激、脊髄電気刺激を使った治療

神経内科・音楽療法外来：認知症を対象とする音楽療法

□ 診療実績（平成24年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
22.3名	325名	23.4日

外来患者数

1日平均患者数
45.2名

□ 地域医療連携・広報活動

伏見薬剤師会市民公開講座「認知症 ー正しい理解と最新知識ー　2013.3.23　認知症の診断と治療」　大谷　良

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分		演者・演題・学会名
国内学会	大谷　良	脳出血：血圧管理と抗血栓療法の功罪　Stroke Forum 2012　2012.1.14　京都
国内学会	端祐一郎、大谷良、村瀬永子、中村道三	ドネペジルで不随意運動、けいれんの副作用を認めた 肝硬変患者の1例　日本神経学会近畿地方会　2012.7.7　大阪
国内学会	中村　道三	てんかん診療における最近の話題　京都脳外科分科会　2012.7.28　京都
研究会	中村　道三	音楽療法の試み　リバスチグミン発売１周年記念講演会　2012.8.18　京都
国内学会	端祐一郎、大谷良、村瀬永子、中村道三	帯状疱疹後に急性炎症性多発根神経炎を来した３症例日本神経学会近畿地方会　2012.12.8　大阪
国内学会	端祐一郎、大谷良、村瀬永子、中村道三	内頸動脈高度狭窄によりhemodynamic TIAを繰り返した脳梗塞の一例　OSK　2012.12.1　京都
国内学会	中村　道三	認知症の診療　～音楽療法を含めて～　京都Dementia研究会　2013.3.16　京都
国内学会	大谷良、端祐一郎、村瀬永子、中村道三	脳梗塞危険因子と頸部超音波所見，アディポサイトカインとの関連　日本脳卒中学会総会　2012.4.26　東京
国内学会	端祐一郎、後藤正憲、大谷良、村瀬永子、中村道三、塚原徹也	内頸動脈閉塞においてペナンブラシステムによる塞栓吸引術により良好な再開通が得られた1例　日本脳卒中学会総会　2012.4.26　東京
国際学会	Ryo Ohtani, Yuhichirou Hashi, Nagako Murase, Michikazu Nakamura	Relationship between ischemic stroke risk factors, adipocytoline and carotid sonography findings.　WORLD STROKE CONGRESS　2012.10.10　ブラジル
国内学会	N. Murase, J.C. Rothwell, D. Ruge, M. Desikan, S.F. Farmer, and K. Bhatia.	Relationship between the motor function and development of contralateral corticospinal tract in congenital mirror movement without other neurological abnormalities　日本神経科学学会　2012.9.18　名古屋
国内学会	N. Murase, S. F. Farmer, J. C. Rothwell and K. Bhatia	他の神経学的異常のない先天性鏡像運動疾患における、運動機能と交差性錐体路の発達との関係　日本神経学会
国内学会	村瀬永子、端祐一郎、大谷　良、中村道三	4-5Hzの振動を伴う"痛む脚・動く足趾"および"痛む腕・動く手指"症候群　日本パーキンソン病・運動障害疾患学会（MDSJ　2012.10.14
国内学会	N. Murase, B. Seniz, J. C. Rothwell	連合性ペア刺激の効果の多様性はリクルートされるI3により影響される　日本臨床神経生理学会　2012.9.11
国内学会	川端康弘、塚原徹也、大谷良	総頸動脈病変に対してステント留置術を行った2例　日本脳神経血管内治療学会学術総会　2012.11.15　仙台
国内学会	大谷　良	アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の狭間　Docters Dementia Meeting　2013.7.20　京都
国内学会	大谷　良	ＡＤ：認知症薬物療法におけるリバスチグミンの役割　Neuroscience Forum 2013 in Kyoto　2013.8.31　京都
国内学会	大谷　良	認知症を呈する疾患　臨床像と画像診断　第54回　京都RI懇話会　2013.10.11　京都

□ 投稿論文など

著者・雑誌名	タ　イ　ト　ル
中村　道三・臨床研修プラクティス	抗パーキンソン病薬　2013
大谷　良・分子脳血管病	脳卒中専門医のためのKey Word解説　PT-INRとTTR　2012
Hamada, Murase. Cereb Cortex	The Role of Interneuron Networks in Driving Human Motor Cortical Plasticity.　2012
Hamada, Murase. J Physiol	Cerebellar modulation of human associative plasticity.　2012

□ 地域への貢献

第8回　伏見認知症研究会　認知症の診療　大谷良　2012.3.8

パーキンソン病友の会　20周年記念講演　"パーキンソン病　最近の新しい治療法について"　村瀬永子　2012. 9.29

第6回　脳波・筋電図セミナー　(関西脳波・筋電図研究会主催)　ハンズオン講師　2013. 3.2

呼吸器センター

診療科長
（呼吸器内科）
三尾　直士

専門医資格等
　呼吸器専門医、近畿支部評議員
　日本がん治療認定医機構暫定教育医
　日本内科学会認定内科医、指導医
　日本医師会認定産業医
　アメリカ胸部疾患学会（ATS）
　アメリカ臨床腫瘍学会（ASCO）
　京都大学　医学博士
　京都大学　臨床教授
専門分野
　呼吸器内科全般
得意疾患
　肺癌・間質性肺炎

診療科長
（呼吸器外科）
澤井　聡

専門医資格等
　日本呼吸器外科学会/指導医・評議員
　呼吸器外科専門医
　日本外科学会　外科専門医
　日本呼吸器内視鏡学会/気管支鏡専門医・指導医
　滋賀医科大学　医学博士
専門分野
　呼吸器外科全般
得意疾患
　肺癌・縦隔腫瘍

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	元石　充	呼吸器外科専門医 日本外科学会　外科専門医 日本呼吸器内視鏡学会・気管支鏡専門医	呼吸器外科全般	呼吸器外科全般
医　　師	井上　英樹	日本呼吸器学会　呼吸器専門医 日本咳嗽研究会　呼吸器専門医 日本内科学会　認定内科医	呼吸器内科全般	気管支喘息・慢性咳嗽呼吸器内科一般
医　　師	岡村　美里	日本内科学会　認定内科医	呼吸器内科全般	肺癌・呼吸器内科一般
医　　師	金井　修	日本内科学会　認定内科医 エイズ拠点病院　施設代表 京都市HIV感染症対策専門委員会　委員	呼吸器内科全般	HIV感染症、睡眠時無呼吸症候群、呼吸器内科一般
医　　師	小林　岳彦	日本内科学会　認定内科医	呼吸器内科全般	慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、呼吸器内科一般
医　　師	葉山　学	日本内科学会　認定内科医 インフェクションコントロールドクター(ICD)	呼吸器内科全般	感染症・肺癌、呼吸器内科一般
レジデント	片岡　瑛子	日本内科学会　認定内科医	呼吸器外科全般	肺癌・縦隔腫瘍
専　修　医	北村　知嵩		呼吸器内科全般	肺癌・呼吸器内科一般
レジデント	岡本　圭伍		呼吸器外科全般	肺癌・縦隔腫瘍

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本呼吸器外科基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡認定施設

1. 幅広い疾患に対して高度で専門的な医療を提供します。
2. 十分な情報を提供し、患者さんの意見を尊重し診療を行います。
3. 地域の医療機関と連携し、地域に根ざした医療機関を目指します。

□ 主な対象疾患

胸部悪性腫瘍(肺癌、転移性肺腫瘍、胸壁腫瘍、中皮腫、胸腺腫)
慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息
呼吸器感染症(肺炎・非結核性抗酸菌症・結核)、
睡眠時無呼吸症候群、
慢性・急性呼吸不全、
びまん性肺疾患(間質性肺炎、サルコイドーシス、好酸球性肺炎、膠原病に伴う間質性肺炎など)
HIV感染症、気胸、肺嚢胞症、膿胸、漏斗胸

□ 診療（業務）内容

呼吸器は疾患の種類、罹患数が多く、生命に直接関わる疾患も多い分野です。喘息、慢性閉塞性肺疾患は中でも特に有病率が高い疾患ですが、これらの疾患では終生にわたって治療を続けていく必要性があります。当科では診断、治療導入やリハビリテーションなどの専門病院でないとできない診療を中心に、患者さんの負担を出来るだけ少なくするように地域の医療機関と連携して診療を行なっています。また、疾患増悪時には、救急部とともにすぐに対応するようにしています。

癌死の中で最も多いのは肺癌ですが、当院はがん拠点病院であり、最新のエビデンスやガイドラインに基づいた適切な治療を行なっています。悪性腫瘍の治療は外科治療・放射線治療・化学療法の三本柱がありますが、さらに現在では緩和医療の重要性も叫ばれています。当院での肺癌診療は、呼吸器内科・外科はもとより放射線科、化学療法部、緩和ケア部と緊密な協力関係を保ちながら進めていますので、診断・治療から緩和ケアまで、患者さんに安心して治療を受けていただけます。また、肺癌については新たな治療への取り組みも重要ですが、京都胸部腫瘍研究グループ、関西臨床腫瘍研究会、西日本がん研究機構、日本・多国間臨床研究機構などの臨床研究に参加すると共に、当院独自の臨床研究も行っております。

手術治療は呼吸器疾患において重要な治療介入ですが、呼吸器外科では肺癌をはじめとする胸部の腫瘍（肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍）や気胸を代表とする嚢胞性肺疾患に対して、より負担の少ない胸腔鏡下手術を積極的に行っています。　膿胸などの炎症性疾患に対しても積極的な外科治療（局所麻酔下胸腔鏡を含む）を行っています。気道狭窄に対するステント留置やレーザー焼灼術などの気管支鏡下手術や、漏斗胸に対する矯正術（Nuss法）も行っています。

上に挙げた疾患以外にも呼吸器には感染症、急性・慢性の呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群、間質性肺疾患など重要な疾患が多数あります。それらの疾患をもつ患者さんに対しても常に最良の治療を提供できるように日々研鑽しながら診療に当たっています。

【診療体制】

呼吸器内科の外来は月曜から金曜まで毎日新患外来を含めて4外来を行なっています。
呼吸器外科は月、火、木、金曜日に外来を行っています。
睡眠時無呼吸症候群の専門外来は毎週水曜日です。
初診外来は待ち時間が長くなることがありますから、できるだけかかりつけ医から地域医療連携室を介して予約をとっていただくことをおすすめしています。

緊急以外の外科手術は水、金曜日です。
気管支鏡検査、局所麻酔下胸腔鏡検査、CTガイド下生検検査は原則として１泊の入院で、それぞれ月、火、木と火・木曜日に行っています。

□ 診療実績(平成24年度)

呼吸器内科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
39.4名	942名	15.3日

呼吸器内科外来患者数

1日平均患者数
57.8名

呼吸器外科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
10.2名	272名	13.4日

呼吸器外科外来患者数

1日平均患者数
10.7名

主な手術・検査の件数など

手術(全身麻酔)	肺癌手術(診断含)	胸腔鏡下手術	気管支鏡検査
149件	86件	98件	277件

局所麻酔下胸腔鏡検査	CTガイド下肺生検	縦隔鏡検査
10件	34件	6件

□ 地域医療連携・広報活動

・第1回　COPD・喘息地域連携パス研究会；京都医療センター視聴覚室　2012年6月14日
・第2回　COPD・喘息地域連携パス研究会；京都医療センター視聴覚室　2012年9月27日
・福井赤十字病院研修会「ここまで治るようになった肺癌」(三尾)；福井赤十字病院講堂　2012年6月15日
・京滋HIVカンファレンス症例検討会　座長 (金井)；京都府立医科大学感染制御・検査医学教室医局　2013年3月12日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	元石充, 片岡瑛子, 大塩麻友美, 澤井聡. 肺原発高分化骨肉腫の1例. 第29回日本呼吸器外科学会総会. 2012年5月17日；秋田
国内学会	片岡瑛子, 大塩麻友美, 元石充, 澤井聡. 悪性孤立性線維性腫瘍によるNon-Islet Cell Tumor Hypoglycemiaに１例. 第29回日本呼吸器外科学会総会. 2012年5月17日；秋田
国内学会	元石充, 片岡瑛子, 大塩麻友美, 澤井聡. 肺癌術後縦隔リンパ節転移による下部気管狭窄に対しspiral Z stentを留置し長期ADLを維持できた1例.　第35回日本呼吸器内視鏡学会学術集会. 2012年5月30日；東京
国内学会	片岡瑛子, 元石充, 澤井聡. 胸腺癌術後再発に対してネダプラチン+ドセタキセルが奏功した1例. 第53回日本肺癌学会総会. 2012年11月8日；岡山
国内学会	元石充, 片岡瑛子, 澤井聡. 乳癌傍胸骨リンパ節転移に対して胸壁合併切除を施行した１例. 第74回日本臨床外科学会総会　2012年11月29日；東京
国内学会	元石充, 片岡瑛子, 澤井聡. 器質化肺炎後に発症したNocardia　spによる膿胸の１例. 第74回日本臨床外科学会総会. 2012年11月29日；東京
国内学会	片岡瑛子, 元石充, 澤井聡. 腎癌術後26年を経て切除した孤立性転移性肺腫瘍の１例. 第74回日本臨床外科学会総会. 2012年11月29日；東京
国内学会	小林岳彦. 末梢肺病変に対する気管支内視鏡のアプローチの手順が診断率に与える影響に関する後方視的検討. 第63回日本肺癌学会. 2012年11月8日；岡山
国内学会	北村知嵩, 葉山学, 井上英樹, 岡村美里, 金井修, 小林岳彦, 片岡瑛子, 元石充, 澤井聡, 山本鉄郎, 三尾直士；EML4-ALK陽性adenosquamous　carcinomaの一例. 第80回呼吸器学会近畿地方会；2012年12月15日；神戸
国内学会	葉山学, 井上英樹, 三尾直士, 岡村美里, 小林岳彦, 北村知嵩, 片岡瑛子, 元石充, 澤井聡. 孤立性肺結節（SPN）における胸部CT所見の検討―原発性肺癌と転移性肺腫瘍との比較. 第53回日本肺癌学会総会；2012年11月；岡山
国内学会	金井修. 症例発表. 第55回　日本感染症学会中日本地方会学術集会；2012年11月5日；福岡
国内学会	金井修. 症例発表. 京都府感染症対策委員会エイズ部会会議；2013年1月；京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著 者 ・ タ イ ト ル
気管支学 34(6)：547-551 2012	葉山学, 田中博之, 岡村美里, 金井修, 北村知嵩, 陣内牧子, 三尾直士；びまん性肺胞出血11例の検討
Lung cancer (Amsterdam, Netherlands). 2012 Dec 29. PubMed PMID: 23279871. Epub 2013/01/03. Eng.	Kobayashi T, Takeda M, Marumo S, Koshimo Y, Teranishi T, Higami Y, et al. ：Long-term gefitinib treatment of occult lung carcinoma with multiple brain metastases.
BMC Cancer　2012, 12:185.	Fujita S, Katakami N, Masago K, Yoshioka H, Tomii K, Kaneda T, Hirabayashi M, Kunimasa K, Morizane T, Mio T：Customized chemotherapy based on epidermal growth factor receptor mutation status for elderly patients with advanced non-small-cell lung cancer: a phase II trial.
J Thorac Oncol　2012, 7(12):1845-1849.	Kawahara M, Kubo A, Komuta K, Fujita Y, Sasaki Y, Fukushima M, Daimon T, Furuse K, Mishima M, Mio T：A phase I study of amrubicin and fixed dose of irinotecan (CPT-11) in relapsed small cell lung cancer: Japan multinational trial organization LC0303.
Cancer Chemother Pharmacol 2012,70(2):271-276.	Kim YH, Hirabayashi M, Togashi Y, Hirano K, Tomii K, Masago K, Kaneda T, Yoshimatsu H, Otsuka K, Mio T et al：Phase II study of carboplatin and pemetrexed in advanced non-squamous, non-small-cell lung cancer: Kyoto Thoracic Oncology Research Group Trial 0902.
Clin Lung Cancer 2012, 13(5):385-390.	Kim YH, Sumiyoshi S, Hashimoto S, Masago K, Togashi Y, Sakamori Y, Okuda C, Mio T, Mishima M：Expressions of insulin-like growth factor receptor-1 and insulin-like growth factor binding protein 3 in advanced non-small-cell lung cancer.
Med Oncol　2012, 29(3):1614-1621.	Masago K, Togashi Y, Fujita S, Sakamori Y, Okuda C, Kim YH, Mio T, Mishima M：Clinical significance of serum hepatocyte growth factor and epidermal growth factor gene somatic mutations in patients with non-squamous non-small cell lung cancer receiving gefitinib or erlotinib.
Int J Oncol　2012, 41(1):24-30.	Nagai H, Yasuda H, Hatachi Y, Xue D, Sasaki T, Yamaya M, Sakamori Y, Togashi Y, Masago K, Ito I, Mio T, et al：Nitric oxide (NO) enhances pemetrexed cytotoxicity via NOcGMP signaling in lung adenocarcinoma cells in vitro and in vivo.
Jpn J Clin Oncol 2012, 42(5):387-393.	Okishio K, Mio T, Kawahara M, Yoshioka H, Yanagihara K, Daimon T, Furuse K：A weekly combination of carboplatin and irinotecan for previously untreated extensive disease small-cell lung cancer, results of a minimum follow-up of 3 years: a multi-center Phase II trial JMTO LC02-02.
Allergol Int. 2012 Mar;61(1):123-32.	Matsumoto H, Tabuena RP, Niimi A, Inoue H, Ito I, Yamaguchi M, Otsuka K, Takeda T, Oguma T, Nakaji H, Tajiri T, Iwata T, Nagasaki T, Jinnai M, Matsuoka H, Mishima M.：Cough triggers and their pathophysiology in patients with prolonged or chronic cough.
Respiration. 2012;83(6):507-19.	Otsuka K, Matsumoto H, Niimi A, Muro S, Ito I, Takeda T, Terada K, Yamaguchi M, Matsuoka H, Jinnai M, Oguma T, Nakaji H, Inoue H, Tajiri T, Iwata T, Chin K, Mishima M.　：Sputum YKL-40 levels and pathophysiology of asthma and chronic obstructive pulmonary disease.

消化器内科

診療科長
前川　高天

専門医資格等　日本消化器病学会指導医
日本消化器内視鏡学会指導医・同評議員
日本内科学会認定内科医
日本ヘリコバクター学会　H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医

専門分野　消化器内科一般

得意疾患　消化管疾患

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長	勝島　慎二	日本消化器病学会指導医・同評議員 日本消化器内視鏡学会指導医・同評議員 日本医学放射線学会放射線科専門医 日本内科学会認定内科医 日本がん治療認定医機構がん治療暫定教育医・認定医 日本消化器がん検診学会胃認定医	消化器内科一般	肝疾患、炎症性腸疾患
医長	島　伸子	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	消化管X線検査、内視鏡検査・治療
医長	水本　吉則	日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医 日本内科学会総合内科専門医	消化器内科一般	消化管・胆・膵の内視鏡検査・治療全般、炎症性腸疾患
医師	米田　俊貴	日本消化器病学会消化器病専門医 日本肝臓学会指導医 日本内科学会指導医	消化器内科一般	肝疾患
医師	岩本　諭	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本肝臓学会肝臓専門医 日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	消化管・内視鏡検査・治療全般
医師	江坂　直樹	日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	小腸内視鏡、緩和医療、PEG
医師	遠藤　文司	日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 日本内科学会認定内科医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本医師会認定産業医 ICD協議会認定インフェクションコントロールドクター	消化器内科一般	胆道・膵疾患検査・治療全般、EUS、EUS-FNA
医師	太田　義之	日本内科学会認定内科医	消化器内科一般	消化管疾患
専修医	出口美智代		消化器内科一般	消化管疾患

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設

1. 三次救急病院の消化器内科として、緊急内視鏡検査(ERCP含む)治療・PTCDなどに24時間対応
2. 地域がん診療連携拠点病院の消化器内科として消化器癌全般の診断と早期癌の内視鏡的あるいは経皮的治療に全て対応
3. 地域医療支援病院の消化器内科として紹介による内視鏡検査の実施、PEG/PTEGの造設・管理に対応
4. 炎症性腸疾患の専門診療を実施
5. 多数の慢性肝疾患症例を専門的に診療

□ 主な対象疾患

消化器癌全般(食道、胃、大腸、肝臓、膵臓、胆嚢、胆管系)
炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)
急性および慢性肝疾患(ウイルス性、自己免疫性)
肝硬変
ヘリコバクター感染症関連疾患(消化性潰瘍、MALT)

□ 診療(業務)内容

消化器内科一般外来および肝臓専門外来
上部消化管、下部消化管内視鏡検査および治療
ERCPおよびERCP関連治療
PTCおよびPTC関連治療
EUSおよびEUS-FNA
小腸内視鏡(カプセルおよびバルーン内視鏡)
炎症性腸疾患に対する免疫療法(免疫抑制剤、生物学的製剤)
慢性ウイルス性肝炎に対する抗ウイルス療法(インターフェロン、核酸アナログ)
肝癌に対する経皮的治療
セカンドオピニオン外来
内視鏡技師の育成

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
58.8名	1,398名	15.4日

外来患者数

1日平均患者数
128.4名

主な手術・検査の件数など

上部消化管内視鏡検査	下部消化管内視鏡検査	ERCP	食道・胃ESD
6,342件	2,628件	512件	95件

大腸ESD	肝癌ラジオ波焼灼術
45件	83件

□ 地域医療連携・広報活動

第2回京滋ERCPテクニック交流会　2012/8/11　京都医療センター
第13回伏見栄養療法・胃瘻研究会　2012/8/25　伏見医師会館
内視鏡エキスパートセミナー　2012/8/31　京都医療センター
第14回伏見栄養療法・胃瘻研究会　2013/3/16　伏見医師会館
伏見栄養療法・胃瘻研究会特別講演（共催）2013/3/21　京都医療センター
＜講演＞
水本吉則：消化管ステントの現状　伏見消化器研究会　2012/4/28　京都
遠藤文司：1-7病棟インフルエンザアウトブレイクを振り返って　院内感染対策講習会　2012/6/22　京都医療センター
水本吉則：大腸ステントの現状　第5回K-腸疾患研究会　2012/11/7　大阪
水本吉則：消化管ステント治療について　第92回土曜会スケジュール　一大腸癌一　2012/11/10　神戸
前川高天：京都医療センターがん診療セミナー　胃がんのすべて～ピロリ菌から内視鏡手術まで～　2013/3/28　京都医療センター

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学 会 名
国内学会	遠藤文司, 水本吉則, 勝島慎二, 出口美智代, 太田励, 田中義人, 江坂直樹, 太田義之, 友野輝子, 北岡修二, 島伸子, 前川高天	自作総胆管結石症モデルを用いたERCP教育の試み	第83回日本消化器内視鏡学会総会、2012/5/12、東京
国内学会	遠藤文司, 水本吉則, 勝島慎二, 出口美智代, 太田励, 田中義人, 江坂直樹, 太田義之, 友野輝子, 北岡修二, 島伸子, 前川高天	胆膵管ダブルステンティングは胆石性膵炎の治療に寄与するか	第83回日本消化器内視鏡学会総会、2012/5/12、東京
国内学会	水本吉則, 勝島慎二, 前川高天	悪性上部消化管狭窄に対するStenting　一留置部位によるStentの使い分け一	第83回日本消化器内視鏡学会総会、2012/5/14、東京
国内学会	北岡修二, 勝島慎二, 前川高天	胃がんリスク(ABC)検診における経鼻内視鏡検査の有用性	第51回日本消化器がん検診学会総会、2012/6/1、熊本
国内学会	北岡修二, 勝島慎二, 前川高天	極細径内視鏡検査における適切な強調画像設定の重要性	第51回日本消化器がん検診学会総会　附置研究会2「胃細経内視鏡検診研究会」、2012/6/2、熊本
国内学会	相葉佳洋, 安波道郎, 小森敦正, 右田清志, 八橋弘, 中牟田誠, 福嶋伸良, 太田肇, 石田仁也, 平田啓一, 渡部幸夫, 小松達司, 矢倉道泰, 高野弘嗣, 室豊吉, 島田昌明, 米田俊貴, 山下晴弘, 竹崎英一, 古賀満明, 小林正和, 杉和洋, 正木尚彦, 吉澤要, 蒔田富士雄, 高木均, 西村英夫, 石橋大海, 中村稔	日本人原発性胆汁性肝硬変の病態形成に関与するHLA－A、一B、一DP、一DR遺伝子多型とCTLA-4、SLC4A2、ILI2A、IRF5遺伝子多型の検討	第48回日本肝臓学会総会、2012/6/7、金沢
国内学会	勝島慎二, 小畑達郎, 中村武史	高齢者C型慢性肝炎に対する瀉血療法と抗ウイルス療法の比較：多施設共同	JDDW2012第16回日本肝臓学会大会、2012/10/10、神戸
国内学会	出口美智代, 水本吉則, 勝島慎二	緩和医療における消化管Stentの適応	日本消化器内視鏡学会近畿支部第89回支部例会、2012/11/10、大阪
国内学会	太田義之, 水本吉則, 勝島慎二	当院での大腸内視鏡挿入法とEMRの基本と工夫	日本消化器内視鏡学会近畿支部第89回支部例会、2012/11/10、大阪
国内学会	遠藤文司, 水本吉則, 勝島慎二	Roux-en-Y再建症例における胆管挿管法～内視鏡形態からみた挿管の工夫～	日本消化器内視鏡学会近畿支部第8回支部例会、2012/11/10、大阪
国内学会	楠本聖典, 濱田暁彦, 水本吉則	十二指腸乳頭の解剖を考慮した十二時方向へのcannulationトレーニング法	日本消化器内視鏡学会近畿支部第89回支部例会、2012/11/10、大阪
国内学会	水本吉則	切除不能進行胃癌におけるステント治療	第85回日本胃癌学会総会、2013/2/27、大阪
研 究 会	出口美智代, 米田俊貴, 勝島慎二, 田中義人, 遠藤文司, 太田義之, 江坂直樹, 友野輝子, 岩本諭, 水本吉則, 北岡修二, 島伸子, 前川高天	当院で経験したde novo B型肝炎	Kyoto HBV Reactivation Seminar、2012/5/25、京都
研 究 会	遠藤文司, 水本吉則, 勝島慎二, 出口美智代, 江坂直樹, 太田義之, 友野輝子, 岩本諭, 北岡修二, 米田俊貴, 島伸子, 前川高天, 山本鉄郎	肝門部胆管癌との鑑別を要したIgG4関連硬化性胆管炎の1例	第32回京大消化器症例検討会、2012/6/9、和歌山
研 究 会	遠藤文司, 米田俊貴, 勝島慎二, 出口美智代, 江坂直樹, 太田義之, 友野輝子, 岩本諭, 北岡修二, 水本吉則, 島伸子, 前川高天, 岡崎俊介	化学療法による劇症化を防ぎえなかったHBVキャリアの１例	第58回かもがわ肝臓カンファレンス、2012/6/23、京都

研究会	岩本諭	(十二指腸)症例報告	第103回京都胃腸勉強会、2012/7/13、京都
研究会	水本吉則	再建腸管症例におけるERCPの挿管法と工夫	第21回京滋消化器内視鏡治療勉強会、2012/7/26、京都
研究会	勝島慎二	症例報告	第109回総合画像診断症例検討会(京都消化器医会)、2012/8/4、京都
研究会	米田俊貴	HBV genotype Aの興味深い症例	第14回葵肝臓研究会、2012/11/3、京都
研究会	出口美智代, 水本吉則, 勝島慎二, 江坂直樹, 遠藤文司, 太田義之, 岩本諭, 米田俊貴, 島伸子, 前川高天	当院での大腸Stentingの経験	第33回京大消化器症例検討会、2012/12/1、京都
研究会	太田義之	当院での大腸ステントの現状	第7回京都大腸内視鏡研究会、2013/2/15、京都
研究会	遠藤文司	止血に難渋したEST後出血の一例	第3回京滋ERCPテクニック交流会、2013/2/23、大津
班研究報告会	遠藤文司	化学療法による劇症化を防ぎえなかったHBVキャリアの1例	平成24年度第1回国立病院機構共同研究・厚生労働科学研究費補助金合同班会議、2012/7/6、長崎
班研究報告会	米田俊貴	当院におけるHBV genotype A症例について	平成24年度第2回国立病院機構共同臨床研究　第2回厚生労働科学研究費補助金合同班会議、2013/2/8-9、長崎

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Gut 2012;61:765-773	Yoko Tamada, Hiroshi Yatsuhashi, Naohiko Masaki, Makoto Nakamuta, Eiji Mita, Tatsuji Komatsu, Yukio Watanabe, Toyokichi Muro, Masaaki Shimada, Taizo Hijioka, Takeaki Satoh, Yutaka Mano, Toshiki Komeda, Masahiko Takahashi, Hiroshi Kohno, Hajime Ota, Shigeki Hayashi,Yuzo Miyakawa, Seigo Abiru, Hiromi Ishibashi : Hepatitis B virus strains of subgenotype A2 with an identical sequence spreading rapidly from the capital region to all over Japan in patients with acute hepatitis B
消化器の臨床　2012;15(2):147-150	原田直彦, 柿ヶ尾佳奈, 田中伸, 前川高天, 太田肇, 西山仁, 田中宗浩, 高橋広喜, 良永雅弘, 鈴木隆裕, 細田泰雄, 山下晴弘, 川西昌弘, 大原正範, 渡邉典子, 片山俊介, 由雄敏之, 増田栄治:クロピドグレル服用患者における上部消化管出血の現状
J Gastroenterol.2013 March;48(3):382-390	Namiki Izumi, Yasuhiro Asahina, Masayuki Kurosaki, Gotaro Yamada, Tsutomu Kawai, Eiji Kajiwara, Yukishige Okamura, Takayuki Takeushi, Osamu Yokosuka, Kazuya Kariyama, Joji Toyoda, Mie Inao, Eiji Tanaka, Hisataka Moriwaki, Hiroshi Adachi, Shinji Katsushima, Masatoshi Kudo, Kouishi Takaguchi, Yoichi Hiasa, Kazuaki Chayama, Hiroshi Yatsuhashi, Makoto Oketani, Hiromitsu Kumada : Inhibition of hepatocellular carcinoma by PegIFN α-2a in patients with chronic hepatitis C:a nationwide multicenter cooperative study : J Gastroenterol Published online :09 August 2012
臨床消化器内科　2012;27(12):1583-1588	遠藤文司, 水本吉則, 勝島慎二, 江坂直樹, 友野輝子, 前川高天:ERCP検査・治療におけるトレーニングのあり方
日本消化器がん検診学会誌　2013;51(2):213-221	勝島慎二, 北岡修二, 水本吉則, 岩本諭, 江坂直樹, 遠藤文司, 太田義之, 出口美智代, 島伸子, 前川高天:胃がんリスク評価の新しい考え方

循環器内科

診療科長
赤尾　昌治

専門医資格等	日本循環器学会認定循環器専門医、近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医、指導医、近畿支部評議員 京都大学臨床教授 京都大学非常勤講師
専 門 分 野	循環器一般、不整脈、心房細動、医学教育

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 カテ室チーフ	阿部　充	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医、指導医 日本心血管インターベンション治療学会専門医、指導医	虚血性心疾患、冠動脈インターベンション、臨床研究（冠動脈インターベンション、造影剤起因性腎症）	
医長	益永　信豊	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器一般、カテーテル治療	
医師	小川　尚		電気生理、呼吸循環病態生理	
医師	井口　守丈	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器一般、心不全、冠動脈CT	
医師	石井　充	日本内科学会認定内科医	循環器一般、カテーテル治療	
医師	鵜木　崇	日本内科学会認定内科医	循環器救急、心肺停止蘇生、低体温療法、虚血性心疾患	
医師	高林　健介		循環器一般	
医師	濱谷　康弘		循環器一般	
医師	山下　侑吾		循環器一般	
展開医療研究部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医（FAHA） アメリカ心臓病学会専門医（FACC） 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究	
展開医療研究部室長	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学	

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医事管理部長	小坂田元太	日本循環器学会認定循環器専門医、近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医、指導医 日本超音波医学会 超音波専門医、指導医	循環器内科学、超音波医学	
医　　　長	中島　康代	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医、総合内科専門医、指導医	心不全、不整脈、心臓リハビリ	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本循環器学会認定循環器研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設

診療科モットー：「地域、世界、そして将来に貢献する循環器科」

1.「地域」：命を守る責任感をもって、信頼される地域医療を提供すること

2.「世界」：より良い医療を探求する情熱を持ち、世界に向けて情報発信すること

3.「将来」：指導者として人を教え育て、学習者として人から学び成長すること

「地域」は診療、「世界」は研究、「将来」は教育をあらわしています。診療・研究・教育の3本柱は、それぞれが互いを刺激して高めあう関係にあります。この3本柱がバランス良くしかも高いレベルで達成されていること、これが我々の診療科の目指す姿であり、また課せられた使命であると考えています。

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)
不整脈
心不全、心原性ショック
心筋症、心筋炎
心臓弁膜症
感染性心内膜炎
心膜疾患、心タンポナーデ
高血圧
大動脈瘤、大動脈解離
閉塞性動脈硬化症
静脈血栓症
肺塞栓症

□ 診療（業務）内容

心臓、血管系の疾病全般を扱います。専門性に偏ることなく、バランスの取れた診療を行っていくよう、常に心がけていきます。
冠動脈疾患に対するカテーテル検査・治療が当科診療の中心です。知識も技術もともに“世界に通用する心臓カテーテル検査と治療”を提供するべくスタッフ全員で日夜頑張っております。2009年から下肢閉塞性動脈硬化症のカテーテル治療(PTA)を、また2010年春から頻脈性不整脈のカテーテルアブレーションを開始し、良好な治療成績をおさめております。さらに高度先進医療を積極的に推進し、心臓・血管系の疾病でお困りの皆さんに少しでもお役に立ちたいと願っています。
また、当科ではつねに多くの臨床研究や、新しい薬剤や医療機器の治験をおこなっており、より有効性・安全性の高い医療を求めて積極的に研究活動を行っています。

このたび、2011年1月の新病棟落成にあわせて、CCU、心臓リハビリテーションが開始となり、さらに4月からは256列冠動脈CTが導入され、診療内容が大幅に充実しました。そして心臓外科専門医の白神幸太郎医長が着任し、当院の悲願でありました開心術が6月から開始されました。これまで内科的治療では限界のあった重症心血管疾患の患者さんが、手術を受けて元気に退院して社会復帰され、我々も大変嬉しく思っています。
また、開心術の開始により、重症不整脈患者を対象とした植込型除細動器（ICD）、重症心不全患者を対象とした心臓再同期療法（両心室ペースメーカー）の実施施設基準を取得し、治療を開始しています。
2013年度には、心臓カテーテル検査室が移転、新装オープンすることになりました。これまではスタッフの献身的努力によりハード面の不利を克服すべく奮闘してきましたが、最新鋭のカテ室で最高の検査・治療をお届けできるようになるものと、スタッフ一同さらに士気が上がっております。現状に安住せず、さらにレベルの高い医療を提供して地域に貢献できるよう、スタッフ一同精進していきたいと思います。今後とも何卒ご指導とご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
31.5名	1, 253名	9.2日

外来患者数

1日平均患者数
73.0名

主な手術・検査の件数など

冠動脈カテーテル治療	冠動脈カテーテル検査	下肢動脈カテーテル治療	カテーテルアブレーション
324件	783件	29件	8件

ペースメーカー植込
45件

□ 地域医療連携・広報活動

伏見医師会市民公開講座　「伏見白熱教室：心房細動から逃げない！」　平成24年6月9日
第5回伏見心血管病勉強会「大動脈ステントグラフトの現状と今後」　平成24年9月20日
日医生涯教育協力講座　セミナー「心房細動と脳梗塞」平成25年1月26日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

学　会　名	演　　題	演　　者
日本血栓止血学会学術集会、平成24年6月7日、東京	講演（シンポジウム）：Current status of anticoagulation therapy in atrial fibrillation patients undergoing hemodialysis: From the Fushimi AF Registry.	赤尾昌治
第113回日本循環器学会近畿地方会、平成24年6月16日、大阪	上大静脈症候群にPTAを繰り返し軽快と増悪を認めた一例	高林健介、阿部充、小川尚、竹中淑夏、鵜木崇、石井充、井口守丈、益永信豊、金崎幹彦、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、赤尾昌治
第113回日本循環器学会近畿地方会、平成24年6月16日、大阪	心不全を契機に発見された心膜原発悪性中皮腫の一例	廣田圭昭、井口守丈、野中道仁、白神幸太郎、小川尚、高林健介、竹中淑夏、鵜木崇、石井充、益永信豊、金崎幹彦、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
第113回日本循環器学会近畿地方会、平成24年6月16日、大阪	カテーテル的血栓破砕・吸引術後に外科的血栓摘出術を施行した重症肺動脈血栓塞栓症の一例	村田真紀、石井充、野中道仁、白神幸太郎、小川尚、高林健介、竹中淑夏、鵜木崇、井口守丈、益永信豊、金崎幹彦、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
日本不整脈学会学術集会、平成24年7月5-7日、横浜市	心房細動患者の心電図における脚ブロック所見の臨床的意義　～伏見心房細動患者登録研究より～	小川尚、赤尾昌治、江里正弘、全栄和、和田啓道、高林健介、竹中淑夏、鵜木崇、石井充、井口守丈、益永信豊、金崎幹彦、中島康代、小坂田元太、長谷川浩二、阿部充
日本不整脈学会学術集会、平成24年7月5-7日、横浜市	心房細動カテーテルアブレーション患者の特徴　～伏見心房細動患者登録研究より～	江里正弘、赤尾 昌治、木田順富、仁科尚人、小川 尚、和田啓道、橋本哲男 、全栄和

European Society of Cardiology Congress 2012, Munich, Germany. 2012.8.25-29	Clinical significance of bundle branch block in patients with atrial fibrillation: From the Fushimi AF Registry.	H. Ogawa, M. Akao, Y.H. Chun, H. Wada, M. Esato, H. Tsuji, M. Abe, N. Masunaga, M. Ishii, K. Hasegawa.
European Society of Cardiology Congress 2012, Munich, Germany. 2012.8.25-29	Serum levels of placental growth factor is associated with left ventricular hypertrophy in men	N. Masunaga, H. Wada, M. Akao, S. Ura, M. Abe, G. Osakada, T. Morimoto, N. Satoh-Asahara, A. Shimatsu, K. Hasegawa.
European Society of Cardiology Congress 2012, Munich, Germany. 2012.8.25-29	Serum levels of alpha1-antitrypsin-low-density-lipoprotein are associated with smoking and severe arteriosclerosis obliterans	N. Masunaga, H. Wada, M. Akao, S. Ura, M. Abe, M. Ishii, T. Unoki, Y. Takahashi, A. Shimatsu, K. Hasegawa.
European Society of Cardiology Congress 2012, Munich, Germany. 2012.8.25-29	Soluble vascular endothelial growth factor receptor-2, but not vascular endothelial growth factor, is decreased in sera from patients with left ventricular hypertrophy and systolic dysfunction	H. Wada, S. Ura, M. Akao, N. Masunaga, M. Abe, M. Ishii, T. Unoki, G. Osakada, A. Shimatsu, K. Hasegawa.
European Society of Cardiology Congress 2012, Munich, Germany. 2012.8.25-29	Index of lectin-like oxidized low-density-lipoprotein receptor is independently associated with left ventricular systolic dysfunction	H. Wada, N. Masunaga, S. Ura, M. Akao, M. Abe, Y. Fujita, Y. Satoh, A. Shimatsu, T. Sawamura, K. Hasegawa
第198回日本内科学会近畿地方会、平成24年9月8日(土)、京都	留置70ヶ月後に生じた超遅発性ステント内血栓症の1例	大倉敬之、石井充、阿部充、小川尚、濱谷康弘、鵜木崇、益永信豊、赤尾昌治、和田啓道、長谷川浩二
第198回日本内科学会近畿地方会、平成24年9月8日(土)、京都	心嚢液貯留を契機に発見された心臓悪性リンパ腫の1例	村田真紀、石井充、山下侑吾、高林健介、井口守丈、中島康代、小坂田元太、阿部充、赤尾昌治、奥野芳章
日本心臓病学会ファイアサイドセミナー「抗凝固療法の新展開」、平成24年9月14日、金沢市(石川県)	ダビガトランを臨床でいかに使うか。私はこう考える。	赤尾昌治
日本心血管インターベンション治療学会　第28回東海北陸地方会、平成24年9月29日、金沢市(石川県)	スポンサーセッションI講演「心房細動患者における心原性脳塞栓症発症予防の新しいストラテジー」	赤尾昌治
日本心電学会学術集会、平成24年10月12日、千葉	実臨床の現場における心房細動患者に対する抗血栓薬処方の現状～伏見心房細動患者登録研究より～	赤尾昌治
日本心電学会学術集会、平成24年10月12日、千葉	心房細動患者における心電図ST低下所見の臨床的意義～伏見心房細動患者登録研究より～	小川尚、赤尾昌治、江里正弘、全栄和、和田啓道、山下侑吾、濱谷康弘、高林健介、鵜木崇、石井充、井口守丈、益永信豊、中島康代、小坂田元太、阿部充、長谷川浩二
American Heart Association Scientific Sessions 2012, Los Angeles, USA. 2012.11.	Current status of clinical background of hemodialysis patients with atrial fibrillation in Japan: From the Fushimi AF Registry.	Masaharu Akao, Yeong-Hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa, Hikari Tsuji, Keizo Furuke.
American Heart Association Scientific Sessions 2012, Los Angeles, USA. 2012.11.	Serum Levels of Vascular Endothelial Growth Factor-C are Inversely Correlated with Severe Coronary Artery Disease	Takashi Unoki, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Suichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Yoshika Takenaka, Kensuke Takabayashi, Yasuyo Nakajima, Mikihiko Kanasaki, Genta Osakada, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
American Heart Association Scientific Sessions 2012, Los Angeles, USA. 2012.11.	Serum Levels of VEGF-C, but not VEGF-A, are Inversely Correlated with Systolic Dysfunction	Mitsuru Ishii, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Yasuyo Nakashima, Mikihiko Kanasaki, Genta Osakada, Noriko Satoh Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
American Heart Association Scientific Sessions 2012, Los Angeles, USA. 2012.11.	Serum Levels of Vascular Endothelial Growth Factor-C are Inversely Correlated with Future Cardiovascular Events	Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Mikhiko Kanasaki, Yasuyo Nakashima, Koh Ono, Tatsuya Morimoto, Noriko Asahara, Akira Shimatu, Koji Hasegawa
American Heart Association Scientific Sessions 2012, Los Angeles, USA. 2012.11.	Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-1 as a Predictor of Cardiovascular Events in Stable Outpatients with Chronic Kidney Disease	Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Masaharu Akao, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Yasuyo Nakajima, Mikihiko Kanasaki, Koh Ono, Tatsuya Morimoto, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
American Heart Association Scientific Sessions 2012, Los Angeles, USA. 2012.11.	Circulating Levels of Vascular Endothelial Growth Factor-C are Closely Associated with Dyslipidemia and Atherosclerosis	Shuichi Ura, Hiromichi Wada, Shuji Kitaoka, Noriko Satoh-Asahara, Takahiro Horie, Koh Ono, Tomohide Takaya,, Rieko Takanabe-Mori, Masaharu Akao, Mitsuru Abe, Tatsuya Morimoto, Toshinori Murayama, Masayuki Yokode, Masatoshi Fujita, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
第199回日本内科学会近畿地方会、平成24年12月8日(土)、大阪	卵巣明細胞癌に合併した重症肺血栓塞栓症の一例	安田謙、石井充、小川尚、高林健介、井口守丈、中島康代、小坂田元太、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
第199回日本内科学会近畿地方会、平成24年12月8日(土)、大阪	プロテインS欠乏症を背景に深部静脈血栓症および肺塞栓を発症し治療に難渋した一例	山下侑吾、鵜木崇、小川尚、濱谷康弘、井口守丈、益永信豊、中島康代、和田啓道、阿部充、赤尾昌治
第199回日本内科学会近畿地方会、平成24年12月8日(土)、大阪	心房細動による塞栓性心筋梗塞の一例	孫瑜、石井充、山下侑吾、阿部充、小川尚、濱谷康弘、高林健介、鵜木崇、益永信豊、赤尾昌治
第114回日本循環器学会近畿地方会, 平成24年12月15日(土)、大阪	若年にて左室肥大と腎不全を認めFabry病と診断した一例	益永信豊、小川尚、濱谷康弘、山下侑吾、高林健介、鵜木崇、石井充、井口守丈、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
第114回日本循環器学会近畿地方会, 平成24年12月15日(土)、大阪	「小児期のASD根治術後、成人期に肺静脈還流異常症と静脈洞型ASDの再発により肺高血圧症をきたした1例」	高林健介、井口守丈、野中道仁、白神幸太郎、小川尚、濱谷康弘、山下侑吾、鵜木崇、石井充1、益永信豊、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治

第114回日本循環器学会近畿地方会, 平成24年12月15日(土)、大阪	川崎病罹患後の小児期にCABGを施行され、その遠隔期に冠動脈障害の進行を認めた2例	山下侑吾、鵜木崇、益永信豊、直原駿平、小川尚、濱谷康弘、高林健介、石井充、井口守丈、中島康代、小坂田元太、和田啓道、長谷川浩二、阿部充、赤尾昌治
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Clinical Characteristics of Japanese Atrial Fibrillation Patients Receiving a Single Anti-thrombotic Drug: From the Fushimi AF Registry	Nobutoyo Masunaga, Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Current Status of Prescription of Multiple Anti-thrombotic Drugs in Japanese Atrial Fibrillation Patients: From the Fushimi AF Registry	Nobutoyo Masunaga, Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Clinical Characteristics of Japanese Atrial Fibrillation Patients with Atherosclerotic Diseases: From the Fushimi AF Registry	Nobutoyo Masunaga, Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Clinical Characteristics of Patients with Lone Atrial Fibrillation in Japan: From the Fushimi AF Registry	Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	The CHA2DS2-VASc Score in Japanese Patients with Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Clinical Characteristics of Hemodialysis Patients with Atrial Fibrillation in Japan: from the Fushimi AF Registry	Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Clinical Characteristics of Patients with Atrial Fibrillation Undergoing Electrical Cardioversion: From the Fushimi AF Registry	Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Current Status of Rhythm-control Therapy in Patients with Atrial Fibrillation in Japan: From the Fushimi AF Registry	Hisashi Ogawa, Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Low Ejection Fraction is Associated with the History of Stroke in Japanese Atrial Fibrillation Patients: From the Fushimi AF Registry	Moritake Iguchi, Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	High Blood Pressure, but not Treated Hypertension, is Associated with the History of Stroke in Japanese Patients with Atrial Fibrillation	Mitsuru Ishii, Masaharu Akao, Nobutoyo Masunaga, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Diabetes Mellitus is not Associated with the History of Stroke in Japanese Patients with Atrial Fibrillation	Mitsuru Ishii, Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Current Status of Rate-control Therapy in Patients with Atrial Fibrillation in Japan: From the Fushimi AF Registry	Takashi Unoki, Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Differences in Clinical Characteristics of Atrial Fibrillation Patients under Rate- or Rhythm-control Strategy : From the Fushimi AF Registry	Takashi Unoki, Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Factors Associated with the History of Cerebral Infarction in Patients with Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Takashi Unoki, Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Clinical Characteristics of Japanese Super-elderly Patients with Atrial Fibrillation: From the Fushimi AF Registry	Yugo Yamashita, Masaharu Akao, Yeong-hwa Chun, Hiromichi Wada, Masahiro Esato, Tetsuo Hashimoto, Hikari Tsuji, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Effect of Transient Contrast-induced Nephropathy on Mortality in Patients Undergoing Percutaneous Coronary Intervention	Mitsuru Abe, Masaharu Akao, Takeshi Morimoto, Toru Kita, Takeshi Kimura
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Relation of High Serum Eicosapentaenoic Acid/Arachidonic Acid Ratio to Reduced Oxidative Stress	Mitsuru Abe, Yasuhiro Hamatani, Yugo Yamashita, Kensuke Takabayashi, Takashi Unoki, Mitsuru Ishii, Moritake Iguchi, Nobutoyo Masunaga, Hisashi Ogawa, Yasuyo Nakashima, Genta Osakada, Shuuichi Ura, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa, Masaharu Akao
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-1 is a Predictor of Cardiovascular Events in Stable Outpatients with Chronic Kidney Disease	Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Masaharu Akao, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Vascular Endothelial Growth Factor-C Levels are Inversely Associated with the Risk of Restenosis After Drug-eluting Stent Implantation	Takashi Unoki, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Yasuyo Nakashima, Genta Osakada, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa

第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	The Serum-amyloid-A/LDL Complex Level is Associated with Positive Remodeling and Plaque Growth in Coronary Artery Disease	Mitsuru Ishii, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Suichi Ura, Takashi Unoki, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Abe, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Yasuyo Nakashima, Genta Osakada, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Serum Lipoprotein-associated Phospholipase A2 Mass Levels Significantly Decrease Following Smoking Cessation	Shuichi Ura, Hiromichi Wada, Noriko Satoh-Asahara, Masaharu Akao, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Serum Levels of Vascular Endothelial Growth Factor-C are Inversely Associated with Severe Arteriosclerotic Obliterans in Male Patients	Nobutoyo Masunaga, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Suichi Ura, Takashi Unoki, Mitsuru Ishii, Mitsuru Abe, Hisashi Ogawa, Moritake Iguchi, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Yasuyo Nakashima, Genta Osakada, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	High Leptin Levels are Associated with Future Cardiovascular Events in Chronic Heart Failure Patients	Moritake Iguchi, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Hisashi Ogawa, Kensuke Takabayashi, Yugo Yamashita, Yasuhiro Hamatani, Yasuyo Nakashima, Genta Osakada, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Increase in Serum Soluble VEGF Receptor-2 during Smoking Cessation is Associated with the Risk of Diabetes	Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Noriko Satoh-Asahara, Masaharu Akao, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Relationship between Poor Blood Fluidity and Atherosclerotic SAA- and AT-LDL Complexes in Smoking Patients	Sayaka Shimada, Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Sachiko Terashima, Noriko Asahara-Satoh, Hajime Yamakage, Maki Komiyama, Masaharu Akao, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa
第77回日本循環器病学会学術集会総会、2013.3.15-17、横浜	Self-rating Depression Scale Score is Independently Associated with Smoking Cessation Failure	Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Noriko Satoh-Asahara, Masaharu Akao, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi4, Koji Hasegawa

□ 投稿論文など

タイトル・著書・雑誌名	著　者
遺伝子変異の特定に至った先天性アンチトロンビン欠損症の一家系 心臓 2012; 44(7): 823-826.	小川尚, 中島康代, 臼井健, 竹中淑夏, 鵜木崇, 石井充, 益永信豊, 舩津順子, 金崎幹彦, 中野爲夫, 阿部充, 赤尾昌治
ボセンタン治療で経過観察中の肺高血圧症合併孤立性肺動脈欠損症と診断した一例 The case of isolated pulmonary artery deficiency with pulmonary hypertension under bosentan therapy 心臓 2012; 44(12): 1528-1533.	山下侑吾, 石井充, 小川尚, 竹中淑夏, 鵜木崇, 益永信豊, 金崎幹彦, 中島康代, 小坂田元太阿部充, 赤尾昌治
単行本「循環器内科医のためのXa阻害薬のすべて」（メディカルレビュー社） 「VTEの診断と薬物治療の実際」　2012	赤尾昌治
Pharma Medica. 2013 Feb. Vol.31, No.2. 「新規抗凝固薬の適正使用」	山下武志, 赤尾昌治

小児科

診療科長
秋山　祐一

専門医資格等　日本小児科学会専門医
専 門 分 野　血液・腫瘍・予防接種
得 意 疾 患　心身症

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	黒須　英雄	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児	小児発達
医　　長	河田　興	日本小児科学会専門医 日本周産期学会　新生児専門医 日本臨床薬理学会　専門医	未熟児・新生児	妊娠とくすり、新生児とくすり
医　　長	鶴田　悟 (2013/1/31転勤)	日本小児科学会専門医 日本アレルギー学会　専門医 日本感染症学会　専門医	アレルギー疾患 小児感染症	喘息・アトピー、食物アレルギー
医　　師	石塚　哲也		小児救急	
医　　師	豊田　有子	日本小児科学会専門医	小児内分泌代謝	低身長・甲状腺
医　　師	北　誠		未熟児・新生児/小児全般	虐待
医　　師	阿水　利沙	日本小児科学会専門医	未熟児・新生児/小児全般	極小・超未熟児

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本小児科学会研修施設 周産期(新生児)専門医暫定研修施設

1. お子さんの、心とからだの発達を重視します
2. スタッフ全員が未熟児・新生児から思春期までの診療がおこなえるよう研鑽しています
3. 小児期からもちこした疾患の診療に関与します
4. 御家族全体が健康であるように、配慮します
5. 長期入院の場合に学習の継続を重視します（院内学級併設）

□ 主な対象疾患

1. 平成12年4月から新生児集中治療室（NICU6床）を開設しました。
赤ちゃんの診療、発達の評価、育児相談を大切にしています。
2. 産婦人科と密接に協力して24時間体制で赤ちゃんの診療を行っています。未熟児出生の可能性のある場合は小児科医師全員が妊婦さんの状態を把握出来るシステムが完備しています。赤ちゃんの診断治療に超音波診断を積極的に行っています。

3. 小児科病棟（2-3病棟）では小児血液疾患、悪性腫瘍、慢性腎疾患、小児膠原病、難治性喘息、重症アトピー、神経疾患等の慢性疾患の入院治療を行います。院内学級に通学しながら治療を継続します。
4. 乳幼児の肺炎や脱水など短期の入院も積極的に取り扱っています。

□ 診療（業務）内容

受精から胎児期、分娩、新生児、乳児、幼児、小児、思春期、結婚・妊娠までのライフ・サイクルを考えて小児科診療を行います。

このすべてに関して小児科では相談の窓口になります。遺伝相談、不登校、小人症、糖尿病、肥満、等の相談を歓迎します。

初診の場合は可能であればかかりつけの先生の紹介状を是非御持参下さい。

主な取り扱い疾患は以下の通りです。

- 新生児・低出生体重児（2500g未満）
- 小児血液疾患（白血病、血小板減少症、貧血）
- アトピー性皮膚炎、気管支喘息、膠原病
- 小児腎疾患（血尿・蛋白尿）
- 小児感染症全般
- 小児心臓疾患
- 小児内分泌疾患（甲状腺疾患・低身長など）
- 小児代謝疾患（糖尿病・副腎過形成など）
- 小児のてんかん、発達障害

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
15.7名	498名	11.5日

外来患者数

1日平均患者数
40.2名

□ 地域医療連携・広報活動

2012年9月15日第16回伏見臨床懇話会

1. 先天性筋緊張性ジストロフィーの1例
   京都医療センター小児科　北誠、阿水利紗、豊田有子、石塚哲也、鶴田悟、秋山祐一、黒須英雄、河田興
2. 生後2ヶ月の肺炎球菌性髄膜炎の1例
   (タイプと予防接種との今後の問題を含めて)
   京都医療センター小児科　阿水利紗、北誠、豊田有子、石塚哲也、鶴田悟、秋山祐一、黒須英雄、河田興

2013年3月2日17回伏見臨床懇話会

小児のピロリ感染症について
京都医療センター小児科　秋山祐一、阿水利紗、北誠、豊田有子、石塚哲也、鶴田悟、黒須英雄、河田興

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

学会名	演　者	演　題
第115回日本小児科学会学術集会　2012年4月20日	豊田有子, 阿水利沙, 北誠, 石塚哲也, 河田興, 黒須英雄, 鶴田悟, 秋山祐一	反応性低血糖への対応後に栄養指標の改善を認めた一例
第3回京都小児内分泌勉強会 2012年5月19日	豊田有子, 阿水利沙, 北誠, 石塚哲也, 河田興, 黒須英雄, 鶴田悟, 秋山祐一	17OHP上昇があり2か月よりCAHとして治療中の1歳6か月男児
第46回日本小児内分泌学会学術集会　2012年9月27日	豊田有子, 臼井健, 革嶋幸子, 島津章, 秋山祐一	21水酸化酵素欠損症におけるCYP21A2遺伝子のMLPA解析
第22回臨床内分泌代謝update　2013年1月18日	豊田有子, 臼井健, 革嶋幸子, 島津章, 秋山祐一	21水酸化酵素欠損症におけるCYP21A2遺伝子のMLPA解析

第33回日本臨床薬理学会 2012年11月29日	河田興, 伊藤進	小児薬物療法専門薬剤師の役割と育成に向けて 小児科医師から薬剤師への期待　小児薬物療法認定薬剤師研修制度の立ち上げ
第57回日本未熟児新生児学会　2012年11月25日	河田興, 阿水利沙, 黒須英雄	オクトレオチド抵抗性先天性乳び胸の超低出生体重児例の管理　オクトレオチド及びピシバニールの有効性・安全性に関する考察
第48回日本周産期・新生児医学会　2012年7月8日	河田興, 太田明, 岡崎薫, 佐藤和夫, 盆野元紀, 内田靖, 館林宏治, 古賀寛史, 山下博徳, 酒見好弘, 野村由美子	Late preterm児の呼吸障害発症関連因子　国立病院機構(NHO)のNICUデータベース解析
第39回日本小児臨床薬理学会　2012年10月5日	河田興, 朴井三矢, 藤村尚子	NICUで求められる薬剤師ー小児薬物療法認定薬剤師のその先にー
第39回日本小児臨床薬理学会　2012年10月5日	河田興, 阿水利沙, 北誠, 豊田有子, 石塚哲也, 黒須英雄, 鶴田悟, 秋山祐一	遺伝性球状赤血球症の乳児における第3世代エリスロポエチン製剤（エポエチンベータペゴル）の使用
第115回日本小児科学会 2012年4月20日	阿水利沙, 北誠, 豊田有子, 石塚哲也, 河田興, 黒須英雄, 鶴田悟, 秋山祐一	エタノールロックによりカテーテルを温存し得たカテーテル関連敗血症の1例
第57回日本未熟児新生児学会 2012年11月25日	阿水利沙, 北誠, 豊田有子, 石塚哲也, 河田興, 黒須英雄, 鶴田悟, 秋山祐一	いわゆる正常新生児におけるコニカミノルタ黄疸計による黄疸管理の検討
第26回近畿小児科学会 2013年3月24日	阿水利沙, 北誠, 豊田有子, 石塚哲也, 河田興, 黒須英雄, 鶴田悟, 秋山祐一	生後2ヵ月の肺炎球菌による髄膜炎　タイプと予防接種の盲点
第13回京都小児感染症研究会 2012年5月26日	秋山祐一	小児における鳥肌胃炎とピロリ菌感染症
第39回日本小児臨床薬理学会 2012年10月5日	北誠、阿水利沙,豊田有子、石塚哲也、河田興、黒須英雄、鶴田悟、秋山祐一	母体に他種類の向精神薬が投与された新生児離脱症候群の1例

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	タイトル
河田興　日本小児臨床薬理学会雑誌　24：90-93河田興　日本小児臨床薬理学会雑誌24：90-93　2012	超低出生体重児の日齢3における使用薬剤調査
河田興　小児内科　44増刊：814-815　2012	【小児疾患の診断治療基準(第4版)】(第2部)疾患　運動器疾患　横紋筋融解症
河田興, 河田真由美, 久保井徹, 岩城琢磨, 大久保賢介, 日下隆, 磯部健一, 伊藤進　臨床薬理４３：205-206　2012	小児と妊婦の臨床薬理 母体カフェイン曝露による新生児カフェイン尿中濃度の検討
伊藤進, 吉川徳茂, 板橋家頭夫, 岩田敏, 宇理須厚雄, 越前宏俊, 大浦敏博, 大塚頌子, 河田興, 佐地勉, 佐藤淳子, 中川雅生, 中村秀文, 牧本敦, 森雅亮, 日本小児科学会薬事委員会　日本小児科学会雑誌　116　804-806　2012	ピボキシル基含有抗菌薬投与による二次性カルニチン欠乏症への注意喚起
北誠、阿水利沙,豊田有子、石塚哲也、河田興、黒須英雄、鶴田悟、秋山祐一　日本小児臨床薬理学会雑誌　25：117-123　2012	母体に他種類の向精神薬が投与された新生児離脱症候群の1例

外科

診療科長
（肝胆膵責任者）
猪飼　伊和夫

専門医資格等　日本外科学会 外科専門医、指導医
日本消化器外科学会 消化器外科専門医、指導医
日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医
京都大学　医学博士
京都大学　非常勤講師

専門分野　肝胆膵外科

得意疾患　肝臓がん、胆道がん、膵臓がん

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医長 臨床栄養科長 (上部消化管責任者)	大谷　哲之	日本外科学会　外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科認定医 日本がん治療認定医機構　癌治療認定医 暫定教育医	上部消化管	胃がん 食道がん
医長 (下部消化管責任者)	山口　高史	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医・指導医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会　大腸肛門病専門医・指導医 日本内視鏡外科学会　内視鏡外科技術認定医・技術認定審査員・評議員 京都大学　非常勤講師	下部消化管	大腸がん 骨盤外科
医長 (乳腺責任者)	坂田　晋吾	日本外科学会　外科専門医 日本乳癌学会認定医 マンモグラフィ読影医	乳腺	乳がん
医師	成田　匡大	日本外科学会　外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会　専門医 Le DiplÔme Inter Universitaire EUROPEAN CANCERS　HEPATO BILIO PANCREATIQUES 京都大学　医学博士 京都大学　非常勤講師	肝胆膵外科	肝臓がん 胆道がん 膵臓がん
医師	畑　啓昭	日本外科学会　外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医 日本外科感染症学会　周術期感染管理認定医・暫定教育医・評議員 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 ICD(インフェクションコントロールドクター)	上部消化管	胃がん 食道がん

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	松末　亮	日本外科学会 外科専門医 日本消化器外科学会　消化器外科専門医 日本消化器外科学会　消化器がん外科治療認定医 日本がん治療認定医機構　がん治療認定医	下部消化管	大腸がん
医　　師	村上　隆英			
専　修　医	谷　昌樹			
専　修　医	森山沙也香			
専　修　医	花田　圭太			
専　修　医	川口　清貴			
専　修　医	佐治　雅史			
非常勤医師	大和　俊夫	日本外科学会 外科認定医	外科一般	
非常勤医師	寺島　隆平		肛門科	
非常勤医師	植弘奈津恵	日本外科学会　外科専門医 日本乳腺学会　乳腺専門医 検診マンモグラフィ読影認定医師 がん治療認定医	乳腺	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本外科学会外科専門医修練施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設A 日本大腸肛門病学会認定施設 日本乳癌学会関連施設 日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設 JCOG大腸がんグループ参加施設 JCOG胃がんグループ参加施設

1. 専門性が高く、高度で安全な外科治療を行います。
2. 消化器がんや乳がんなど悪性腫瘍の外科治療を中心に行っています。
   臓器別（上部消化管・下部消化管・肝胆膵・乳腺）に専門医がおり、高度で安全な外科手術を行っています。
3. 腹腔鏡手術を始めとした低侵襲な手術（体への負担が少ない手術）を積極的に行なっている一方、高度進行がんに対しては、必要に応じて拡大手術を行い、抗がん剤や放射線を併用した集学的治療を行っています。
4. 外科医、消化器内科医、放射線科医、腫瘍内科医、病理医が協議して治療方針を検討しています。

□ 主な対象疾患

食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん、乳がん

□ 診療（業務）内容

消化器がん(食道がん、胃がん、大腸がん、肝がん、胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん)や乳がんを中心とし、腹部良性疾患、肛門疾患や腹部救急疾患の外科治療を行っております。

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
43.4名	1,013名	15.4日

外来患者数

1日平均患者数
74.7名

手術実績

全手術件数(外来手術含める)	944件

主な術式別手術件数

術　　式	手術件数	※うち鏡視下手術(ポリペクトミー、EMR,ESDなど内視鏡的切除は除く)
食道がん切除術	4	4
幽門側胃切除術(幽門保存胃切除術を含む)	52	27
胃全摘術(噴門側胃切除術を含む)	37	10
結腸切除術	120	79
直腸切除術	49	40
肝切除術	51	3
膵頭十二指腸切除術	9	0
膵体尾部切除術(胃がん手術に伴うものは除く)	7	0
乳がん手術	81	0
胆嚢摘出術	104	72
脾摘術	1	0
虫垂切除術	37	5
ヘルニア手術(小児を除く)	123	0
良性肛門疾患手術	84	0
小児外科手術(ヘルニアも含む)	12	0

□ 地域医療連携・広報活動

2012.4.21	第20回伏見医師会癌医療病診連携の会 講演Ⅲ『胃癌における腹腔鏡手術の現状』. 畑 啓昭
2012.5.19	第71回伏見医師学術集談会 腹水細胞診陽性のⅣ期胃癌に対する導入化学療法後の切除例. 畑 啓昭
2012.10.20	相楽・綴喜医師会学術講演会　結腸・直腸癌肝転移治療戦略　up to date.　成田匡大
2012.11.4	研修医のための輸液セミナー 術後の輸液　～何を　どれだけ　どんな根拠で～. 畑　啓昭
2012.11.8	京都　直腸がん勉強会 進行下部直腸癌に対する術前化学療法　EST-NEOの推進-当院における下部直腸癌の治療方針の変遷をふまえて-　山口高史
2012.11.10	第72回伏見医師学術集談会　腹部超音波検査で発見されたｓｓ胆嚢がんの一手術症例.　成田匡大
2012.11.14	第７回下部消化管勉強会　CMEを意識して鋭的剥離にこだわった腹腔鏡下結腸切除術.　山口高史
2013.1. 12	第36回腹腔鏡下大腸切除研究会講習会　3.講義「腹腔鏡下右側結腸切除術」.　山口高史
2013.2. 1	第13回平成外科研究会　CMEを意識して鋭的剥離にこだわった腹腔鏡下結腸切除術.　山口高史
2013.3. 16	第14回　伏見栄養療法・胃瘻研究会　座長　大谷哲之
2013.3.18	末梢静脈挿入型中心静脈カテーテルPICC『ハンズオン』セミナー　CVCと比較したPICCの有用性について. 畑　啓昭
2013.3. 28	京都医療センターがん診療セミナー　胃がんの手術　～キズはどこ?～.　畑　啓昭

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	小木曾聡, 猪飼伊和夫, 花田圭太, 森山沙也香, 谷昌樹, 村上隆英, 奥知慶久, 畑啓昭, 福田明輝, 山口高史, 坂田晋吾, 大谷哲之, 大和俊夫	肝静脈鬱血領域を指標とする解剖学的中肝静脈合併肝切除術	第112回日本外科学会定期学術集会、千葉　2012
国内学会	長谷川傑, 松末亮, 大越香江, 山田理大, 河田健二, 川村純一郎, 野村明成, 山口高史, 山之口賢, 坂井義治	大学病院を中心とした内視鏡大腸手術手技教育の標準化とその効果	第112回日本外科学会定期学術集会、千葉　2012
国内学会	森山沙也香, 小木曾聡, 成田匡大, 花田圭太, 谷昌樹, 村上隆英, 奥知慶久, 畑啓昭, 福田明輝, 大谷哲之, 山口高史, 坂田晋吾, 大和俊夫, 猪飼伊和夫	右肝動脈への浸潤が疑われた胆嚢癌に対する右肝動脈合併切除・非再建の一例	第191回近畿外科学会、大阪　2012
国内学会	畑啓昭, 坂井義治	PREV07-01：腹腔鏡下大腸切除術における予防的抗菌薬投与法設定の為の無作為化比較試験第Ⅲ相試験、プロトコル概要と進行状況	平成24年度　JMTO臨床試験ワークショップ、名古屋　2012
国内学会	坂田晋吾, 土屋宣之	当院乳腺外科におけるチーム医療で見えてきたこと	第20回日本乳癌学会学術総会、熊本　2012
国際学会	Masato Narita, Elie Oussoultzoglou, Pascal Fuchshuber, Iwao Ikai, Patrick Pessaux, Edoardo Rosso, Daniel Jaeck, Philippe Bachellier	Determination of safe future liver remnant ratio prior to major hepatectomy in patients with colorectal liver metastases treated by 6 or more cycles of neoadjuvant chemotherapy	10th World Congress of the international Hepato-pancreato-Biliary Association、フランス(パリ) 2012
国内学会	山口高史, 福田明輝, 畑啓昭, 花田圭太, 森山沙也香, 村上隆英, 谷昌樹, 坂田晋吾, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	ステージ３大腸癌術後補助化学療法としてのカペシタビン内服療法の検討	第67回日本消化器外科学会総会、富山　2012
国内学会	成田匡大, ｳｯｿｳﾂｸﾞﾛｳ　ｴﾘｰ, ﾊﾞｼｪﾘｴ　ﾌｨﾘｯﾌﾟ, ｼﾞｬｯｸ　ﾀﾞﾆｴﾙ, 猪飼伊和夫, 波多野悦朗, 上本伸二	多発両葉結腸直腸肝転移に対するTwo-stage hepatectomy	第67回日本消化器外科学会総会、富山　2012
国内学会	谷昌樹, 小木曾聡, 成田匡大, 花田圭太, 森山沙也香, 村上隆英, 奥知慶久, 畑啓昭, 福田明輝, 山口高史, 坂田晋吾, 大谷哲之, 大和俊夫, 猪飼伊和夫	IPMN術後早期に残膵癌を認め、再発との鑑別に苦慮した症例	第67回日本消化器外科学会総会、富山　2012
国内学会	Takahide Murakami,Hisateru Yasui,Shunsuke Okazaki	Efficacy and safety of S-1 combined with weekly cisplatin for metastatic gastric cancer.	第10回日本臨床腫瘍学会学術集会、大阪　2012
国内学会	Syunsuke Okazaki, Hisateru Yasui, Meiki Fukuda, Takashi Yamaguchi	Impact of primary tumor resection on survival in patients with incurable and asymptomatic stage Ⅳ colorectal cancer and incidence of primary tumor complications in unresected patients : results of a single-institution retrospective study	第10回日本臨床腫瘍学会学術集会、大阪　2012
国内学会	村上隆英, 山口高史, 松末亮, 佐治雅史, 川口清貴, 花田圭太, 森山沙也香, 谷昌樹, 畑啓昭, 成田匡大, 坂田晋吾, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	当院における5ポート法による腹腔鏡下結腸右半切除術のこだわり	第25回近畿内視鏡外科研究会、京都　2012
国内学会	畑啓昭, 川口清貴, 佐治雅史, 花田圭太, 森山沙也香, 谷昌樹, 村上隆英, 松末亮, 成田匡大, 坂田晋吾, 山口高史, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	当科におけるカンジダ属培養陽性検体における菌種の検討	第25回日本外科感染症学会総会、千葉　2012
国内学会	佐治雅史, 松末亮, 川口清貴, 森山沙也香, 花田圭太, 谷昌樹, 村上隆英, 畑啓昭, 成田匡大, 坂田晋吾, 山口高史, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	結腸右半切除術後に末梢静入型中心静脈カテーテルに起因する上大静脈症候群を発症した1例	第192回近畿外科学会、大阪　2012
国内学会	山口高史, 松末亮, 佐治雅史, 川口清貴, 森山沙也香, 花田圭太, 谷昌樹, 村上隆英, 畑啓昭, 成田匡大, 坂田晋吾, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	腹腔鏡下結腸切除における5ポート法による鋭的剥離へのこだわり	第74回　日本臨床外科学会総会、東京　2012
国内学会	成田匡大, Elie Oussoultzoglou, 猪飼伊和夫, Marie-Pierre Chenard, Edoardo Rosso, 松末亮, 畑啓昭, 山口高史, 坂田晋吾, 大谷哲之, Daniel Jaeck, Philippe Bachellier	抗癌剤誘導性肝障害症例に対する拡大肝切除施行時の間欠的Pringle法使用の安全性の検討	第74回日本臨床外科学会総会、東京　2012
国内学会	村上隆英, 成田匡大, 佐治雅史, 川口清貴, 花田圭太, 森山沙也香, 谷昌樹, 松末亮, 畑啓昭, 山口高史, 坂田晋吾, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	十二指腸乳頭部腺内分泌細胞癌の1例	第74回日本臨床外科学会総会、東京　2012
国内学会	谷昌樹, 成田匡大, 川口清貴, 佐治雅史, 花田圭太, 森山沙也香, 村上隆英, 松末亮, 畑啓昭, 山口高史, 坂田晋吾, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	当院におけるtumescent　local anesthesiaを用いたopen　tension-free成人鼠径ヘルニア修復術	第74回日本臨床外科学会総会、東京　2012
国内学会	花田圭太, 畑啓昭, 川口清貴, 佐治雅史, 森山沙也香, 谷昌樹, 村上隆英, 松末亮, 成田匡大, 山口高史, 坂田晋吾, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	穿孔性腹膜炎を来した成人回腸重複腸管の1切除例	第74回日本臨床外科学会総会、東京　2012
国内学会	森山沙也香, 成田匡大, 福田明輝, 川口清貴, 佐治雅史, 花田圭太, 谷昌樹, 村上隆英, 松末亮, 畑啓昭, 山口高史, 坂田晋吾, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	嵌頓ヘルニアとの鑑別を要した鼠径ヘルニア嚢内子宮内膜症の一例	第74回日本臨床外科学会総会、東京　2012
国内学会	山口高史, 松末亮, 佐治雅史, 川口清貴, 森山沙也香, 花田圭太, 谷昌樹, 村上隆英, 畑啓昭, 成田匡大, 坂田晋吾, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	S状結腸切除後のDST吻合においてCircular　Staplerの挿入を容易にするためのコツ	第25回日本内視鏡外科学会総会、横浜　2012
国内学会	畑啓昭, 大谷哲之, 村上隆英, 川口清貴, 佐治雅史, 森山沙也香, 花田圭太, 谷昌樹, 松末亮, 成田匡大, 坂田晋吾, 山口高史, 猪飼伊和夫	当科で行っている12番リンパ節郭清手技と注意点	第25回日本内視鏡外科学会総会、横浜　2012

国内学会	花田圭太, 山口高史, 川口清貴, 佐治雅史, 森山沙也香, 谷昌樹, 村上隆英, 松末亮, 畑啓昭, 成田匡大, 坂田晋吾, 大谷哲之, 猪飼伊和夫	小腸腫瘍による腸重積症に対して下部消化管内視鏡による整復後に腹腔鏡下切除を行った１例	第25回日本内視鏡外科学会総会、横浜　2012
国内学会	畑啓昭, 大谷哲之, 川口清貴, 佐治雅史, 花田圭太, 森山沙也香, 谷昌樹, 村上隆英, 松末亮, 成田匡大, 山口高史, 猪飼伊和夫	横隔膜脚上の剥離を先行させるGerota・膵後筋膜を意識した#11pリンパ節郭清	第85回日本胃癌学会、大阪 2012

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著　者	タイトル	巻・ページ
Int J Colorectal Dis	Ogiso S, Yamaguchi T, Fukuda M, Murakami T, Okuchi Y, Hata H, Sakai Y, Ikai I	Laparoscopic resection for sigmoid and rectosigmoid colon outcomes and selection of suitable patients cancer performed by trainees: impact on short-term	vol.27 No.9 1215-1222, 2012. 9
Lancet Oncol	Fujita S, Akasu T, Mizusawa J, Saito N, Kinugasa Y, Kanemitsu Y, Ohue M, Fujii S, Shiozawa M, Yamaguchi T, Moriya Y; Colorectal Cancer Study Group of Japan Clinical Oncology Group	Postoperative morbidity and mortality after mesorectal excision with and without lateral lymph node dissection for clinical stage II or stage III lower rectal cancer (jcog0212) : results from a multicentre, randomised controlled, non-inferiority trial	vol.13 No.6 616-621, 2012.6
Annals of Surgery	Narita M, Oussoultzoglou E, Ikai I, Bachellier P, Jaeck D	Right Portal Vein Ligation Combined With In Situ Splitting Induces Rapid Left Lateral Liver Lobe Hypertrophy Enabling 2-Staged Extended Right Hepatic Resection in Small-for-Size Settings	vol.256 No.3 e7-8, 2012.9
臨床外科	成田匡大, 上本伸二	特集　高齢者外科手術における周術期管理 〔高齢者対策の実際〕 肝胆膵外科手術における高齢者対策	vol.67 No.9 1142-1145, 2012.9
救急・ERノート　6	畑啓昭	症候と疾患から迫る！ ERの感染症診療第2章　原因疾患へのアプローチ　11. ERでの腹腔内感染症①　虫垂炎、憩室炎	198-204, 2012.11
レジデントノート増刊	畑啓昭, 小山弘	外科の基本ー手術前後の患者さんを診る～手術の流れや手技、周術期管理が身につき、外科がわかる、好きになる　第1章　知っておくべき術前の準備・術後の管理　1.外科患者の診察のコツと診療録の書き方	vol.14 No.17 18-26, 2013.1
レジデントノート増刊	村上隆英, 畑啓昭	外科の基本ー手術前後の患者さんを診る～手術の流れや手技、周術期管理が身につき、外科がわかる、好きになる　第2章　外科研修で覚えたい手技　1.糸結び・糸の種類	vol.14 No.17 125-130, 2013.1
レジデントノート増刊	畑啓昭	外科の基本ー手術前後の患者さんを診る～手術の流れや手技、周術期管理が身につき、外科がわかる、好きになる 第2章　外科研修で覚えたい手技 8.NGチューブの入れ方のコツ	vol.14 No.17 173-176, 2013.1
レジデントノート増刊	畑啓昭	外科の基本ー手術前後の患者さんを診る～手術の流れや手技、周術期管理が身につき、外科がわかる、好きになる　第3章　手術の流れをイメージしよう　5.胃	vol.14 No.17 201-206, 2013.1
レジデントノート増刊	畑啓昭, 猪飼伊和夫	外科の基本ー手術前後の患者さんを診る～手術の流れや手技、周術期管理が身につき、外科がわかる、好きになる　第3章　手術の流れをイメージしよう　ミニレクチャー：肝臓の区域を覚えましょう	vol.14 No.17 221-228, 2013.1
Dig Dis.	Nishida N, Arizumi T, Hayaishi S, Takita M, Kitai S, Yada N, Hagiwara S, Inoue T, Minami Y, Ueshima K, Sakurai T, Ikai I, Kudo M.	Gender differences in the livers of patients with hepatocellular carcinoma and chronic hepatitis C infection.	vol.30 No.6 547-553, 2012. 12
Cell Transplant.	Kamimura R, Ishii T, Sasaki N, Kajiwara M, Machimoto T, Saito M, Kohno K, Suemori H, Nakatsuji N, Ikai I, Yasuchika K, Uemoto S.	Comparative study of transplantation of hepatocytes at various differentiation stages into mice with lethal liver damage.	vol.21 No.11 2351-2362, 2012. 4
Hepatology.	Nishida N, Kudo M, Nagasaka T, Ikai I, Goel A.	Characteristic patterns of altered DNA methylation predict emergence of human hepatocellular carcinoma.	vol.56 No.3 994-1003, 2012.9
Langenbecks Arch Surg.	Ogiso S, Ikai I, Narita M, Murakami T, Hata H, Yamaguchi T, Otani T	Parenchyma-sparing anatomical liver resection based on Hjortsjo's concept : A venous-drainage-guided approach to identify the ventral segment fissure.	doi: 10.1007/s00423-013-1069-2, 2013.2
J Surg Res.	Yamanaka K, Hatano E, Iguchi K, Yamamoto G, Sato M, Toriguchi K, Tanabe K, Takemoto K, Nakamura K, Koyama N, Narita M, Nagata H, Taura K, Uemoto S.	Effect of olprinone on liver microstructure in rat partial liver transplantation.	doi:10.1016/j.jss.2012.11.033, 2012.12
J Hepatol.	Nakamura K, Hatano E, Narita M, Miyagawa-Hayashino A, Koyama Y, Nagata H, Iwaisako K, Taura K, Uemoto S.	Sorafenib attenuates monocrotaline-induced sinusoidal obstruction syndrome in rats through suppression of JNK and MMP-9.	vol.57 No.5 1037-1043, 2012.11

World J Surg.	Narita M, Oussoultzoglou E, Fuchshuber P, Chenard MP, Rosso E, Yamamoto K, Jaeck D, Bachellier P.	Prolonged portal triad clamping increases postoperative sepsis after major hepatectomy in patients with sinusoidal obstruction syndrome and/or steatohepatitis.	vol.36 No.8 1848-1857, 2012.8
World J Surg.	Rosso E, Lopez P, Roedlisch MN, Narita M, Oussoultzoglou E, Bachellier P.	Double omental flap reduced perianastomotic collections and relaparotomy rates after pancreaticoduodenectomy with pancreaticogastrostomy.	vol.36 No.7 1672-1678, 2012.7
Ann Surg Oncol.	Narita M, Oussoultzoglou E, Chenard MP, Fuchshuber P, Rather M, Rosso E, Addeo P, Jaeck D, Bachellier P.	Liver injury due to chemotherapy-induced sinusoidal obstruction syndrome is associated with sinusoidal capillarization.	vol.19 No.7 2230-2237, 2012.7
Ann Surg Oncol.	Narita M, Oussoultzoglou E, Fuchshuber P, Pessaux P, Chenard MP, Rosso E, Nobili C, Jaeck D, Bachellier P.	What is a safe future liver remnant size in patients undergoing major hepatectomy for colorectal liver metastases and treated by intensive preoperative chemotherapy?	vol.19 No.8 2526-2538, 2012.8

整形外科

専門医資格等　日本整形外科学会専門医
専　門　分　野　スポーツ、軟骨、関節
得　意　疾　患　膝、肩、肘関節

診療科長
中川　泰彰

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	山田　茂	日本整形外科学会専門医	股関節、膝関節	股関節
医　師	向井　章悟	日本整形外科学会専門医	スポーツ、膝、肩、小児	膝、肩
医　師	向田　征司	日本整形外科学会専門医	脊椎	脊椎
医　師	二宮　周三	日本整形外科学会専門医	股関節	股関節
医　師	坪内　直也		脊椎	脊椎
医　師	松岡　将之	日本整形外科学会専門医（2013.4.1～）	整形外科一般	
専修医	樽見　映里			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本整形外科学会研修施設

1. スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎のそれぞれのスペシャリストがいます。
2. 救命救急センターとタイアップし、様々な外傷にも対応しています。
3. スポーツ医学センターを併設し、発育期、競技スポーツ、中高年のスポーツ復帰のリハビリも行っています。
4. 骨軟骨疾患に対する自家骨軟骨移植術の件数は、日本最多で、中期成績も優秀です。

□ 主な対象疾患

様々な関節の変形性関節症、肩関節脱臼、腱板断裂、膝靭帯損傷、様々な脊椎疾患、離断性骨軟骨炎などのスポーツ障害

□ 診療（業務）内容

スポーツ、肩、肘、股関節、膝関節、脊椎のそれぞれの専門家が執刀する手術（安定した治療成績が獲得できています）及び、外来での経過観察や保存的治療を行っています。術後のリハビリは疾患に応じて、当院リハビリ科とスポーツ医学センターで行っており、特に、スポーツ医学センターでは、術後のスポーツ復帰だけでなく、再受傷予防などの対策も立てています。また、外来通院による保存的治療としてのリハビリも行っています。

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
47.9名	684名	24.6日

外来患者数

1日平均患者数
89.4名

主な手術・検査の件数など

頸椎手術	胸腰椎手術	人工股関節置換術	人工膝関節置換術
32件	120件	48件	32件

自家骨軟骨移植術
45件

□ 地域医療連携・広報活動

・京都府軟式野球連盟からの依頼により、2011年からスポーツ医学センターにて、小中学生野球選手のメディカルチェックを行っています。
・2012年６月　第22回関西臨床スポーツ医科学研究会で中川が会長講演
・2012年10月　第２回交通事故・後遺障害認定実務講座で中川が講演
・2012年12月　平成２４年度京都府相撲連盟生涯スポーツ指導者研修会で中川が講演
・2013年１月　平成２４年度日本相撲連盟九州ブロック指導者講習会で中川が講演
・2013年２月　平成２４年度日本相撲連盟関西ブロック指導者講習会で中川が講演
・2013年３月　クルクミンカフェ講演会で中川が講演

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	松岡将之、中川泰彰、山田茂、二宮周三、田中慶尚、中村孝志 当院における半月板縫合術の治療成績の検討 第１１８回中部日本整形外科災害外科学会学術集会　2012.4.6-7、大阪、日本
国内学会	中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、田中慶尚、小林雅彦、村田聡、中村孝志 膝骨軟骨移植術における移植プラグを削る臨床的意義 第８５回日本整形外科学会学術総会　2012.5.17-20、京都、日本
国内学会	樽見映里、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、中村孝志 ドッジボールにより発症した肘関節離断性骨軟骨炎に対する一考察 第２２回関西臨床スポーツ医科学研究会、　2012.6.16、大阪、日本
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、廣瀬ちえ 骨軟骨柱移植術を施行した変形性膝関節症患者の術前膝関節機能の検討 第２２回関西臨床スポーツ医科学研究会、　2012.6.16、大阪、日本
国内学会	中川泰彰 コリジョンスポーツがもたらす体幹四肢への影響 第２２回関西臨床スポーツ医科学研究会、会長講演　2012.6.16、大阪、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、山際哲夫 アメリカンフットボールにおける肩関節脱臼に対する治療と再発予防の取り組み 第２２回関西臨床スポーツ医科学研究会、シンポジウム　2012.6.16、大阪、日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟 膝離断性骨軟骨炎に対する骨軟骨移植術の治療成績 第４回JOSKAS学会、パネルディスカッション　2012.7.19-21、宜野湾、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、田中慶尚、中村孝志 特発性骨壊死に対する骨軟骨移植術施行後に正座が可能となる因子の分析 第４回JOSKAS学会、　2012.7.19-21、宜野湾、日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、松岡将之、田中慶尚、新井隆三、中村孝志 膝蓋骨脱臼に伴う軟骨損傷の頻度と治療成績 第４回JOSKAS学会、　2012.7.19-21、宜野湾、日本
国内学会	松岡将之、中川泰彰、向井章悟、田中慶尚、中村孝志 骨穿孔術後も骨癒合認めず、自家骨軟骨移植術にて軽快した距骨離断性骨軟骨炎の１例 第４回JOSKAS学会、　2012.7.19-21、宜野湾、日本
国内学会	田中慶尚、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、中村孝志 ステロイド性骨壊死に対する新しい試み 第４回JOSKAS学会、　2012.7.19-21、宜野湾、日本

国内学会	向井章悟、中川泰彰 肩甲胸郭関節鏡を行った背部軟部腫瘍の１例 第１２回肩と肘を語る会、　2012.7.28、京都、日本
国内学会	坪内直也、根尾昌志、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田政司、二宮周三、松岡将之、樽見映里、白晨、池永稔、中村孝志 頸椎骨転移後方固定術後のロッド折損に対する再建術の１例 第１０回ひふみ会、　2012.8.4、京都、日本
国内学会	二宮周三、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田政司、坪内直也、松岡将之、樽見映里、白晨、中村孝志 TKA術後にPS型ポリエチレンインサートが脱転した３例 第１０回ひふみ会、　2012.8.4、京都、日本
国内学会	松岡将之、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田政司、二宮周三、坪内直也、田中慶尚、中村孝志 当院における距骨滑車離断性骨軟骨炎に対する骨軟骨移植術の経験 第３８回日本整形外科スポーツ医学会学術集会、　2012.9.14-15、横浜、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰 腱板機能から見た上腕骨頭と肩甲骨関節かの位置関係 第３９回日本肩関節学会、　2012.10.5-6、東京、日本
国際学会	Y. Nakagawa, S. Mukai, M. Matsuoka, Y. Tanaka, R. Arai, T. Nakamura The occurrence rato and treatment of the osteochondral injury during the patellar dislocation The 6th World Congress of Sports Trauma 2012.10.17-20, Rondon, England
国際学会	Y. Nakagawa, S. Mukai, Y. Hattori, T. Nakamura Kne osteoarthritic changes of sumo wrestlers had already appeared at high school-Radiological changes of knee joint in high school and collegiate sumo wrestlers- The 6th World Congress of Sports Trauma 2012.10.17-20, Rondon, England
国内学会	中川泰彰 肩・膝関節外傷と上下肢の神経障害について 第２回交通事故・後遺障害認定実務講座、　2012.10.27-28、東京、日本
国内学会	松岡将之、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田征司、二宮周三、坪内直也、樽見映里、中村孝志、田中慶尚 当院における足関節離断性骨軟骨炎に対する治療成績 第２３回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2012.11.3-4、横浜、日本
国内学会	向井章悟、中川泰彰、松岡将之、新宮信之、井上直人、廣瀬ちえ 京都府の少年野球チームに対する投球障害の検診 第２３回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2012.11.3-4、横浜、日本
国内学会	井上直人、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、廣瀬ちえ、橋本雅至、田頭悟志、木下和昭 大学アメリカンフットボール選手におけるSide Bridge Testと体幹筋力の関係 第２３回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2012.11.3-4、横浜、日本
国内学会	廣瀬ちえ、中川泰彰、向井章悟、新宮信之、井上直人、廣瀬ちえ 学童野球選手における肩関節可動域～京都におけるメディカルチェックの取り組みから～ 第２３回日本臨床スポーツ医学会学術集会、　2012.11.3-4、横浜、日本
国内学会	中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田政司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、樽見映里、中村孝志 膝離断性骨軟骨炎に対する当院の治療戦略 第４０回日本関節病学会、　2012.11.8-9、鹿児島、日本
国内学会	坪内直也、根尾昌志、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田政司、二宮周三、松岡将之、樽見映里、白晨、池永稔、中村孝志 頸椎骨転移後方固定術後のロッド折損に対する後方再固定術の１例 第６６回国立病院総合医学会、　2012.11.16-17、神戸、日本
国内学会	中川泰彰 発育期及び中高年におけるスポーツの注意点 アンチ・ドーピングについて 平成２４年度京都府相撲連盟生涯スポーツ指導者研修会、　2012.12.16、京都、日本
国内学会	白晨、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田政司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、樽見映里、中村孝志 近医にて診断に難渋した膝蓋骨溝離断性骨軟骨炎の１例 第１８回スポーツ傷害フォーラム、　2013.1.26、大阪、日本
国内学会	中川泰彰 2013年からのドーピング検査—うっかりドーピングも含めてー 平成２４年度日本相撲連盟九州ブロック指導者講習会、　2013.1.27、鹿児島、日本
国内学会	中川泰彰 2013年からのドーピング検査—うっかりドーピングも含めてー 平成２４年度日本相撲連盟関西ブロック指導者講習会、　2013.2.3、大阪、日本
国内学会	中川泰彰、向井章悟、瀬戸口芳正、後藤匡志、古川泰三、奥平修三、中村孝志 健常膝をドナーとした骨軟骨移植術のドナー部の臨床成績 第２５回日本肘関節学会学術集会、　2013.2.8-9、東京、日本
国内学会	樽見映里 中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田政司、二宮周三、坪内直也、松岡将之、中村孝志 人工膝関節全置換術後感染に対し二期的再置換術を行った症例の検討 第４３回日本人工関節学会、　2013.2.22-23、京都、日本
国内学会	松岡将之、中川泰彰、山田茂、向井章悟、向田政司、二宮周三、坪内直也、樽見映里、中村孝志 大腿骨顆上骨折後のプレートが抜去できないため工夫を要したTKAの１例 第４３回日本人工関節学会、　2013.2.22-23、京都、日本
国内学会	中川泰彰 クルクミンでいつまでも膝を元気に クルクミンカフェ講演会、　2013.3.17、東京、日本

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書雑誌名
Shirai T, Kobayashi M, Nakamura S, Arai R, Nishitani K, Satake T, Dahlberg L, Burstein D, Kuroki H, NakagawaY, Okada T, Nakamura T Longitudinal evaluation of cartilage after osteochondral autogenous transfer with delayed gadolinium-enhanced MRI of the cartilage J Orthop Res 30: 221-225, 2012
中川泰彰、向井章悟 膝離断性骨軟骨炎に対する骨軟骨柱移植術の有効性と限界 MB Orthop , 25: 65-68, 2012
中川泰彰、向井章悟 膝蓋骨脱臼に伴う骨軟骨損傷の頻度と治療 関節外科、31： 324-329、2012
中川泰彰 専門医試験を目指す症例問題トレーニング：リウマチ性疾患・感染症 整形外科、 63： 271-276、2012
松岡将之、中川泰彰、山田茂、二宮周三、田中慶尚、中村孝志 当院における人工関節置換術後に発症した下肢静脈血栓症の検討 中部整災誌、 55： 187-188、2012
田中慶尚、中川泰彰、山田茂、二宮周三、松岡将之、中村孝志 当院における人工膝関節置換術後感染に対する持続洗浄の臨床成績 中部整災誌、 55： 241-242、2012
中川泰彰、向井章悟 膝関節離断性骨軟骨炎 整・災外 55： 667-672、2012
坪内直也、中川泰彰、向井章悟 柔道中に受傷した垂直回旋により膝蓋骨が嵌頓した膝蓋骨脱臼の１例 日臨スポ医学会誌、 20： 360-363、2012
小林雅彦、中村伸一郎、新井隆三、浅野太洋、中川泰彰、中村孝志 解剖学的二重束ACL再建術の短期成績とイメージマッチング法による術前回旋不安定性評価 整スポ会誌、 32： 119-123、2012
向井章悟、中川泰彰、坪内直也、田中慶尚、中村孝志、小林雅彦、新井隆三 自家骨軟骨移植術のプラグ採取後５年以上経過例における膝蓋大腿関節のＸ線変化についての検討 JOSKAS、 37： 558-563、 2012
中川泰彰、向井章悟、坪内直也、田中慶尚 膝骨軟骨移植術ドナー部位の短期症状と画像所見 JOSKAS、 37： 564-567、 2012
向井章悟、中川泰彰、瀬戸洋一、柏木直也 骨盤の低形成と脚短縮の同側に合併した臼蓋形成不全の治療経験 日小整会誌、 21： 77-80、 2012
向井章悟、中川泰彰、中村孝志 骨軟骨移植術後のスポーツ復帰 日臨スポ会誌、 20： 434-438、 2012
向井章悟、中川泰彰、田中慶尚 アメリカンフットボール選手に発症した上腕骨頭軟骨損傷の２例 肩関節、36： 1037-1040、 2012
松岡将之、中川泰彰、山田茂、向井章悟、中村孝志 足関節脛骨関節面に生じた離断性骨軟骨炎の１例 整形外科、63： 1363-1366、2012
松岡将之、中川泰彰、山田茂、二宮周三、田中慶尚、中村孝志 当院における半月板縫合の治療成績の検討 中部整災誌、55： 1427-1428、2012
坪内直也、中川泰彰、中村孝志 投球による上腕骨内側上顆骨折術後に投球骨折を再度受傷した１例 日肘学会誌、 19：141-143, 2012
Akiyama, H., A. Hoshino, H. Iida, H. Shindo, Y. Takakura, H. Miura, K. Yamamoto, S. Yoshiya, Y. Hasegawa, T. Shimamura, M. Kurosaka, H. Otsuka, K. Kawanabe, K. Kawate, Y. Harada, T. Nakamura and J. O. A. Implant Committee (2012). "A pilot project for the Japan arthroplasty register." J Orthop Sci 17(4): 358-369.
Akiyama, H., K. Yamamoto, A. Kaneuji, T. Matsumoto and T. Nakamura (2013). "In-vitro characteristics of cemented titanium femoral stems with a smooth surface finish." J Orthop Sci 18(1): 29-37.
Arai, R., M. Kobayashi, Y. Toda, S. Nakamura, T. Miura and T. Nakamura (2012). "Fiber components of the shoulder superior labrum." Surg Radiol Anat 34(1): 49-56.
Ishikawa, M., H. Ito, M. Akiyoshi, N. Kume, H. Yoshitomi, H. Mitsuoka, S. Tanida, K. Murata, H. Shibuya, T. Kasahara, A. Kakino, Y. Fujita, T. Sawamura, T. Yasuda and T. Nakamura (2012). "Lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor 1 signal is a potent biomarker and therapeutic target for human rheumatoid arthritis." Arthritis Rheum 64(4): 1024-1034.
Kawai, T., M. Takemoto, S. Fujibayashi, M. Neo, H. Akiyama, S. Yamaguchi, D. K. Pattanayak, T. Matsushita, T. Nakamura and T. Kokubo (2012). "Bone-bonding properties of Ti metal subjected to acid and heat treatments." J Mater Sci Mater Med 23(12): 2981-2992.

Kizuki, T., H. Takadama, T. Matsushita, T. Nakamura and T. Kokubo (2013). "Effect of Ca contamination on apatite formation in a Ti metal subjected to NaOH and heat treatments." J Mater Sci Mater Med 24(3): 635-644.
Murata, K., T. Kitaori, S. Oishi, N. Watanabe, H. Yoshitomi, S. Tanida, M. Ishikawa, T. Kasahara, H. Shibuya, N. Fujii, T. Nagasawa, T. Nakamura and H. Ito (2012). "Stromal cell-derived factor 1 regulates the actin organization of chondrocytes and chondrocyte hypertrophy." PLoS One 7(5): e37163.
Neo, M., S. Fujibayashi, M. Takemoto and T. Nakamura (2012). "Clinical results of and patient satisfaction with cervical laminoplasty for considerable cord compression with only slight myelopathy." Eur Spine J 21(2): 340-346.
Okamoto, T., M. Neo, S. Fujibayashi, H. Ito, M. Takemoto and T. Nakamura (2012). "Mechanical implant failure in posterior cervical spine fusion." Eur Spine J 21(2): 328-334.
Pattanayak, D. K., S. Yamaguchi, T. Matsushita, T. Nakamura and T. Kokubo (2012). "Apatite-forming ability of titanium in terms of pH of the exposed solution." J R Soc Interface 9(74): 2145-2155.
Shirai, T., M. Kobayashi, S. Nakamura, R. Arai, K. Nishitani, T. Satake, L. E. Dahlberg, H. Kuroki, Y. Nakagawa, T. Okada, K. Togashi and T. Nakamura (2012). "Longitudinal evaluation of cartilage after osteochondral autogenous transfer with delayed gadolinium-enhanced MRI of the cartilage (dGEMRIC)." J Orthop Res 30(2): 221-225.
So, K., K. T. Kanatani, Y. Kuroda, T. Nakamura, S. Matsuda and H. Akiyama (2012). "Good short-term outcome of primary total hip arthroplasty with cementless bioactive glass ceramic bottom-coated implants: 109 hips followed for 3-9 years." Acta Orthop 83(6): 599-603.
Yamaguchi, S., T. Kizuki, H. Takadama, T. Matsushita, T. Nakamura and T. Kokubo (2012). "Formation of a bioactive calcium titanate layer on gum metal by chemical treatment." J Mater Sci Mater Med 23(4): 873-883.
Yamamoto, M., T. Matsuzaki, R. Takahashi, E. Adachi, Y. Maeda, S. Yamaguchi, H. Kitayama, M. Echizenya, Y. Morioka, D. B. Alexander, T. Yagi, S. Itohara, T. Nakamura, H. Akiyama and M. Noda (2012). "The transformation suppressor gene Reck is required for postaxial patterning in mouse forelimbs." Biol Open 1(5): 458-466.

形成外科

診療科長
荒田　順

専門医資格等　日本形成外科学会専門医
日本手外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
京都大学　臨床准教授
専 門 分 野　形成外科一般
得 意 疾 患

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	石坂　知華	日本形成外科学会専門医	形成一般	
医　　師	田中　宏典	日本形成外科学会専門医	形成一般	
専 修 医	鈴木　茉友		形成一般	
専 修 医	海透　修子		形成一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本形成外科学会認定施設 日本手外科学会認定基幹研修施設

□ 主な対象疾患

皮膚・皮下軟部腫瘍、顔面外傷、手外科、瘢痕拘縮、頭頸部・乳房再建

□ 診療（業務）内容

当科では

・顔面、手足、体幹の先天異常をはじめとする小児形成外科
・整容面を重視した眼瞼下垂、眼瞼内反症
・外反症などの眼瞼形成
・体表における腫瘍の切除、皮膚潰瘍に対する皮膚移植、遊離皮弁による潰瘍の閉鎖などの皮膚疾患に対する整容面に配慮した外科治療
・顔面骨骨折を中心とする顔面外傷に対する整容を重視した治療、口腔外科と合同で行う顎顔面外科
・手外科疾患の初期治療から二次的な機能再建
・頭頸部外科と合同で頭頸部癌に対する癌切除後の機能損失を最小限にすることを目的としたマイクロサージャリーを駆使した組織移植を積極的に行い、乳腺外科との合同で乳がんに対する乳房再建を手がけています。
・レーザー：ルビーレーザー（黒、茶あざ、しみ）、Ｖビーム（血管腫）、CO_2レーザー（小腫瘍の蒸散、瘢痕の修正）を所持しており、美容を目的としたしみに対するレーザー治療など幅広い治療を行っています。

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
9.1名	169名	18.8日

外来患者数

1日平均患者数
21.5名

主な疾患の件数など

皮膚皮下腫瘍	眼瞼形成	顔面骨骨折および外傷	手外科
365件	33件	68件	75件

マイクロサージャリー
32件

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区　分	演　者	演　題	学会名
国内学会	米谷あずみ, 荒田順, 田中宏典, 鈴木茉友	ガングリオンにおける小児例の検討	日本形成外科学会総、2012/4/5、東京
国内学会	荒田順, 石坂知華, 田中宏典	鼻骨骨折整復時における術中超音波診断の有用性について	日本創傷外科学会、2012/7/26、福岡
国内学会	田中宏典, 荒田順, 石坂知華	デブリードマンとＶＡＣ療法を行い、最小限の侵襲で治癒を得た脊髄損傷患者の両坐骨部褥瘡の一例	日本創傷外科学会、2012/7/26、福岡
国内学会	田中宏典	股関節腔に及ぶ坐骨部褥瘡に対して持続陰圧閉鎖療法が著効した一例	日本褥瘡学会、2012/9/1、横浜
国内学会	石坂知華, 荒田順, 田中宏典	当院での顔面骨骨折整復時における術中超音波診断の使用経験	第30回日本頭蓋顎顔面外科学会、2012/11/2、大阪
国内学会	石坂知華	下口唇AVMにverrucus cartinomaを合併した1例	第30回日本皮膚悪性腫瘍学会、2012/6/29、札幌

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著　者	タイトル
ＰＥＰＡＲＳ　2012		超音波ガイド下腕神経叢ブロック腋窩法のコツ
日本形成外科学会会誌　2013	田中宏典, 大塚守正, 荒田順	くり抜き法による仙骨部毛巣洞の治療経験

脳神経外科

専門医資格等
日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医
専門分野
脳神経外科
得意疾患
脳血管障害

副院長
塚原 徹也

専門医資格等
日本脳神経外科学会 専門医
日本脳卒中学会 専門医
専門分野
脳神経外科
得意疾患
脳動脈瘤
良性脳腫瘍
頭蓋底手術
バイパス術

診療科長
福田 俊一

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏 名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医 長	青木 友和	日本脳神経外科学会 専門医 日本脳卒中学会 専門医 日本癌治療学会 暫定教育医	脳神経外科	悪性脳腫瘍、顔面痙攣、三叉神経痛
医 師	川端 康弘	日本脳神経外科学会 専門医 日本脳卒中学会 専門医	脳神経外科	脳血管障害、脳血管内治療、脳腫瘍

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本脳神経外科学会研修施設

1. 当科は、脳卒中や頭部外傷などの脳神経外科領域の救急疾患に２４時間対応し、地域救急医療に貢献していると同時に、困難な脳神経系疾患に対して集約的な治療も行っています。
2. 脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患など脳神経外科領域全般にわたって、患者さんの入院および外来加療を行っています。
3. 脳神経外科領域の疾患では、緊急に手術等の処置を行わなければ生命にかかわる場合もあれば、逆に病気はあるものの、定期的に外来で経過を観て行くことが適当である場合もあります。
4. 上記3.のような場合を除けば、手術をすべきかどうかは、その疾患自体だけではなく、症状や年齢、全身状態、手術の難易度、さらには患者さんの性格や家族構成などを考慮して決めるべきであり、たとえ同じ疾患でも個々の患者さんによって方針が異なってきます。
5. 私たちは、患者さんご自身やご家族に充分に病気についての説明をし、相談をした上で、インフォームドコンセントをとり、その上で適切な治療方針をとることが大切であると考えています。
6. いったん手術が必要であると決まった場合には、たとえ難易度の高い手術でも、従来の顕微鏡を用いた開頭手術に加え、血管内手術や神経内視鏡手術などの様々な手術法を用い、積極的に治療を行っています。

□ 主な対象疾患

・脳血管障害（脳梗塞・クモ膜下出血・未破裂脳動脈瘤・脳内出血・その他の脳血管障害）
・脳腫瘍（グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫）
・神経内視鏡手術
・頭部外傷
・機能的脳神経外科（顔面けいれん・三叉神経痛）

□ 診療（業務）内容

・脳血管障害（脳梗塞に対する血行再建術・破裂および未破裂脳動脈瘤に対するクリッピング術・脳内出血に対する開頭摘出術、内視鏡手術）
・脳神経血管内治療(脳動脈瘤塞栓、ステント設置、腫瘍塞栓、脳動静脈奇形塞栓など)
・脳腫瘍（グリオーマ・下垂体腺腫・頭蓋底腫瘍・聴神経腫瘍・転移性脳腫瘍・脳内リンパ腫・胚細胞腫・髄膜腫・頭蓋咽頭腫）に対する摘出術
・神経内視鏡手術 (下垂体腫瘍、脳室内腫瘍、水頭症、脳内出血など)
・頭部外傷(血腫除去術)
・脊椎背髄疾患
・機能的脳神経外科（顔面けいれん・三叉神経痛に対する神経減圧術)
・頭蓋底および頚部腫瘍: 腫瘍摘出および血行再建術

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
23.7名	370名	22.6日

外来患者数

1日平均患者数
36. 6名

主な手術・検査の件数など

脳動脈瘤	脳腫瘍	脳血管内手術	脳動静脈奇形
17件	57件	39件	2件

頸動脈内膜剥離術	血管バイパス術
14件	12件

□ 地域医療連携・広報活動

第10回脳卒中市民講座　2012年12月8日　於；京都医療センター

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	塚原徹也、浅原哲子、大谷良、中久木卓也；急性期脳梗塞患者における薬物治療法の効果.　第37回日本脳卒中学会総会　2012年4月26日～28日　福岡
国内学会	福田俊一、塚原徹也、青木友和、中久木卓也、後藤正憲、新井大輔、安里亮；頭頚部悪性腫瘍の治療経過における脳血管血行再建術について.　第37回日本脳卒中学会総会　2012年4月26日～28日　福岡
国内学会	中久木卓也、浅原哲子、村中和也、佐々木洋介、山陰一、塚原徹也、大谷良、園部眞、江面正幸、高橋立夫、吉岡亮、矢坂正弘、堤圭介；脳梗塞と血中アディポサイトカイン、炎症マーカーとの関連について.　第37回日本脳卒中学会総会　2012年4月26日～28日　福岡
国内学会	浅原哲子、村中和也、佐々木洋介、山陰一、塚原徹也；頸動脈プラーク内のマクロファージ浸潤と炎症性サイトカインの発現に対する糖尿病の影響.　第37回日本脳卒中学会総会　2012年4月26日～28日　福岡
国内学会	大谷良、浅原哲子、中久木卓也、山陰一、端祐一郎、村瀬永子　中村道三、塚原徹也；脳梗塞危険因子と頚部超音波所見、アディポサイトカインとの関連.　第37回日本脳卒中学会総会　2012年4月26日～28日　福岡
国際学会	Aoki T, Mizutani T, Nojima K, Takagi T, Okumura R, Yuba Y, Ueba T, Takahashi JA, Miyatake S. Nozaki K, Taki W. Matsutani M；Phase II Study of Ifosfamide, Carboplatin and Etoposide for Patients with Glioblastoma at first relapse.　19th International Brain Tumor Research and Therapy Conference 2012.6.21-24 Toronto Western
国際学会	Aoki T, Mizutani T, Nojima K, Takagi T, Okumura R, Yuba Y, Ueba T, Takahashi JA, Miyatake S. Nozaki K, Taki W. Matsutani M；Phase II Study of Ifosfamide, Carboplatin and Etoposide for Patients with Glioblastoma at first relapse.　10th Meeting of the European Association of NeuroOncology 2012.9.6-9　Marseille
国際学会	T.Tsukahara, N.Sato-Asahara, R Ohtani, T.Nkakuki;Effect of Medisation for metabolic syndrome Related Risk Factors, Hypertension, Diabetes Mellitusand Dislipidemia in Acute Stroke Patients. 8th World Stroke Congress 2012.10.10-13 Brasilia
国内学会	青木友和、西川亮、杉山一彦、隈部俊宏、植木敬介、山本哲哉、竹島秀雄、有田和徳、松谷雅生；悪性神経膠腫に対する新規　脳内局所留置用の放性製剤NPC-08（Gliadel　Wafer）多施設共同第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験.　日本脳神経外科学会総会　2012年10月17日～19日　大阪

国内学会	川端康弘、山下耕助、西川智文、青木友和、福田俊一、塚原徹也；術前のプラーク診断は頸動脈ステント留置術の治療成績向上に役立つか？．日本脳神経外科学会総会　2012年10月17日〜19日　大阪
国内学会	福田俊一、塚原徹也、青木友和、西川智文、川端康弘　安里亮；当院における広範囲頭蓋蓋艇腫瘍切除・再建術の治療成績について．日本脳神経外科学会総会　2012年10月17日〜19日　大阪
国内学科	川端康弘、中久木卓也、西川智文、青木友和、福田俊一、塚原徹也；下垂体腫瘍に対する経鼻的内視鏡手術の治療成績．第19回日本神経内視鏡学会　2012年11月2日〜3日　東京
国内学会	川端康弘、西川智文、青木友和、福田俊一、塚原徹也、大谷良；総頚動脈病変に対してステント留置術を行った2例．第28回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会　2012年11月15日〜17日　仙台
国内学会	Tomokazu Aoki, Arakawa Yoshiteru, upper feather Tetsuya, Masato Hojo, Koichi Iwasaki, Kazuhiko Sugiyama, Susumu Miyamoto；Phase I/II study of the combination of Temozolomide with ACNU chemotherapy (TA therapy) for recurrent malignant gliomas　Kyoto Brain Tumor Group.　第30回日本脳腫瘍学会学術集会　2012年11月25〜27日　広島

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Jpn J Clin Oncol 2012	Motoo Nagane, Ryo Nishikawa, Yoshitaka Narita, Hiroyuki Kobayashi, Shingo Takano,Nobusada Shinoura, Tomokazu Aoki, Kazuhiko Sugiyama, Junichi Kuratsu, Yoshihiro uragaki,Yutaka Sawamura and Masao Matsutani; Phase II Study of Single-agent Bevacizumab in Japanese Patients with Recurrent Malignant Glioma ;42(10)887–95doi:10.1093/jjco/hys121
European Journal of Radiology 81　2012	Fumiyuki Yamasaki, Kaoru Kurisu, Tomokazu Aoki, Masami Yamanaka, Yoshinori Kajiwara,Yosuke Watanabe, Takeshi Takayasu, Yuji Akiyama, Kazuhiko Sugiyama; Advantages of high b-value diffusion-weighted imaging to diagnose pseudo-responses in patients with recurrent glioma after bevacizumab treatment, (10) 2805–2810

血管外科

診療科長
浅田　秀典

専門医資格等　心臓血管外科専門医
日本外科学会専門医
日本脈管学会評議員
旭川医科大学　医学博士

専 門 分 野　血管外科（閉塞性動脈硬化症、動脈瘤、急性動脈閉塞、血管炎、血管外傷に対する各種血行再建術）、静脈・リンパ疾患

□ 診療科の特徴

1. あらゆる診療科や地域医療機関で直面した血管疾患の問題に迅速に対応してまいります。
2. 患者さんには診療内容に対する十分な説明と満足な治療成果が得られるよう努力いたします。

2006年（平成18年）4月に発足した、主に末梢動脈疾患に対する血行再建を担当する診療科です。

近年、糖尿病や腎不全による慢性透析患者さんが増加するとともに、閉塞性動脈硬化症例（ASO）が増加しています。

閉塞性動脈硬化症とは、動脈硬化による下肢血流障害により各種症状（歩行時の下肢の痛み、安静時の足の痛みおよび足部潰瘍・壊死）を生じ、最終的には下肢切断にも至る疾患です。

このような症例には、迅速な診断とともに適切な治療が必要で、時には技術的に困難とされる足関節周囲への末梢バイパス手術と適切な局所処置が必要となります。

当科は、京都では数少ない血管外科専門科として日々下肢血流障害の治療にあたっています。

患者さんの多くは動脈硬化性の全身合併症があり、術前評価には循環器内科、脳神経外科、また、術前後には麻酔科はもちろん、糖尿病内科、腎臓内科、形成外科、整形外科、皮膚科などとの協力が必要で、各科連携した総合的診療を心がけています。

□ 主な対象疾患

大動脈疾患（腹部大動脈瘤、大動脈解離など）
閉塞性動脈硬化症（糖尿病合併症例、慢性透析例を含む）
閉塞性血栓血管炎（バージャー病）
急性動脈閉塞症（血栓症、塞栓病、外傷など）
下肢静脈瘤、静脈（鬱滞）性潰瘍
深部静脈血栓症、肺塞栓症
リンパ浮腫
血管内治療（動・静脈閉塞性疾患、動脈瘤）
内シャント（blood access）作成

□ 診療(業務)内容

外来診療は、月、水の午前・午後、木曜日午前中の3日間実施しております。

心疾患、脳疾患、糖尿病、腎臓病などの併存症を持っている方でも院内全体の診療科が協力し、安全で安心できる治療を行っています。

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
8.8名	203名	15.5日

外来患者数

1日平均患者数
9.9名

主な手術・検査の件数など

下肢末梢動脈手術	腹部大動脈瘤手術	透析内シャント手術	下肢静脈瘤手術
54件	18件	57件	7件

四肢カテーテル治療	四肢動脈造影
30件	97件

□ 地域医療連携・広報活動

2012年10月27日　伏見脳卒中セミナー「ATISとしての下肢末梢動脈疾患」　浅田秀典

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	浅田秀典　「末梢動脈疾患(PAD)の診断・治療」　PAD学術講演会　2012年4月19日:京都
国内学会	浅田秀典　「足関節以下への血行再建手術の検討」　第42回日本心臓血管外科学会　2012年4月18日:秋田
国内学会	浅田秀典　「CLIに対する外科治療」　近畿心血管治療ジェイントライブ2012　2012年4月19日:京都
国内学会	浅田秀典　「透析・糖尿病を合併したASO重症虚血肢に対する治療戦略」　第40回日本血管外科学会　2012年5月23日:長野
国内学会	浅田秀典　「PADに対するバイパス手術」　近畿MMC研究会　2013年2月23日:大阪
国内学会	浅田秀典　「外腸骨ー大腿動脈交差バイパスの有用性」　第27回血管外科近畿地方会　2013年3月9日:大阪

心臓外科

専門医資格等	心臓血管外科専門医 外科専門医
専 門 分 野	成人心臓大血管疾患
得 意 疾 患	成人心臓大血管手術

診療科長
白神　幸太郎

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	片 岡　　剛	心臓血管外科専門医 外科専門医	成人心臓大血管疾患	成人心臓大血管手術

□ 診療科の特徴

1. 心臓外科診療を通して人々のお役に立つ
2. 手術や診療の透明性を確保する
3. 循環器診療の最後の砦となる

□ 主な対象疾患

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞など）に対する冠動脈バイパス術
弁膜症（大動脈弁疾患、僧帽弁疾患など）に対する弁形成術や弁置換術、不整脈手術
大血管疾患（胸部大動脈瘤、急性大動脈解離など）に対する人工血管置換術

□ 診療（業務）内容

心臓大血管疾患の手術適応およびリスク評価を体系的にかつ厳密に行い、安全な手術治療を目指す。一方で院内各専門科と緊密な連携を取り、周術期管理にあたる。緊急を要する症例について積極的に手術治療を行い、地域医療に貢献することを目標としている。

2011年4月心臓外科開設。2011年6月より12月までに34例、2012年は65例の心臓大血管手術を施行。内訳は下記の通りであった。冠動脈バイパス術においては15件中11件を体外循環非使用手術として施行している。大動脈弁手術は19例、生体弁による大動脈弁置換術が15例、機械弁使用2例、弁形成術2例であった。僧帽弁閉鎖不全症に対しては弁形成術を第一選択としている。心房細動に対しても積極的にメイズ手術を施行し、6例中4例が正常洞調律に復帰した。予定手術における院内死亡は術後脳障害を発症した胸腹部大動脈瘤手術例、術後人工弁感染を生じた僧帽弁置換術症例の2例であった。

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
7.2名	57名	41.9日

外来患者数

1日平均患者数
3.7名

主な手術・検査の件数など

冠動脈バイパス術	心臓弁膜症手術	胸部大動脈手術	その他心臓手術
15件	42件	15件	3件

□ 地域医療連携・広報活動

医師会、救急隊を通じての広報活動を行い、院外からの手術目的紹介症例は増加している。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演　題　・　学　会　名
TRALIが疑われた大動脈弁置換術症例（KCJL 2012）　H24.4.21　京都
現在の冠動脈疾患治療選択（第71回伏見医師会学術集談会特別講演）　H24.5.19　京都
鈍的胸部外傷による腕頭動脈および右鎖骨下動脈解離の一手術例（第47回京滋心臓血管外科研究会）　H24.9.1　京都
慢性心不全に感染性心内膜炎を発症し緊急手術にて救命し得た一症例（第72回伏見医師会学術集談会）　H24.11.10　京都
心タンポナーデとショックを伴った超高齢者の広範囲胸部大動脈瘤破裂の一例（東北血管外科症例検討会）　H24.12.1　青森

皮膚科

診療科長
十一　英子

専門医資格等　日本皮膚科学会皮膚科専門医
京都大学医学博士
京都大学医学部臨床教授
京都皮膚科医会理事
専 門 分 野　皮膚科一般
皮膚免疫
得 意 疾 患　乾癬
糖尿病足病変

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	岡本奈都子	日本皮膚科学会皮膚科専門医	皮膚科一般	
レジデント	嘉山　智子		皮膚科一般	
レジデント	野々村優美		皮膚科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本皮膚科学会専門医研修施設 生物学的製剤使用承認施設

1. 乾癬に対する生物学的製剤による治療を行っています。
2. 糖尿病足病変、基礎疾患を持つ蜂窩織炎、帯状疱疹などの感染症や難治性潰瘍など、総合病院の特色を生かして他科と密に連携して治療しています。
3. 地域の他病院から紹介された診断困難な症例、難治例、重症例なども多く受け入れています。

□ 主な対象疾患

アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、蕁麻疹、乾癬、薬疹、水疱症、皮膚腫瘍、皮膚潰瘍、細菌感染症（ざ瘡、蜂窩織炎、丹毒、伝染性膿痂疹、など）、ウイルス感染症（帯状疱疹、単純疱疹、カポジ水痘様発疹症、尋常性疣贅など）、真菌感染症（足白癬、股部白癬、爪白癬、カンジダ症など）など

□ 診療（業務）内容

糖尿病に合併する皮膚疾患：糖尿病センターとの連携のもと、糖尿病と関連した足病変、皮膚病変の診療を行っています。
乾癬：中等症～重症では、免疫抑制剤や生物製剤の治療を受ける患者さんが増えており、スクリーニング検査をし適応を決め投与しています。
帯状疱疹（ヘルペス）：重症度に応じて、抗ウイルス剤の内服、入院で点滴治療を行っています。
爪白癬：難治な爪の水虫には抗真菌剤の内服治療を行っています。
接触皮膚炎：かぶれの原因検索に、パッチテストを行っています。
薬疹：重症薬疹は入院で治療しています。
診断・治療のために積極的に皮膚生検を行っています。

□ 診療実績（平成24年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
4.4名	74名	21.8日

外来患者数

1日平均患者数
72.4名

主な疾患の件数など

皮膚生検	皮膚切開術	皮膚皮下腫瘍摘出術
279件	100件	136件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演題・演者・学会名
頭部放射線照射後に発症したエクリン汗管癌の一例　志熊恵美, 遠藤雄一郎, 藤澤章弘, 谷岡未樹, 宮地良樹, 十一英子　第111回日本皮膚科学会総会　2012年6月1～3日　京都
皮膚症状が筋症状に先行した、卵巣癌合併の皮膚筋炎の一例　野々村優美, 櫻井謙次, 林雄二郎, 岡本奈都子, 十一英子　第425回日本皮膚科学会京滋地方会　2012年6月23日　京都
皮下結節の生検を契機に診断に至ったIgG4関連疾患の１例　岡本奈都子, 野々村優美, 林雄二郎, 十一英子, 山本鉄郎　第105回近畿皮膚科集談会　2012年7月22　京都
男性の腋窩に生じたmucinous carcinoma of the skinを疑った一例　林雄二郎, 野々村優美, 岡本奈都子, 十一英子, 坂田晋吾　第427回日本皮膚科学会京滋地方会　2012年9月15日　滋賀
Lofgren症候群の１例　野々村優美, 嘉山智子, 林雄二郎, 岡本奈都子, 十一英子　第428回日本皮膚科学会京滋地方会　2012年12月15日　京都
静脈高血圧症により生じた手指の皮膚潰瘍の１例　野々村優美, 嘉山智子, 岡本奈都子, 十一英子　第429回日本皮膚科学会京滋地方会　2013年3月9日京都

□ 投稿論文など

著者・タイトル・著書・雑誌名
辻花光次郎, 鬼頭昭彦, 十一英子　インフリキシマブ投与により掌蹠膿疱症様皮疹と脱毛を生じた例　皮膚病診療　34(5):457-460, 2012
趙玲愛, 鬼頭昭彦, 辻花光次郎, 西村翔, 神田智子, 本田啓吾, 岡村美里, 荒木則雄, 十一英子　顔面と頚部の腫脹から肺癌が判明した上大静脈症候群　皮膚病診療　34(9):839-842, 2012
十一英子　糖尿病足壊疽?本当はコレステリン塞栓症　誤診されている皮膚疾患　384-386　宮地良樹編　メディカルレビュー社　2013 2月

泌尿器科

診療科長
奥野　博

専門医資格等	日本泌尿器科学会専門医・指導医、京都大学臨床教授、関西医科大学臨床教授、日本生殖医学会評議員、日本アンドロロジー学会評議員、日本癌治療認定医、日本臨床腎移植学会腎移植認定医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医、京都大学医学博士
専門分野	泌尿器科一般
得意疾患	前立腺癌 男性学

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	三品　睦輝	日本泌尿器科学会専門医・指導医 日本癌治療認定医 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 京都大学医学博士	泌尿器科一般	膀胱癌 尿路結石症
医　師	増田　憲彦	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	腎泌尿器癌
医　師	眞鍋　由美	日本泌尿器科学会専門医	泌尿器科一般	女性泌尿器科学
医　師	北村　悠樹	日本泌尿器科学会専門医 日本透析学会専門医	泌尿器科一般	腎不全 透析
医　師 (レジデント)	大杉　治之		泌尿器科一般	
医　師 (非常勤)	伊東　晴喜	日本泌尿器科学会専門医・指導医	泌尿器科一般	夜間頻尿

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本泌尿器科学会研修施設

1. 体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術・検査（痛みが少なく入院期間を短く）により患者さんへの負担の軽減を図ります。
2. 最先端医療も積極的に取り入れます。
3. 地域の開業医、診療所、病院と積極的に医療連携を行います。
4. 患者さんの人権を尊重し、安心と満足のいく良質の医療提供を目指します。

□ 主な対象疾患

腎臓癌、膀胱癌、前立腺癌、副腎腫瘍、前立腺肥大症、尿路結石症、過活動膀胱、夜間頻尿、尿失禁、膀胱瘤、骨盤臓器脱、男性不妊症、性機能障害、内分泌障害、尿路感染症、性感染症、小児泌尿器科、腹膜透析、慢性腎不全

□ 診療（業務）内容

・尿路性器悪性腫瘍に対する集学的治療を多部門と連携し積極的に行っている
・体腔鏡、内視鏡をはじめとする低侵襲手術に取り組んでいる
・初診外来担当医は患者さんの入院、手術、退院後の診療を一貫して責任をもって受け持つ

・外来及び入院看護師には排尿機能検査士の取得者を配置し、専門的な医療と看護を提供
・外来診療：火曜、木曜、金曜が３診、月曜、水曜は２診
・手術：月、水、金曜日の週3日間
・火曜日の早朝には外来カンファレンス、夕方からは病理医を招いて臨床病理カンファレンス
・木曜日の早朝から全体回診（医師、看護師長）
・木曜日の朝に放射線科医を招いて放射線画像・放射線治療カンファレンス
・木曜日夕方から薬剤師、看護師を交えた症例カンファレンス
・金曜日早朝には最新の海外文献の抄読会やビデオ供覧会
・平成23年11月〜前立腺肥大症に対し最新の前立腺レーザー内視鏡手術（PVP）を導入

□ 診療実績（平成24年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
22.0名	798名	10.1日

外来患者数

1日平均患者数
76.0名

主な手術・検査の件数など

前立腺全摘	腎摘（腹腔鏡含め）	前立腺肥大症内視鏡手術	膀胱癌内視鏡手術
25件	24件	61件	94件

骨盤臓器脱・尿失禁手術
22件

□ 地域医療連携・広報活動

第16回　内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。「京都市前立腺がん検診が始まりました」2013.03.02（京都・ホテルグランビア京都）

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演者・演題・学会名
奥野　博、増田憲彦、大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝：「当院におけるPVP治療の初期経験」第1回　PVP研究会学術集会　2012.04.24（横浜・ヨコハマグランド・インターコンチネンタルホテル1階パール）
奥野　博：講義「前立腺がんのオーバービュー」第1回京都市前立腺がん検診に係る講習会　2012.07.26（京都・京都府医師会館）
奥野　博：報告「京都市前立腺がん検診が始まります」第21回伏見医師会癌医療連携の会。2012.09.15（京都・メルパルク京都）
奥野　博：スピーチ「京都市前立腺がん検診が始まります」第1913回京都伏見ロータリークラブ例会。2012.09.28（京都・ホテルグランヴィア京都）
奥野　博、増田憲彦、大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝：当院におけるPVP治療の初期経験：医師及び看護師の視点から。第26回日本泌尿器内視鏡学会総会。2012.11.22〜11.24（仙台国際センター）発表2012.11.24
増田憲彦、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：PSA gray zone 症例における経直腸前立腺８箇所生検とfar lateral 領域を追加した経直腸的前立腺12箇所生検との有用性の比較。第100回日本泌尿器科学会総会　2012.04.21-24（発表04.22）（横浜・パシフィコ横浜）
北村悠樹、奥野　博、佐倉雄馬、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、田岡利宜也、寺井章人、筧　善行：ビカルタミド治療中の乳房痛に対するフルタミド変更療法の有用性に関する研究。第100回日本泌尿器科学会総会　2012.04.21-24（発表04.22）（横浜・パシフィコ横浜）
伊東晴喜、増田憲彦、増井　仁彦、北村悠樹、眞鍋由美、三品睦輝、奥野　博：夜間頻尿外来における夜間多尿症例の検討。第100回日本泌尿器科学会総会　2012.04.21-24（発表04.23）（横浜・パシフィコ横浜）
北村悠樹、眞鍋由美、大杉治之、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：ステロイド療法の併用により縮小を認めた進行性腎癌の１例。第234回泌尿器科マンスリーミーティング　2012.07.28（京都・芝欄会館別館）
伊東晴喜、増田憲彦、増井　仁彦、大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、三品睦輝、奥野　博：夜間頻尿外来における夜間多尿症例の予後会席〜患者アンケート追跡調査を踏まえて〜。第19回日本排尿機能学会　2012.08.29-31（名古屋市・名古屋国際会議場）発表2012.08.29
眞鍋由美、大杉治之、北村悠樹、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：蓄尿症状を伴う前立腺肥大症に対するナフトピジルの有用性に関する単施設検討。第19回日本排尿機能学会　2012.08.29-31（名古屋市・名古屋国際会議場）発表2012.08.30
桑原勝孝、野村博之、山口秋人、黒松　功、伊原博之、関　成人、奥野　博、後藤百万、平尾佳彦、内藤誠二「AMS　GreenLight　HPS」を用いた前立腺蒸散術（PVP）の有用性に関する前向き研究。第26回日本泌尿器内視鏡学会総会。2012.11.22〜11.24（仙台国際センター）発表2012.11.23
増田憲彦、佐倉雄馬、大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：前立腺生検前MRI撮影の有用性に関する後向き研究：PSA gray zone 症例における検討。第28回前立腺シンポジウム　2012.12.08〜12.09（発表12.09）（品川・東京コンファレンスセンター）
大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：光選択的前立腺蒸散術（PVP）の治療成績と医療者側のQOL。第31回泌尿器科手術研究会　2013.01.26（京都・ハイアットリージェンシー京都）

増田憲彦、佐倉雄馬、大杉治之、北村悠樹、眞鍋由美、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：二次検診；前立腺生検前MRI撮影の有用性について。第16回内科ー泌尿器科病診連携の会（藤ノ森カンファレンス）。2013.03.02（京都・ホテルグランビア京都）
北村悠樹、大杉治之、眞鍋由美、増田憲彦、伊東晴喜、三品睦輝、奥野　博：前立腺全摘後PSA偽高値を呈した1例。第237回泌尿器科マンスリーミーティング 2013.03.09（京都・メルパルク京都）

□ 投稿論文など

著 者・タイトル・著 書 ・ 雑 誌 名
Nanba K, Tamanaha T, Nakao K, Tsukamoto Kawashima S, Usui T, Tagami T, Okuno H, Shimatsu A, Suzuki T, Naruse M.　Confirmatory testing in primary aldosteronism . J Clin Endocrinol Metab 97: 1688-1694, 2012
Koji YOSHIMURA, Yosuke SHIMIZU, Kimihiro MASUI, Hiroshi OKUNO, Tomohiro UEDA, Takeshi SODA and Osamu OGAWA.　Furosemide versus Gosha-Jinki-Gan, a Blended Herbal Medicine, for Nocturnal Polyuria: A Randomized Crossover Trial.　LUTS 4: 77-81, 2012
Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Nishimoto K, Usui T, Tagami T, Okuno H, Yamamoto T, Shimatsu A, Katabami T, Okumura A, Kawa G, Tanabe A, Naruse M. Histopathological Diagnosis of Primary Aldosteronism Using CYP11B2 Immunohistochemistry. J Clin Endocrinol Metab 98: 1567-1574, 2013
笹橋　望、金子一郎、木幡　繁、別府　賢、中野良太、濱中訓生、吉田浩輔、井上　京、増田憲彦、奥野　博：気腫性膀胱炎の1例。日本臨床救急医学会雑誌別冊　日臨救急会誌（JJSEM）Vol.15, No. 1, 2012
成瀬光栄、難波多挙、立木　美香、中尾佳奈子、玉那覇民子、革嶋幸子、臼井　健、田上哲也、広川　侑奨、黒田昌志、伊藤　剛、奥野　博、島津　章、田辺　晶代：原発性アルドステロン症の診断ガイドラインの現状と課題。日本内分泌・甲状腺外科学会雑誌 29 (2):94-100,2012
増田憲彦、三品睦輝、北村悠樹、眞鍋由美、佐倉雄馬、伊東晴喜、奥野　博：経尿道的開窓術を施行した成人Cowper's　syringocele　の１例。泌尿紀要　58：355-359、2012
大杉治之、増田憲彦、奥野　博：腎瘻の作成と管理。増刊レジデントノート　14（17）：3202（110）-3207（115）、2013　羊土社

産科・婦人科

診療科長
髙倉　賢二

専門医資格等	日本産科婦人科学会専門医 日本婦人科腫瘍学会専門医 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡技術認定医 京都大学医学部臨床教授 三重大学医学部客員教授 関西医科大学臨床教授
専門分野	婦人科腫瘍 産婦人科手術 内分泌疾患の診断治療 不妊症の診断治療

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医療情報部長	北岡　有喜	日本産科婦人科学会専門医・京都大学医学博士	生殖分子生理学・医療情報学・情報システム学	
婦人科医長	徳重　誠	日本産科婦人科学会専門医・日本産婦人科内視鏡学会技術認定医・母体保護法指定医・日本内視鏡外科学会技術認定医	婦人科一般	腹腔鏡下手術
産科医長	山本　紳一	日本産科婦人科学会専門医・母体保護法指定医・京都大学　医学博士	産科一般	周産期
婦人科医長 外来医長	高尾　由美	日本産科婦人科学会専門医・京都大学医学博士	産婦人科一般	婦人科腫瘍
産科医長 産科病棟医長	江川　晴人	日本産科婦人科学会専門医・京都大学　医学博士・日本周産期新生児医学会専門医制度暫定指導医・京都大学　非常勤講師	産婦人科一般	周産期・更年期・腹腔鏡下手術
婦人科病棟医長	関山健太郎	日本産科婦人科学会専門医・婦人科腫瘍専門医	産婦人科一般	婦人科腫瘍・腹腔鏡下手術
医師	伊藤　美幸	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	腹腔鏡下手術・更年期
医師	山西優紀夫	日本産科婦人科学会専門医	産婦人科一般	婦人科腫瘍
専修医	今井更衣子		産婦人科一般	
専修医	上田　優輔		産婦人科一般	
専修医	坂田亜希子		産婦人科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本婦人科腫瘍学会認定施設 日本周産期・新生児医学会 母体・胎児専門医制度研修施設（指定）

～産科～

安全で、妊婦さんひとりひとりが心から満足のいく分娩を、ということが私たちのモットーです。

女性にとって、お産は重要なイベントです。そして、それぞれのお産についての妊産婦さんの考えや要望は年々変化してきています。私たちは、お産の質の向上、および医療者側のお産に対する的確な対応が、ますます

大切なものとなってきていると考えています。
〜婦人科〜

女性の社会進出に伴い、外来治療や低侵襲手術（腹腔鏡手術や腟式手術、小開腹手術）を推進し、早期の社会復帰を目指します。充実した診療スタッフにより、幅広い婦人科疾患に対して対応可能です。特に、婦人科がんに対してハイレベルな診療を行います。

□ 診療（業務）内容

〜産科〜

1. 妊婦健診では、一般的な健診のみならず、病棟助産師が立ち会い、継続して保健指導を行い、生活指導なども適宜行っています。
2. 分娩（出産）は、自然分娩を尊重しながらも、合併症や急変に対しても、小児科（NICU）・内科・麻酔科などとも連携をとり、チームワークで対応します。
3. 産前・産後の母乳ケアを行い、母乳育児をサポートします。
   年間約600例の分娩を取り扱っています。周産期救急搬送（母体搬送）の受け入れ件数は37件で地域の周産期医療にも貢献しています。なによりも安全で安心なお産を提供します。

〜婦人科〜

1. 治療前のインフォームド・コンセントを重視します
   十分な説明を行い、納得いただいたうえで治療を行うことにより、満足の得られる医療を行うことを診療のモットーとしています。また、疾患について画一化された治療を行うのではなく、それぞれの患者さんの身体的・精神的・社会的状況や希望なども十分ふまえたうえで治療方針を決定します。
2. 幅広い婦人科疾患に対応します
   充実した診療スタッフにより、良性疾患から悪性疾患まで幅広い婦人科疾患に対応可能です。
3. 低侵襲手術を行います
   女性の社会進出に伴い、入院期間・自宅療養期間の短縮が求められています。そのような社会のニーズに応えるため、悪性（癌）の疑いの無い腫瘍に対しては、原則として低侵襲手術（腹腔鏡下手術、腟式手術、小開腹手術）を行い、早期の社会復帰を目指します。
4. 悪性腫瘍に対してハイレベルな診療を行います
   京都府のがん診療拠点病院および日本婦人科腫瘍学会認定施設に指定されており、悪性腫瘍に対する診療経験が豊富にあります。常に最新の情報に基づいて、他科と連携してハイレベルな治療を行います。子宮頚癌に対する神経温存広汎性子宮全摘術に関しては2007年から先駆けて行っています。卵巣癌、子宮体癌に対しても、傍大動脈リンパ節郭清までの必要十分な手術を行う一方で、緻密な出血量の少ない手術操作により術後合併症を回避し、術後早期回復をはかります。リンパ浮腫専門外来を擁し、退院後のQOLにも配慮した診療を行います。
5. 更年期からの健康管理を推進します
   直面する超高齢化社会においては、元気な老後を迎えられるよう更年期（50歳前後）からの健康管理がますます重要となります。女性特有の健康変化に対応するため、新たに更年期・骨粗鬆症外来を開設し、更年期からの健康管理を推進します。

□ 診療実績(平成24年度)

産科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
16.4名	681名	8.8日

産科外来患者数

1日平均患者数
17.3名

婦人科入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
23.8名	923名	9.4日

婦人科外来患者数

1日平均患者数
55.8名

主な手術・検査の件数など

分娩件数	帝王切開件数	婦人科開腹手術	悪性腫瘍手術
597件	225件	226件	64件

腹腔鏡下手術	膣式手術
91件	171件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	学会名・演題・演者
国内学会	第12回近畿産婦人科内視鏡手術研究会「妊娠中の破裂により臓側腹膜に固定された成熟嚢胞性奇形腫の１例」上田優輔、徳重誠、関山健太郎、坂田亜希子、今井更衣子、山西優紀夫、江川晴人、高尾由美、北岡有喜、山本伸一、高倉賢二. 2012年2月5日. 大阪市
国内学会	第126回近畿産科婦人科学会学術集会「Cushing症候群合併妊娠の一症例」今井更衣子、坂田亜希子、上田優輔、山西優紀夫、関山健太郎、江川晴人、高尾由美、山本紳一、北岡有喜、徳重誠、髙倉賢二、(難波多挙)、(垣田真以子). 2012年6月16日. 大阪市
国内学会	第21回京都糖尿病医会学術講演会「妊娠糖尿病治療の標準化と胎内環境コホートに関する研究」上田優輔、山本紳一、(坂根直樹)、坂田亜希子、今井更衣子、山西優紀夫、伊藤美幸、関山健太郎、江川晴人、高尾由美、北岡有喜、徳重誠、(山田和範)、髙倉賢二. 2012年6月30日. 京都市
国内学会	第13回JSAWI(Japanese Society for the Advancement of Women's Imaging)　2012「成熟嚢胞性奇形腫の悪性転化においてPET-CTが診断に有用であった一例」今井更衣子、関山健太郎、坂田亜希子、上田優輔、山西優紀夫、伊藤美幸、江川晴人、高尾由美、山本紳一、北岡有喜、徳重誠、髙倉賢二. 2012年9月21日. 淡路市
国際学会	IGCS(International Gynecologic Cancer Society) 2012, Vancouver, Young Doctor's Summit, Training and Career Development(panel discussion)Sekiyama K.
国内学会	京都産科婦人科学会平成24年度学術集会「プレクリーゼで紹介となったバセドウ病合併妊娠の1例」坂田亜希子、関山健太郎、今井更衣子、上田優輔、山西優紀夫、伊藤美幸、江川晴人、高尾由美、山本紳一、北岡有喜、徳重誠、髙倉賢二. 2012年10月21日. 京都市
国内学会	京都周産期カンファレンス「意識消失発作と胎児機能不全から診断された胃癌合併妊娠の１例」上田優輔、江川晴人、坂田亜希子、今井更衣子、山西優紀夫、伊藤美幸、関山健太郎、高尾由美、山本紳一、北岡有喜、徳重誠、髙倉賢二. 2012年10月27日. 京都市

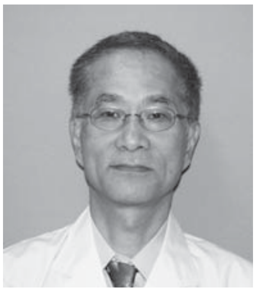
□ 投稿論文など

タイトル・著書・雑誌名・著者	
Pathology-Reseach and Practice	Peutz-Jeghers syndrome-associated atypical mucinous proliferation of the uterine cervix: A case of minimal deviation adenocarcinoma('adenoma malignum')in situ, Pathology-Reseach and Practice 208(2012)623-627,Miyuki Ito,Sachiko Minamiguchi, Yoshiki Mikami, Yusuke Ueda, Kentaro Sekiyama, Tetsuro Yamamoto, Kenji Takakura
日本臨床	Ⅳ卵巣がん　10. 卵巣がんの治療　2) 外科治療　e.後腹膜リンパ節郭清術.　日本臨床 70(臨時増刊4：婦人科がん最近の研究動向):581-588, 2012. 髙倉賢二
がん患者ケア	婦人科がん治療の副作用と対策、がん患者ケア、Vol.6 No3、2013年、1・2月号、p35-42.. 関山健太郎、山西優紀夫、高尾由美、江川晴人、髙倉賢二
治療薬ハンドブック2013	治療薬ハンドブック2013、44、女性生殖器用薬（総説）p765-768. 関山健太郎

緩和ケア科

専 門 分 野　緩和ケア

診療科長
（緩和ケア外科）
土屋　宣之



専 門 分 野　緩和ケア

診療科長
（緩和ケア内科）
久保　速三

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本緩和医療学会

□ 主な対象疾患

癌一般

□ 診療（業務）内容

1. 与えられた構造の中で環境整備ー視覚（照明、花木）、聴覚（院内放送の個室内制限）などー
2. 利用者の価値観や生き方を尊重するためにことさら根気と丁寧さを要するケア、自立性を奪われていく困難と苦痛の中で行われるケア
3. 上記のような場を提供・俯瞰、特殊な感情労働に従事するケアスタッフへの目配り
4. 場の提供に続いてそこで有意義な時間空間を作る力を持った利用者や家族の選択のために入棟の適応の可否を判定員会で議論検討する。
5. 目的としてでなく手段としての症状緩和、薬剤による対処療法の役割は限定的である。たとえ症状緩和に成功しなくとも生きる場所を提供できる可能性もある。自宅に遠く及ばなくとも、多職種による行事企画や音楽療法、食事への気配り、家人への配慮を通してかけがえない時間を過ごす場を作りうる。あくまで我々は触媒でしかないのだが。
6. 在宅への橋渡し、レスパイト入院への門戸開放
7. 遺族への配慮：訪問遺族の傾聴に時間をかける他に遺族会、遺族への書状を通して継続的な関わりを試みる
8. 緩和ケアチームを中心とした、一般病棟、地域医療への貢献

□ 診療実績(平成24年度)

緩和ケア内科・入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
11.6名	23名	59.6日

外来患者数

1日平均患者数
0.6名

緩和ケア外科・入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
7.7名	61名	39.0日

外来患者数

1日平均患者数
3.9名

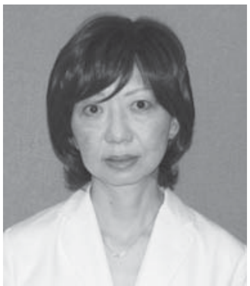
□ 診療（業務）内容

PEACE緩和ケア研修会　H24.11.10-11.11

第22回がん医療病診連携の会　H24.12.1

癒しの歌声　村松敏之氏によるボランティアコンサート　H25.2.11

眼科



診療科長
喜多　美穂里

専門医資格等	京都大学臨床教授 京都大学非常勤講師 京都大学医学博士 日本眼科学会指導医・日本眼科学会専門医 ＰＤＴ認定医 Ｂｅｓｔ　Ｄｏｃｔｏｒｓ　2012-2013
専門分野	網膜硝子体疾患 内視鏡併用硝子体手術
得意疾患	網膜剥離 糖尿病網膜症

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	濵　祥代	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　師	川越　直顕	日本眼科学会専門医	眼科一般	
医　師	藤井友起子		眼科一般	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本眼科学会研修施設

・2012年4月、科長交代により、手術機器を新規整備し、網膜硝子体手術を本格始動いたしました。
・当院眼科は、白内障手術を多く手掛けること、網膜硝子体疾患に強いことが特長です。
・最新硝子体・白内障手術装置、広角観察システム、眼内シャンデリア照明、眼内内視鏡を用いた小切開硝子体手術で、糖尿病網膜症・網膜剥離・増殖硝子体網膜症などの高難度の網膜硝子体疾患の治療を行っています。
・2012年4月より新しく保険収載となった眼内内視鏡硝子体手術を積極的に行っています。内視鏡手術では、国内外で先駆的な役割を果たしています。
・眼科全般に、高度で最新の医療を提供します。
・新しい治療方法・手術機器の開発や、手術成績などに関して、国内外に情報を発信し、他施設との連携を密に行い、毎日の診療の場に還元できるように努力しています。
・糖尿病網膜症：当院がWHO指定の糖尿病センターであることもあり、当院糖尿病センター・内分泌代謝疾患センターと連携して、糖尿病患者さんの網膜症診療を担当しています。病気の進行を定期的にチェックし、必要に応じて、レーザーによる網膜光凝固術や、合併症である白内障や糖尿病網膜症に対し、手術治療を行います。
・未熟児網膜症：NICUを有する当院小児科と連携して、未熟児の重篤な合併症である網膜症に対し、赤ちゃんの視力を守るための検査・治療を行います。

□ 主な対象疾患

・網膜剥離・増殖硝子体網膜症・糖尿病網膜症・黄斑円孔・黄斑上膜・黄斑浮腫・加齢黄斑変性などの網膜硝子体疾患
・白内障全般、緑内障全般
・感染症および非感染性ぶどう膜炎・眼内炎・角膜炎、視神経疾患

・眼瞼内反症・外反症・眼瞼下垂症・霰粒腫などの外眼部疾患
・結膜弛緩症・翼状片など各結膜疾患、鼻涙管閉塞症など

□ 診療（業務）内容

1. “見える”というゴールを目標に、全身の一部としての眼科治療をめざします
   眼科的疾患のほかにも様々な全身疾患を併せ持つ患者さんにも、手術をはじめ、様々な治療を安全に効率良く提供し、より良い視力の 獲得にむけて努力しています。
2. 地域医療の一翼として、開業医や他病院の先生方と協力し、より良い医療の提供をめざします
   さまざまな医療資源を備える総合病院として、ホームドクターの先生との連携のもと、より高度な医療の提供に努力しています。内視鏡硝子体手術をはじめとする先進的医療の実践に努めます。
3. メディカルスタッフ一丸となって、安心で確かな医療を実践します
   医師、看護師、視機能訓練士、メディカルクラーク等のチームワークを大切に、各々の職種が全力で日々切磋琢磨し、安心して確かな医療を受けていただけるように努力しています。

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

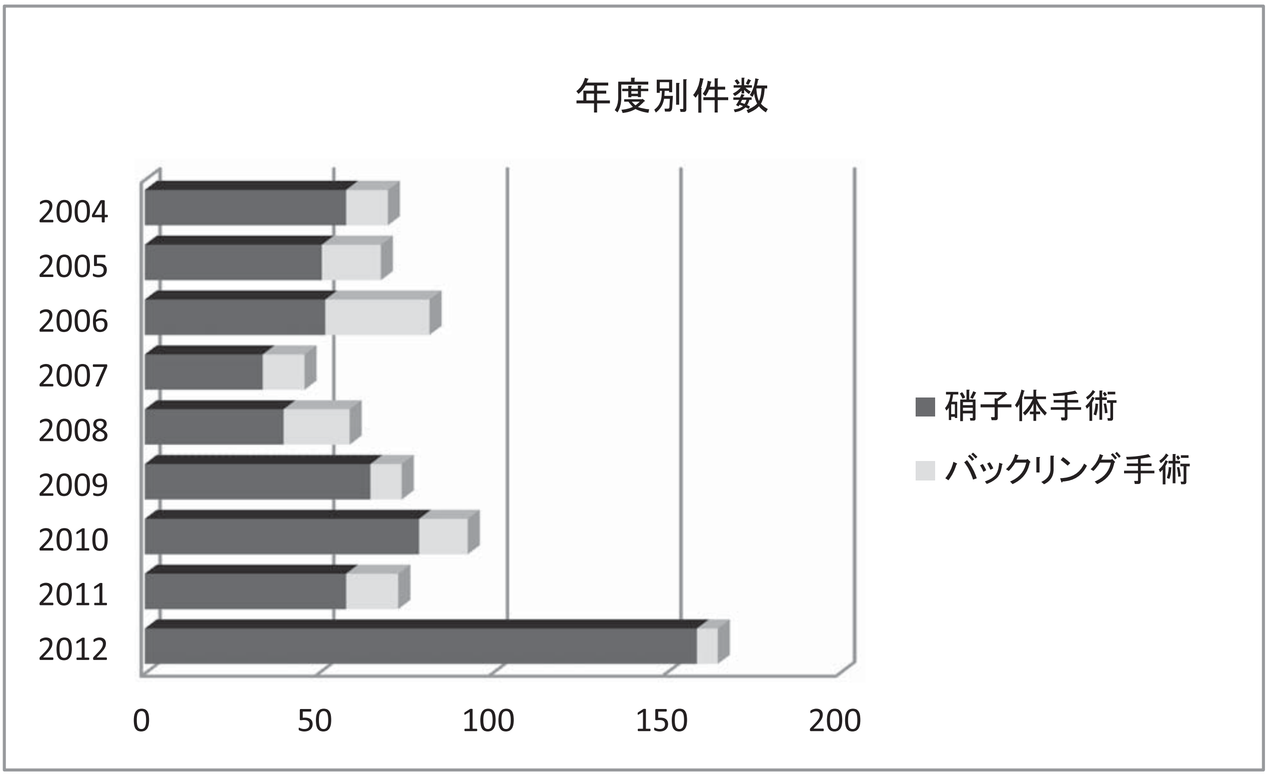
1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
14.6名	711名	7.6日

外来患者数

1日平均患者数
66.7名

主な疾患の件数など

水晶体再建術	硝子体手術	バックリング手術	緑内障手術	手術件数合計
989件	159件	6件	1件	1,061件



□ 地域医療連携・広報活動

・喜多美穂里：眼科診療最前線！「小切開硝子体手術」：糖尿病センターだより　5:2、2012
・喜多美穂里：眼科診療最前線！「眼の中をどうやってのぞきこんで手術しているのか」：糖尿病センターだより6:1、2013
・喜多美穂里：眼科診療最前線！「小さな内視鏡を使ってあなたの眼の中を見る」:糖尿病センターだより6:2、2013

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学 会 名
国際学会	Akio Oishi, Hiroshi Kojima, Michiko Mandai, Shigeru Honda, Toshiyuki Matsuoka, Hideyasu Oh, Mihori Kita, Tomoko Nagai, Mamoru Uenishi, Yasuo Kurimoto, Akira Negi, MD, PhD	Comparison of ranibizumab (Lucentis) And Photodynamic Therapy On Polypoidal choroidal vasculopathy (LAPTOP study)	American Academy Ophthalmology, Orlando, USA , 2012/11/ 10-13
国内学会	喜多美穂里	黄斑浮腫の病態	第56回日本眼科学会専門医制度講習会、2012/4/7、東京
国内学会	喜多美穂里	眼内観察系のアップデート（シンポジウム）	第66回日本臨床眼科学会、2012/10/25-28、京都市
国内学会	喜多美穂里, 栗山晶治, 日下俊次, 木村英也, 斉藤喜博, 塚原康友, 安原徹, 池田恒彦	網膜剥離ファイトクラブ（インストラクションコース）	第66回日本臨床眼科学会、2012/10/25-28、京都市
国内学会	綾木雅彦、福山絵里子、喜多美穂里、安藤伸朗	もっと医療コニュニケーション（インストラクションコース）	第66回日本臨床眼科学会、2012/10/25-28、京都市
国内学会	喜多美穂里（オーガナイザー）、堀尾直市、鈴間潔、廣田和成、高橋宏和、藤川亜月茶、國田大輔	網膜硝子体手術教育—指導する側、される側—（インストラクションコース）	第36回日本眼科手術学会総会、2013/1/25-27、博多市
国内学会	小嶌洋史、万代道子、大石明生、栗本康夫、本田茂、根木昭、松岡俊行、王英泰、喜多美穂里、長井知子、藤原雅史、上西衛	ポリープ状脈絡膜血管症に対する光線力学療法とラニビズマブの比較—LAPTOP study—	第51回日本網膜硝子体学会、2012/11/30-2、甲府市
国内学会	千原智之、廣瀬美央、内海隆生、河本良輔、平島崇史、文俊貴、喜多美穂里、王英泰	黄斑浮腫を伴う滲出性毛細血管瘤に対するＰＡＳＣＡＬによる直接凝固の成績	第51回日本網膜硝子体学会、2012/11/30-2、甲府市
国内学会	喜多美穂里	網膜硝子体「黄斑手術」（座長）	第65回日本眼科手術学会総会、2013/1/25-27、博多市
国内学会	喜多美穂里	こんな時には内視鏡.（特別講演）	第4回東海内視鏡硝子体手術研究会、2012/6/12、名古屋市
国内学会	喜多美穂里	眼外傷.（特別講演）	第22回New-VitQの会、2012/6/9、小倉市
国内学会	喜多美穂里、木村英也、日下俊次、栗山晶治、斉藤喜博、塚原康友、安原徹	次世代ファイターを育てる一今伝えたいことー.（パネリスト）	第16回Neo Surgeon Fight Club、2012/7/5、大阪市
国内学会	喜多美穂里	糖尿病網膜症　治療最前線！（特別講演）	第4回日本眼科看護研究会地方分科会、2012/7/16、神戸市
国内学会	喜多美穂里	今どきの眼内観察系はここまで進歩した！（特別講演）	第22回サロンド広島、2012/8/25、広島市
国内学会	喜多美穂里	Constellationの実力　内視鏡は見た！（特別講演）	コンステレーション　エリアセミナー大阪、2012/9/15、大阪市
国内学会	喜多美穂里	網膜硝子体手術ＳＯＳ（特別講演）	第41回ＲＥＴＩＮＡの会、2012/10/26、京都市
国内学会	喜多美穂里	内視鏡手術（パネリスト）	第3回VrTec研究会、2012/1/25、博多市
国内学会	喜多美穂里、藤井友起子、川越直顕、濵祥代	広角観察システムを用いた強膜バックリング手術	京大眼科同窓会学会、2012/11/4、京都市
国内学会	喜多美穂里、渡部大介	裂孔原性網膜剥離	おもしろ看護眼科学、2013/1/24、横浜市
国内学会	喜多美穂里、渡部大介	ぶどう膜炎	おもしろ看護眼科学、2013/1/24、横浜市
国内学会	喜多美穂里、渡部大介	加齢黄斑変異	おもしろ看護眼科学、2013/1/24、横浜市
国内学会	喜多美穂里、渡部大介	これから	おもしろ看護眼科学、2013/1/24、横浜市
国内学会	渡部大介、喜多美穂里	なぜものが見えるか	おもしろ看護眼科学、2013/1/24、横浜市
国内学会	渡部大介、喜多美穂里	白内障	おもしろ看護眼科学、2013/1/24、横浜市
国内学会	渡部大介、喜多美穂里	糖尿病網膜症	おもしろ看護眼科学、2013/1/24、横浜市

国内学会	渡部大介、喜多美穂里	緑内障	おもしろ看護眼科学、2013/1/24、横浜市
国内学会	喜多美穂里	内視鏡硝子体手術	京都医療センター医局会ミニセミナー、2012/6/15、京都市
国内学会	喜多美穂里	Education部門Gold Award 眼内内視鏡の使い方	Film Award Web Seminar、2012/7/26、京都市

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
Clin Ophthalmol 6: 277-282, 2012	Saya Nakano, Shigeru Honda, Hideyasu Oh, Mihori Kita, Akira Negi: Effect of photodynamic therapy (PDT), posterior sutenon injection of triamcinolone acetonide with PDT, and intravitreal injection of ranibizumab with PDT for retinal angiomatous proliferation.
Jpn J Ophthalmol 56:613-6, 2012	Shin Yoshitake, Hideyasu Oh, Mihori Kita: Endoscope-assisted vitrectomy for retinal detachment in an eye with microcornea.
Jpn J Ophthalmol 56:250-261, 2012	Seiyo Harino, Kenichiro Bessho, Teruyo Kida: Prospective multicenter study of visual outcomes following three different treatments fir macular edema associated with branch retinalvein occlusion: a study by the Japanese BRVO study group.
Clin Ophthalmol 7:353-355, 2013	Tomoyuki Chihara, Mihori Kita：A new tipe of anti-drying lens for vitreous surgery with a noncontact wide-angle viewing system.
Clin Ophthalmol 7:587-589, 2013	Mihori Kita, Yukiko Fujii, Naoaki Kawagoe, Sachiyo Hama： Scleral buckling with a noncontact wide-angle viewing system in the management of retinal detachment with undetected retinal break: a case report.
眼手術学7網膜・硝子体Ⅰ. 12-17、2012、文光堂	喜多美穂里：眼底観察と眼底チャート作成. 大鹿哲郎監修、小椋祐一郎、門之園一明編集.
眼手術学7網膜・硝子体Ⅰ. 261-267、2012、文光堂	喜多美穂里：内視鏡による手術手技. 大鹿哲郎監修、小椋祐一郎、門之園一明編集.
今日の治療指針. 1270-1272、2013医学書院	喜多美穂里：眼外傷. 山口徹、北原光夫、福井次矢総編集.
臨床眼科 66：1659-1663、2012	吉武信、西村宗作、吉田朋代、箔本潤子、王英泰、松岡俊行、喜多美穂里：網膜動脈閉塞症を発症し治療開始された Churk-Strauss症候群の１例.
臨床眼科 66：587, 2012	山本素士、王英泰、喜多美穂里、寺崎浩子: 硝子体手術後（糖尿病網膜症）の硝子体内フィブリン析出.
臨床眼科 67: 41, 2013	山本素士、王英泰、喜多美穂里: MEWDS.
臨床神経53：37－40、2013	太田雅彦、米田行宏、喜多美穂里、市川桂二、影山恭史: クレブシエラ肺炎桿菌による敗血症・髄膜脳炎に難治性眼内炎が併発した1例.
臨床眼科66：402-408、2012	喜多美穂里、木村英也、日下俊次、栗山晶治、斉藤喜博、塚原康友、安原徹：外傷性巨大裂孔網膜剥離. 網膜剥離ファイトクラブround6
臨床眼科66：590-596、2012	喜多美穂里、木村英也、日下俊次、栗山晶治、斉藤喜博、塚原康友、安原徹：外傷性硝子体出血？. 網膜剥離ファイトクラブround7
臨床眼科66：786-792、2012	喜多美穂里、木村英也、日下俊次、栗山晶治、斉藤喜博、塚原康友、安原徹：多発性強角膜裂傷眼の網膜剥離. 網膜剥離ファイトクラブround8
臨床眼科66：958-968、2012	喜多美穂里、木村英也、日下俊次、栗山晶治、斉藤喜博、塚原康友、安原徹：強度近視黄斑円孔網膜剥離. 網膜剥離ファイトクラブround9
臨床眼科66：1120-1127、2012	喜多美穂里、木村英也、日下俊次、栗山晶治、斉藤喜博、塚原康友、安原徹：バックリング手術後の複視、流涙. 網膜剥離ファイトクラブround10
臨床眼科66：1290-1298、2012	喜多美穂里、木村英也、日下俊次、栗山晶治、斉藤喜博、塚原康友、安原徹：脈絡膜剥離を伴った網膜剥離. 網膜剥離ファイトクラブround11
臨床眼科66：1450-1459、2012	喜多美穂里、木村英也、日下俊次、栗山晶治、斉藤喜博、塚原康友、安原徹：次世代術者の教育―いま伝えたいこと その１. 網膜剥離ファイトクラブround12
臨床眼科66：1623-1632、2012	喜多美穂里、木村英也、日下俊次、栗山晶治、斉藤喜博、塚原康友、安原徹：次世代術者の教育―いま伝えたいこと その2. 網膜剥離ファイトクラブthe final round
眼科グラフィック 1:52-56、2013	喜多美穂里：術式選択のための裂孔原性網膜剥離の分類.
臨床眼科67：121-126、2013	喜多美穂里：網膜下液の貯留と吸収. 中心性漿液性脈絡網膜症の病態と治療.
メディカルフォトニクス 11: 50-53, 2012	山本素士、王英泰、喜多美穂里： Medical instruments report 眼底撮影機器～主に眼底カメラについて～.

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

No Image

専門医資格等
日本耳鼻咽喉科専門医
京都大学医学博士
京都大学医学部臨床教授
日本耳鼻咽喉科学会代議員
得意疾患
耳疾患、頭頸部腫瘍

診療科長
（耳鼻咽喉科）
辻　純

専門医資格等
日本耳鼻咽喉科専門医
頭頸部がん専門医
内分泌・甲状腺外科専門医
気管食道科専門医
日本がん治療認定医
専門分野
頭頸部外科
得意疾患
頭頸部癌・甲状腺癌

診療科長
（頭頸部外科）
安里　亮

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	渡邉　佳紀	日本耳鼻咽喉科学会専門医 日本がん治療認定医	耳鼻咽喉科一般	
医　　師	辻村　隆司	日本耳鼻咽喉科学会専門医	耳鼻咽喉科一般、鼻副鼻腔疾患	
医　　師	神田　智子	日本耳鼻咽喉科専門医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	頭頸部外科
医　　師	本多　啓吾	日本耳鼻咽喉科専門医 頭頸部がん専門医 日本がん治療認定医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	頭頸部癌・甲状腺癌
医　　師	森　　祐輔	日本耳鼻咽喉科専門医	耳鼻咽喉科・頭頸部外科一般	甲状腺外科

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医研修施設 内分泌・甲状腺外科専門医制度認定施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医制度専門医研修施設

1. 伝音再建を中心とした中耳疾患手術
2. 頭頸部進行癌に対する拡大手術を中心とした集学的治療による治癒率向上
3. 頭頸部癌による低侵襲手術の開発によるQOL向上
4. QOLを考慮した甲状腺手術
5. 頭頸部・甲状腺外科執刀医養成のシステム
6. スタッフ全員による入院患者の診断・治療
7. 中耳・頭蓋底手術セミナーへ講師として参加

□ 主な対象疾患

・真珠腫性中耳炎・慢性中耳炎
・頭頸部癌（口腔癌：舌癌・歯肉癌・頬粘膜癌・口腔底癌、咽頭癌、喉頭癌、鼻・副鼻腔癌：上顎洞癌・篩骨同癌、耳下腺癌・顎下腺癌など）
・甲状腺癌・甲状腺良性腫瘍・副甲状腺腫瘍・バセドウ病（手術）
・頭頸部良性腫瘍・頭蓋底進展腫瘍・咽頭表在癌

□ 診療（業務）内容

耳鼻咽喉科と頭頸部外科はともに外来・病棟・手術を行っている（手術数などは両科合同）。一般的な頭頸部癌・甲状腺癌の治療はもとより進行癌の治療も積極的に行い根治治療を目指しており、再建を要する頭頸部進行癌や縦隔浸潤する甲状腺癌・頭蓋底に進展する頭頸部腫瘍は関西一円はもとより関東・中国地方などからも治療をうけにこられている。また、低侵襲手術としての口腔癌に対するPGAシート被覆法を開発し、学会などで積極的に発表し標準治療としての普及を図っている。さらに経口的な咽頭がんの切除により、QOLを保った治療も積極的に行っており、これらも関西以外からも手術を希望されて当科に紹介される場合が多い。

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
30.9名	578名	19.5日

外来患者数

1日平均患者数
64.1名

主な検査の件数など

頭頸部癌手術	甲状腺癌手術	甲状腺・副甲状腺良性手術	頭頸部良性手術
86件	53件	48件	47件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学 会 名
研究会	森　祐輔	咽喉食摘後のペリカン空腸に対する嚥下改善手術例	第25回 近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会　2012/4/14　大阪
国内学会	辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	Combined approachによる一塊切除を行った鼻腔未分化癌の1例	第74回耳鼻咽喉科臨床学会　2012/7/5-6　東京
国内学会	森　祐輔・辻村隆司・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	甲状腺乳頭癌リンパ節転移症例における穿刺液中サイログロブリン測定の有用性	第74回耳鼻咽喉科臨床学会　2012/7/5-6　東京
国内学会	渡邉佳紀	G-CSF産生顎下腺扁平上皮癌例	第74回耳鼻咽喉科臨床学会　2012/7/5-6　東京
研究会	本多啓吾	頸神経叢を温存した頸部郭清	第20回京都耳鼻咽喉科研究会　2012/4/7　京都
研究会	渡邉佳紀	先端可動型硬性内視鏡を用いた内視鏡下経口的手術：E-TOS(Endoscopic transoral surgery)	第20回京都耳鼻咽喉科研究会　2012/4/7　京都
研究会	辻村隆司	TPF療法による導入化学療法の検討	第20回京都耳鼻咽喉科研究会　2012/4/7　京都
国内学会	安里　亮・本多啓吾・辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・神田智子・辻　純	口腔咽頭進行がん切除後におけるＰＧＡシート＋フィブリン糊スプレー被覆法の工夫	第３６回頭頸部癌学会　2012/6/7-8　島根
国内学会	本多啓吾・安里　亮・辻　純・神田智子・渡邉佳紀・森　祐輔・辻村隆司	頸神経叢を温存した頸部郭清	第３６回頭頸部癌学会　2012/6/7-8　島根
国内学会	渡邉佳紀・辻村隆司・森　祐輔・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	先端可動型硬性内視鏡を用いた内視鏡下経口的手術：E-TOS(Endoscopic transoral surgery)	第３６回頭頸部癌学会　2012/6/7-8　島根
国内学会	辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	TPF 療法による導入化学療法の検討	第３６回頭頸部癌学会　2012/6/7-8　島根
国内学会	本多啓吾・安里　亮	側頭下か悪性腫瘍切除後再発に対する救済手術例	第３６回頭頸部癌学会　2012/6/7-8　島根
研究会	辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	Combined approachによる一塊切除を行った鼻腔未分化癌の1例	第112回日耳鼻京滋合同地方部会　2012/6/23　京都
研究会	森　祐輔・辻村隆司・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	甲状腺乳頭癌リンパ節転移症例における穿刺液中サイログロブリン測定の有用性	第112回日耳鼻京滋合同地方部会　2012/6/23　京都
研究会	渡邉佳紀・辻村隆司・森　祐輔・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	G-CSF産生顎下腺扁平上皮癌例	第112回日耳鼻京滋合同地方部会　2012/6/23　京都
研究会	本多啓吾・辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・神田智子・安里　亮・辻　純	咽喉食摘・遊離空腸症例の検討	第112回日耳鼻京滋合同地方部会　2012/6/23　京都
国内学会	辻村隆司・安里 亮,辻　純,神田 智子,本多 啓吾,渡邉佳紀,森 祐輔	Combined approach による一塊切除を行った鼻腔未分化癌の１例	第74回耳鼻咽喉科臨床学会　2012/7/5-6　東京
国内学会	森　祐輔・辻村隆司・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	甲状腺乳頭癌リンパ節転移症例における穿刺液中サイログロブリン測定の有用性	第74回耳鼻咽喉科臨床学会　2012/7/5-6　東京

国内学会	渡邉佳紀・安里 亮,辻　純,神田 智子,本多 啓吾,森 祐輔,辻村 隆司	G-CSF 産生顎下腺扁平上皮癌例	第74回耳鼻咽喉科臨床学会 2012/7/5-6　東京
研 究 会	本多啓吾	下咽頭がん術後遊離空腸全壊死例	第26回 近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会　2012/10/27
研 究 会	安里　亮	経口的咽喉頭手術	第26回 近畿耳鼻咽喉科手術手技研究会　2012/10/27
国内学会	本多啓吾・辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・神田智子・安里　亮・辻　純	術前声帯麻痺のない甲状腺分化癌反回神経浸潤の検討	第45回日本甲状腺外科学会 2012/10/4-5　横浜
国内学会	森　祐輔・辻村隆司・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	甲状腺狭部乳頭癌の検討	第45回日本甲状腺外科学会 2012/10/4-5　横浜
研 究 会	本多啓吾・辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・神田智子・安里　亮・辻　純	当科における終末期頭頸部癌患者の臨床像	第113回日耳鼻京滋合同地方部会　2012/12/15　滋賀
研 究 会	渡邉佳紀・辻村隆司・森　祐輔・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	Mohs軟膏を用いた頭頸部自壊腫瘍の制御	第113回日耳鼻京滋合同地方部会　2012/12/15　滋賀
研 究 会	森　祐輔・辻村隆司・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	甲状腺峡部乳頭がんの検討	第113回日耳鼻京滋合同地方部会　2012/12/15　滋賀
研 究 会	安里　亮・辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・辻　純	局所進行口腔癌切除後の非再建例におけるMCFP法	第113回日耳鼻京滋合同地方部会　2012/12/15　滋賀
国内学会	森　祐輔・辻村隆司・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純		第５５回日本甲状腺学会 2012/11/29-12/1　福岡
国内学会	渡邉佳紀・辻村隆司・森　祐輔・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	先端可動型硬性内視鏡を用いた頭頸部癌経口的手術 E-TOS(Endoscopic transoral surgery)	第66回国立病院総合医学会 2012/11/16-17　神戸
国内学会	渡邉佳紀・辻村隆司・森　祐輔・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	Mohs 軟膏を用いた頭頸部自壊腫瘍の制御	第66回国立病院総合医学会 2012/11/16-17　神戸
国内学会	渡邉佳紀・辻村隆司・森　祐輔・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	QOL 改善手術が奏功した中咽頭進行癌例	第66回国立病院総合医学会 2012/11/16-17　神戸
国内学会	森　祐輔・辻村隆司・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	甲状腺分化癌における外側区域リンパ節転移の臨床診断	第66回国立病院総合医学会 2012/11/16-17　神戸
国内学会	安里　亮・辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾、神田智子・辻　純	口腔癌手術におけるMCFP法	第66回国立病院総合医学会 2012/11/16-17　神戸
国内学会	辻村隆司・森　祐輔・渡邉佳紀・本多啓吾・神田智子・安里　亮・辻　純	内視鏡下鼻内手術後における鼻内パッキング材としての銀含有ハイドロファイバーの使用経験	第66回国立病院総合医学会 2012/11/16-17　神戸
国内学会	辻村隆司	内視鏡下鼻内手術後における鼻内パッキング材としての銀含有ハイドロファイバーの使用経験	第５１回日本鼻科学会 2012/9/27-29　千葉
国内学会	安里　亮・本多 啓吾・辻村 隆司 ・森 祐輔・渡邉 佳紀・神田 智子・辻 純	咽頭癌切除後に対する MCFP 法	第６４回気管食道科学会 2012/11/8-9　東京
国内学会	本多啓吾・安里 亮・辻 純 ・神田 智子・渡邉 佳紀・森 祐輔・ 辻村 隆司	咽喉食摘・遊離空腸再建の術後経過	第６４回気管食道科学会 2012/11/8-9　東京
研 究 会	本多啓吾	頭頸部癌頸部郭清郭清内再発例の検討	第21回京都耳鼻咽喉科研究会 2012/12/8　京都
研 究 会	渡邉佳紀	内視鏡下経口手術 (E-TOS:Endoscopic transoral surgery)を施行した下咽頭MALTリンパ腫例	第20回京都耳鼻咽喉科研究会 2012/4/7　京都

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著　者	タイトル	巻・ページ
Endocrine Journal	Kazutaka Nanba, Takeshi Usui, Sachiko Minamiguchi, Yusuke Mori, Yoshiki Watanabe, Keigo Honda, Ryo Asato, Kanako Nakao, Sachiko-Tsukamoto Kawashima, Akiko Yuno, Tamiko Tamanaha, Tetsuya Tagami, Mitsuhide Naruse, Yuichi Akiyama, and Akira Shimatsu	Two rare TSH receptor amino acid substitutions in toxic thyroid adenomas	vol.59 No1 13-19 2012
Auris Nasus Larynx	Keigo Honda *, Ryo Asato, Jun Tsuji, Tomoko Kanda, Yoshiki Watanabe, Yusuke Mori, Takashi Tsujimura	Pyogenic spondylodiscitis after transoral surgery for oropharyngeal cancer	2012
頭頸部外科	渡邉佳紀、安里　亮、辻　純、神田　智子、本多啓吾、森　祐輔、辻村隆司	下顎軟骨肉腫例	vol.22 No.2 173-179 2012
耳鼻臨床	渡邉佳紀、辻　純、安里　亮、神田　智子、本多啓吾、森　祐輔、牛呂幸司	喉頭蓋木村氏病例	vol.105 No.7 667-674 2012

耳鼻臨床	渡邉佳紀、辻　純、安里　亮、神田　智子、本多啓吾、森祐輔、牛呂幸司	両側顎下腺無形成例	vol.105 No.3 261-266 2012
頭頸部癌	渡邉佳紀、安里　亮、辻　純、神田　智子、本多啓吾、森祐輔、辻村隆司	下顎血管肉腫の1例	vol.38 No.3 408-414 2012
頭頸部外科	本多啓吾、安里　亮、辻　純、神田　智子、渡邉佳紀、森祐輔、辻村隆司	頸部郭清における頸神経温存の腫瘍学的安全性	vol.22 No3 339-343 2012
頭頸部癌	本多啓吾、安里　亮、辻　純、神田　智子、渡邉佳紀、森祐輔、辻村隆司	頭頸部進行癌術後創部合併症の予測因子	vol.38 No.1 101-105 2012

麻酔科

診療科長
七野　力

専門医資格等　厚労省標榜医
日本麻酔科学会指導医・専門医
日本集中治療学会専門医

専 門 分 野　麻酔管理一般、集中治療、心臓血管外科麻酔

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　長	平方　秀男	厚労省標榜医 日本麻酔科学会指導医・専門医	麻酔管理一般	
医　　長	石井　久成	厚労省標榜医 日本心臓血管麻酔学会専門医 日本麻酔科学会指導医・専門医	麻酔管理一般、心臓血管外科麻酔	
医　　師	杉本　亮大	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般、心臓血管外科麻酔	
医　　師	嵯峨　慶子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般、集中治療	
医　　師	築山　裕子	厚労省標榜医 日本麻酔科学会専門医	麻酔管理一般	
医　　師	原　祐介	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
医　　師	原　りさ	厚労省標榜医 日本麻酔科学会認定医	麻酔管理一般	
専 修 医	堤　貴彦			
専 修 医	子安　聡子			
専 修 医	加藤　啓洋			
専 修 医	佐田　蓉子			
専 修 医	水津　悠			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本麻酔科学会研修施設 日本集中治療学会認定施設

1．麻酔管理
2．集中治療管理

□ 主な対象疾患

麻酔管理：外科手術一般
集中治療：敗血症、肺炎、ＡＲＤＳ、多臓器不全、術後管理一般

□ 診療（業務）内容

手術を受けられる患者さんに対する麻酔の施行と全身管理
　当科では患者さんのご希望を最大限に尊重しながら、患者さんの全身状態、手術の内容を勘案してもっとも安全で苦痛の少ない麻酔法を選択しています。近年は全身麻酔と神経ブロックなど、各種麻酔法を組み合わせる方法が増加しています。それぞれの長所を生かしつつ、かつ短所を最小限に抑えることにより、手術が終わっても痛みが少なく、安全でしかも目覚めがよい麻酔を心がけています。

重症患者さんに対する集中治療室（ＩＣＵ）での集学的治療
　本院は院内に2か所の集中治療室を有する全国でも数少ない施設です。救命センターと手術室フロアにそれぞれ設置されており、ともに日本集中治療学会認定の専門医が従事しています。麻酔科ではこのうち、手術室フロアのＩＣＵ（院内ＩＵＣ）の管理を行っています。院内ＩＣＵでは主に手術後の患者さんと重症の入院患者さんの全身管理を行っています。

□ 診療実績(平成24年度)

主な手術・検査の件数など

全身麻酔（鎮静を含む）	全身麻酔（＋脊、硬、ブロック）	脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔
1，919件	1，053件	509件

麻酔科管理症例　計	院内ＩＣＵ入室患者数
3，481件	611件

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	川本　修司、平方　秀男、野口　輝夫、杉田　尚子、福田　和彦. デクスメデトミジンは血小板凝集に対し増強・抑制両方の効果をあわせ持つ. 日本麻酔科学会. 2012年6月7日；神戸
国内学会	平方　秀男、杉田　尚子、川本　修司、野口　輝夫、今村　武史、岡村　富夫、福田　和彦. 局所麻酔薬はイノシトール3リン酸によるカルシウム放出を抑制し、ヒト血小板凝集を抑制する. 日本血栓止血学会. 2012年6月7日；東京
国内学会	水津　悠、石井　久成、七野　力. 生体弁による大動脈弁僧帽弁二弁置換術後に早期溶血を呈した1例. 日本心臓血管麻酔学会. 2012年9月15日；仙台
国内学会	石井　久成. 小児心臓：小児心臓手術周術期の不整脈治療ーアミオダロン?アミオダロン!ー日本心臓血管麻酔学会. 2012年9月15日；仙台
国際学会	Shuji Kawamoto, Hideo Hirakata, Naoko Sugita, Kazuhiko Fukuda. Effects of dexmedetomidine and levomedetomidine, enantiomers of medetomidine, on human platelet aggregation. 国際心臓麻酔シンポジウム. 2012年9月14日；仙台
国際学会	Shuji Kawamoto, Hideo Hirakata, Naoko Sugita, Teruo Noguchi, Kazuhiko Fukuda. Dexmedetomidine has both supressing and enhanching effects on human platelet aggregation. American Sociology of Anestheiologists. 2012年10月17日； Denver/USA
国内学会	子安　聡子、藤田　靖子、池浦　麻紀子、石井　久成、七野　力. エコーガイド下内頚静脈穿刺においてガイドワイヤーが右内頚静脈を貫通して椎骨静脈に留置された一症例. 日本臨床麻酔学会. 2012年11月1日；福島
国内学会	杉本　亮大、七野　力、嵯峨　慶子、原　祐介、堤　貴彦. リネゾリド投与により著明なアシドーシスを呈した1症例. 日本臨床麻酔学会. 2012年11月1日；福島
国内学会	佐田　蓉子、藤田　靖子、七野　力. バイトブロックによってインフレーションラインが閉塞し、そのためカフが脱気できず抜管が困難となった一症例. 日本臨床麻酔学会. 2012年11月1日；福島
国内学会	水津　悠、溝田　敏幸、角山　正博、福田　和彦. 高度拘束性換気障害を合併する筋萎縮性側索硬化症患者に対する全身麻酔の1例. 日本臨床麻酔学会. 2012年11月1日；福島
国内学会	堤　貴彦、吉田　浩輔、田中　博之、中野　良太、別府　賢、志馬　伸朗、笹橋　望、金子　一郎、七野　力. 頭部外傷後に左眼の眼球運動障害を来たし、頸動脈海綿静脈洞瘻と診断した1症例. 日本集中治療医学会. 2013年2月28日；松本
国内学会	水津　悠、志馬　伸朗、七野　力. 上大静脈症候群による声門浮腫に対しチューブエクスチェンジャーを使用し抜管した1例. 日本集中治療医学会. 2013年2月28日；松本

□ 投稿論文など

著　者	雑誌名・タイトル
Yoshika Iwata, Yoko Mizota, Toshiyuki Mizota, Tomohiro Koyama, Tsutomu Shichino.	Journal of Anesthesia. Postoperative continuous intravenous infusion of fentanyl is associated with the development of orthostatic intolerance and delayed ambulation in patients after gynecologic laparoscopic surgery2012

放射線科

専門医資格等　日本医学放射線学会専門医
臨床研修指導医
京都大学医学部臨床教授
放射線治療品質管理士

専門分野　画像診断

診療科長
伊藤　剛

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
放射線治療科科長	荒木　則雄	日本医学放射線学会専門医、日本放射線腫瘍学会専門医、がん治療認定医、臨床研修指導医	放射線腫瘍学	放射線治療
放射線診断科科長	広川　侑奨	日本医学放射線学会専門医、日本核医学会専門医	画像診断、IVR	腹部画像診断
放射線科医師	黒田　昌志	日本医学放射線学会専門医	画像診断	骨軟部画像診断
レジデント	亀山　恭子		画像診断	
レジデント	桑原　遼		画像診断	
レジデント	矢嶋　諒		画像診断	
技師長	片倉　和雄	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、医学物理士		
副技師長	上垣　忠明	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、マンモグラフィ認定技師		
副技師長	伊藤　篤	放射線治療専門放射線技師		
主任	山中　早苗	放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、マンモグラフィ認定技師		
主任	坂本　龍彦			
主任	榎本　直之	核医学専門技師		
主任	森川　進	X線CT認定技師		
主任	樋口　孝次	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師		
主任	麻生三枝子			
技師	川端　清志	放射線治療品質管理士,放射線治療専門放射線技師		
技師	菊川　絢子	マンモグラフィ認定技師		
技師	大西　孝志	放射線治療専門放射線技師、マンモグラフィ認定技師、肺がんＣＴ認定技師 放射線治療品質管理士		
技師	西川　峰生			
技師	前原　健吾	救急撮影認定技師、医療情報技師		

技　　師	山本　　崇	マンモグラフィ認定技師、ICLS認定インストラクター		
技　　師	永井　康宏	マンモグラフィ認定技師, ICLS認定インストラクター		
技　　師	小田　晴義	マンモグラフィ認定技師, ICLS認定インストラクター		
技　　師	竹原　和宏			
技　　師	新家　睦巳			
技　　師	熊給　　淳			
技　　師	淺野　朱香	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	嵯峨根真也			
技　　師	辰野　絢香			
技　　師	濱田佳代子	マンモグラフィ認定技師		
技　　師	藤田　訓充			
技　　師	若畑　旬弥			
技　　師	山本　　翼			
技　　師	岡本　有布			
技　　師	池上　周平			

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本医学放射線学会修練施設

検診乳房撮影認定施設
近畿ブロック　放射線治療研修施設
近畿ブロック　乳房撮影研修施設
京都医療科学大学臨床実習施設

□ 主な対象疾患

悪性腫瘍全般

□ 診療（業務）内容

ほぼ全領域の画像診断、頭部および心臓血管領域を除くIVR、悪性腫瘍を中心とする放射線治療

□ 診療実績(平成24年度)

外来患者数

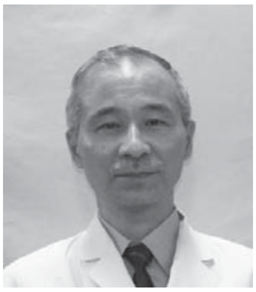
1日平均患者数
36.0名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	坂田昭彦、広川侑奨、桑原遼、濱田彩、黒田昌志、荒木則雄、伊藤剛,中咽頭に生じた孤発性神経線維腫の一例,第３００回日本医学放射線学会関西地方会,大阪市,2012/3/3
国内学会	矢嶋諒、広川侑奨、桑原遼、濱田彩、黒田昌志、荒木則雄、伊藤剛,心膜悪性中皮腫の一例,第３０２回日本医学放射線学会関西地方会,大阪市,2012/11/10
国内学会	濱田彩、伊藤剛、桑原遼、矢嶋諒、黒田昌志、広川侑奨、荒木則雄,精巣垂捻転の一例,第３０３回日本医学放射線学会関西地方会,大阪市,2013/2/2

国内学会	桑原遼、濱田彩、坂田昭彦、黒田昌志、広川侑奨、伊藤剛,胃粘膜下腫瘍と鑑別が困難であった肝血管腫の一例,第２６回日本腹部放射線研究会,大阪市,2012/6/22
国内学会	伊藤剛,肝疾患の画像と肉眼病理,第１０回Versus,京都市,2012/5/12
国内学会	森川進, iDose4の臨床適用について, 2012年2月25日, 関西CT研究会 ;大阪
国内学会	森川進 小田晴義 上垣忠明 西川峰生 伊藤篤 小西佳之, ハイブリッド型逐次近似画像再構成法を用いた低電圧CT撮影における大動脈CT Angiographyの造影剤減量, 日本放射線技術学会, 2012年4月１4日;横浜
国内学会	森川進 前原健吾 西川峰生 伊藤篤 上垣忠明 片倉和雄, ハイブリッド型逐次近似画像再構成法を用いた低電圧CT撮影における大動脈CT Angiographyにおける造影剤減量の検討, 国立病院近畿放射線技師会　学術大会, 2012月10月6日;大阪
国内学会	森川進, iDose4を応用した極少造影剤量CTAの実際とO-MARへの期待, CT先端技術セミナーin Osaka 2012年11月14日;大阪
国内学会	森川進 前原健吾 西川峰生 伊藤篤 上垣忠明 片倉和雄, ハイブリッド型逐次近似画像再構成法を用いた低電圧CT撮影における大動脈CT Angiographyにおける造影剤減量の検討, 国立病院総合医学会, 2012年11月16日;神戸
国内学会	森川進, 冠動脈CT撮影時に発生した不整脈に対する再構成心時相の検討, 京都心臓CT研究会, 2013年1月19日;京都
国内学会	川端清志　前原健吾　吉本篤史　大西孝志　山本崇　山中早苗　上垣忠明　片倉和雄　ガフクロミックフィルムの使用方法の統一,国立病院療養所近畿放射線技師会第21回学術大会, 2012月10月6日;大阪
国内学会	川端清志, 前原健吾, 吉本篤史, 大西孝志, 山本崇, 山中早苗, 上垣忠明, 片倉和雄, ガフクロミックフィルムの使用方法の統一,第66回国立病院総合医学会, 2012年11月16日;神戸
国内学会	小田晴義, 坂本龍彦, 森川進, 上垣忠明, 片倉和雄, 造影時の脂肪抑制T1強調画像におけるeTHRIVEの最適フリップ角の検討, 国立病院療養所近畿放射線技師会第21回学術大会, 2012月10月6日;大阪
国内学会	小田晴義, 坂本龍彦, 森川進, 上垣忠明, 片倉和雄, 造影時の脂肪抑制T1強調画像におけるeTHRIVEの最適フリップ角の検討, 国立病院療養所近畿放射線技師会第21回学術大会, 2012月10月6日;大阪
国内学会	菊川絢子, 永井康宏, 榎本直之, 伊藤篤, 上垣忠明, 片倉和雄, SPECT-CTを用いた心筋ファントムにおける画像処理の基礎検討, 国立病院療養所近畿放射線技師会第21回学術大会, 2012年10月6日;大阪
国内学会	大西孝志, 上垣忠明, 片倉和雄, 肩関節軸位撮影方法の標準化, 第21回国立病院近畿放射線技師会学術大会, 2012年10月6日;大阪
国内学会	大西孝志, 上垣忠明, 片倉和雄, 肩関節軸位撮影方法の標準化, 平成24年度近畿地域放射線技師会学術大会, 2012 年 2月17日;大阪
国内学会	大西孝志, 上垣忠明, 片倉和雄, 肩関節軸位撮影方法の標準化, 第69回日本放射線技術学会総会学術大会, 2013年4月13日;横浜
国内学会	前原健吾, 森川進, 伊藤篤, 上垣忠明, 片倉和雄, ハイブリッド型逐次近似画像再構成法を用いた低電圧CT撮影の頭部CT Angiographyへの適応に関する検討 , 国立病院療養所近畿放射線技師会第21回学術大会, 2012年10月6日:大阪
国内学会	前原健吾, 森川進, 伊藤篤, 上垣忠明, 片倉和雄, ハイブリッド型逐次近似画像再構成法を用いた低電圧CT撮影の頭部CT Angiographyへの適応に関する検討 , 第66回　国立病院総合医学会, 2012年11月16日:神戸
国内学会	山本崇, 川端清志, 前原健吾, 大西孝志, 吉本篤史, 山中早苗, 伊藤篤, 上垣忠明, 片倉和雄, DD-Systemによる解析の精度向上のための検討, 国立病院療養所近畿放射線技師会第21回大会, 2012/10/6;大阪
国内学会	永井康宏, 菊川絢子, 榎本直之, 上垣忠明, 伊藤篤, 片倉和雄, 123-I製剤におけるELEGPとMEGPコリメータでの短時間収集の画質評価, 国立病院療養所近畿放射線技師会第21回学術大会, 2012月10月6日;大阪
国内学会	永井康宏, 菊川絢子, 榎本直之, 上垣忠明, 伊藤篤, 片倉和雄, 123-I製剤におけるELEGPとMEGPコリメータでの短時間収集の画質評価, 第66回国立病院総合医学会, 2012年11月16日;神戸
国内学会	淺野朱香, 菊川絢子, 上垣忠明, 伊藤篤, 片倉和雄, マンモグラフィのポジショニング標準化に関する検討, 国立病院療養所近畿放射線技師会第21回学術大会, 2012年10月6日;大阪
国内学会	淺野朱香, 菊川絢子, 上垣忠明, 伊藤篤, 片倉和雄, マンモグラフィのポジショニング標準化に関する検討, 第66回国立病院総合医学会, 2012年11月16日;神戸

リハビリテーション科



専門医資格等　日本神経学会専門医
専 門 分 野　神経内科

診療科長
岩辻　賢一郎

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　長	中島　康代	日本循環器学会専門医 日本内科学会総合内科専門医	循環器内科	
医　師	井村　美紀		循環器内科	
看 護 師	1名（心大血管等リハビリ専属）			
理学療法士	12名（士長1名、主任1名）			
作業療法士	5名（主任1名）			
言語聴覚士	3名（ほか脳神経センター雇用非常勤STが1名協力）			
医療クラーク	2名（一般と心臓分野）			
看 護 助 手	2名			

□ 診療科の特徴

1. 入院患者の急性期リハビリを主眼に置いています。
2. 外来は退院後の失語症治療と心臓大血管リハビリの集団療法のみです。

□ 主な対象疾患

詳しくはHPに掲載しております。
主治医からご依頼があれば新生児から全疾患に対応しております。

□ 診療実績(平成24年度)

リハビリ実施単位数

心大血管リハビリI	脳血管疾患等I	運動器I	呼吸器I
14,229単位（17.1%）	38,478単位（46.2%）	11,401単位（13.7%）	6,519単位（7.8%）

がん患者	廃用症候群I
1,550単位（1.9%）	11,162単位（13.4%）

リハビリテーション終了患者

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
心臓以外	960件	1,072件	1,160件	1,406件	1,745件	2,095件
心臓リハ	0件	0件	0件	88件	349件	417件

主な検査の件数など

終了患者数	多い順	退院患者にしめる実施%	多い順
一般外科	503件	心臓血管外科	82.60%
循環器内科	348件	神経内科	61.00%
整形外科	319件	脳神経外科	52.50%
神経内科	225件	一般外科	48.10%
脳神経外科	208件	呼吸器外科	45.60%
救命センター	159件	整形外科	43.30%
呼吸器外科	129件	救命センター	29.80%
呼吸器内科	118件	血液内科	28.80%

2012年度部門別毎月リハビリー受付件数

部門	年間件数	月平均±標準偏差(件数)	最小～最大
一般理学療法	2,001件	166.75±17.63	140～202
心臓理学療法	428件	35.67±8.22	27～56
作業療法	826件	68.83±6.88	48～85
言語療法	357件	29.75±10.88	21～41

療法士1日出勤日あたりの実施単位数＝19.64単位

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	農端芳之　基調講演　関節運動学的アプローチと関節神経学的アプローチを用いた治療の実際　第34回日本関節運動学的アプローチ医学会、第13回日本関節運動学的アプローチ医学会理学・作業療法士学会合同学術集会　高知県高知市　2012/10/7-8
国内学会	髙本美菜　早期のリハビリ介入が有用であった蘇生に成功した心肺停止症例　第18回心臓リハビリテーション学会学術集会　埼玉県　2012/7/14-15
国内学会	平本賀章　当院での心臓リハビリテーション外来の現状と課題　第18回心臓リハビリテーション学会学術集会　埼玉県　2012/7/14-15
国内学会	髙本美菜　心臓リハビリテーション開設までの道のり　第66回国立病院総合医学会　兵庫県神戸市　2012/11/16-17
国内学会	大西幸代　癌のリハビリテーション　第66回国立病院総合医学会　兵庫県神戸市　2012/11/16-17
国内学会	原田洋一　COPD患者に対する当院の作業療法　第12回京都呼吸ケア研究会　京都市　2013/3/9
国内学会	伊藤浩一　当院の包括的リハビリテーションと理学療法　第12回京都呼吸ケア研究会　京都市　2013/3/9

歯科口腔外科

診療科長
吉田　和也

専門医資格等	日本口腔外科学会専門医・指導医、日本顎関節学会専門医・指導医、日本補綴歯科学会専門医・指導医、日本睡眠学会認定歯科医・評議員、日本睡眠歯科学会評議員、大阪歯科大学歯学博士、京都大学医学博士、大阪歯科大学非常勤講師、京都大学非常勤講師、松本歯科大学臨床教授、歯科医療研修振興財団歯科医師臨床研修指導医
専門分野	口腔外科一般
得意疾患	睡眠時無呼吸症候群、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズム）、顎顔面補綴

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　師	大 野　純	日本小児口腔外科学会認定医 歯科医療研修振興財団歯科医師臨床研修指導医	口腔外科一般	歯科用インプラント、顎変形症
レジデント	小川　卓二	歯科医療研修振興財団歯科医師臨床研修指導医	口腔外科一般	
レジデント	福原紫津子	日本口腔ケア学会認定医	口腔外科一般	口腔ケア

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本口腔外科学会認定機関 日本顎関節学会認定機関 日本睡眠学会認定機関 日本補綴歯科学会認定機関

1. 迅速で的確な診断を心がけます。
2. 複数の治療法を呈示し、十分に話し合った後、最適な治療を行います。
3. 治療にあたっては低侵襲を心がけます。
4. 口腔ケアや口腔衛生指導によって、治療と予防を実践します。

□ 主な対象疾患

親知らず（智歯）、埋伏歯の抜歯• 口の中の腫瘍（腫れ物）、のう胞（膿の袋）• 顎の骨折や歯、口腔の外傷 • 顎関節症、その他の顎関節疾患 • 顎変形症（歯並び、咬み合わせ、顎の形の異常）• 口腔乾燥や唾液の異常、舌痛症 • 顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療•口腔ケア•手術、放射線治療、化学療法前後の口腔衛生指導• 歯茎、顎の骨の炎症 • 口内炎、舌や頬の炎症 • 入院患者さんあるいは全身疾患（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など）のある外来患者さんの歯科治療

専門で取り扱っている疾患
・睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）
・顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ブラキシズム、ジスキネジアなど）
・顎変形症（下顎前突症、下顎後退症、顔面非対称、上顎前突症など）
・顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）
・顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損

□ 診療（業務）内容

当科は日本口腔外科学会の認定機関であるばかりではなく、日本顎関節学会、日本睡眠学会、日本補綴歯科学会の認定機関でもあり、顎口腔領域のさまざまな疾患の総合的な診断と一貫した治療が可能です。多くの大学医学部あるいは歯学部附属病院や総合病院から多数の患者さんが紹介受診されています。一般的な口腔外科的治療や有病者（心疾患、糖尿病、高血圧、抗血栓療法中など）の歯科治療、入院患者さんの歯科治療や手術前後の口腔ケアを行います。口腔外科的治療とは主に顎変形症、顎関節疾患、口腔腫瘍、顎顔面外傷などの手術を要する疾患に対して行われる治療を指します。

専門で取り扱っている疾患と治療として睡眠呼吸障害（睡眠時無呼吸症候群、いびき、上気道抵抗症候群）に対する口腔内装置治療（マウスピース）や顎矯正手術、顎関節疾患（顎関節症、咬筋肥大症、筋突起過長症、咀嚼筋腱・腱膜過形成症など）　の補綴的あるいは口腔外科的治療、インプラント治療、顎口腔領域の不随意運動（ジストニア、ジスキネジア、ブラキシズムなど）の内服治療、局所麻酔薬によるブロック療法（MAB療法）、ボツリヌス治療や口腔外科的手術療法、顎口腔領域の手術後や外傷による顎顔面欠損の顎顔面補綴治療などがあります。口と顎の領域のジストニアを専門で治療や研究を行っている科は他に例がなく、当科ホームページよりアクセス可能な患者さん用のサイトを（http://sites.google.com/site/oromadibulardystonia/）作りました。日本全国および海外からも問い合わせ、受診が急増しております。遠方の患者さんにはSkype（スカイプ）を利用したコンピューター上での遠隔診断もおこなっています。治療のため当院に入院していただくメディカルツーリズム（医療観光）により遠方からも患者さんに受診していただけるよう願っております。

□ 診療実績（平成24年度）

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
1.7名	87名	7.2日

外来患者数

1日平均患者数
43.6名

主な手術・検査の件数など

抜歯術	嚢胞摘出術	腫瘍摘出術	インプラント手術	消炎手術
856件	52件	42件	15件	12件

顎変形症手術	骨折手術
10件	10件

□ 地域医療連携・広報活動

吉田和也.　睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置治療の実際.　京都府歯科医師会伏見支部学術講演会. 2012年10月5日；京都

大野 純.　今さら誰にも聞けない、睡眠時無呼吸症候群って何だったっけ？ 京都府歯科医師会伏見支部学術講演会. 2012年9月28日；京都

吉田和也.　人工気道（気管挿管・気管切開）患者の口腔ケア.　京都医療センターRST研修会. 2012年7月26日；京都

福原紫津子. 口腔ケア方法. 京都医療センターRST研修会.2012年7月26日；京都

吉田和也. 人工気道（気管挿管・気管切開）患者の口腔ケア.　京都医療センターRST研修会. 2012年12月3日；京都

福原紫津子.　口腔ケア方法. 京都医療センターRST研修会.　2012年12月3日；京都

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国際学会	Yoshida K. Glycated hemoglobin improvement by oral appliance therapy in obstructive sleep apnea syndrome patients with diabetes mellitus. 10th World Conference on Sleep Apnea. 2012, 8, 27-9,1; Roma
国際学会	Yoshida K. Functional brain imaging in response to oral and cognitive tasks assessed by near-infrared spectroscopy in obstructive sleep apnea syndrome. 10th World Conference on Sleep Apnea. 2012, 8, 27-9,1; Roma
国際学会	Maezawa H, Matsuhashi M, Yoshida K, Mima T, Funahashi M, Nagamine T, Fukuyama H.Evaluation of lip sensory disturbance by somatosensory evoked magnetic fields following lip stimulation.BIOMAG 2012 18th International Conference on Biomagnetism. 2012, 8, 26-30; Paris
国際学会	Chin K, Murase K, Toyama Y, Harada Y, Akashiba T, Tastumi K, Inoue Y, Satoh M, Sakurai S, Sakakibara H, Shiomi T, Kimura H, Miyazaki S, Tsuda T, Bessho K, Yoshida K, Ueshima K, Akamizu T, Kadotani H, Hoshino Y, Oga T. The comparison of the effect of two Chinese herbal medicines (Bofu-tsusho-san and Dai-saiko-to) on metabolic disorders in obstructive sleep apnea patients with sustained obesity and hypertension.17th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology. 2012, 12, 14-16; Hong Kong
国内学会	吉田和也.　顎口腔領域の不随意運動の臨床　ー遠隔診断と医療観光への展開ー　第163回京都歯科口腔外科集談会. 2012年7月7日；京都
国内学会	村瀬公彦, 赤柴恒人, 巽浩一郎, 井上雄一, 佐藤誠, 櫻井滋, 榊原博樹, 塩見利明, 木村弘, 宮崎総一郎, 津田徹, 別所和久, 吉田和也, 陳和夫. 肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明:　OSAS-Hypretension-Obesity-Kanpo (OHOK) study. 第37回日本睡眠学会学術総会. 2012年6月30日；東京
国内学会	吉田和也. 舌前突ジストニアの診断およびMAB(muscle afferent bock)療法とボツリヌス療法. 第25回日本顎関節学会総会・学術大会. 2012年7月14-15日；札幌
国内学会	吉田和也, 兵 行忠. 下顎頭の中頭蓋窩陥入を生じた関節窩骨折の1例. 第25回日本顎関節学会総会・学術大会. 2012年7月14-15日；札幌
国内学会	吉田和也. 顎口腔ジストニア(oromandibular dystonia)の遠隔診断と医療観光. 第57回日本口腔外科学会総会・学術大会. 2012年10月19-21日；横浜
国内学会	吉田和也, 福原紫津子, 小川卓二, 大野純, 兵行忠. 睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置治療が高血圧とHbA1cに及ぼす影響. 第57回日本口腔外科学会総会・学術大会. 2012年10月19-21日；横浜
国内学会	吉田和也, 白井陽子, 福原紫津子, 小川卓二, 大野純, 兵行忠. 下顎頭の頭蓋内陥入を生じた下顎窩骨折の1例. 第57回日本口腔外科学会総会・学術大会. 2012年10月19-21日；横浜
国内学会	吉田和也. 舌前突ジストニアのボツリヌス療法とMAB (muscle afferent block) 療法. 第43回日本口腔外科学会近畿地方会. 2012年6月23日；大阪
国内学会	吉田和也. 睡眠時無呼吸症候群患者の食習慣と咀嚼の特徴. 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する 防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明」班平成24年度総会. 2012年12月7日；京都
国内学会	吉田和也, 白井陽子, 福原紫津子, 小川卓二, 大野純, 兵行忠. 下顎頭の頭蓋内陥入を生じた下顎窩骨折の1例. 第43回日本口腔外科学会近畿地方会. 2012年6月23日；大阪

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
厚生労働省科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明」平成23年度研究報告書.129-130.	吉田和也.　近赤外線スペクトロスコピーを用いた顎機能および語流暢性課題時の睡眠時無呼吸症候群患者の脳ヘモグロビン濃度変化
東住吉区歯科医師雑誌. 33, 33-34. 2012	吉田和也. 睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置療法の実際

救命救急センター（救急科）

センター長
志馬　伸郎

専門医資格等
- 日本集中治療医学会専門医
- 日本麻酔科学会指導医・専門医・認定医
- 麻酔科標榜医
- 日本感染症学会感染症専門医
- 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医/認定医
- 日本外科感染症学会外科周術期感染管理暫定教育医/認定医
- 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医
- 日本ペインクリニック学会専門医
- PALSインストラクター
- Infection control doctor

専門分野
- 集中治療医学
- 救急医学
- 感染症学
- 麻酔科学

得意疾患
- 急性呼吸不全
- 重症感染症
- 小児救急・集中治療

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
診療科長	笹橋　　望	日本外科学会認定医 日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 日本胸部外科学会認定医 日本胸部外科学会指導医	救急医学 心臓血管外科学	ER
医　　長	別府　　賢	日本救急医学会専門医 日本集中治療医学会専門医 日本麻酔科学会指導医 JATECインストラクター FCCSインストラクター	集中治療 麻酔	重症感染症
医　　師	田中　博之	日本内科学会認定医 日本医師会認定産業医 JATECインストラクター ITLSインストラクター JPTECインストラクター ICLSインストラクター 日本DMAT隊員	救急、一般	呼吸器疾患、災害医療
医　　師	中野　良太 (H25.3.31異動)	日本救急医学会専門医 日本外科学会専門医	救急、外傷	重症多発外傷
医　　師	吉田　浩輔	日本内科学会認定医	救急、集中治療	重症感染症
専修医	井上　　京		救急、集中治療	重症感染症
救命科顧問	金子　一郎	帝京大学救急医学講座　准教授 日本救急医学会指導医 日本外科学会指導医	心肺蘇生法 外傷 救急医学	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本救急医学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医認定施設

1. 京都南部の重症患者を受け入れる拠点として活動。
2. 重症多発外傷、重度熱傷、敗血症性ショックなど重症患者を集中治療室にて管理。
3. 循環器、脳卒中など専門各科と協力し、質の高い医療を提供。
4. 積極的に研修医に救急外来で初期対応をさせ、教育。

□ 主な対象疾患

敗血症/重症感染症、多発外傷、重症熱傷、急性呼吸不全、中毒

□ 診療（業務）内容

救急搬送症例に対する初期外来対応、専門診療科紹介、入院加療など
重症救急患者への集中治療
院内重症患者に対する集中治療
他院からの重症紹介症例の受け入れ
多施設との症例検討会や情報交換
各種災害訓練の実施と参加
蘇生講習などへの参加と指導
研修医教育
コメディカルに対する教育研修
市民に対する救急啓蒙教育
消防局との連携ならびに情報交換
医師会、他病院との連携ならびに情報交換

□ 診療実績(平成24年度)

入院患者数

1日平均患者数	新入院患者数	平均在院日数
15.1名	915名	7.6日

外来患者数

1日平均患者数
7.5名

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演　者	演　題	学 会 名
国際学会	Shimizu N, Homma J, Asano M, Ando H, Ujyo A, Tateishi N, Niitsu T, Tatsuo I, Shime N.	National registry of paediatric ECMO in Japan; comparison with ELSO,	1st. Euro-ELSO congress、Rome, IItaly 2012
国際学会	Fujita N, Shime N, Kosaka T, nakanishi M, Fujitomo Y, Yamada Y, Komori T, Nishiuchi Y, Yoshizawa N.	Antimicrobial Stewardship (AS) in a Japanese University Hospital.	The 8th International Healthcare Infection Society (HIS) Conference and Federation of Infection Societies (FIS) annual conference、Liverpool, UK 2012
国内学会	志馬伸朗	小児集中治療の最近の話題.	第40回小児脳神経外科学会特別講演、岡山　2012
国内学会	志馬伸朗	小児の感染症と敗血症.	第48回日本小児循環器学会総会特別講演、京都　2012
国内学会	志馬伸朗	敗血症診療ガイドラインをどう使うか〜抗菌療法を中心に.	第40回日本救急医学会学術集会教育講演、京都　2012
国内学会	志馬伸朗	救急集中治療領域での炎症反応指標の使い方.	第59回日本臨床検査医学会学術集会ランチョンセミナー、京都　2012
国内学会	志馬伸朗	日本版敗血症診療ガイドライン	日本外科感染症学会教育講演、千葉 2012
国内学会	志馬伸朗	小児集中治療の“箱”からでよう〜そもそも、“箱”があるのか？日本集中治療医学会の観点から. 小児集中治療ワークショップ	第26回小児救急医学会総会、東京

国内学会	梅内貴子, 志馬伸朗, 朝原崇, 野本信二	新生児先天性心疾患患者に対するプロバイオティクス補充の有用性の検討	第86回日本感染症学会総会、長崎
国内学会	笠井正志, 志馬伸朗, 船木孝則, 庄司健介, 齋藤昭彦, 川口敦	本邦小児臨床現場における血液培養採取状況に関する多施設共同前向き観察研究.	第86回日本感染症学会総会、長崎
国内学会	佐竹早紀子, 平位秀世, 志馬伸朗, 稲葉亨, 藤田直久, 今西二郎	感染時の好中球造血において転写因子C/EBPβは造血幹細胞・前駆細胞を含む未分化細胞集団の増幅に関与する.	第86回日本感染症学会総会、長崎
国内学会	藤友結実子, 中西雅樹, 藤田直久, 志馬伸朗, 小阪直史, 廣瀬有里, 山田幸司, 木村武史, 倉橋智子, 京谷憲子, 安本都和, 小森敏明	バンコマイシン中等度耐性黄色ブドウ球菌(VISA)による感染性心内膜炎の一例.	第86回日本感染症学会総会、長崎
国内学会	清水直樹, 六車崇, 伊藤友弥, 新津健裕, 齊藤修, 植田育也, 志馬伸朗, 新田雅彦, 太田邦雄, 岩田欧介	日本集中治療医学会小児集中治療委員会. 小児救命集中治療領域における多施設共同研究と症例集約の重要性.	第115回日本小児科学会総会、久留米
国内学会	笠井正志, 志馬伸朗, 船木孝則, 庄司健介, 川口敦, 齋藤昭彦	本邦小児臨床現場における血液培養採取状況に関する多施設共同前向き観察研究	第115回日本小児科学会総会、久留米
国内学会	志馬伸朗, 植田育也, 川崎達也, 黒坂了正, 櫻井淑男, 杉村洋子, 徳平夏子, 中川聡, 新津健裕, 林拓也, 平井克樹, 福原信一, 水野裕美子, 渡部誠一, 問田千晶	小児重症インフルエンザ症例の解析2009－2011	第26回小児救急医学会総会、東京 2012
国内学会	志馬伸朗, 細川康二	日本の麻酔・集中治療の臨床研究力	日本麻酔科学会、神戸　2012
国内学会	松田愛, 志馬伸朗	心臓手術周術期予防的抗菌薬投与期間の短縮と術後創部感染症	日本外科感染症学会総会、千葉　2012
国内学会	片岡通子, 井上京, 吉田浩輔, 田中博之, 別府賢, 志馬伸朗, 金子一郎	化膿性筋炎から横紋筋融解症、急性腎不全に至った1例	日本救急医学会第40回総会、京都 2012
国内学会	中西宏貴, 吉田浩輔, 田中博之, 井上京, 中野良太, 別府賢, 志馬伸朗, 笹橋望, 金子一郎	多発外傷後に脂肪塞栓による意識障害を来した一例.	日本救急医学会第40回総会、京都 2012
国内学会	志馬伸朗, 植田育也, 黒坂了正, 問田千晶, 新津武裕, 林拓也, 福原信一, 徳平夏子	小児重症インフルエンザ症例の解析.	日本救急医学会第40回総会、京都 2012
国内学会	辻尾有利子, 志馬伸朗, 天鷲尚子, 大澤智美	先天性心疾患術後患者における体表クーリング施行基準の導入とその効果	日本救急医学会第40回総会、京都 2012
国内学会	辻尾有利子, 志馬伸朗, 天鷲尚子, 大澤智美	先天性心疾患術後患者における体表クーリング施行基準の導入とその効果	第48回日本小児循環器学会総会、京都 2012
国内学会	笠井正志, 尾内一信, 志馬伸朗	小児呼吸器感染症診療ガイドライン2011の検証　重症肺炎を診る立場から(ICU)小児呼吸器感染症ガイドライン2007上の最重症肺炎に対する本邦小児集中治療領域における注射用抗菌薬使用状況(多施設共同後方視的観察研究).	日本小児呼吸器学会総会、岡山　2012
国内学会	辻尾有利子, 志馬伸朗, 徳平夏子, 大澤智美	小児集中治療室での鎮痛・鎮静管理：看護師に対する現状調査.	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012
国内学会	齋藤伸行, 志馬伸朗, 杉山和宏, 石井賢造, 増田幸子, 坂本和嘉子, 森田敏夫, 金村剛宗	救命救急センターにおける人工呼吸器関連肺炎に関する疫学調査	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012
国内学会	田畑雄一, 志馬伸朗	小児心臓手術後のデクスメデトミジン鎮静：ケタミンの併用効果.	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012
国内学会	徳平夏子, 志馬伸朗, 井上美帆, 加藤祐子, 田畑雄一, 橋本悟	天性心疾患術後早期の体温と予後との関連	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012
国内学会	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎の診断治療:そのピットフォール ランチョンセミナー	第105回近畿救急医学会（日本救急医学会近畿地方会）、神戸　2012
国内学会	志馬伸朗	小児集中治療の最近の知見	日本小児科学会北陸地方会特別講演、福井　2012
国内学会	志馬伸朗	救急・ICUにおける多剤耐性菌対策	第152回ICD講習会、千葉　2012
国内学会	志馬伸朗, 阪口雅洋, 井口直也, 藤野裕士, 小林敦子, 高田幸治, 橋本悟	敗血症診療におけるガイドラインの使い方、使われ方	第57回日本集中治療医学会近畿地方会パネルディスカッション、大津　2012
国内学会	志馬伸朗	集中治療医にしかできない感染症診療をしよう. シンポジウム：原点から未来へ～21世紀の集中治療はどうあるべきか.	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012
国内学会	志馬伸朗	ステロイドは、"捨てるど"・CONの立場から. ディベートセッション・重症肺炎にはステロイドを使用する?	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012
国内学会	清水一好, 清水直樹, 本間順, 梅垣修, 浅野真依子, 宇城敦司, 徳平夏子, 安藤寿, 立石順久, 志馬伸朗	わが国のECMO症例集積とELSOとの比較. シンポジウム：小児ECMO治療最前線.	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012
国内学会	川口敦, 志馬伸朗, 永松聡一郎, 山下和人, 高橋弘, 幸部吉郎, 志水太郎, 萩原佑亮, 三木智子	学会内制度調査で明らかになった急性期医療における医療資源の偏在と将来予測：循環器救急医療実態アンケート調査と麻酔科医のマンパワーに関する調査を交えて：日本における小児集中治療労働力調査・集中治療医からのアプローチ. 小児集中治療委員会報告	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012

国内学会	清水義之, 竹内宗之, 井上美帆, 大崎真樹, 清水一好, 杉村洋子, 徐民恵, 多賀直行, 田畑雄一, 戸田雄一郎, 林拓也, 松井彦郎, 水城直人, 水野圭一郎, 水野裕美子, 祖父江和哉, 志馬伸朗	小児集中治療室(PICU)における小児心臓手術後の栄養投与方法の調査. 小児集中治療委員会報告:	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012
国内学会	川口敦, 志馬伸朗, 永松聡一郎, 山下和人, 高橋弘, 幸部吉郎, 志水太郎, 萩原佑亮, 三木 智子	集中治療労働力調査　小児集中治療における現状、意識調査	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012
国内学会	松田直之, 織田成人, 相引眞幸, 池田寿昭, 今泉均, 遠藤重厚, 落合亮一, 小谷穣治, 志馬伸朗, 橋本悟, 西田修, 野口隆之, 平澤博之	SEPSIS REGISTRY報告	第40回日本集中治療医学会総会、松本 2012
国内学会	駒井翔太、徳平夏子、木村彰夫、松山広樹、黄瀬ひろみ、澤田麻衣子、橋本壮士、志馬伸朗、加藤裕子、前田祥子、坂東瑞樹、嶋本早希、橋本悟	敗血症性ショック症状がマスクされた腫胸合併神経芽細胞腫の一乳児例	第57回日本集中治療医学会近畿地方会、大津　2012
国内学会	村瀬百子, 伊藤秀和, 志馬伸朗	小児患者に対するグリコペプチド系抗菌薬の至適投与量の検討	第3回MRSAフォーラム、東京　2012
国内学会	志馬伸朗, 小阪直史, 藤田直久	ダプトマイシンが奏功しなかった重症MRSA感染症の2症例.	第3回MRSAフォーラム、東京　2012
国内学会	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎の治療戦略	NHCAPフォーラム、東京　2012
国内学会	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎の予防	東京バイタルサインセミナー、東京 2012
国内学会	志馬伸朗	VAPとCLABSIの予防策.	長野こども病院感染対策研修会、長野 2012
国内学会	志馬伸朗	長野こども病院感染対策研修会	第9回呼吸ケアカンファレンス、神戸 2012
国内学会	志馬伸朗	VAP診断治療の最近の知見	救急感染症塾 in 山口、宇部　2012
国内学会	志馬伸朗	VAPの診断治療～そのピットフォール	救急感染症塾for ER、東京　2012
国内学会	志馬伸朗	重症患者の感染制御～デバイス管理から耐性菌対策まで.	重症患者の感染制御～デバイス管理から耐性菌対策まで、京都　2012
国内学会	志馬伸朗	院内感染update：デバイス関連からMRSA感染症まで	京都府立与謝の海病院院内講演会、与謝野　2012
国内学会	志馬伸朗	人工呼吸管理の基本～最近の知見を含めて	第4回麻酔科教育セミナー、久留米 2012
国内学会	志馬伸朗	重症患者の生体反応と患者管理のポイント.	日総研セミナー、大阪　2012
国内学会	志馬伸朗	重症感染症に対する抗菌療法の基本的考え	第1回鹿児島救急・ICU感染症研究会、名古屋　2012
国内学会	志馬伸朗	人工呼吸・気道管理の基本.	最新人工呼吸管理セミナー2012、京都 2012
国内学会	志馬伸朗	症例検討で日本版敗血症ガイドラインを考える	第8回京滋ER-ICUフォーラム、京都 2012
国内学会	志馬伸朗	シンプル感染管理～やめることからはじめよう.	第10回徳島ICTネットワーク研究会、徳島　2012
国内学会	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎（VAP）の診療戦略.	第38回呼吸器感染症京都セミナー、京都　2012
国内学会	志馬伸朗	人工呼吸の光と影	第3回金沢集中治療フォーラム、金沢 2012
国内学会	志馬伸朗	ICUにおける発熱評価と体温管理	クリティカルケアセミナーin名古屋、名古屋　2012
国内学会	志馬伸朗	敗血症の抗菌療法～日本版敗血症ガイドラインの使い方	重症感染症治療セミナー、大津　2012
国内学会	志馬伸朗	インタラクティブ周術期感染症管理	南京都外科感染症セミナー、京都 2012
国内学会	志馬伸朗	ICU患者での発熱アプローチの原則	第2回MIICS VAP professional program、東京　2012
国内学会	志馬伸朗	敗血症の治療戦略	第7回みぶ救命救急セミナー、京都 2012
国内学会	志馬伸朗	小児の呼吸管理	メディカ出版小児救急・集中治療セミナー、神戸　2012
国内学会	志馬伸朗	小児の感染症と敗血症	メディカ出版小児救急・集中治療セミナー、神戸　2012
国内学会	志馬伸朗	ICUにおける発熱評価と体温管理	クリティカルケアセミナーin京都、京都 2012
国内学会	志馬伸朗	非侵襲的換気法	第20回小児集中治療ワークショップ、東京　2012
国内学会	志馬伸朗	小児の呼吸管理	メディカ出版小児救急・集中治療セミナー、東京　2012
国内学会	志馬伸朗	小児の感染症と敗血症	メディカ出版小児救急・集中治療セミナー、東京　2012

国内学会	志馬伸朗	重症敗血症の抗菌療法	第1回大分集中治療感染症研究会、大分 2012
国内学会	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎（VAP）の診療戦略	救急感染症塾 for ER, Phyzer MR Training Camp、東京 2012
国内学会	志馬伸朗	日本版敗血症ガイドライン	救急感染症塾 for ER, Phyzer MR Training Camp、東京 2012
国内学会	志馬伸朗	新しい敗血症診療ガイドラインのポイント	京都敗血症治療セミナー、京都 2012
国内学会	志馬伸朗	これからの敗血症診療	第6回NST感染管理セミナー、調布 2012
国内学会	志馬伸朗	ICUにおける発熱評価と体温管理	クリティカルケアセミナーin博多、博多 2012
国内学会	笹橋望, 金子一郎, 別府賢, 中野良太, 濱中訓生, 吉田浩輔, 井上京	救急搬送をきっかけに診断された脳腫瘍症例	第15回日本臨床救急医学会、熊本 2012
国内学会	吉田浩輔, 井上京, 濱中訓生, 田中博之, 中野良太, 別府賢, 福田明輝, 笹橋望, 金子一郎	損傷形態の異なった殿部杙創2例	第40回日本救急医学会総会・学術集会、京都 2012
国内学会	田中博之, 片岡瑛子, 葉山学, 北村知嵩	小細胞肺癌として治療した転移性肺炎	35回呼吸器内視鏡学会・学術集、東京 2012

□ 投稿論文など

著書・雑誌名		
Japan Resuscitation Council Guidelines 2010	Ohta K, Shimizu N, Iwasa M, Iwasaki T, Ushinohama H, Kanazawa T, Kamizono J, Kurosawa S, Kurosawa H, Saito O, Saito T, Sato S, Shime N, Niitsu T, Nitta M, Mizuno K, Muguruma T.	PBLS, PALS; Pediatric BasicLife Support, Pediatric Advanced life Support.
J Anesth PubMed PMID: 22438123.	Shibasaki M, Nakajima Y, Shime N, Sawa T, Sessler DI	Prediction of optimal endotracheal tube cuff volume from tracheal diameter and from patient height and age: a prospective cohort trial
J Infect Chemother. PubMed PMID:22872188.	Ito H, Shime N, Kosaka T.	Pharmacokinetics of glycopeptide antibiotics in children.
Anaesth Intensive Care PubMed PMID: 22813523	Shime N, Shinohara T, Shigemi K, Parker M.	Knowledge and perception about sepsis: a survey in Japan.
Pediatr Crit Care Med PubMed PMID: 22805157.	Tokuhira N, Shime N, Inoue M, Kawasaki T, Sakurai Y, Kurosaka N, Ueta I, Nakagawa S	Writing Committee of AH1N1 Investigators; Japanese Society of Intensive Care Medicine Pediatric Intensive Care Unit Network. Mechanically ventilated children with 2009 pandemic influenza A/H1N1: Results from the national pediatric intensive care registry in Japan*.
Intensive Care Med. PubMed PMID: 22527068.	Shime N, Kawasaki T, Saito O, Akamine Y, Toda Y, Takeuchi M, Sugimura H, Sakurai Y, Iijima M, Ueta I, Shimizu N, Nakagawa S.	Incidence and risk factors for mortality in paediatric severe sepsis: results from the national paediatric intensive care registry in Japan.
J Immunol. PubMed PMID:22872188	Satake S, Hirai H, Hayashi Y, Shime N, Tamura A, Yao H, Yoshioka S, Miura Y, Inaba T, Fujita N, Ashihara E, Imanishi J, Sawa T, Maekawa T.	C/EBP β is involved in the amplification of early granulocyte precursors during candidemia-induced "emergency" granulopoiesis.
Infection. PubMed PMID:23254646	Shime N, Kosaka T, Fujita N.	De-escalation of antimicrobial therapy for bacteraemia due to difficult-to-treat Gram-negative bacilli.
J Infect Chemother. PubMed PMID:23188167	Sakaguchi M, Shime N, Iguchi N, Kobayashi A, Takada K, Morrow LE.	Effects of adherence to ventilator-associated pneumonia treatment guidelines on clinical outcomes.
小児ICUマニュアル改訂第6版	志馬伸朗（総合編著）, 橋本　悟, 問田千晶.	
救急・集中治療	志馬伸朗	【迅速で的確な対応のための重症感染症Q&A-最新の診かたと考え方-】
麻酔科学レビュー2012	志馬伸朗	48.集中治療(5) 小児集中治療
小児科診断・治療指針	志馬伸朗	ショック
国立大学病院集中治療部協議会ICU感染制御CPG改訂委員会／編ICU感染防止ガイドライン　改訂第2版	志馬伸朗（分担執筆）	
臨床に直結する集中治療のエビデンス	志馬伸朗	ICU　患者の抗菌療法において初期経験的治療の適切性は予後に影響するか？
はじめての人工呼吸管理—基本がわかると先が見えるー	松山広樹, 志馬伸朗	人工呼吸器関連肺損傷
日本臨床麻酔学会誌	柴崎雅志, 志馬伸朗, 中嶋康文, 石井祥代, 溝部俊樹, 佐和貞治	小児気管チューブ挿入長決定法の比較.
日本集中治療医学会雑誌	野口綾子, 細川康二, 志馬伸朗, 橋本悟, 中村尚美	ICU看護師の冷罨法に関する意識調査.
日本集中治療医学会雑誌	谷口彩乃, 細川康二, 志馬伸朗	小児心臓手術後の早期抜管に関連する因子の検討

麻酔	冨田麻衣子, 太田晴子, 志馬伸朗, 岩坂日出男, 佐和貞治, 野口隆之, 祖父江和哉	術前絶飲食時間に関する日本の現状の再調査.
麻酔	柴崎雅志, 中嶋康文, 志馬伸朗, 佐和貞治.	小児のカフ付き気管チューブ.
人工呼吸	辻尾有利子, 志馬伸朗, 村田優子, 德平夏子, 田畑雄一	流量膨張式蘇生バッグ換気時における気道内圧計の有用性.
日本集中治療医学会雑誌	細川康二, 志馬伸朗, 橋本悟	複数セットの血液培養採取の推奨と効果.
臨床麻酔	坂本篤裕, 鈴木利保, 祖父江和哉, 志馬伸朗, 伊藤健二	術前絶飲食ガイドライン適用の意義と今後の課題.
Medical Technology	山田幸司, 小阪直史, 西内由香里, 藤友結実子, 中西雅樹, 志馬伸朗, 藤田直久	抗菌薬適正使用推進チーム(AMT)による感染症治療支援~抗菌薬適正使用に特化した感染対策チームの活動.
日本集中治療医学会雑誌	林田賢史, 羽鳥文麿, 森崎 浩, 福家伸夫, 橋本悟, 西田博, 田中啓治, 志馬伸朗, 遠藤重厚, 池田寿昭, 松田晋哉, 日本集中治療医学会社会保険対策委員会	診断群分類に基づく診療報酬支払制度データから検討したICU収支の現状.
麻酔	柴崎雅志, 志馬伸朗, 中嶋康文, 佐和貞治	小児用RAE®チューブ
【まるごと&とことん理解!ALI/ARDSの治療とケア】呼吸器ケア	志馬伸朗	薬物療法は何が使える?
【はじめての人工呼吸管理　モード選択・NPPV・モニタリング・鎮静・離脱などの「わからない」を解決して、もっとうまく使える!】レジデントノート	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎(VAP)対策
INTENSIVIST	志馬伸朗, 織田成人	日本版敗血症診療ガイドラインThe　Japanese Guidelines for the Management of Sepsisの概要報告
INTENSIVIST	笠井正志, 志馬伸朗	PICUで診る感染症　小児の特性を理解しながら成人と同様の原則を守る.
別冊LiSA	志馬伸朗	小児の人工呼吸管理～最近のトピックス
救急・集中治療【迅速で的確な対応のための重症感染症Q&A-最新の診かたと考え方-】	志馬伸朗	敗血症診療ガイドラインの概要
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会雑誌	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎の予防策:誤嚥対策を中心に
日本集中治療医学会雑誌	志馬伸朗	小児の挿管困難症例対策～希少症例報告を超えて
救急・集中治療【sepsis・SIRS-いま生かす!最新の病態把握に基づく適切な診療へ-】	志馬伸朗	体温をどう評価し、どう使うのか?
呼吸器内科	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎 特集【嚥下性肺疾患と胃食道逆流症(GERD)】
【イラストでわかる人工呼吸器合併症の予防&ケア】呼吸器ケア2012夏季増刊	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎(VAP).
小児内科	志馬伸朗	ARDS. 特集・クローズアップ呼吸管理.
小児内科	柴崎雅志, 志馬伸朗	人工呼吸管理下で起こりうるトラブルと対応. 特集・クローズアップ呼吸管理.
日本集中治療医学会雑誌	黒田泰弘, 垣花泰之, 相引眞幸, 佐藤朝之, 志馬伸朗, 永山正雄, 小倉真治, 名知祥, 岡田 和夫, 丸川征四郎, 太田邦雄, 坂本哲也, 清水直樹, 野々木宏, 畑中哲生, 長尾建, 船崎俊一, 日本集中治療医学会"心肺蘇生ガイドライン"改訂作業委員会	JRC蘇生ガイドライン2010(第2章)　成人の二次救命処置(ALS)[8]心拍再開後の集中治療および[9]予後判定.
日本集中治療医学会雑誌	織田 成人, 相引眞幸, 池田寿昭, 今泉均, 遠藤重厚, 落合亮一, 小谷穣治, 志馬伸朗, 西田 修, 野口隆之, 松田直之, 平澤博之, 秋富慎司, 安宅一晃, 井上茂亮, 氏家良人, 江木盛時, 垣花泰之, 後藤孝治, 坂本照夫, 佐々木淳一, 貞広智仁, 佐藤格夫, 柴田純平, 鈴木泰, 巽 博臣, 中永士師明, 中村智之, 仲村将高, 布宮伸, 長谷川隆一, 林淑朗, 藤島清太郎, 升田 好樹, 松田兼一, 真弓俊彦, 山直也, 日本集中治療医学会Sepsis Registry委員会	日本版敗血症診療ガイドライン
救急・集中治療25(1-2)【ER/ICUで必要な注射用抗菌薬-エキスパートの考え方と使い方-】	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎
ICUとCCU36(11)(特集日本版敗血症診療ガイドラインを読み解く)	志馬伸朗	感染症診断と抗菌治療
臨床麻酔	佐和貞治, 志馬伸朗, 小尾口邦彦. 印象記	第40回日本救急医学会総会・学術集会
IVIGスクエア	志馬伸朗	急性期医療における私の医療:日本の小児集中治療の現状と展望～今後の整備が課題
第39回日本集中治療医学会学術集会教育セミナー7記録集	志馬伸朗	ICUにおける抗菌療法～最新のエビデンス.
NHCAPフォーラム～新しい肺炎診療の幕開け(記録集)	志馬伸朗	人工呼吸器関連肺炎(VAP)の治療戦略.
ヴィジュアル感染対策のポイント. 丸石感染対策NEWS.	西内由香里, 志馬伸朗	ICUにおける感染対策のポイント.

健診部

健診部長
前川　高天

専門医資格等	日本消化器病学会指導医 日本消化器内視鏡学会指導医・同評議員 日本内科学会認定内科医 日本ヘリコバクター学会　H.Pylori(ピロリ菌)感染症認定医
専 門 分 野	消化器内科一般
得 意 疾 患	消化管疾患

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
医　　師	小坂田元太	日本循環器学会認定循環器専門医・近畿支部評議員 日本内科学会認定内科医・指導医 日本超音波医学会 超音波専門医・超音波指導医	循環器内科学、超音波医学	循環器内科学、超音波医学
医　　師	金崎　幹彦		循環器内科	循環器内科学

□ 診療科の特徴

1. より迅速に、より的確な健診を心がけています。

　健診センター専用棟には、診察室、心電図、腹部超音波検査装置、X線撮影装置、上部消化管内視鏡が完備されていますので、それぞれの検査が迅速かつ効率的にすすめることが可能になっています。（コース、オプション内容によっては、中央診療棟での検査、診察になります。）また、各学会の認定医・専門医が多数在籍していますので、より専門的で的確な診断が可能になっています。

2. “点”から“線”の健診へ

　従来の結果を眺めるだけの“点”の健診ではなく、継続的な健康管理に役立つ“線”の健診を目指しています。特にここ数年来問題視されているメタボリックシンドローム、喫煙関連疾患については、各診療科の専門外来と協力し、継続的な診療を受けていただけるよう心がけています。

3. より確実な早期発見を目指して

　各領域の悪性疾患については、最近の低侵襲治療の発達で、その早期発見はより重要になっています。また近年、癌に対する様々なリスクファクターが明らかにされており、これらのリスクを考慮したハイリスク検診の試みも始まっています。当センターでは、子宮がん検診に、子宮頚がんのリスクファクターとされるhuman papilloma virus (HPV)検査を、胃がん検診に血清ペプシノゲン/血中ヘリコバクターピロリ菌抗体検査を導入し、より確実な診断に努めています。

4. より“やさしい”検査へ

　胃がんの早期発見には内視鏡検査（胃カメラ検査）の有用性が指摘されていますが、受診者にとっては、これまで“つらい”検査の一つでした。当センターでは極細径内視鏡による経鼻内視鏡検査を導入し、受診者にとって " つらい“検査から“楽な”検査への転換を図っています。

□ 診療（業務）内容

基本コース（一般コース・脳ドック・レディースコース）に加えて、各種オプション（肺：胸部CT検査、婦人科：診察・US、乳がん：US/MMG など）を受診者の希望に応じて実施しています。

□ 診療実績(平成24年度)

基本健診

	総受診者数	一般健診	生活習慣病	脳ドック	レディース	乳癌
2011年度	992	891	8	26	26	36
2012年度	844	764	11	27	30	12

オプション

	脳	肺がん	動脈硬化	乳がん	子宮癌	骨粗鬆症
2011年度	137	48	94	169	157	102
2012年度	118	48	94	183	140	101

	前立腺	血液流動性検査	胃透視件数	内視鏡件数	胃がん発見数	内早期胃癌数
2011年度	199	21		891件	4件	3件
2012年度	161	36	256件	764件	3件	3件

全国のサリドマイド胎芽病患者の健康、生活実態に関する研究（H23-医療-指定-023）
【はじめに】
サリドマイド胎芽病者は壮年期を迎えており、様々な疾患を続発しつつある。現在は個別に医療機関を受診しているが、上肢欠損ないし低形成者は採血が困難、血圧の測定方法が決まっていないなどの問題点がある。平成23年度から国立国際医療研究センターを中心に始まった今回の研究では、診療上の注意点など含めた「診療ハンドブック、Ｑ＆Ａ」を作成し、胎芽病者が医療機関に提示できるようにすることが目的とされている。平成24年度は日帰り人間ドックを受けることが可能な30名を対象として、国立国際医療研究センター病院、帝京大学病院、京都医療センターで健診を実施した。前年度の健診結果から重点的に検査すべき項目として側頭骨ＣＴと頸椎の評価を選定し、オプションとして健診項目にを加えている。京都医療センターの上部消化管内視鏡検査は前川診療部長が経鼻でおこなっている。京都医療センターでの受診者は、京都から2名、大阪から5名，奈良、香川、熊本から各々1名の計10名であった。

□ 地域医療連携・広報活動

ＦＭ８４５　からだ元気　新しい胃がん検診　2011年12月14日
前川高天：基調講演　京都医療センターにおけるピロリ菌除菌療法の現状　第4回深草消化器医療連携の会
2011年8月27日　京都

□ 講議・講演

演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
前川高天　パネルディスカッション　胃粘膜萎縮を考慮してこれからのH.Pylori感染症診療の課題　Scientific Exchange Meeting 2013 in Kyoto

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
北岡修二、前川高天：人間ドックにおける経鼻内視鏡検査の有用性と問題点、第77回日本消化器内視鏡学会総会、2009年5月23日　名古屋
北岡修二、前川高天：胃がん検診における経鼻内視鏡検査の有用性と問題点、第78回日本消化器内視鏡学会総会、2009年10月17日　京都
北岡修二：経鼻内視鏡検査の現在～Pros and Cons ～第14回経鼻内視鏡研究会in関西、2010年4月10日　大阪

北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査の受容性に影響する受検者因子の臨床的検討、第80回日本消化器内視鏡学会総会、2010年10月16日　横浜
北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性、第1回経鼻内視鏡研究会　2011年8月19日　名古屋
北岡修二、前川高天：経鼻内視鏡検査における適応型IHb色彩強調画像観察の有用性、第82回日本消化器内視鏡学会総会　2011年10月21日　福岡
北岡修二、前川高天：胃がんリスク検診における経鼻内視鏡検査の有用性、第51回日本消化器がん検診学会総会　2012年6月1日　熊本
北岡修二、前川高天：極細径内視鏡検査における適切な画像設定の重要性、第2回胃細径内視鏡研究会　2012年6月2日　熊本

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
消化器の臨床　15:147ー150　(2012)	原田直彦、姉ヶ尾佳奈、前川高天、他：クロピドグレル服用患者における上部消化管出血の現状
消化器がん検診学会誌　51:213ー221 (2013)	勝島慎二、北岡修二、前川高天、他：新しい胃癌リスク評価の考え方

臨床研究センター

臨床研究センター長
臨床研究企画運営部長（併任）
糖尿病研究部長（併任）
治験管理室長（併任）
研究室長（糖尿病合併症：併任）
島津　章

専門医資格等　日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医
日本糖尿病学会　糖尿病専門医
日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医

専門分野　内科・内分泌代謝・神経内分泌、検査医学

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
副センター長・内分泌代謝高血圧研究部長・研究室長(高血圧：併任)	成瀬　光栄	日本内科学会　指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本腎臓学会　腎臓専門医・指導医 日本高血圧学会　専門医	内科・内分泌代謝（副腎疾患）・高血圧
展開医療研究部長	長谷川浩二	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医専門医 アメリカ心臓協会専門医（FAHA） アメリカ心臓病学会専門医（FACC） 日本禁煙科学会認定　禁煙支援医	心不全、虚血性心疾患、心血管危険因子管理・特に禁煙指導、心血管展開医療研究
研究室長(予防医学)	坂根　直樹	日本内科学会　認定医 日本肥満学会　評議員	糖尿病、糖尿病教育
研究室長(臨床内分泌代謝)	臼井　健	日本内科学会認定医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本人類遺伝学会/日本遺伝子カウンセリング学会　臨床遺伝専門医・指導医 臨床研修指導医	内科・内分泌代謝・臨床遺伝学
研究室長(先端医療技術開発)	和田　啓道	日本循環器学会認定循環器専門医 日本内科学会認定内科医	循環器学、リスクファクター管理、予防医学、臨床研究（バイオマーカー、メタボリックシンドローム、喫煙）、実験医学（心筋梗塞、高血圧性心疾患、血管新生）
研究室長(臨床代謝栄養)	浅原　哲子	日本糖尿病学会　糖尿病専門医・研修指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会　認定内科医 日本肥満学会　評議員 日本病態栄養学会　評議員	糖尿病 、肥満（メタボリックシンドローム）疾患

	氏　　名	専門医資格等	専門分野
研究室長(分子内分泌代謝:併任)	田上　哲也	日本内科学会　総合内科専門医・認定医・指導医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医・教育責任者 日本甲状腺学会　専門医 臨床研修指導医	内科・内分泌代謝（甲状腺疾患）
研究室長(内分泌系腫瘍:併任)	奥野　博	日本泌尿器科学会　指導医・専門医 日本生殖医学会　評議員 日本アンドロロジー学会　評議員 京都大学　医学博士 京都大学医学部　臨床教授 関西医科大学　臨床教授 米国泌尿器科学会 日本癌治療認定医 日本臨床腎移植学会　腎移植認定医 日本内視鏡外科学会　技術認定医 日本泌尿器内視鏡学会　腹腔鏡技術認定医	前立腺がん、体腔鏡手術、女性・男性泌尿器科学
研究室長(臨床疫学情報:併任)	小山　弘	日本内科学会総合内科専門医	内科一般、内科診断学、医学教育、臨床疫学
研究室長(糖尿病:併任)	河野　茂夫	日本糖尿病学会　糖尿病専門医 日本内分泌学会　内分泌代謝科専門医・指導医 日本内科学会　認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本糖尿病学会　評議員	糖尿病、足病変
研究室長(がん医療:併任)	猪飼伊知夫	日本外科学会 外科専門医、指導医 日本消化器外科学会 外科専門医、指導医 日本肝胆膵外科学会 肝胆膵外科高度技能指導医 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 日本消化器外科学会 消化器がん外科治療認定医	肝胆膵外科（肝臓がん、胆道がん、膵臓がん）
研究室長(血管障害:併任)	塚原　徹也	日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医・評議員 日本脳卒中学会　脳卒中専門医・評議員 日本脳神経外科学会　脳神経外科専門医・評議員 日本脳卒中学会　脳卒中専門医・評議員	脳卒中外科、脳血管障害、脳腫瘍、脳神経外科一般
研究室長(生命情報科学:併任)	七野　力	厚生労働省による麻酔科標榜許可 日本麻酔科学会認定　麻酔科専門医・指導医 日本集中治療医学会認定　集中治療専門医	麻酔科学全般 心臓血管外科手術の麻酔管理 集中治療における呼吸・循環管理
研究室長(情報化推進:併任)	北岡　有喜	日本産科婦人科学会専門医 国立病院等総合情報ネットワーク研究会副会長 ＩＴコンソーシアム京都 医療情報化部会長	生殖分子生理学 医療情報学・情報システム学 集中治療における呼吸・循環管理
流　動　研　究　員	松島　大介		
流　動　研　究　員	津崎こころ		
流　動　研　究　員	沢井　邦子		
流　動　研　究　員	佐々木洋介		
流　動　研　究　員	曽和　尚也		

□ 診療（業務）内容

京都医療センターは平成11年3月「内分泌・代謝性疾患」の高度専門医療施設（準ナショナルセンター）として位置づけられ、その研究体制強化の一環として平成15年10月1日付で臨床研究センターが設置されました。国立病院機構の臨床研究体制再構築に伴い、平成20年度から「内分泌・代謝性疾患」にとどまらず、がん診療支援を含めた幅広い分野を臨床研究の活動分野とすることになりました。

今までの研究基盤の上に立ち、内分泌・代謝性疾患に加え、がん医療、成育医療、循環器疾患、腎疾患、感覚器疾患など幅広い医療分野において、他の研究施設や大学には備わっていない当院独自の特性を生かした臨床研究を行う学術機関として位置づけられています。現在、臨床研究センターは、臨床研究企画運営部、内分泌代謝高血圧研究部、糖尿病研究部、展開医療研究部の4部門15研究室から構成され、院内の臨床部門と密接に連携協力し、研究体制の支援、あわせて院外研究員や諸機関と広く協力して、研究施設の効率的運用を図り、医療の向上に資する臨床研究を強力に推進しています。

□ 地域医療連携・広報活動

臨床研究実践セミナー　第1回「臨床研究計画の立て方」7月13日；　第2回「アンケートの上手な作成法とエクセルでできる統計１」7月31日；　第3回「エクセルでできる統計２と統計ソフトの活用」8月6日（多目的ホール）

下垂体患者の会 医療講演会（関西）,「性腺（睾丸・卵巣）のすべて」, 看護助産学校視聴覚室, 5月27日

第3回臨床研究セミナー　統計解析講師　山陰一（研究員）　特別講演　上島弘嗣滋賀医大名誉教授 （多目的ホール）　12月19日

伏見内分泌代謝ネットワーク　第17回連携の会　「災害と内分泌代謝マネージメント」, 伏見医師会館, 4月14日；　第18回連携の会　「内分泌を楽しく学ぶ」, 伏見医師会館, 10月25日

第13回　メダボリックシンドローム会　「メタボ・糖尿病と運動療法」, 京都医療センター　管理棟4階　大会議室, 12月8日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演　　者	タ イ ト ル	学　会　名
Hasegawa K	Stem cell therapy for cardiomyopathy.	World Congress of Cardiology Scientific Sessions 2012　Dubai, United Arab Emirates　2012/4/21
Morimoto T, Hasegawa K	Nuclear protein complex involved in myocardial pathological growth	World Congress of Cardiology Scientific Sessions 2012　Dubai, United Arab Emirates　2012/4/21
Shimada S, Koji Hasegawa, Hiromichi Wada, Sachiko Terashima, Noriko Asahara-Satoh, Hajime Yamakage, Shuji Kitaoka, Masaharu Akao, Akira Shimatsu,Yuko Takahashi	Hyperlipidemia associated with obesity perturbs improvement of blood fluidity by smoking cessation.	World Congress of Cardiology Scientific Sessions 2012　Dubai, United Arab Emirates　2012/4/21
Sunagawa Y, Yasufumi Katanasaka, Hidetoshi Suzuki, Taishi Terada, Yuichi Watanabe, Hiromichi Wada, Akira Shimatsu, Masatoshi Fujita, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	Retinoblastoma protein (Rb)-associated protein 48 and 46 are novel components of p300/GATA4 complex and repress hypertrophic responses in cardiomyocytes	World Congress of Cardiology Scientific Sessions 2012　Dubai, United Arab Emirates　2012/4/21
Takanabe-Mori R, Koh Ono, Hiromichi Wada, Hajime Yamakage, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Serum MCP-1 levels are increased with duration of smoking and blood pressure in smoking patients	World Congress of Cardiology Scientific Sessions 2012　Dubai, United Arab Emirates　2012/4/21
Ura S, Hiromichi Wada, Masaharu Akao, Nobutoyo Masunaga, Mitsuru Abe, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Genta Osakada, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa	Serum levels of soluble VEGF receptor-2, but not those of VEGF, are decreased in patients with left ventricular hypertrophy and systolic dysfunction	World Congress of Cardiology Scientific Sessions 2012　Dubai, United Arab Emirates　2012/4/21
Hasegawa K, Rieko Takanabe-Mori, Koh Ono, Hiromichi Wada, Noriko Satoh-Asahara, Yuko Takahashi, Tatsuya Sawamura	Serum Levels of Soluble Lectin-like Oxidized Low-density Lipoprotein Receptor-1 in Smoking Patients are Closely Associated with Highly Sensitive CRP and Expired Air Carbon Monoxide Concentrations.	17th International Congress of ISCP (International Society of Cardiovascular Pharmacology) Bucharest　Romania 2012/5/4-5

Sunagawa Y, Hidetoshi Suzuki, Yasufumi Katanasaka, Akira Murakami, Hiromichi Wada, Tadashi Hashimoto, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	Nobiletin derived from a Citrus Flavonoid Prevents the Deterioration of Systolic Function After Myocardial Infarction in Rats	17th International Congress of ISCP (International Society of Cardiovascular Pharmacology) Bucharest Romania 2012/5/4-5
Sunagawa Y, Hidetoshi Suzuki, Yasufumi Katanasaka, Hiromichi Wada, Masatoshi Fujita, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	Serotonin Type 2A Receptor-dependent Pathway Plays Important Roles in Phenylephrine-induced Hypertrophic Responses in Cardiomyocytes	17th International Congress of ISCP (International Society of Cardiovascular Pharmacology) Bucharest Romania 2012/5/4-5
Sunagawa Y, Tatsuya Morimoto, Hidetoshi Suzuki, Hiromichi Wada, Hideaki Kakeya, Tadashi Hashimoto, Koji Hasegawa	A Natural p300 HAT Inhibitor, Curcumin, Prevents the Development of Hypertension-induced Left Ventricular Hypertrophy in Rats	17th International Congress of ISCP (International Society of Cardiovascular Pharmacology) Bucharest Romania 2012/5/4-5
Ura S, Hiromichi Wada, Noriko Satoh-Asahara, Koh Ono1, Tatsuya Morimoto, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa	The combination therapy of imidapril and simvastatin significantly reduces serum levels of soluble vascular endothelial growth factor receptor-2 in the rat model of metabolic syndrome	17th International Congress of ISCP (International Society of Cardiovascular Pharmacology) Bucharest Romania 2012/5/4-5
Nakao K, Nanba K, Tamanaha T, Tuiki M, Tagami T, Usui T, Shimatsu A, Naruse M	Predicting factors of the post-surgical decline in renal function in patients with primary aldosteronism.	15th International Congress of Endocrinology Italy-Florence 2012/5/5-9
Nakao K, Usui T, Mori Y, Kawasima S, Nanba K, Tamanaha T, Tagami T, Naruse M, Yamamoto T, Shimatsu A	A novel tandem germline RET mutations on the same allele in a patient with MEN 2B	15th International Congress of Endocrinology Italy-Florence 2012/5/5-9
Naruse M,Miyazaki Y, Tanaka T,Shimizu M, Otani S, Hata S, Ogou A,Yonezawa K, Yosida K, Sawamura M, Araki R, Tanabe M, Tsuiki M, Suzuki T, Shinbo t, Phasj2-study group	Applicabillity of the guideline for the diagnosis of primary hyperaldosteronism in patients with hypertension in Japan (PHAS-J2): prosepective milti-center study of National Hospital Organization	15th International Congress of Endocrinology Italy-Florence 2012/5/5-9
Nagai N, Yamaguchi M, Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Wakisaka S, Moritani T	CLOCK 3111 T/C SNP is assciated with morning gastric motility in healthy, young women	19th European Congresss on Obesity Lyon, France 2012/5/9-12
Sakane N, Yanagisawa Y,Katashima M, Dohi S, Sakanta K,Hagiwara S	Japanese study of visceral adiposity and lifestyle information: utilization and evaluation	19th European Congresss on Obesity Lyon, France 2012/5/9-12
Hasegawa K	Update of Pharmacological Therapy in Heart Failure.	Philippine Heart Association (PHA) 43rd Annual Convention Manila, Philippines 2012/5/23-25
Hasegawa K	Consultation desk and pharmacotherapy for smoking cessation.	Korea-Japan joint symposium Soul, Korea 2012/6/16
Nanba K, Tsuiki M, Sawai K, Mukai K, Nakao K, Tamanaha T, Usui T, Tagami T, Okuno H, Yamamoto T, Nishimoto K, Shimatsu A, Tanabe A, Naruse M	Histopathological diagnosis of primary aldosteronism using CYP11B2 immunohistochemistry	38th Meeting of the International Aldosterone Conference Houston,USA 2012/6/21-22
Kawashima T-S, Nanba K, Ueda Y, Kakita M, Tamanaha T, Tsuiki M, Usui T, Tagami T, Shimatsu K, Naruse M	Subtype classification by Computed tomography and adrenal venus sampling in Primay Aldosteronism	The Endocrine Society's 94th Annual Meeting Houston, USA. 2012/6/23-26
Naruse M, Miyazaki Y, Tanaka T, Shimizu M, Otani S, Hata S, Ogo A, Yonezawa K, Yosida K, Sawamura M, Araki R, Tanabe M, Tsuiki M, Suzuki T, Shimbo T, study PHASJ2	Prospective multi-center study of National Hospital Organization in Japan of the guideline for Primary hyperaldosteronism (PHAS-J2)	The Endocrine Society's 94th Annual Meeting Houston, USA. 2012/6/23-26
Nakao K, Nanba K, Tamanaha T, Tuiki M, Tagami T, Usui T, Shimatsu A, Naruse M	Predicting factors of the post-surgical renal function in Primary Aldosteronism.	The Endocrine Society's 94th Annual Meeting Houston, USA. 2012/6/23-26
Nanba K, Tagami T, Tamanaha T, Nakao K, Ueda Y, Kakita M, Tsuiki M, Usui T, Shimatsu A, Naruse M	Cosyntropin stimulation test for the subtype classification in primary aldosteronism	The Endocrine Society's 94th Annual Meeting Houston, USA. 2012/6/23-26
Wada H, Shuichi Ura, Shuji Kitaoka, Noriko Satoh-Asahara, Takahiro Horie, Koh Ono, Tomohide Takaya, Rieko Takanabe-Mori, Masaharu Akao, Mitsuru Abe,Tatsuya Morimoto, Toshinori Murayama, Masayuki Yokode, Masatoshi Fujita, Akira Shimatsu, and Koji Hasegawa	Serum levels of VEGF-C, rather than VEGF-A, are closely related to dyslipidemia and atherosclerosis	Cell Symposia: Angiogenesis, Metabolic Regulation, and Cancer Biology Leuven, Belgium 2012/7/6-8
Tsuzaki K, Kotani K, Fujiwara S, Sakane N	The difference of high-density lipoprotein subfractions evaluated by non-denaturing polyacrylamide gel electrophoresis method between non-alcoholic fatty liver disease and alcoholic fatty liver disease.	American Association for Clinical Chemistry Annual meeting Los Angeles,USA 2012/7/15-19
Okada H, Nakagawa Y, Onda M, Fukuoka K, Sakane N	COMPASS Project: a cluster rodomized Intervention Trial by community pharmacists' for lifestyle support for type 2 diabetes patients in Japan	17th international social pharmacy workshop Phuket,Thailand 2012/7/23-6

Wada H, N. Masunaga, S. Ura, M. Akao, M. Abe, Y. Fujita, Y. Satoh, A. Shimatsu, T. Sawamura, K. Hasegawa	Index of lectin-like oxidized low-density-lipoprotein receptor is independently associated with left ventricular systolic dysfunction	European Society of Cardiology Congress　Munich, Germany　2012/8/25-29
Wada H, S. Ura, M. Akao, N. Masunaga, M. Abe, M. Ishii, T. Unoki, G. Osakada, A. Shimatsu, K. Hasegawa	Soluble vascular endothelial growth factor receptor-2, but not vascular endothelial growth factor, is decreased in sera from patients with left ventricular hypertrophy and systolic dysfunction	European Society of Cardiology Congress　Munich, Germany　2012/8/25-29
Okada H, Nakagawa Y, Onda M, Shoji M, Sakane N	Assessing pharmacists' YARIGAI or job satisfaction change within COMPASS project: a cluster sandomized intervention trial by community pharmacists for type 2 diabetes patients in Jpan	24th Federation of Asian Pharmaceutical Association bongress　Bali, Indonesia　2012/9/13-16
Naruse M, Miyazaki Y,　Shimizu M, Otani S, Yonezawa K, Yosida K, Tsuiki M, Suzuki T, Shimbo T,Tanabe A.	Verification of the guideline for primary hyperaldosteronisum : prospective multi-center study with national hospital organization network in Japan(Phas-J2)	Internationl Society of Hypertention2012　Sydney, Australia　2012/9/30-10/4
Tuiki M, Nanba K, Nakao K, Tamanaha T, Usui T, Tagami T,Shimatsu A,　Naruse M	Re-evaluation of the saline infusion test for primary aldosteronism : duration, the subtype classification and cut-off limits for aldosterone	Internationl Society of Hypertention2012　Sydney, Australia　2012/9/30-10/4
Nanba K, Tagami T, Ueda Y, Kakita M, Nakao K, Tamanaha T, Tsuiki M, Usui T, Shimatsu A, Naruse M	Cosyntropin stimulation test in primary aldosteronism	24th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension　Sydney 2012/9/30-10/4
Okada H, Nakagawa Y, Onda M, Shoji M, Sakane N	Community pharmacists for diabetes patients intervention study in Japan (COMPASS-Project1)	International Pharmaceutical Federation　Amsterdam,Netherlands 2012/10/3-8
河野茂夫	Diabetic foot care in Western Pacific Region	シンガポール国立大学　病症カンファレンス　シンガポール　2012/10/9
河野茂夫	Diabetic foot care in Western Pacific Region	ベトナム内分泌代謝研究　カンファレンス　ベトナム　2012/10/10-12
Morimoto T, Hasegawa K	Possible roles of statin therapy for patients with chronic heart failure	The 8th China-Japan Cardiovascular Forum　Beijing, China　2012/10/12-14
Nagaoka N, Hiromichi Wada, Yuko Iida, Sayaka Shimada, Maki Komiyama, Sachiko Terashima, Hajime Yamakage, Noriko Asahara, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Time course changes in salivary oxidation-reduction potentials during smoking cessation therapy	The 8th China-Japan Cardiovascular Forum　Beijing, China　2012/10/12-14
Nagaoka N, Koji Hasegawa, Sayaka Shimada, Maki Komiyama, Sachiko Terashima, Yuko Takahashi	Smoking ban in the ground of our hospital.	The 8th China-Japan Cardiovascular Forum　Beijing, China　2012/10/12-14
Shimada S, Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Sachiko Terashima, Noriko Asahara-Satoh, Hajime Yamakage, Maki Komiyama, Masaharu Akao, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Relationship between blood fluidity and atherosclerotic LDL complexes in smoking patients.	The 8th China-Japan Cardiovascular Forum　Beijing, China　2012/10/12-14
Shimada S, Koji Hasegawa, Hiromichi Wada, Sachiko Terashima, Noriko Asahara-Satoh, Hajime Yamakage, Maki Komiyama, Masaharu Akao, Noa Nagaoka, Yuko Iida, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi	Improvement of blood fluidity at one year after smoking cessation.	The 8th China-Japan Cardiovascular Forum　Beijing, China　2012/10/12-14
Sunagawa Y, Noriyuki Murai, Yasufumi Katanasaka, Hidetoshi Suzuki, Hiromichi Wada, Akira Shimatsu, Masatoshi Fujita, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	Sarpogrelate, 5HT2A Receptor Antagonist, Inhibited Phenylephrine-induced Hypertrophic Responses in Cardiomyocytes	The 8th China-Japan Cardiovascular Forum　Beijing, China　2012/10/12-14
Sunagawa Y, Yasufumi Katanasaka, Hidetoshi Suzuki, Yuichi Watanabe, Naruto Hajika, Hiromichi Wada, Akira Shimatsu, Masatoshi Fujita, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	RbAp48/46 mediate the binding between GATA4 and HDAC1/2 and inhibit hypertrophy-responsive gene transcription in cardiomyocytes	The 8th China-Japan Cardiovascular Forum　Beijing, China　2012/10/12-14
河野茂夫	Diabetic foot care in Western Pacific Region	Forum　on Diabetic Foot and Related Diseases 2012　Guangzhou, China 2012/10/12-13
Okada H, Sakane N	A Comparison of practices at community pharmacies in Japan and Australia	Pharmacy Australia Congress 2012　Melbourne, Australia 2012/10/19-21
Sunagawa Y, Yasufumi Katanasaka, Yuichi Watanabe, Hidetoshi Suzuki, Naruto Hajika, Hiromichi Wada, Akira Shimatsu, Masatoshi Fujita, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	Retinoblastoma Protein-associated Protein 48 and 46 Form Repressor Complex With p300/GATA4 And Inhibit Hypertrophic Responses in Cardiomyocytes	American Heart Association Scientific Sessions 2012　Los Angeles, USA 2012/11/3-7

Sunagawa Y, Midori Tomino, Yoshimi Ikai, Yasufumi Katanasaka , Hidetoshi Suzuki, Akira Murakami, Atsushi Imaizumi, Tadashi Hashimoto, Akira Shimatsu , Takeshi Kimura, Masatoshi Fujita , Koji Hasegawa , Tatsuya Morimoto	Nobiletin, a Citrus Flavonoid, Prevents The development of Heart Failure after Myocardial Infarction in Rats	American Heart Association Scientific Sessions 2012 Los Angeles, USA 2012/11/3-7
Ura S, Hiromichi Wada, Shuji Kitaoka, Noriko Satoh-Asahara, Takahiro Horie, Koh Ono, Tomohide Takaya,, Rieko Takanabe-Mori, Masaharu Akao, Mitsuru Abe, Tatsuya Morimoto, Toshinori Murayama, Masayuki Yokode, Masatoshi Fujita, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa	Circulating Levels of Vascular Endothelial Growth Factor-C are Closely Associated with Dyslipidemia and Atherosclerosis	American Heart Association Scientific Sessions 2012 Los Angeles, USA 2012/11/3-7
Wada H, Shuichi Ura, Nobutoyo Masunaga, Masaharu Akao, Mitsuru Ishii, Takashi Unoki, Mitsuru Abe, Yasuyo Nakajima, Mikihiko Kanasaki, Koh Ono, Tatsuya Morimoto, Noriko Satoh-Asahara, Akira Shimatsu, Koji Hasegawa	Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-1 as a Predictor of Cardiovascular Events in Stable Outpatients with Chronic Kidney Disease	American Heart Association Scientific Sessions 2012 Los Angeles, USA 2012/11/3-7
河野茂夫	Diabetic Foot in Western Pacific Region	the Lautoka Diabetes Hub Lautoka,Fuji 2012/11/5-6
河野茂夫	Diabetic Foot in Western Pacific Region	MOH フィジー厚労省主催 フィジー 2012/11/7-8
Nagaoka N, Hiromichi Wada, Yuko Iida, Sayaka Shimada, Maki Komiyama, Sachiko Terashima, Hajime Yamakage, Noriko Asahara, Akira Shimatsu, Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Reduction of Salivary Oxidation-reduction Potentials by Smoking Cessation.	The 19th Asian Pacific Society of Cardiology 2013 Congress Pattaya, Thailand 2013/2/21-24
Shimada S, Hiromichi Wada, Shuichi Ura, Sachiko Terashima, Noriko Asahara-Satoh, Hajime Yamakage, Maki Komiyama, Masaharu Akao, Akira Shimatsu,Yuko Takahashi, Koji Hasegawa	Atherosclerotic LDL complexes correlated with decreased blood fluidity in smoking patients.	The 19th Asian Pacific Society of Cardiology 2013 Congress Pattaya, Thailand 2013/2/21-24
Shimada S, Koji Hasegawa, Hiromichi Wada, Sachiko Terashima, Noriko Asahara-Satoh, Hajime Yamakage, Maki Komiyama, Masaharu Akao, Yuko Iida, Akira Shimatsu,Yuko Takahashi	Evaluation of blood fluidity in patients with successful smoking cessation.	The 19th Asian Pacific Society of Cardiology 2013 Congress Pattaya, Thailand 2013/2/21-24
Sunagawa Y, Yasufumi Katanasaka, Hidetoshi Suzuki, Yuichi Watanabe, Naruto Hajika, Hiromichi Wada, Akira Shimatsu, Masatoshi Fujita, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	RbAp48/46 Inhibit GATA4-Dependent Hypertrophic Gene Transcription By Forming A Co-repressor Complex With HDAC1/2 In Cardiomyocytes	The 19th Asian Pacific Society of Cardiology 2013 Congress Pattaya, Thailand 2013/2/21-24
Sunagawa Y, Yasufumi Katanasaka, Midori Tomino, Yoshimi Ikai, Hidetoshi Suzuki, Akira Murakami, Hiromichi Wada, Atushi Imaizumi, Tadashi Hashimoto, Akira Shimatsu, Takeshi Kimura, Masatoshi Fujita, Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	A Citrus Flavonoids, Nobiletin, Improves The Deterioration Of Systolic Function After Myocardial Infarction In Rats	The 19th Asian Pacific Society of Cardiology 2013 Congress Pattaya, Thailand 2013/2/21-24
Morimoto T, Yoichi Sunagawa, Yasufumi Katanasaka, Hiromichi Wada, Koji Hasegawa	A molecular target-based therapy for heart failure using a dietary compound curcumin	The 1st International Conference on Pharma-Food (ICPF 2012) Shizuoka, Japan 2012/11/15-16
Sunagawa Y, Yasufumi Katanasaka, Hiromichi Wada, Akira Shimatsu,Koji Hasegawa, Tatsuya Morimoto	G-CSF and erythropoietin additionally improve left ventricular systolic function in heart failure after myocardial infarction in rats	The 1st International Conference on Pharma-Food (ICPF 2012) Shizuoka, Japan 2012/11/15-16

他、787件

□ 投稿論文など

著者	タイトル	著書・雑誌名	vol.	No	page	編集者等	出版社	発行年および月
Nakao KT, Usui T, Ikeda M, Mori Y, Yamamoto T, Kawashima ST, Nanba K, Yuno A, Tamanaha T, Tagami T, Naruse M, Asato R, Shimatsu A.	Novel tandem germline RET proto-oncogene mutations in a patient with multiple endocrine neoplasia type 2B: Report of a case and a literature review of tandem RET mutations with in silico analysis.	Head Neck.			in press			2013
Nanba K, Usui T, Nakamura M, Toyota Y, Hirota K, Tamanaha T, Kawashima ST, Nakao K, Yuno A, Tagami T, Naruse M, Shimatsu A.	A Novel GATA3 Nonsense Mutation in a Newly Diagnosed Adult Patient of Hypothyroidism, Deafness, and Renal Dysplasia (HDR) Syndrome.	Endocr Pract.	19	1	17-20			2013.1
Tagami T, Yambe Y, Tanaka T, Tanaka T, Ogo A, Yoshizumi H, Kaise K, Higashi K, Tanabe M, Shimazu S, Usui T, Shimatsu A, Naruse M; BBGD Study Group.	Short-term effects of β-adrenergic antagonists and methimazole in new-onset thyrotoxicosis caused by Graves' disease.	Intern Med.	51	17	2285-2290			2012.9
Nanba K, Tamanaha T, Nakao K, Kawashima ST, Usui T, Tagami T, Okuno H, Shimatsu A, Suzuki T, Naruse M.	Confirmatory testing in primary aldosteronism.	J Clin Endocrinol Metab.	97	5	1688-1694			2012
Nanba K, Usui T, Minamiguchi S, Mori Y, Watanabe Y, Honda K, Asato R, Nakao K, Kawashima ST, Yuno A, Tamanaha T, Tagami T, Naruse M, Akiyama Y, Shimatsu A.	Two rare TSH receptor amino acid substitutions in toxic thyroid adenomas.	Endocr J.	59	1	13-9			2012
Usui T, Mayu Tochiya, Yousuke Sasaki, Kazuya Muranaka, Hajime Yamakage, Akihiro Himeno, Akira Shimatsu, Asami Inaguma, Tomoko Ueno, Shigeto Uchiyama, Noriko Satoh-Asahara	Effects of natural S-equol supplements on overweight or obesity and metabolic syndrome in the Japanese, based on sex and equol status	Clin Endocrinol	78	3	365-372			2013
Yuno A,Takeshi Usui,Yuko Yambe, Kiichiro Higashi,Satoshi Ugi,Junji Shinoda,Yasuo Mashio, Akira Shimatsu	Genetic and epigenetic states of the GNAS complex in pseudohypoparathyroidism type Ib using methylation-specific multiplex ligation-dependent probe amplification (MS-MLPA) assay	Eur J Endocrinol	168	2	169-175			2013
Shimazu S, Shimatsu A, Yamada S, Inoshita N, Nagamura Y, Usui T, Tsukada T	Resistance to dopamine agonists in prolactionoma is correlated with reduction of dopamine D2 receptor long isoform mRNA levels	Eur J Endocrinol	166	3	383-390			2012
Hasegawa K, Morimoto T	Possible roles of therapy by lipophilic statins for chronic heart failure.	ISCP e-NewsLetter			in press			2012.9
Akao M, Chun Y-H, Wada H, Esato M, Hashimoto T, Abe M, Hasegawa K, Tsuji H, Furuke K, On behalf of the Fushimi AF Registry investigators.	Current status of clinical background of patients with atrial fibrillation in a community-based survey: The Fushimi AF Registry.	J Cardiol	61	4	260-266			2013.2
Satoh-Asahara N, Sasaki Y, Wada H, Tochiya M, Iguchi A, Nakagawachi R, Odori S, Kono S, Hasegawa K, Shimatsu A.	A dipeptidyl peptidase-4 inhibitor, sitagliptin, exerts anti-inflammatory effects in type 2 diabetic patients.	Metabolism.	62	3	347-351			2012.10
Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Sasaki Y, Nakaoka H, Himeno A, Tochiya M, Kono S, Takaya T, Ono K, Wada H, Suganami T, Hasegawa K, Ogawa Y.	Highly Purified Eicosapentaenoic Acid Increases Interleukin-10 Levels of Peripheral Blood Monocytes in Obese Patients With Dyslipidemia.	Diabetes Care.	35	12	2631-2639			2012.8
Sowa N, Horie T, Kuwabara Y, Baba O, Watanabe S, Nishi H, Kinoshita M, Takanabe-Mori R, Wada H, Shimatsu A, Hasegawa K, Kimura T, Ono K.	MicroRNA 26b encoded by the intron of small CTD phosphatase (SCP) 1 has an antagonistic effect on its host gene. .	J Cell Biochem.	113	11	3455-3465			2012.11

Sunagawa Y, Wada H, Suzuki H, Sasaki H, Imaizumi A, Fukuda H, Hashimoto T, Katanasaka Y, Shimatsu A, Kimura T, Kakeya H, Fujita M, Hasegawa K, Morimoto T.	A novel drug delivery system of oral curcumin markedly improves efficacy of treatment for heart failure after myocardial infarction in rats.	Biol Pharm Bull.	35	2	139-144			2012
Takaya T, Hitoo Nishi, Takahiro Horie, Koh Ono, and Koji Hasegawa,	Roles of MicroRNAs and Myocardial Cell Differentiation.	Progress in Molecular Biology and Translational Science	111		139-152	In Yaoliang Tang, editor	Burlington: Academic Press	2012
Rossi GP, Barisa M, Allolio B, Auchus RJ, Amar L, Cohen D, Degenhart C, Deinum J, Fischer E, Gordon R, Kickuth R, Kline G, Lacroix A, Magill S, Miotto D, Naruse M, Nishikawa T, Omura M, Pimenta E, Plouin PF, Quinkler M, Reincke M, Rossi E, Rump LC, Satoh F, Schultze Kool L, Seccia TM, Stowasser M, Tanabe A, Trerotola S, Vonend O, Widimsky J Jr, Wu KD, Wu VC, Pessina AC.	The Adrenal Vein Sampling International Study (AVIS) for identifying the major subtypes of primary aldosteronism.	J Clin Endocrinol Metab.	97	5	1606-14			2012.5
Shirai K, Saiki A, Oikawa S, Teramoto T, Yamada N, Ishibashi S, Tada N, Miyazaki S, Inoue I, Murano S, Sakane N, Satoh-Asahara N, Bujo H, Miyashita Y, Saito Y.	The Effect of Partial Use of Formula Diet on Weight Reduction and Metabolic Variables in Obese Type 2 Diabetic Patients-Multicenter Trial.	Obes Res Clin Pract	7	1	e43-e54			2013.1-2
Takanabe-Mori R, Ono K, Wada H, Takaya T, Ura S, Yamakage H, Satoh-Asahara N, Shimatsu A, Takahashi Y, Fujita M, Fujita Y, Sawamura T, Hasegawa K.	Lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-1 plays an important role in vascular inflammation of current smokers.	J Atheroscler Thromb	20	6	585-590			2013
Kotani K, Fujiwara S, Tsuzaki K, Sakane N.	FTO gene polymorphisms and platelet counts in a general Japanese population	J Investig Med	60	2	514-6			2012
Kotani K, Tsuzaki K, Taniguchi N, Sakane N.	LDL Particle Size and Reactive Oxygen Metabolites in Dyslipidemic Patients.	Int J Prev Med	3	3	160-6			2012
Ayabe M, Kumahara H, Morimura K, Ishii K, Sakane N, Tanaka H.	Very short bouts of non-exercise physical activity associated with metabolic syndrome under free-living conditions in Japanese female adults.	Eur J Appl Physiol.	112	10	3525-32			2012
Sakane N, Kotani K, Tsuzaki K, Sano Y, Takenaka S, Hasegawa M, Ikegawa Y	Effect of calcium citrate on body weight and adiposity in rats fed a high-fat diet	J J Prophy Vet Med	4	1	13-18			2012
Oshima Y, Matsuoka Y, Sakane N	Effect of weight-loss program using self-weighing twice a day and feedback in overweight and obese subject: A randomized controlled trial	Obes Res Clin Pract	7	5	e361-e366			2013
Ayabe M, Kumahara H, Morimura K, Ishii K, Sakane N, Tanaka H	Accumulation of short bouts of non-exercise daily physical activity is associated with lower visceral fat in Japanese female adults.	Int J Sports Med.	34	1	62-7			2012
Yamaguchi M, Kotani K, Sakane N, Tsuzaki K, Takagi A, Wakisaka S, Moritani T, Nagai N.	The CLOCK 3111T/C SNP is associated with morning gastric motility in healthy young women.	Physiol Behav.	107	1	87-91			2012
Kotani K, Tsuzaki K, Sakane N, Taniguchi N.	The Correlation Between Small Dense LDL and Reactive Oxygen Metabolites in a Physical Activity Intervention in Hyperlipidemic Subjects.	J Clin Med Res.	4	3	161-6			2012
Kotani K, Sakane N.	White Blood Cells, Neutrophils, and Reactive Oxygen Metabolites among Asymptomatic Subjects.	Int J Prev Med.	3	6	428-31			2012

Kitaoka K, Nagaoka J, Matsuoka T, Shigemura C, Harada K, Aoi W, Wada S, Asano H, Sakane N, Higashi A.	Dietary Intervention with Cooking Instructions and Self-Monitoring of the Diet in Free-Living Hypertensive Men.	Clin Exp Hypertens.	35	2	120-7			2013
Shirai K, Saiki A, Oikawa S, Teramoto T, Yamada N, Ishibashi S, Tada N, Miyazaki S, Inoue I, Murano S, Sakane N, Satoh-Asahara N, Bujo H, Miyashita Y, Saito Y	The effects of partial use of formula diet on weight reduction and metabolic variables in obese type 2 diabetic patients-Multicenter trial	Obes Res Clin Pract	7	1	e43-54			2013
Kondoh T, Takase H, Yamaguchi TF, Ochiai R, Katashima M, Katsuragi Y, Sakane N	Association of dietary factors with abdominal subcutaneous and visceral adiposity in Japanese men	Obes Res Clin Pract			in press			2013
Miyazaki R, Kotani K, Ayabe M, Tsuzaki K, Shimada J, Sakane N, Takase H, Ichikawa H, Yonei Y, Ishii K.	Minor effects of green tea catechin supplementation on cardiovascular risk markers in active older people: A randomized controlled trial.	Geriatr Gerontol Int.	13	3	622-629			2013
Kotani K, Sakane N, Ueda M, Mashiba S, Hayase Y, Tsuzaki K, Yamada T, Remaley AT.	Oxidized high-density lipoprotein is associated with increased plasma glucose in non-diabetic dyslipidemic subjects.	Clin Chim Acta.	414		125-9			2012
Kotani K, Tsuzaki K, Sakane N.	Paraoxonase-1 gene Q192R polymorphism and reactive oxygen metabolites.	J Int Med Res.	40	4	1513-8			2012
Kotani K, Sakane N.	C-reactive protein and reactive oxygen metabolites in subjects with metabolic syndrome.	J Int Med Res.	4	3	1074-81			2012
Kotani K, Sakane N, Yamada T.	Association of an aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) gene polymorphism with hyper-low-density lipoprotein cholesterolemia in a Japanese population.	Ethn Dis.	22	3	324-8			2012
Kotani K, Tsuzaki K, Fujiwara S, Sakane N.	Sleep Status and Low-Density Lipoprotein Particle Size in a General Japanese Female Population: The Mima Study.	Med Princ Pract.	22	5	510-512			2013
Sakane N, Kotani K, Takahashi K, Sano Y, Tsuzaki K, Okazaki K, Sato J, Suzuki S, Morita S, Izumi K, Kato M, Ishizuka N, Noda M, Kuzuya H.	Japan Diabetes Outcome Intervention Trial-1(J-DOIT1), a nationwide cluster randomized trial of type 2 diabetes prevention by telephone-delivered lifestyle support for high-risk subjects detected at health checkups: rationale, design, and recruitment.	BMC Public Health.	13		81			2013
Gugliucci A, Caccavello R, Kotani K, Sakane N, Kimura S.	Enzymatic assessment of paraoxonase 1 activity on HDL subclasses: a practical zymogram method to assess HDL function.	Clin Chim Acta.	415		162-8			2013
Kotani K, Sakane N.	Association between Remnant-Like Particle Cholesterol and Gamma-Glutamyltransferase in Dyslipidemic Patients.	Med Princ Pract.	22	2	189-93			2013
Kotani K, Sakane N, Taniguchi N.	Association between angiotensin II Type 2 receptor gene A/C3123 polymorphism and high-density lipoprotein cholesterol with hypertension in asymptomatic women.	Med Princ Pract.	22	1	65-9			2013
Hirohata T, Asano K, Ogawa Y, Takano S, Amano K, Isozaki O, Iwai Y, Sakata K, Fukuhara N, Nishioka H, Yamada S, Fujio S, Arita K, Takano K, Tominaga A, Hizuka N, Ikeda H, Osamura RY, Ishii Y, Tahara S, Kawamata T, Shimatsu A, Teramoto A, Matuno A.	DNA mismatch repair protein MSH6 correlated with the responses of atypical pituitary adenomas and pituitary carcinomas to temozolomide: The national cooperative study by the Japan Society for Hypothalamic and Pituitary Tumors.	J Clin Endocrinol Metab	98	3	1130-1136			2013.3

Shimatsu A, Teramoto A, Hizuka N, Kitai K, Ramis J, Chihara K.	Efficacy, safety and pharmacokinetics of sustained-release lanreotide (lanreotide Autogel) in Japanese patients with acromegaly or pituitary gigantism.	Endocr J	60		651-663			2013
Hattori N, Adachi T, Ishihara T, Shimatsu A.	The natural course of macroprolactinaemia.	Eur J Endocrinol	166	4	625-629			2012
Ishii H, Shimatsu A, Okimura Y, Tanaka T, Hizuka N, Kaji H, Hanew K, Oki Y, Yamashiro S, Tanako K, Chihara K.	Development and validation of a new questionnaire assessing quality of life for adult hypopituitarism: Adult Hypopituitarism Questionnaire (AHQ).	PLoS ONE	7	9	e44304			2012.09
Isojima T, Shimatsu A, Yokoya S, Chihara K, Tanaka T, Hizuka N, Teramoto A, Tatsumi K, Tachibana K, Katsumata N, Horikawa R.	Standardized centile curves and reference intervals of serum insulin-like growth factor-I (IGF-I) levels in a normal Japanese population using the LMS method.	Endocr J	59	9	771-780			2012.09
Shimatsu A, Hattori N.	Macroprolactinemia: diagnostic, clinical and pathogenic significance.	Clin Develop Immunol	2012		ID 167132, 7 pages			2012

他、248件

□ 獲得した競争的研究資金

項　目	研究課題	研究者名	研究事業者名	主任 分担の例	主任研究者 直接経費金額
①文部科学省関連研究費	核内受容体によるエネルギー代謝調節の分子メカニズムに関する研究	田上哲也	基盤研究(C)	主任	76.7万円
①文部科学省関連研究費	核内受容体によるエネルギー代謝調節の分子メカニズムに関する研究	成瀬光栄	基盤研究(C)	分担	1.3万円
①文部科学省関連研究費	ＮＯＤマウスにおけるＭＨＣ連鎖Ｉ型糖尿病感受性遺伝子の同定と機能	服部正和	基盤研究(C)	主任	78万円
①文部科学省関連研究費	日本人向けカーボカウントの有用性と指導者育成に関する研究	佐野喜子	基盤研究(C)	主任	58.5万円
①文部科学省関連研究費	日本人向けカーボカウントの有用性と指導者育成に関する研究	坂根直樹	基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	プライマリケア医とコメディカルの糖尿病診療スキル向上プログラム開発と有効性の検証	岡崎研太郎	基盤研究(C)	主任	57.2万円
①文部科学省関連研究費	プライマリケア医とコメディカルの糖尿病診療スキル向上プログラム開発と有効性の検証	坂根直樹	基盤研究(C)	分担	3.9万円
①文部科学省関連研究費	プライマリケア医とコメディカルの糖尿病診療スキル向上プログラム開発と有効性の検証	岡田　浩	基盤研究(C)	分担	3.9万円
①文部科学省関連研究費	骨軟骨移植術および関節軟骨損傷のリハビリテーションに関する基礎的研究	中川泰彰	基盤研究(A) 分担	分担	13万円
①文部科学省関連研究費	骨格筋電気刺激による加齢性筋肉減少性(サルコペニア)の予防・改善	坂根直樹	基盤研究(B) 分担	分担	65万円
①文部科学省関連研究費	ヘルシープレートを活用した簡単カーボコントロール法の有用性の検証	坂根直樹	基盤研究(C) 分担	分担	26万円
①文部科学省関連研究費	高齢者・認知症者の音楽活動による健康増進を推進する読譜トレーニングシステムの開発	塚原徹也	挑戦的萌芽研究 分担	分担	39万円
①文部科学省関連研究費	血液単球分画由来リボ核酸を使用した肺癌診断	三尾直士	分担 基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	メタボリック症候群の発症と減量治療抵抗性に関する新規バイオマーカーの探索	宮永史子	基盤研究(C)	主任	136.5万円

①文部科学省関連研究費	メタボリック症候群の発症と減量治療抵抗性に関する新規バイオマーカーの探索	佐藤哲子	基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	摂食栄養素とアディポサイトカイン値に基づく肥満症の効果的な栄養指導の確立	山陰　一	若手研究(B)	主任	195万円
①文部科学省関連研究費	うつ病態・遺伝素因の日本人肥満・代謝症候群への影響とその効果的診断・治療法の構築	姫野亜紀裕	若手研究(B)	主任	208万円
①文部科学省関連研究費	時間栄養学を活用した生活習慣病予防と治療のための食事指導法開発についての研究	津崎こころ	基盤研究(C)	主任	123.5万円
①文部科学省関連研究費	時間栄養学を活用した生活習慣病予防と治療のための食事指導法開発についての研究	坂根直樹	基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	妊娠糖尿病予防のための構造化された簡易な食事支援プログラムの開発に関する研究	坂根直樹	基盤研究(C)	主任	162.5万円
①文部科学省関連研究費	妊娠糖尿病予防のための構造化された簡易な食事支援プログラムの開発に関する研究	津崎こころ	基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	血管内皮増殖因子Ｃの動脈硬化における役割と心血管イベントとの関連	和田啓道	基盤研究(C)	主任	175.5万円
①文部科学省関連研究費	血管内皮増殖因子Ｃの動脈硬化における役割と心血管イベントとの関連	佐藤哲子	基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	マクロファージ機能・炎症を標的とした肥満・糖尿病血管合併症の早期診断と治療戦略	佐藤哲子	基盤研究(C)	主任	188.5万円
①文部科学省関連研究費	マクロファージ機能・炎症を標的とした肥満・糖尿病血管合併症の早期診断と治療戦略	長谷川浩二	基盤研究(C)	分担	6.5万円
①文部科学省関連研究費	睡眠時無呼吸症候群患者の食習慣の特徴および咀嚼指導が症状へ及ぼす影響	吉田和也	基盤研究(C)	主任	247万円
①文部科学省関連研究費	癌組織中の線維芽細胞の機能解析と新規治療法開発	松末　亮	若手研究(B)	主任	208万円
①文部科学省関連研究費	胃のリズム解析で評価した朝食の"目覚まし効果"-朝型夜型タイプや時計遺伝子多型にも着目して-	坂根直樹	基盤研究(C)	分担	26万円
①文部科学省関連研究費	慢性疾患管理による地域ケアモデルの構築とその臨床・経済的効果に関する研究	岡田　浩	基盤研究(C)	分担	65万円
①文部科学省関連研究費	慢性疾患管理による地域ケアモデルの構築とその臨床・経済的効果に関する研究	坂根直樹	基盤研究(C)	分担	26万円
⑤その他財団等からの研究費	アジア西太平洋地域途上国における糖尿病足病変の発症要因(生活習慣関連)の解明と予防のためのヘルスプロモーションの規程に関する研究	河野茂夫	鈴木万平糖尿病学国際交流財団助成金	主任	250万円
⑤その他財団等からの研究費	プロテオミクス解析による新規p300/GATA4 複合体制御因子の探索	砂川陽一	武田科学振興財団研究助成金	主任	300万円
⑤その他財団等からの研究費	脳動脈瘤形成における壁ずり応力の役割の検討	福田俊一	清水免疫学神経科学振興財団研究助成金	主任	50万円
②厚生労働科学研究費	糖尿病予防のための戦略研究	葛谷英嗣	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	1000万円
②厚生労働科学研究費	間脳下垂体機能障害に関する調査研究	島津　章	難治性疾患克服研究事業	分担	240万円

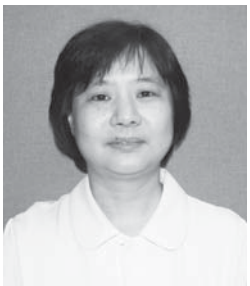
②厚生労働科学研究費	副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	成瀬光栄	難治性疾患克服研究事業(副腎ﾎﾙﾓﾝ)	分担	100万円
②厚生労働科学研究費	ゲノム解析による原発性アルドステロン症の原因診断学の再構築	成瀬光栄	難治性疾患克服研究事業(ゲノム解析)	分担	50万円
②厚生労働科学研究費	国内外科手術成績を基礎とした経口抗がん剤による治療切除大腸癌術後補助療法の確立	山口高史	がん臨床研究事業	分担	50万円
②厚生労働科学研究費	治癒切除後の再発リスクが高い進行胃がん(スキルス胃がんなど)に対する標準的治療の確立に関する研究	畑　啓昭	がん臨床研究事業	分担	50万円
②厚生労働科学研究費	標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究(H23-がん臨床-一般-002)	青木友和	がん臨床研究事業	分担	100万円
②厚生労働科学研究費	肥満残存高血圧合併睡眠時無呼吸患者に対する防風通聖散及び大柴胡湯の治療効果の比較と病態生理の解明　(H22-循環器等(生習)-一般-008)	吉田和也	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	分担	25万円
②厚生労働科学研究費	病態別の患者の実態把握のための調査および肝炎患者の病態に即した相談に対応できる相談員育成のための研修プログラム策定に関する研究	米田俊貴	難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業(肝炎関係研究分野)	分担	150万円
②厚生労働科学研究費	抗HBs人免疫グロブリンの国内製造用原料血漿収集を目的とした国立病院機構職員を対象とするB型肝炎ワクチン接種の有効性、安全性及び皮下投与法と筋肉内投与法の比較に関する研究(H24-医薬-指定-017)	米田俊貴	医薬品・医療機器等ﾚｷﾞｭﾗﾄﾘｰｻｲｴﾝｽ総合研究事業	分担	80万円
⑤その他財団等からの研究費	成長ﾎﾙﾓﾝ療法の治療効果に及ぼす諸因子の解析並びにｱﾄﾞﾊﾞｰｽ･ｲﾍﾞﾝﾄの調査に関する研究	島津　章	成長ホルモン治療研究助成金	分担	20万円
⑤その他財団等からの研究費	内分泌代謝疾患及び関連する生活習慣病に関する事業	成瀬光栄	伏見医師会助成金(内分泌代謝病診連携ﾈｯﾄﾜｰｸ)	主任	10万円
⑤その他財団等からの研究費	わが国の高齢者高血圧における原発性アルドステロン症の実態解明	成瀬光栄	大和証券ﾍﾙｽ財団研究助成金	主任	100万円
⑤その他財団等からの研究費	心理的・行動的因子の管理を含む包括的禁煙治療指針の確立	長谷川浩二	ﾌｧｲｻﾞｰﾍﾙｽﾘｻｰﾁ振興財団助成金	主任	100万円
⑤その他財団等からの研究費	日本人の糖尿病における腎糸球体(毛細血管)と腎最小動脈硬化症に関与する遺伝子と生活環境因子に関する研究	服部正和	ﾋﾄ糖尿病腎症遺伝子と生活環境因子の研究	主任	188万円
⑤その他財団等からの研究費	胃瘻を中心とした各施設の機能別連携の推進とシステム化を目的とした各種時事業	前川高天	伏見医師会助成金(伏見栄養療法・胃瘻研究会)	主任	10万円
⑤その他財団等からの研究費	癌治療を中心とした両機関間の連携促進を目的とした学術講演会の開催、情報交換等	土屋宣之	伏見医師会(癌医療病診連携の会)	主任	10万円
⑤その他財団等からの研究費	Iib型高脂血症に対するﾌｪﾉﾌｨﾌﾞﾗｰﾄとｴｾﾞﾁﾐﾌﾞの単独療法と併用療法のﾗﾝﾀﾞﾑ化比較試験(CSP-LD 07 EFECTL Study)	田上哲也	パブリックヘルス助成金	分担	7万円
⑤その他財団等からの研究費	喫煙がｲｿﾌﾗﾎﾞﾝ代謝に影響を与える腸内細菌叢(bacterio-typing)に及ぼす影響とその効果	臼井　健	喫煙科学研究助成金	主任	200万円

⑤その他財団等からの研究費	ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸｼﾝﾄﾞﾛｰﾑにおけるSAA/LDL上昇と動脈硬化進展に及ぼす喫煙の影響-減量及び薬物療法と禁煙の併用治療による心血管病ﾘｽｸへの効果-	浅原哲子	喫煙科学研究助成金	主任	200万円
⑤その他財団等からの研究費	高血圧と冠動脈研究	浅原哲子	高血圧と冠動脈疾患研究会助成金	主任	5万円
⑤その他財団等からの研究費	井村臨床研究奨励賞	浅原哲子	成人血管病研究振興財団助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	肥満・糖尿病合併CKD患者の心血管リスク早期評価系確立に関する多施設共同研究―新規酸化LDLとシスタチンCの意義	浅原哲子	三井生命厚生事業団医学研究助成金	主任	100万円
⑤その他財団等からの研究費	心血管イベントを規定するバイオマーカー開発-血管新生関連因子と新規酸化LDLﾏｰｶｰ-	和田啓道	武田科学振興財団研究助成金	主任	300万円
⑤その他財団等からの研究費	禁煙後の肥満とVEGFファミリー～各ホモログ、可溶性受容体による関連因子の相違～	和田啓道	タニタ健康体重基金助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	可溶性血管内皮増殖因子（VEGF）受容体２の心血管病発症・進展における役割	和田啓道	木村記念循環器財団助成金	主任	30万円
⑤その他財団等からの研究費	前立腺癌患者における背景因子、初期治療に関する実態調査研究（初回治療調査）	奥野　博	J-CaP研究会研究助成金	主任	14万円
⑤その他財団等からの研究費	医療機関の枠を超えた、地域における糖尿病教室の実践と効果の検証	岡崎研太郎	大同生命厚生事業団学術助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	非運動性短時間身体活動が健康づくりに資する役割に関する包括的分析研究～抗酸化能、DNAの損傷・修復能を含めて～	綾部誠也	花王健康科学助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	平成24年度国際会議等出席支援　主催学会：International Pharmacieutical Federation 2012	岡田　浩	政策医療振興財団研究助成金	主任	34万円
⑤その他財団等からの研究費	メタボリック症候群におけるエンコサペンタエン酸の抗動脈硬化作用の分子機構-PPARγを介するIL-10の上昇作用-	佐々木洋介	高血圧と冠動脈疾患研究会助成金	主任	10万円
⑤その他財団等からの研究費	生活習慣病の血管合併症進展における単球機能の臨床的意義の解明―炎症性M1/抗炎症性M2サイトカインの解析―　A-21018	佐々木洋介	花王健康科学助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	時計遺伝子と食事のリズムがリポ蛋白質代謝に与える影響に関する研究　Ａ－９１００９	津崎こころ	花王健康科学助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	日本人向けカーボカウント評価法の開発と妥当性の検討　Ｂ－０２００１	佐野喜子	花王健康科学助成金	主任	100万円
⑤その他財団等からの研究費	傷病者の栄養指導や特定保健指導によるメタボリックシンドロームの予防の効果を検証する研究	松岡幸代	栄養指導等に関する研究助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	日本人肥満症の病態と減量治療効果に対するうつ状態と遺伝素因の影響に関する多施設共同研究	宮永史子	タニタ健康体重基金助成金	主任	50万円
⑤その他財団等からの研究費	日本人の肥満合併糖尿病発症と減量治療効果・抵抗性に影響する遺伝素因と分子バイオマーカーの探索　―チロシンホスファターゼ1B(PTP1B)遺伝子多型の検討―	宮永史子	日本糖尿病財団・ﾉﾊﾞﾙﾃｨｽﾌｧｰﾏ研究助成金	主任	100万円
⑤その他財団等からの研究費	糖尿病モデルマウスにおけるアディポサイトカインの糖代謝改善作用および炎症マーカーの検討	宮永史子	ｲｰﾗｲﾘﾘｰ研究助成金	主任	40万円

医療安全管理部

医療安全管理部長
高倉　賢二

医療安全管理副部長
赤尾　昌治



医療安全管理係長
松本　貴代子

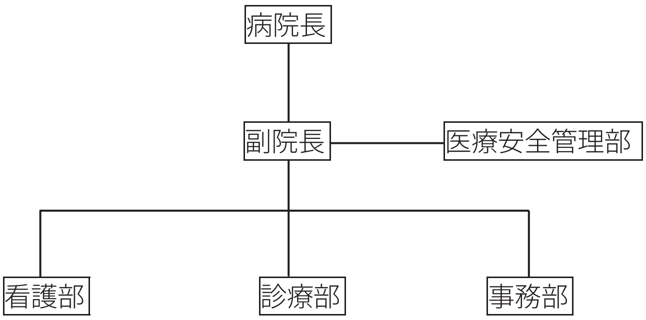
訴訟専門職
山崎　茂

　医療安全は医療の本質にかかわる重要な課題である。病院理念の『私たちは患者さんとともに病気に立ち向かい、患者さんが安心できる医療を提供します。』を実践する上で、安全な医療の提供は基本となるものであり、医療安全の必要性と重要性を、組織としてまた職員個人自身の課題として認識する必要がある。

　医療安全体制の確立を図り安全な医療の遂行を徹底するために、医療安全管理委員会、医療事故対策本部、医療安全管理室を設置して医療安全管理体制を整備している。個々の事例に対応するだけでなく、医療安全のためのマニュアル（以下「マニュアル」という。）も作成している。また、インシデント・アクシデント事例及び医療事故の評価分析によりマニュアル等の定期的な見直し等を行い医療安全管理の強化充実を図っている。

1．医療安全組織図

　1）副院長直下に医療安全管理部を設ける。



　2）構成メンバー

　　医療安全管理部長　１名
　　医療安全管理副部長　１名
　　医療訴務専門職　１名
　　医療安全管理係長　１名
　　医療安全推進担当者（リスクマネージャー）各部署から１名　計５９名

2．医療安全に関する日常活動

　1）　医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査（定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検）
　2）　マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等
　3）　インシデント・アクシデントレポートの収集、保管、分析、具体的な改善策の提案、分析結果の現場へのフィードバックと集計結果の管理

4） 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
5） 医療安全に関する職員への啓発、広報
6） 医療安全に関する教育研修の企画・運営
7） 医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
8） 医療安全管理に係る連絡調整に関すること

3．業務実績

1）医療事故に関する会議開催状況

① 拡大医療安全管理委員会　0件
② 医療事故本部対策会議　0件
③ オカーレンス事例検討会議　15件
④ ハイリスク診療検討会議　8件

2）マニュアル、ガイドラインの作成

・抗血栓薬の適正使用と周術期の取り扱いに関するガイドライン改訂版（2012年）
・中心静脈カテーテル運用マニュアル（2012年）
・術前リスクと術後合併症評価ガイドライン（2012年）
・インスリン指示に関する対症指示テンプレート整備（2012年）

3）インシデント・アクシデントレポート収集

・平成24年度報告件数
インシデント　3,741件
アクシデント　128件

・平成２４年度職種別報告件数
看護部：3,514件（91.1%）
医　師：117件（3.0%）

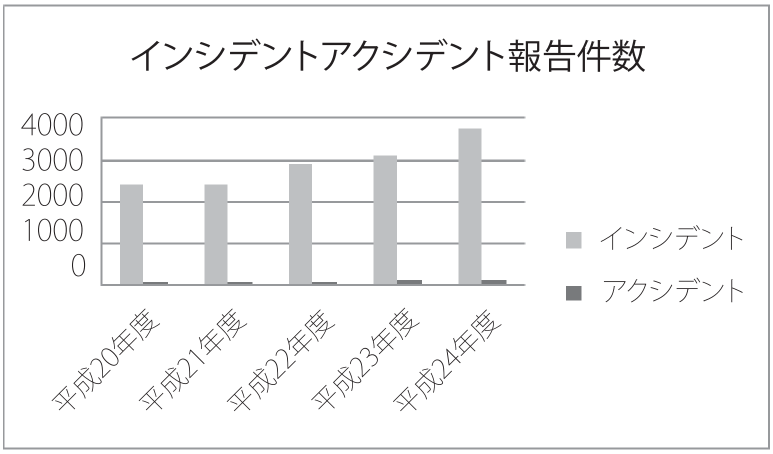


表１　職種別報告件数

看護部	3,514	90.8%
医師	117	3.0%
薬剤	59	1.5%
栄養	43	1.1%
検査	46	1.2%
放射線	40	1.0%
リハビリ	19	0.5%
臨床工学技士	10	0.3%
事務	21	0.6%
合計	3,869	

4）平成24年度緊急コール件数

ドクターハート：コール　２８件
ホワイトコード：コール　１７年

5）医療安全に関する活動及び情報提供

・医療安全管理委員会　１回/月　計１２回
・医療安全推進部会　１回/月　１２回（平成24年度からリスクマネージャー会議に組織改編）
・診療科長会議、医局会、管理診療会議での事例紹介（「本日の事例、本日の苦情」）
・医療安全管理室だより　１回/月発行

・事故事例の情報発信　計9回（個人情報保護、患者取り違え誤薬、ＭＲＩ時の熱傷等）
・病院間における医療安全相互チェック

6）医療安全に関する教育研修

麻薬について～知っていますか！麻薬の種類と管理方法～　143名
安全上ＭＲＩ検査の前に知っておくべきこと　　61名
ＮＩＰＰＶ　新機種研修会　　131名

7）医療安全に関する講義

新採用者研修、幹部看護師任用候補者研修、スペシャルメディカルクラーク、看護学校
近畿ブロック医療安全管理者研修

医療情報部

医療情報部長
情報システム管理室室長
診療情報管理室室長
臨床研究センター政策医療企画研究部情報化推進研究室室長
北岡　有喜

専門医資格等
京都大学　医学博士
独立行政法人国立病院機構本部　情報化統括責任者(CIO)補佐官
日本産科婦人科学会　専門医
ジャパン・クラウド・コンソーシアム　健康・医療クラウドWG総合監修
ＩＴコンソーシアム京都　医療情報化部会長
京都府がん医療戦略推進会議　院内がん登録部会　部会長
国際医療福祉大学大学院客員教授（医療福祉情報システム学）

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
副　部　長	八幡　兼成	京都大学　医学博士 日本腎臓学会　専門医・指導医 日本透析医学会　専門医・指導医 日本糖尿病学会　専門医 日本内科学会　専門医
診療情報管理室 主任	金子　悦代	診療情報管理士・院内がん登録実務中級者
診療情報管理室 室員	平井　千尋	診療情報管理士・院内がん登録実務初級者
診療情報管理室 室員	上田　好美	診療情報管理士・院内がん登録実務初級者
診療情報管理室 室員	淺井　典子	事務助手(診療情報管理室担当)
診療情報管理室 室員	川戸さくら	事務助手(診療情報管理室担当)
スペシャル医療クラーク	松田安由美	助産師・産婦人科担当
スペシャル医療クラーク	木村　仁美	眼科担当
スペシャル医療クラーク	秋好　香織	整形外科担当
スペシャル医療クラーク	長谷川紗世	内分泌代謝センター担当
スペシャル医療クラーク	西田千賀子	耳鼻咽喉科担当
スペシャル医療クラーク	成田　朋代	泌尿器科担当
スペシャル医療クラーク	赤井　樹理	院内がん登録実務初級者・日本癌治療学会認定データマネージャー・JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）臨床試験セミナー入門編修了・外科担当
スペシャル医療クラーク	甲田　実樹	呼吸器内科担当
スペシャル医療クラーク	柴田　暢子	院内がん登録実務初級者・形成外科担当
スペシャル医療クラーク	品川　智子	薬剤師・循環器内科担当
スペシャル医療クラーク	村上　雅代	救命センター担当

スペシャル医療クラーク	川合　朋子	麻酔科担当
スペシャル医療クラーク	中村　繭子	院内がん登録実務初級者・消化器内科・内視鏡センター担当
スペシャル医療クラーク	西山万里子	看護師・血管外科担当
スペシャル医療クラーク	小川　文代	管理栄養士・呼吸器外科担当
スペシャル医療クラーク	中條　夏子	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	三浦　圭代	小児内科担当
スペシャル医療クラーク	中尾　真理	腎臓内科担当
スペシャル医療クラーク	藤本　容子	薬剤師・糖尿病センター担当
スペシャル医療クラーク	加藤由美子	緩和ケア科担当
スペシャル医療クラーク	目片　香織	皮膚科担当
スペシャル医療クラーク	南野　和代	院長室・整形外科担当
スペシャル医療クラーク	田中　直美	心臓外科担当
スペシャル医療クラーク	黒田　果奈	脳神経センター担当
スペシャル医療クラーク	横山　順子	放射治療科担当
スペシャル医療クラーク	木下　幸子	腫瘍内科担当
スペシャル医療クラーク	陳　勝涛	中華人民共和国看護師・産婦人科担当
スペシャル医療クラーク	井上　恭子	脳神経センター・地域連携室担当
スペシャル医療クラーク	馬場真由子	消化器内科・内視鏡センター担当
医療クラーク	松本紀美子	事務助手(地域連携室担当)
医療クラーク	石橋ナナミ	事務助手(手術室担当)
情報システム管理室室員	園田　淳	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	奥田　英智	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	細江　俊樹	運用管理職員(委託)
情報システム管理室室員	太田　佳子	運用管理職員(委託)
流動研究員	木下　善皓	診療情報管理士
非常勤研究員	中辻　善行	システムエンジニア
非常勤研究員	小川　麻理	日医認定ITインストラクター・情報処理士
非常勤研究員	横田　健吾	システムエンジニア
非常勤研究員	滝川　裕介	システムエンジニア
非常勤研究員	小森　由宗	システムエンジニア
非常勤研究員	河野　通和	システムエンジニア
非常勤研究員	松原　大介	システムエンジニア
非常勤研究員	小森谷祥明	システムエンジニア
非常勤研究員	田中　啓之	システムエンジニア
非常勤研究員	安江　大輔	システムエンジニア

□ 診療科の特徴

1. 京都医療センター医療情報部は、独立行政法人化以前の2003年7月に国立病院としては初めて設置が認可された医療情報部です。
2. 医師と情報システムエンジニアの資格を持つ人材が部長を担当しており、ベンダーに依存することなく、医療現場のニーズにマッチした情報システムの要件定義や開発・導入・構築を迅速かつ適価で行っています。
3. 京都府・京都市が設置した情報基盤協議会である「ITコンソーシアム京都」医療情報化部会と連携し、「ポケットカルテ」などの二次医療圏を包括する地域医療連携基盤の企画・設計・開発・構築・運用・整備なども行っています。
4. 情報システムや診療記録管理だけでなく、診療諸記録作成の専門職として「スペシャル医療クラーク」を独自に育成し各診療科に配置することで、医師・看護師などの専門職が専門業務に集中出来る環境を構築すると共に、診療諸記録の質の向上ならびに診療の質の向上に努めています。

□ 診療（業務）内容

医療情報部は３部署で構成されています。各部署の名称と主な業務内容は以下の通りです。

1. 病院情報システム管理室
   病院情報システム（電子カルテシステム）の開発・構築・運用・整備および将　来計画に関すること
2. 診療情報管理室
   診療諸記録及び診療情報の管理・調査・研究およびがん登録に関すること
3. 診療支援チーム
   スペシャル医療クラークを独自に育成し、各診療科などに配置することで、医師など専門職の事務作業を軽減すると共に、診療諸記録の精度向上や処理を迅速化すること
   また、研究業務は臨床研究センター情報化推進研究室と一体化し、医療情報の研究、教育及び利用、病院の運営及び診療の管理に係る情報化などの研究開発を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

第10回院内がん登録部会研修会、京都第一赤十字病院、2012年4月21日
第20回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年4月26日
第11回院内がん登録部会、京都医療センター、2012年5月17日
第8回登録実務WG、京都医療センター、2012年5月17日
第２回全国若手政治家サミット実行委員会　全国若手市議会議員の会「第二回全国若手政治家サミット研修会」、北岡有喜、物産展　デュオ神戸、2012年5月20日
第21回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年5月24日
平成24年度「電波の日・情報通信月間」記念式典　「情報通信月間」近畿総合通信局長表彰、北岡有喜、2012年6月1日
株式会社インテージ　第2回ヘルスケアライフログ活用モデル研究会、北岡有喜、株式会社インテージ秋葉原本社、2012年6月1日
第2回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会ーがん登録部会、国立がん研究センター築地キャンパス、2012年6月9日
総務省　医療ICTシンポジウム-医療ICTが創る地域の未来-、北岡有喜、三田共用会議所、2012年6月21日
第22回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年6月28日
第11回院内がん登録部会研修会、京都第一赤十字病院、2012年6月30日
国際モダンホスピタルショウ2012　北岡有喜他、ポケットカルテ、東京ビッグサイト、2012年7月17日

ジャパン・クラウド・コンソーシアム　第4回定時総会、北岡有喜、JA共済ビル、2012年7月19日
第12回院内がん登録部会、京都医療センター、2012年7月19日
第9回登録実務WG、京都医療センター、2012年7月19日
第23回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年7月26日
株式会社インテージ　第3回ヘルスケアライフログ活用モデル研究会、北岡有喜、株式会社インテージ秋葉原本社、2012年7月27日
京都府院内がん登録セミナー　(第12回院内がん登録部会研修会)、2012年8月25日
第2回京都府がん医療戦略推進会議、京都平安ホテル、2012年8月27日
第24回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年8月30日
第3回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会ーがん登録部会、国立がん研究センター築地キャンパス、2012年8月31日
第21回市民すこやかフェア2012　地域共通診察券（すこやか安心カード）を無料発行、みやこめっせ、2012年9月1日
第25回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年9月27日
第13回院内がん登録部会、京都医療センター、2012年10月18日
第10回登録実務WG、京都医療センター、2012年10月18日
第10回う～茶んフェスタ　地域共通診察券(すこやか安心カード)の発行申込みブースを出展、うじ安心館、2012年10月21日
第26回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年10月25日
ジャパン・クラウド・コンソーシアム　第3回ミドルウェア／インフラＳＷＧ（健康・医療クラウドＷＧ）、北岡有喜、KDDI　飯田橋GAT、2012年11月2日
株式会社インテージ　第4回ヘルスケアライフログ活用モデル研究会、北岡有喜、株式会社インテージ秋葉原本社、2012年11月9日
公益社団法人全国老人保健施設協会関東甲信越支部長会　勉強会、北岡有喜、横浜崎陽軒、2012年11月17日
第27回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年11月22日
公益財団法人ひょうご産業活性化センター　平成24年度　第3回「兵庫産業研究会(旧兵庫ものづくり研究会)」、北岡有喜、ひょうご産業活性化センター ビジネスプラザひょうご ホール、2012年11月29日
都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会「データ利用審査員会」第1回委員会、国立がん研究センター築地キャンパス、2012年12月3日
第14回院内がん登録部会、洛和会音羽病院、2012年12月7日
第14回院内がん登録部会研修会、洛和会音羽病院、2012年12月7日
第11回登録実務WG、洛和会音羽病院、2012年12月7日
ジャパン・クラウド・コンソーシアム　ミドルウェア／インフラＳＷＧ、北岡有喜、KDDI田橋飯田橋GAT、2012年12月13日
ジャパン・クラウド・コンソーシアム　総会&講演会、北岡有喜、JA共済ビル、2012年12月19日
第28回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2012年12月20日
第29回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年1月24日

総務省・近畿総合通信局、近畿情報通信協議会　近畿情報通信講座④平成24年度近畿ICT利活用普及促進セミナー- ICT利活用による地域医療連携等の取組事例を紹介 -、北岡有喜、神戸国際会館、2013年2月7日
第15回院内がん登録部会、京都医療センター、2013年2月14日
第15回院内がん登録部会研修会、京都医療センター、2013年2月14日
第12回登録実務WG、京都医療センター、2013年2月14日
都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会「データ利用審査員会」第2回委員会、国立がん研究センター築地キャンパス、2013年2月18日
第30回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年2月21日
日本看護協会　本部役員向けセキュリティセミナー、北岡有喜、2013年2月25日
第31回地域ICT利活用広域連携事業「地域共通診察券(すこやか安心カード)運営協議会」北岡有喜他、独立行政法人国立病院機構京都医療センター、2013年3月21日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

演者・演題・学会名
北岡有喜, 米山万里枝, 開發寛, 時田悟. 住民が望む健康医療福祉ＩＣＴとは. 一般社団法人日本医療情報学会 看護部会　第13回日本医療情報学会看護学術大会ワークショップ9. 2012年8月5日;東京都
木下善皓, 北岡有喜. スペシャル医療クラーク導入効果. 第87回学術講演会・第11回研究所研究発表会. 2012年7月21日;大阪府
北岡有喜. 地域医療の最前線～みなとみらいから未来へ～」シンポジウム“「かながわマイカルテ」プロジェクト”. 社団法人全日本病院協会　第54回全日本病院学会in神奈川2012年9月22日;パシフィコ横浜
木下善皓, 北岡有喜. スペシャル医療クラークの導入効果：(1) 外来診察時間について. 第66回国立病院総合医学会. 2012年11月16日;兵庫県
木下善皓, 北岡有喜. スペシャル医療クラークの導入効果：(2) 退院サマリー作成率について. 第66回国立病院総合医学会. 2012年11月16日;兵庫県
木下善皓, 北岡有喜. スペシャル医療クラークの導入効果：(3) 外来診療記録の質的改善. 第66回国立病院総合医学会. 2012年11月16日;兵庫県
藤本容子, 真鍋悟, 岡嶋昭, 岸純一郎, 村田敬, 山田和範. SMBG 解析ソフトをもちいた1 型糖尿病患者の血糖変動評価：症例提示. 第49回日本糖尿病学会近畿地方会. 2012年11月17日;京都府
木下善皓, 北岡有喜. スペシャル医療クラーク導入効果. 日本医療マネジメント学会 第10回京滋支部学術集会. 2013年2月16日;滋賀県
北岡有喜. 個人向け健康医療福祉履歴管理（ＰＨＲ）サービス「ポケットカルテ」これまでの取組みと今後の展開について. 第52回静岡県病院学会. 2013年3月3日;静岡市

□ 投稿論文など

著書・雑誌名	著者・タイトル
産婦人科の進歩　64(2)　2012	今井更衣子, 坂田亜希子, 上田優輔, 山西優紀夫, 関山健太郎, 江川晴人, 高尾由美, 山本紳一, 北岡有喜, 徳重誠, 高倉賢二, 難波多挙, 垣田真以子. Cushing症候群合併妊娠の1症例
一般社団法人日本医療情報学会 看護部会 第13回日本医療情報学会看護学術大会ワークショップ9　2012	北岡有喜, 米山万里枝, 開發寛, 時田悟. 住民が望む健康医療福祉ＩＣＴとは
B-plus：電子情報通信学会通信ソサイエティマガジン(22)99-105　2012	北岡有喜. 個人向け健康情報管理サービス「ポケットカルテ」について (小特集 ホームICTの新たな展開)
第49回日本糖尿病学会近畿地方会　2012	藤本容子, 真鍋悟, 岡嶋昭, 岸純一郎, 村田敬, 山田和範. SMBG 解析ソフトをもちいた1 型糖尿病患者の血糖変動評価：症例提示
「医療におけるデータマイニング講座」国際医療福祉総合研究所　HealthCare Innovation 21 研究会編　日本医学出版 67-79　2012	北岡有喜. PHRシステム：ポケットカルテの構築と2次利活用
日本医療マネジメント学会　第10回京滋支部学術集　2012	木下善皓, 北岡有喜. スペシャル医療クラークの導入効果

□ 院内情報処理業務支援

病診連携用画像CD-R作成件数（放射線科、内視鏡センター）　3684件　（月平均307件）

感染制御部

感染制御部長
奥野　博

専門医資格等
日本泌尿器科学会専門医・指導医
京都大学臨床教授
関西医科大学臨床教授
日本生殖医学会評議員
日本アンドロロジー学会評議員
日本癌治療認定医
日本臨床腎移植学会腎移植認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
京都大学医学博士
専門分野
泌尿器科一般
得意疾患
前立腺癌
男性学
感染症

副部長
ICTリーダー
小田垣孝雄

専門医資格等
ICD：Infection control doctor
日本内科学会総合内科専門医
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
専門分野
内科一般
感染制御
得意疾患
一般内科疾患

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等	専門分野	得意疾患
副部長	志馬　伸朗	ICD：Infection control doctor 日本感染症学会　感染症専門医 日本化学療法学会　評議員・抗菌化学療法指導医/認定医 日本外科感染症学会　評議員・外科周術期感染管理暫定教育医/認定医 日本版敗血症ガイドライン策定委員 真菌症ガイドライン2014策定委員 肺炎診療ガイドライン策定委員	救急・集中治療	集中治療医学 救急医学 感染症学 麻酔科学
医師	畑　啓昭	ICD：Infection control doctor 外科学会専門医 消化器外科学会専門医 日本外科感染症学会　評議員 外科周術期感染管理暫定教育医/認定医	上部消化管外科	胃癌 食道癌
医師	遠藤　文司	ICD：Infection control doctor 日本内科学会認定医 日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医 日本医師会認定産業医	胆道・膵疾患における内視鏡検査・治療	胆道・膵疾患
薬剤師（専任）	朴井　三矢	抗菌化学療法認定薬剤師 感染制御認定薬剤師		
薬剤師	福田　良子	救急認定薬剤師		
副看護師長（専従）	宮地　聡子	ICN：Infection control nurse 感染管理認定看護師		
検査科主任	福田　修			
経営企画室長	岡崎　義治			

□ 診療(業務)内容

平成9年4月に院内感染対策チームが(ICT)設立し、平成22年4月にはICTを核とする感染制御部が発足しました。そのモットーは院内の感染管理と職員の健康管理を通じて、患者さんが安心して診療を受けられる環境を提供することを目標としています。

さらにその使命として医師、看護師、リンクナース、薬剤師、臨床検査技師、事務など多くの職員がそれぞれに得意とする分野を分担し、責任をもってこれを行っています。

この活動内容は病院長直轄の「院内感染対策委員会」(月1回)と平成22年4月に発足した「抗菌薬の適正使用に関する小委員会」(月1回)にて報告・審議・決定がなされるシステムとなっています。実務はICTリーダーを中心に週１回のICTラウンドICTミーティングを行い、また日常の問題や相談に関しても随時対応しています。

平成24年度には感染防止対策推進に関する診療報酬が改定され、当院では感染防止対策加算１;400点(入院初日)＋感染防止対策地域連携加算;100点(入院初日)＝500点の算定(新設)が可能となり、これまで以上に感染対策チーム(ICT)の活動が求められるようになりました。そのポイントは下記の3点です。

1. 院内感染防止の評価が医療安全対策加算とは別の評体系に改められた
2. ICTのある医療機関と300床未満の医療機関との連携が評価された

　年4回以上、感染防止対策加算２を算定する医療機関と合同の感染防止対策に関する取組を話し合うカンファレンスを開催していること。

　感染防止対策加算２を算定する医療機関から感染防止対策に関する相談を適宜受け付けること。当院連携施設:弘仁会大島病院　真和会京都大橋総合病院　ＮＴＴ西日本京都病院　国立病院機構南京都病院　淀さんせん会金井病院

3. ICTをもつ医療機関同士が相互に連携して感染対策にあたることが評価された

　感染防止対策加算１施設を算定している医療機関同士が連携し、年1回以上、お互いの医療機関に赴いて、相互に感染防止対策に係る評価を行うこと。当院連携施設:京都市立病院機構　京都市立病院

□ 地域医療連携・広報活動

院内感染対策講習会　「インフルエンザアウトブレイクを振り返って」　2012年6月22日・７月12日
院内感染対策講習会　「カテーテル感染」　2012年12月06日・12月17日
第１回感染防止対策地域連携カンファレンス　「院内感染対策チームの作り方、活動の仕方」　2012年6月23日
第２回感染防止対策地域連携カンファレンス　「ICTラウンドについて」　2012年9月15日
第３回感染防止対策地域連携カンファレンス　「インフルエンザ・ノロウイルスによる感染性胃腸炎について」2012年12月22日
第４回感染防止対策地域連携カンファレンス　「平成24年度感染防止対策総括」　2013年2月23日
感染防止対策地域連携加算相互評価:京都市立病院　2012年11月8日・11月15日

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
院内講習会	「平成２４年３月インフルエンザ院内アウトブレイク総括」　小田垣孝雄　2012年6月22日・７月12日
院内講習会	「1-7病棟インフルエンザアウトブレイクを振り返って」　遠藤文司　2012年6月22日・７月12日
院内講習会	「インフルエンザアウトブレイクから、次の流行期に向けての感染対策」　宮地聡子　2012年6月22日・７月12日
院内講習会	「アウトブレイク時の抗インフルエンザ薬について」　朴井三矢　2012年6月22日・７月12日
院内講習会	「ＣＬＡ－ＢＳＩ(カテーテル関連血流感染)について」　志馬伸朗　2012年12月06日・12月17日
院内講習会	「尿道カテーテル関連尿路感染予防について」　宮地聡子　2012年12月06日・12月17日

教育研修部

専門医資格等　日本内科学会内科指導医

教育研修部長
小山　弘

□ 教育研修部の特徴

施設認定等	臨床研修指定病院

1. スーパーローテション方式を採用しています
2. ERの担当を通じ、幅広く急性疾患、外傷に対応する能力を獲得します
3. 古くからの教育病院として、臨床研修医を教える文化のある病院です
4. 毎週臨床研修医が自分で選んだテーマのレクチャーをすることにより、自己学習の習慣を習得します

□ 診療（業務）内容

当院の臨床研修プログラムに所属する臨床研修医、および京都大学医学部付属病院の臨床研修プログラムに所属する臨床研修医のうち協力病院として当院で研修を行う臨床研修医の、研修に関する諸問題を担当しています。

また、京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会の委員として、京都府全体の臨床研修に関する活動を行っています。

□ 地域医療連携・広報活動

京都府医師会臨床研修のあり方に関する検討委員会副委員長
京都府地域医療支援センター運営会議委員
医療系大学間共用試験実施評価機構医学系OSCE実施小委員会委員

地域医療部

地域医療部長
秋山　祐一

地域医療連携室長
瀬田　公一

□ 地域医療支援病院の見直し作業が進んでいます。

　厚生労働省の各種審議会を見ていると75歳以上の老人人口の増加を見据えて医療法の改正を目指していることがわかります。「医療機関の役割分担を行い、はじめから大病院ではなくまずはかかりつけ医を受診する体制に変えていく必要がある」と社会保障国民会議においても議論されています。すでに急性期の病院は経営面でDPCにより長期入院ができないようにシステム化されています。急性期病院はⅡ群とⅢ群に分けられ　超急性期病院という概念も議論の対象になっています。他にも紹介率、逆紹介率を厳格に定義するという方向性も示されてきていて、地域医療支援病院の見直しが進んでいます。地域医療連携室では結果的に地域の連携の絆が強まるように、紹介率と逆紹介率向上をめざして、病院内の各部署と協力して、あらゆる努力を続けます。

□ 地域医療連携室

わたしたちは京都医療センターを
・良質な医療で地域に貢献できる病院
・優秀な医療スタッフが集まる病院
・熱意ある研修医や若手コメディカルにとって魅力的な病院
・スタッフが新しい技術や考え方を学べる病院
・チーム医療と医療安全が確立している病院
・地域から信頼される病院
として成長していくことを目指して、地域医療連携室として頑張っています。
地域医療連携室が出来ることとして、
・断らない医療、円滑な予約システムの構築
・円滑な退院支援の強化
・地域の医療機関との顔の見える関係の構築
・高度な急性期医療を担うという認識の職員全体での共有
・高度な急性期医療を担っている病院であることへの患者さんとその家族の理解
を得ていこうと考えています。

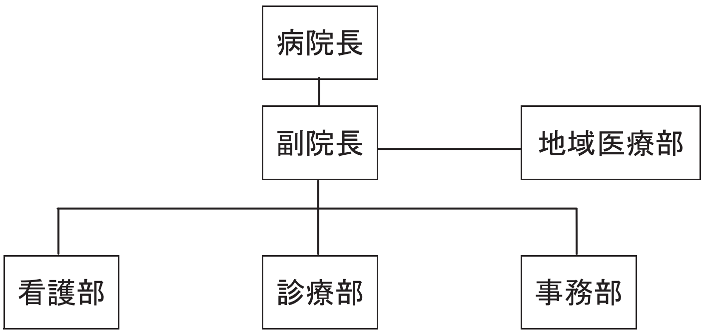
□ スタッフ

経営企画室長・地域医療連携室長補佐	岡崎 義治
地域医療連携係長・病床管理師長	塚本 直子

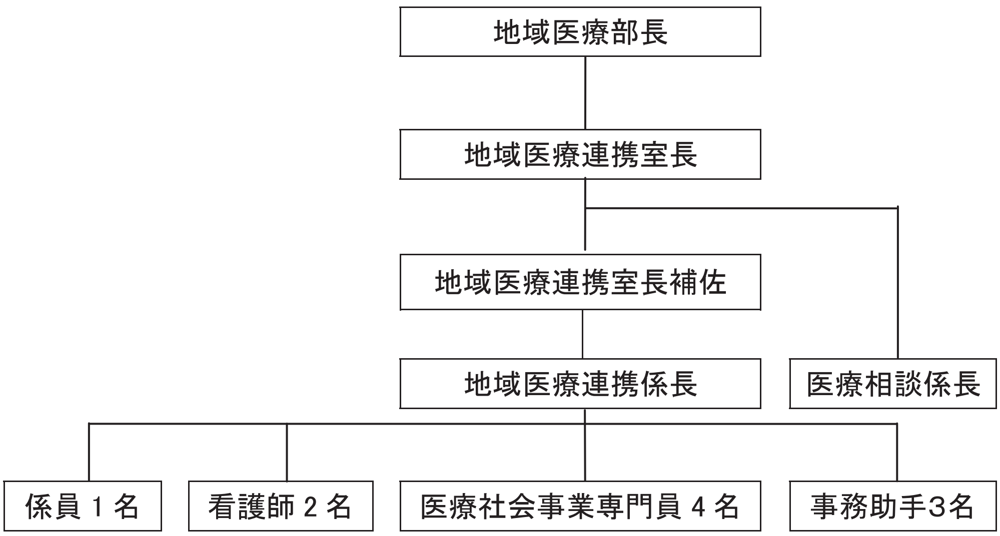
主任医療社会事業専門員	宅間 親恵
看護師	杉本 明美
看護師	井上 綾乃
医療社会事業専門員	長田 沙友梨
医療社会事業専門員	弘中 孝佳
医療社会事業専門員	吉岡　孝師
地域医療連携係	金本 晃一
事務	森野 裕子
事務	植田 奈緒子
予約担当	川村 一恵
予約担当	井坂 杏映

1. 沿革と体制

2002年　地域医療連携室設置
2007年　地域がん診療拠点病院の指定
2008年　地域医療支援病院の承認



構成メンバー



2. 地域医療連携室の日常活動

〈前方連携〉

●診察・検査事前予約

●救急紹介受診の受付と手配

●開放型病床のデータ管理

●紹介患者の返信確認と入退院の情報提供

〈後方連携〉

●退院支援（転院・在宅）

●後方支援機関との連携の強化

●後方支援機関への紹介患者

〈相談〉

●療養上の相談や受診についての相談

●経済的問題の解決

●各種制度（介護保険・障害者医療など）の相談

〈広報〉

●外来担当表等の発送

●広報誌『京都医療センターだより』の発送

●市民公開講座の開催

●各医療機関への訪問

3. 業務実績(2012年実績)

地域医療連携室経由予約件数　診療予約7,147件　検査予約1,217件
1日平均予約件数34.1件

相談件数7,475件　転院支援実績518件

転院支援実績在院日数53.5日　地域医療診療計画管理料適用患者数　80件

救急受診受付668件　救急受診受入後入院件数323件

セカンドオピニオン相談件数105件　セカンドオピニオン実績件数17件

紹介率69.1%　逆紹介率61.2%　開放型病床登録医数169件

地域医療連携委員会　1回/月

地域支援病院運営委員会　四半期1回

地域公開講座計4回開催

院内発表

平成24年7月6日（金）介護保険の基礎知識：60名参加　宅間親恵

平成25年3月2日（土）成果発表会

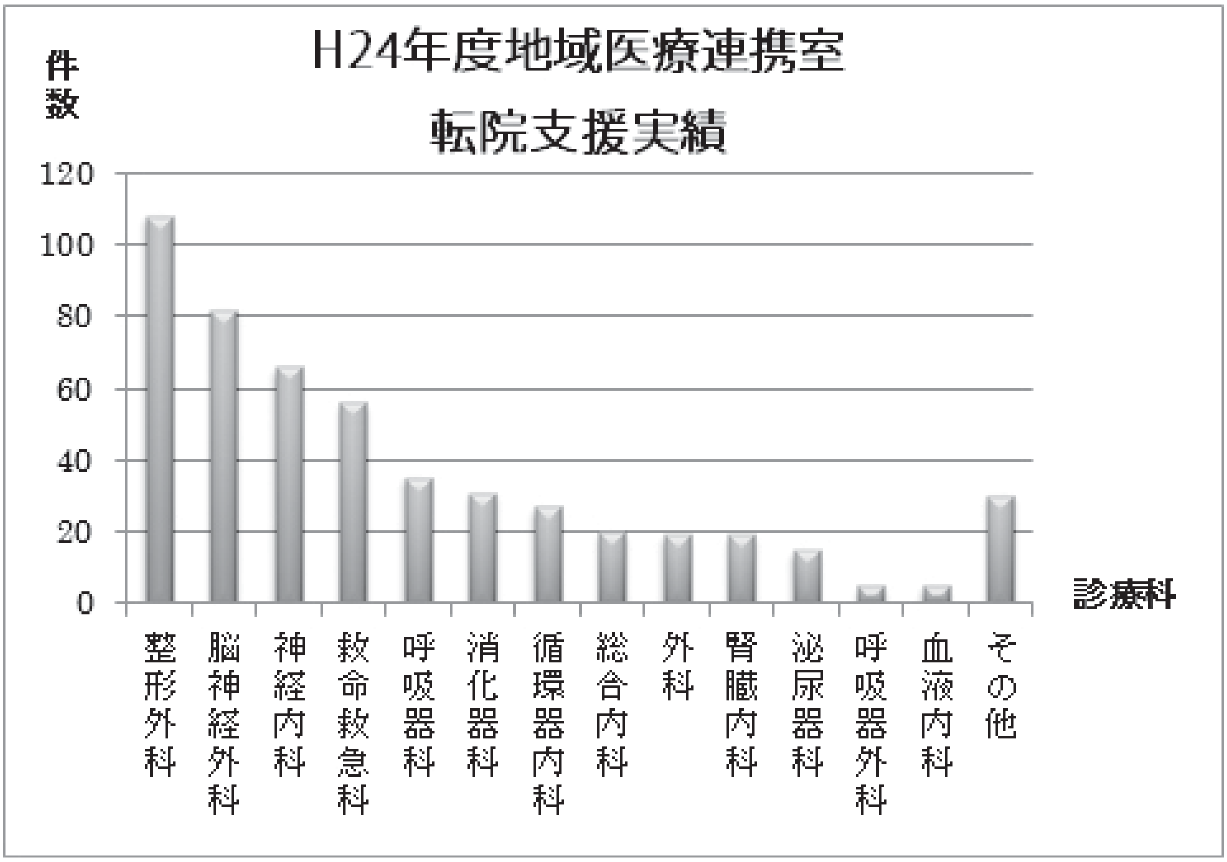
「ＭＳＷが関わった退院支援」　宅間親恵　口述

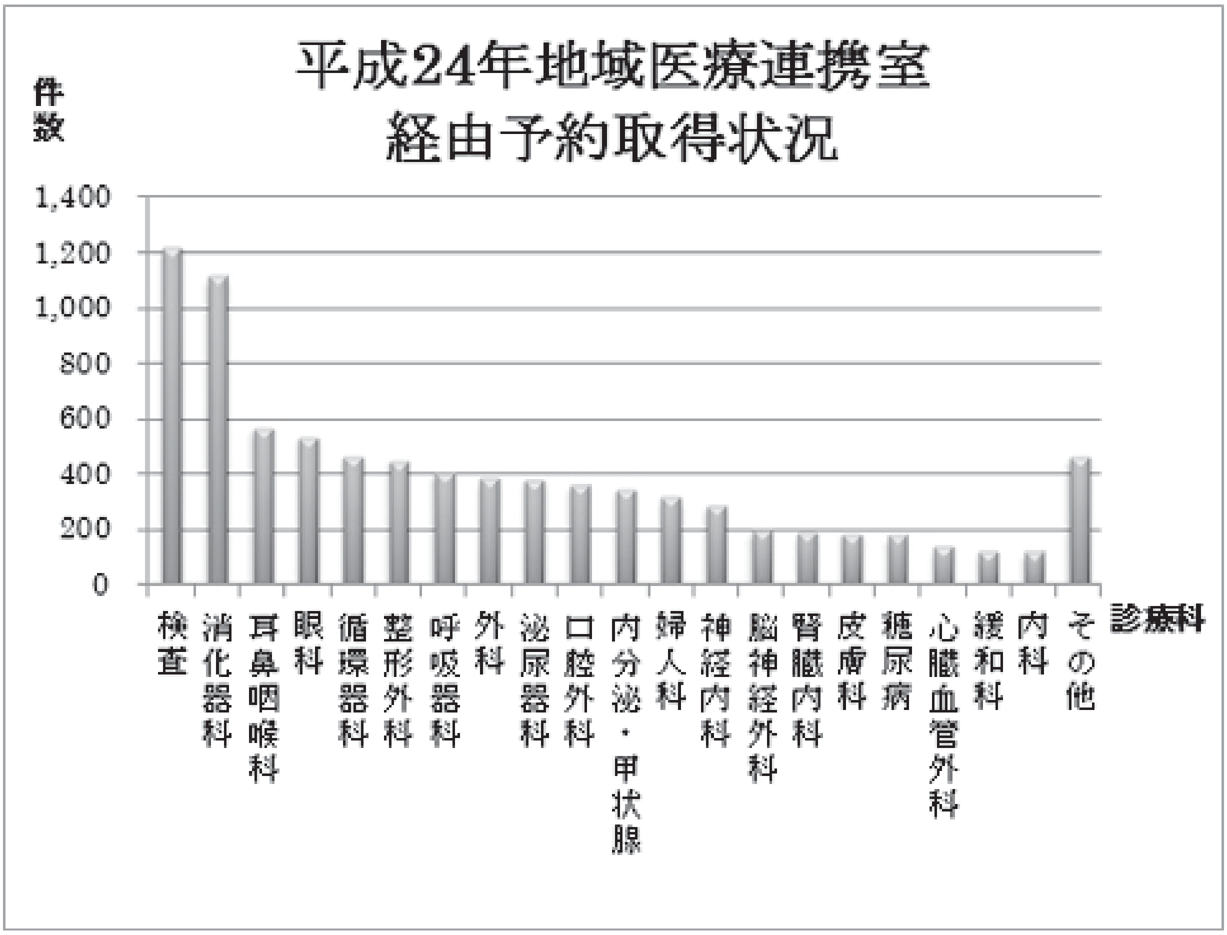
「転院調整の改善に向けた取り組み」　佐々木幸樹　ポスター

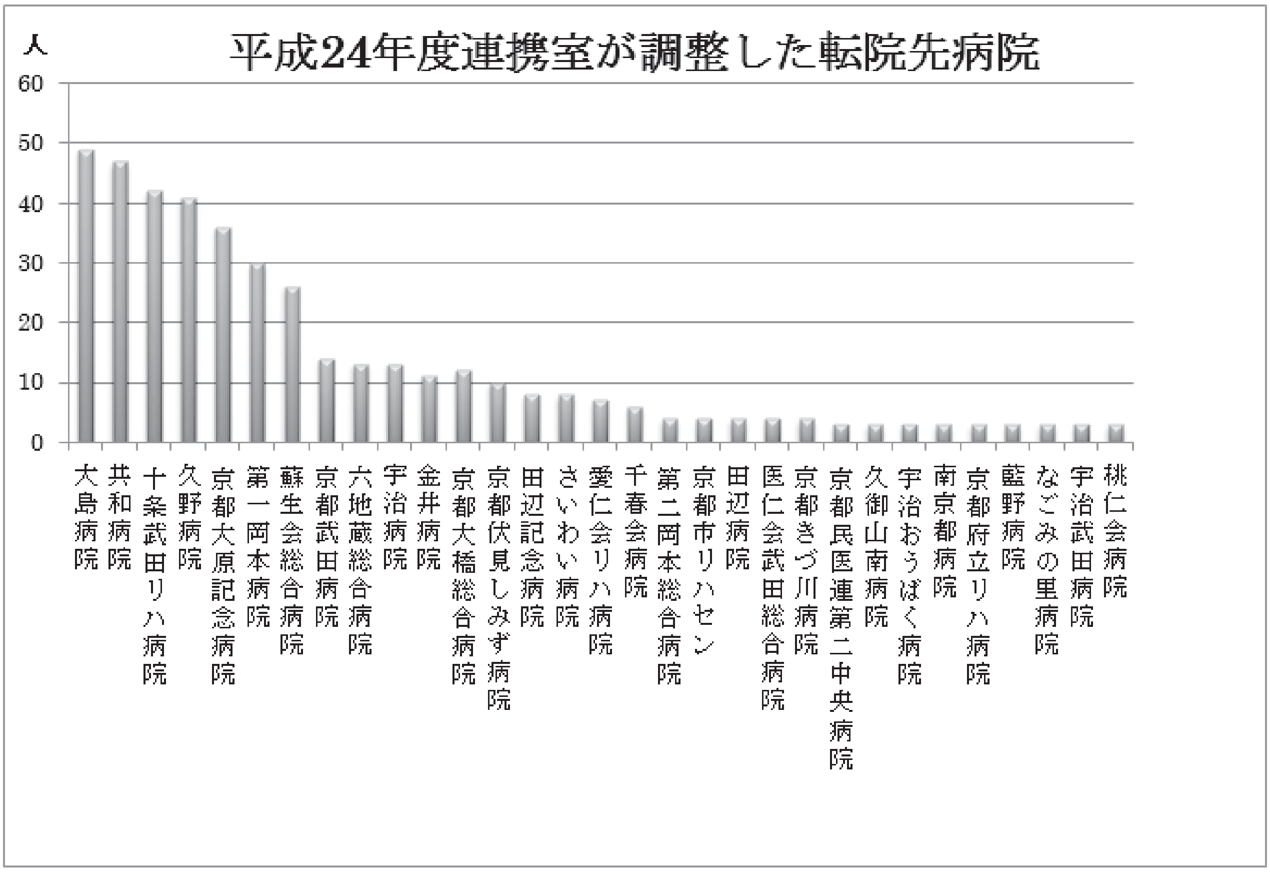
「京都医療センターのさらなる活性化を目指して～高度急性期病院のあり方と展望～」　瀬田公一
ランチョンセミナー

その他

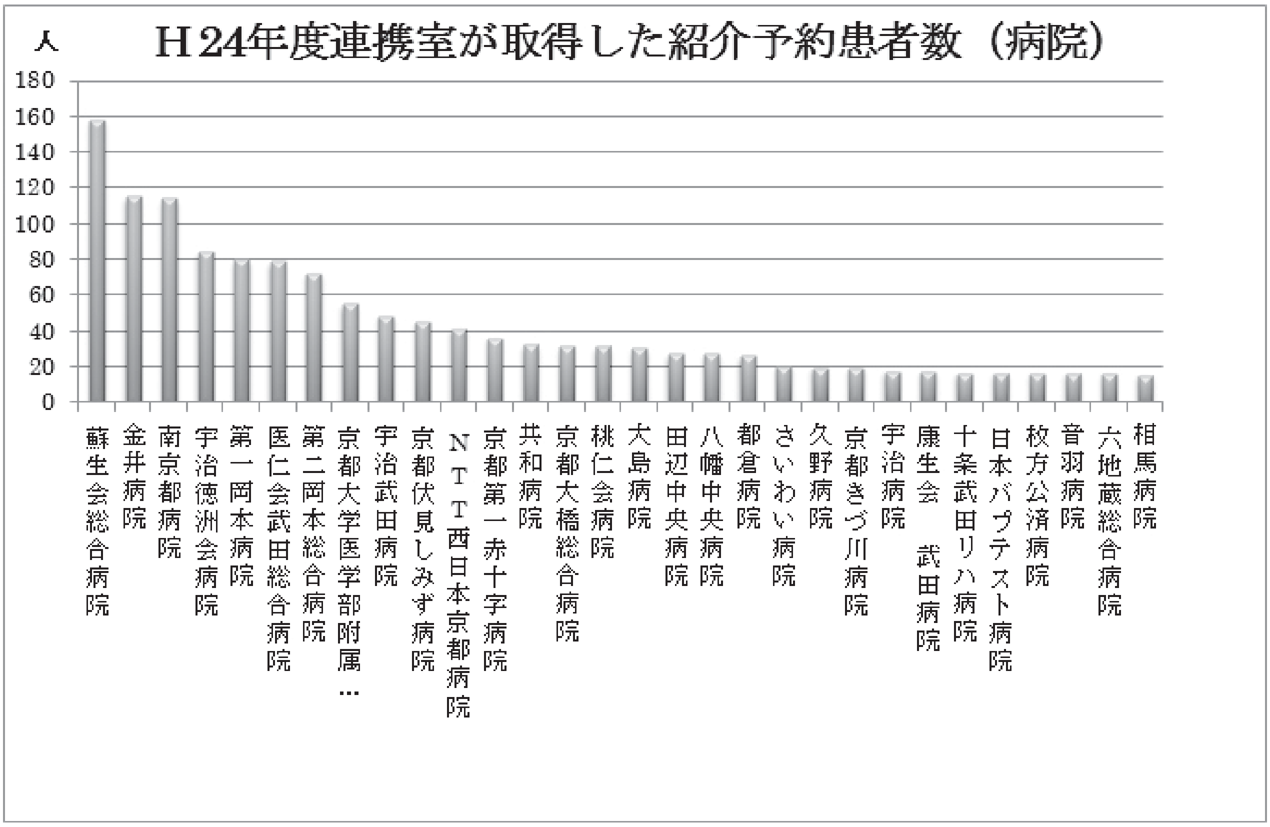
11月14日（水）第8回訪問看護師交流会：80名参加


H24年度地域医療連携室
転院支援実績
件数
120
100
80
60
40
20
0
診療科
整形外科
脳神経外科
神経内科
救命救急科
呼吸器科
消化器科
循環器内科
総合内科
外科
腎臓内科
泌尿器科
呼吸器外科
血液内科
その他


平成24年地域医療連携室
経由予約取得状況
件数
1,400
1,200
1,000
800
600
400
200
0
診療科
検査
消化器科
耳鼻咽喉科
眼科
循環器科
整形外科
呼吸器科
外科
泌尿器科
口腔外科
内分泌・甲状腺
婦人科
神経内科
脳神経外科
腎臓内科
皮膚科
糖尿病
心臓血管外科
緩和科
内科
その他



転院件数3件以上の病院を掲示



紹介件数上位30の病院を掲示

薬剤科

薬剤科長
北村　良雄

専門医資格等

日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師

日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門資格等
副薬剤科長	中　村　　慶	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
副薬剤科長	上野　裕之	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本医療薬学認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士、NST専門療養士
薬務主任	小林　雅典	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師
試験検査主任	辻　　美　里	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
治験主任	山本　靖子	日本臨床薬理学会認定CRC、日本糖尿病療法指導士、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師
調剤主任	森　　英　人	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本糖尿病療法指導士
製剤主任	畝　　佳　子	日本医療薬学会がん専門薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師
調剤主任	中尾　元紀	日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本医療薬学認定薬剤師、日本糖尿病療養指導士、日本医療情報学会医療情報技師、日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師
薬剤師	馬場　雅子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
薬剤師	朴井　三矢	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師・感染制御認定薬剤師、日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師
薬剤師	味山　陽子	日本糖尿病療養指導士
薬剤師	安達紀美子	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト
薬剤師	高畑　紀子	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本糖尿病療法指導士
薬剤師	綿谷　早苗	
薬剤師	小山　智美	日本臨床薬理学会認定CRC、日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師

薬剤師	渕崎恵美子	
薬剤師	物部加容子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師・妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師
薬剤師	田邨　保之	日本病院薬剤師会生涯認定薬剤師・生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日本糖尿病療法指導士
薬剤師	松本　信彦	
薬剤師	吉村　友里	
薬剤師	小川　寛子	
薬剤師	藤村　尚子	
薬剤師	福田　良子	日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師、救急認定薬剤師
薬剤師	黒川　央	
薬剤師	神林　由樹	
薬剤師	小林　正志	日本アンチ・ドーピング機構スポーツファーマシスト
薬剤師	内海　真和	
薬剤師	北宅　良祐	
薬剤師	竹之下祥愛	
薬剤師	宮部　理絵	

□ 診療科の特徴

1. 各病棟に担当薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算を全患者を対象に実施している。
2. 外来化学療法室での抗がん剤無菌調製、レジメンチェック、服薬指導を実施している。
3. 救命救急、ICU、NICU病棟に専任の薬剤師を配置し、ハイケア患者に対する薬物療法の質の向上を図っている。
4. ICT、NST、がん、緩和医療をはじめとしたチーム医療と各診療科の専属薬剤師が連携を取り、医師やその他の医療従事者と共働で入院患者の薬物療法の質の向上に努めている。
5. 早期体験実習生や年間24名の長期実務実習生を受け入れなど、質の高い教育研修を行っている。
6. 平成24年度に京都薬科大学との包括協定の締結や摂南大学との人事交流にて、教育や臨床研究の発展を図っている。
7. 治験・臨床研究実施におけるＣＲＣ業務等を実施している。

□ 業務内容

〈病棟業務・薬剤管理指導業務〉

医師、看護師らとの連携により、可能な限り入院患者の初回投与時及び退院時の服薬指導を実施するとともに、薬剤管理指導の増大と医療の質の向上に寄与する。

〈医薬品の安全性の確保〉

積極的に副作用情報を収集し、医薬品の安全性を確保するとともに医薬品情報の収集・提供体制の強化を図る。さらに、プレアボイド情報の収集に努め、迅速な対応を行う。また、医薬品関連インシデントの解析から、病棟専任薬剤師が医療事故防止策に積極的にアプローチする。

〈注射薬の無菌調製業務〉

全診療科の抗悪性腫瘍剤の無菌調製を実施し、医療従事者の安全性を確保するとともに医療事故の防止に努める。患者の安全性確保のため抗悪性腫瘍剤のレジメン管理の適正化を薬剤師主導で実施する。

〈医薬品管理の適正化〉

薬事委員会を通じて同種同効薬の整理を行い、採用医薬品数の縮減に努める。

〈教育研修・研究〉
　積極的に各種研修に参加し資格認定及び専門薬剤師等の取得に努める。
　薬学実務実習生、研修生を積極的に受け入れ、質の高い教育研修を行う。また、業務の効率化及び医療の質の向上を目的とした研究業務を積極的に行い、学会発表などに積極的に参加する。
〈調剤過誤防止〉
　ヒアリハット報告の収集・分析・対策を迅速に行い、再発防止に努めるとともに鑑査の徹底により調剤過誤を減少させる。
〈チーム医療、クリニカルパスへの参画〉
　薬剤師の専門性を活かした業務を押し進め、緩和ケア、糖尿病療養、ICT、NST、救命救急などのチーム医療に貢献する。また、クリニカルパスの運用において、薬剤科として積極的に関わり薬物療法の適正化に努める。
〈地域医療連携の強化〉
　地域連携パスにおいて、服用薬の管理等、薬学的管理事項に関与し、在院日数の短縮に貢献するとともに、お薬手帳で薬薬連携の充実を図る。
　また平成25年度は上記目標に加え、病院運営方針に則り、下記の目標についても実現を図るよう現在準備中である。
　国内外の学会や研究活動に積極的に参加し、最新の医学・薬学の知識修得に努めている。
　また、薬学生の長期実務実習を積極的に受け入れている。

□ 地域医療連携・広報活動

第29回伏見薬剤師会・京都医療センター合同研修会「薬薬連携の推進と強化その１」2012年5月24日
市民公開講座「町の保健室」2012年7月7日
第30回伏見薬剤師会・京都医療センター合同研修会「薬薬連携の推進と強化その２」2012年7月26日
市民公開講座「SKYふれあいフェスティバル」2012年9月15日
第21回伏見医師会　癌医療病診連携の会「乳がん治療の最新知見」2012年9月15日
第31回伏見薬剤師会・京都医療センター合同研修会「一般名処方箋発行の現状と課題」2012年11月29日
第32回伏見薬剤師会・京都医療センター合同研修会「在宅医療における薬剤師の業務について」2013年2月28日

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演者・演題・学会名
国内学会	山本 靖子、味山 陽子、山田 弘美、松井 いづみ、北村 良雄、島津 章、塚原 徹也. 臨床研究におけるCRCの支援体制の構築. 第12回CRCと臨床試験のあり方を考える会議. 2012年9月1日；大宮
国内学会	藤村 尚子、朴井 三矢、河田　興、阿水 利沙、北　誠、豊田 有子、石塚 哲也、黒須 英雄、鶴田　悟、秋山 祐一. 早発型新生児感染症を疑って開始された抗生剤はいつ中止されるのか？～NICUの処方箋ベースでの調査～. 小児臨床薬理学会. 2012年10月5日；横浜
国内学会	仲野 宏紀、辻 琢巳、河野 武幸、中尾 元紀、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄. 心房細動患者に対する抗凝固療法の管理不十分例における要因の分析. 第22回日本医療薬学会. 2012年10月27日；新潟
国内学会	中尾 元紀、黒川 央、高畑 紀子、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄. 京都医療センターにおける病棟薬剤業務実施の現状と課題. 第22回日本医療薬学会. 2012年10月27日；新潟
国内学会	細田 敦規、畝 佳子、辻 琢己、岡崎 俊介、安井 久晃、河野 武幸、北村 良雄. ＦＯＬＦＯＸ療法に伴うアレルギー反応の危険因子の検討. 第22回日本医療薬学会. 2012年10月27日；新潟
国内学会	畝 佳子、馬場 雅子、上野 裕之、中村 慶、安井 久晃、北村 良雄. 外来化学療法センターへの薬剤師常駐化とその有用性評価. 第22回日本医療薬学会. 2012年10月27日；新潟
国内学会	小林 正志、吉村 友里、中尾 元紀、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄. テラプレビル服用患者における有害事象とその評価. 第66回　国立病院総合医学会. 2012年11月16日；神戸
国内学会	田邨 保之、小川 寛子、中尾 元紀、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄. トラマドール塩酸塩／アセトアミノフェン配合錠の副作用調査について. 第66回　国立病院総合医学会. 2012年11月16日；神戸

国内学会	中尾 元紀、北宅 良祐、小林 正志、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄、丸橋 正典、岡本 彗志. 京都医療センターにおける一般名処方箋発行の現状と課題. 第66回　国立病院総合医学会. 2012年11月16日；神戸
国内学会	中尾 元紀、黒川 央、高畑 紀子、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄. 京都医療センターにおける病棟薬剤業務実施. 第66回　国立病院総合医学会. 2012年11月16日；神戸
国内学会	味山 陽子、山田 弘美、松井 いづみ、山本 靖子、北村 良雄、島津 章. 受託研究審査委員会の運営に関する新たな取り組み. 第66回　国立病院総合医学会. 2012年11月16日；神戸
国内学会	小林 正志、中尾 元紀、吉村 友里、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄、米田 俊貴、勝島 慎二. テラプレビル服用患者における有害事象とその評価. 第66回　国立病院総合医学会. 2012年11月16日；神戸
国内学会	内海 真和、田邨 保之、中尾 元紀、上野 裕之、中村 慶、坂根 直樹、山田 和範、北村 良雄. 後期高齢者糖尿病における糖尿病治療薬の処方動向に関する調査. 第34回　日本病院薬剤師会近畿学術大会. 2013年1月26日；大津市
国内学会	北宅 良祐、物部 加容子、畝 佳子、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄. 外来化学療法センターにおけるサテライト薬局の開設とその効果. 第34回　日本病院薬剤師会近畿学術大会. 2013年1月26日；大津市
国内学会	神林 由樹、畝 佳子、髙畑 紀子、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄. 血液内科におけるテンプレートを活用した薬剤師の関わり. 第34回　日本病院薬剤師会近畿学術大会. 2013年1月26日；大津市
国内学会	高畑 紀子、吉村 友里、田邨 保之、内海 真和、小林 正志、宮部 理恵、綿谷 早苗、小山 智美、物部 加容子、黒川 央、藤村 範子、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄. 脂肪乳剤適正使用を目指した病棟専任薬剤師の役割についての検討. 第34回　日本病院薬剤師会近畿学術大会. 2013年1月26日；大津市
国内学会	中尾 元紀. 抗血栓薬の適正使用について～抗凝固療法長期モニタリングを実施しての課題～. 第5回　京都臨床薬剤師循環器セミナー. 2013年2月23日；京都市
国内学会	宮部 理絵、吉村 友里、中尾 元紀、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄、坂根 直樹、赤尾 昌治. 抗血栓の周術期における術前休薬期間に影響する因子に関する検討. 近畿国立病院薬剤師会学術集会及び講演会. 2013年3月2日；大阪市
国内学会	竹之下 祥愛、上野 裕之、中尾 元紀、玉田 大志、北村 良雄.「病棟薬剤業務実施加算」の実施内容調査とその検証～医療従事者からの相談応需内容を分析して～. 近畿国立病院薬剤師会学術集会及び講演会. 2013年3月2日；大阪市
国内学会	味山 陽子、山本 靖子、河本 友貴美、松井 いづみ、北村 良雄、北岡 有喜、島津 章、塚原 徹也. CRCによるNHO主導臨床研究支援への取組み　～MARK研究の円滑な実施にむけて～. 国立病院機構　京都医療センター成果発表会. 2013年3月2日；京都市
国内学会	上野 裕之、竹之下 祥愛、中尾 元紀、玉田 太志、北村 良雄.「病棟薬剤業務実施加算」の新設による病棟業務の充実とその検証. 国立病院機構　京都医療センター成果発表会. 2013年3月2日；京都市
国内学会	吉村 友里、宮部 理絵、中尾 元紀、上野 裕之、中村 慶、北村 良雄、坂根 直樹、赤尾 昌治. 抗血栓薬の周術期における術前休薬期間に影響する因子に関する検討～抗血栓薬の適正使用と周術期の取扱いに関するガイドラインを作成しての評価～. 第77回日本循環器学会学術集会. 2013年3月16日；横浜市

臨床検査科

臨床検査科長
金﨑　幹彦

専門医資格等
日本内科学会
日本循環器学会
日本高血圧学会
日本透析医学会

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
病理医師	山本　鉄郎	日本病理学会 日本臨床細胞学会
臨床検査技師長	益田　喜信	
副臨床検査技師長	古田　賢二	認定輸血検査技師
副臨床検査技師長	住田　善之	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	常松　裕子	認定緊急臨床検査士
主任臨床検査技師	木下　晴希	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	井本　元治	超音波検査士（消化器）
主任臨床検査技師	福田　修	超音波検査士（循環器）
主任臨床検査技師	小原　伸之	超音波検査士（循環器・消化器・血管領域） 糖尿病療養指導士
主任臨床検査技師	池田　俊彦	日本細胞検査士 国際細胞検査士
主任臨床検査技師	新田　幸一	認定輸血検査技師
主任臨床検査技師	林　文子	超音波検査士（循環器）
臨床検査技師	鶴田　康倫	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	鈴木　雅樹	超音波検査士（循環器）
臨床検査技師	島田　良員	
臨床検査技師	中垣　典子	超音波検査士（循環器・消化器）
臨床検査技師	大上　哲也	日本細胞検査士 国際細胞検査士
臨床検査技師	谷口　美奈	糖尿病療養指導士
臨床検査技師	小森　法子	認定血液検査技師
臨床検査技師	土田　幸生	
臨床検査技師	天藤由美子	
臨床検査技師	福留裕美子	国際細胞検査士 認定緊急臨床検査士

臨床検査技師	西山　智美	超音波検査士（循環器） 認定緊急臨床検査士
臨床検査技師	成田　弓子	
臨床検査技師	相原美奈子	
臨床検査技師	松本　俊一	
臨床検査技師	栗山　陽子	認定輸血検査技師
臨床検査技師	山本紗耶香	
臨床検査技師	伊藤　千慧	
臨床検査技師	塩澤　洋子	認定輸血検査技師
臨床検査技師	伊瀬あゆみ	
臨床検査技師	山本　紗綾	
臨床検査技師	吹田　卓也	
非常勤技師	佐伯　ミカ	
非常勤技師	井戸　千晶	
検査助手	山下　晴貴	
事務助手	村井　佳世	
事務助手	小野　　忍	
事務助手	岡　　由美	
事務助手	岩崎　京子	
事務助手	川口　真弓	
事務助手	北村　直子	

□ 科(室)の特徴

1. 正しいデータを臨床側に返すことは、臨床検査技師の大切な任務であり、その命ともいえる精度管理に大きなエネルギーを注いでいます。
2. 当センターは日本の政策医療で、内分泌・代謝性疾患の基幹的役割を担っています。当科は臨床検査のトップ集団であることを自覚し、政策医療関連の検査の充実を図っています。
3. 緊急検査は、２４時間対応しています。
4. 感染防御という立場から積極的に取り組むため、ＩＣＴ（感染防御チーム）の活動に臨床検査技師も参加しています。
5. 輸血業務を一元化し、安全かつ適正な輸血管理業務を行っています。

□ 業務内容

当科の業務は臨床検査を行うことであり、臨床検査は検体検査と生理機能検査の２つの分野に大きく分かれます。

1. 検体検査：血液、尿、便、痰、手術により切り出された組織、穿刺液等を用いて行う検査です。肝機能検査や生活習慣病の血糖・尿糖検査、貧血検査、がん細胞検査等がこの中に含まれます。検査部門としては血液学検査、生化学検査、免疫学検査、輸血関連検査、微生物学検査、病理学検査、一般検査があります。
2. 生理機能検査：直接患者さんの身体に接して、体内からの情報や変化の状態を数字や画像に変換して目で見えるようにした検査です。分野別に心電図検査、肺機能検査、脳波検査、筋電図検査、超音波検査、聴力検査、睡眠時無呼吸検査、出血時間検査があります。

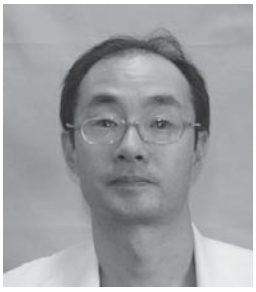
□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	伊藤千慧、谷口美奈、福田修、常松裕子、渡久地政茂、益田喜信、金崎幹彦.血液培養検査の現状報告～血液培養自動分析装置BD BACTEC FXの自動結果送信について～.第66回国立病院総合医学会.平成24年11月17日;神戸
国内学会	住田善之,スクリーニング検査　～たかがスクリーニングされどスクリーニング～.日本超音波検査学会.2012/12/23;大阪市
国内学会	小原伸之.HbA1cの値が変わったのを知ってますか?.DM京都.2012/5/27;京都市
国内学会	小原伸之.下肢動脈を診る.和歌山県臨床検査技師会.2012/12/1;和歌山市
国内学会	小原伸之.糖尿病教室活動報告.京都府北部CDEの会　京都府臨床検査技師会.2013/1/12;舞鶴市
国内学会	小原伸之.緊急を要する心電図とその対応.京都府臨床検査技師会.2013/2/19;京都市
国内学会	西山智美.症例検討会、高血圧の精査で訪れた男性.京都循環器検査研究会.2012/10/27;京都市
国内学会	相原美奈子、新田幸一、池田俊彦、成田弓子、古田賢二、益田喜信、渡久地政茂、金崎幹彦.自動分析装置AU5800の性能評価.第66回国立病院総合医学会.2012/11/16;神戸
国内学会	土田幸生.ケースカンファレンス　（症例1 担当）.日本検査血液学会　第13回学術集会.2012/7/28;大阪
国内学会	土田幸生、小森法子、塩澤洋子、河合健、古田賢二、渡久地政茂、金崎幹彦、奥野芳章.持続的な好中球増加を呈し、慢性好中球性白血病が疑われた１症例.日本検査血液学会　第13回学術集会.2012/7/28;大阪
国内学会	土田幸生、小森法子、塩澤洋子、古田賢二、益田喜信、金崎幹彦、奥野芳章.持続的な好中球増加を呈し、慢性好中球性白血病が疑われた１症例　（ポスター）.第66回国立病院総合医学会.2012/11/16;神戸
国内学会	土田幸生.第28回精度管理調査中間報告(血液研究班).京都府臨床検査技師会　血液研究班　講演会.2013/2/1;京都
国内学会	土田幸生.血液疾患と遺伝子検査.国立病院臨床検査技師協会近畿支部 学術研修会.2013/2/23;大阪
国内学会	土田幸生.第28回精度管理調査報告(血液研究班).京都府臨床検査技師会　第28回京臨技精度管理調査　合同報告会.2013/3/23;京都
国内学会	福田修.アウトブレイクに必要な微生物伝播様式と法的事項.技師長研修会.2013/10/27;大阪
国内学会	福田修.冬場に気をつけたい感染症.FM845.2012/12/25;京都

□ 投稿論文など

著 書・雑 誌 名	著 者 ・ タ イ ト ル
超音波検査技術	住田善之　肺高血圧患者における三尖弁収縮期移動距離の有用性
心エコーハンドブック　心臓弁膜症	住田善之　大動脈弁逆流　検査の進め方　検査の流れ

臨床栄養科



臨床栄養科長
大谷　哲之

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
栄養管理室長	谷川　　清	
主任栄養士	真鍋　　悟	
栄養士	山地　聡子	
栄養士	片山　　蘭	
栄養士	内川　厳志	
栄養士	後　　沙苗	日本糖尿病療養指導士
非常勤栄養士	安藤　由美	
非常勤事務助手	菅　　共子	
調理師長	福井　　勝	
副調理師長	河添　幸弘	
副調理師長	石井　俊雄	
主任調理師	山田　弘喜	
主任調理師	西田　正直	
調理師	坂本　尚人	
調理師	桝村　勝利	
調理師	澤辺　元弘	
調理師	野尻　和彦	
調理師	博多　健二	
調理師	松尾　隆生	
調理師	蒲生　　亘	
非常勤調理助手	藤井　恵子	

□ 診療科の特徴

施設認定等	日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設

1. 管理栄養士専従による栄養サポートチーム活動
2. 専門外来栄養指導の実施

3. 特別メニュー食の提供
4. 個人対応食(PS食)の提供
5. 緩和ケア病棟での特別行事食の実施

□ 診療(業務)内容

1. 食事の提供

入院患者を対象に大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた管理のもと、安全な食事(一般食及び治療食)を提供。また、今年度については、衛生管理マニュアルの改訂を実施した。患者サービス、喜ばれる食事の一環として、週3回の選択食や月1回の行事食を実施すると共に、特別室病棟を対象に特別献立による食事の提供を行っている。緩和ケア病棟、化学療法における食欲不振時には、低食欲時食や個人対応食(PS食)を提供している。今年度は産科病棟に於いて母乳分泌促進のため夜食の提供を実施した。

2. 栄養食事指導

外来及び入院患者を対象に個人指導や糖尿病教室、母親教室などの集団指導を実施。個人指導では、1型糖尿病ポンプ外来や2型糖尿病専門外来、メタボリックシンドローム外来などの専門外来指導も実施している。

3. チーム医療

栄養サポートチーム(管理栄養士専従)や、褥瘡対策チーム、緩和ケアチーム、糖尿病透析予防チームなどチームの一員として管理栄養士が積極的に参加している。

4. 教育研修

今年度は5大学より、17名の実習生を受入れた。

□ 地域医療連携・広報活動

第27回DM京都「脂肪肝と食事」 2012年5月27日
看護の日 栄養相談 2012年7月7日
第30回京都つぼみの会サマーキャンプ 2012年8月22日~25日
第13回伏見栄養療法胃瘻研究会 「パキンソン病患者の体重減少に対する栄養管理について」 2012年8月25日
第3回腎臓病教室「食欲の秋を減塩の秋にしよう」2012年9月29日
糖尿病週間 栄養相談コーナー 2012年11月12日
第13回メタボリックシンドローム会「メタボランチで意識改革」2012年12月8日
第10回脳卒中市民講座「年末年始の減塩ポイント」2012年12月8日
世界腎臓病デイ 栄養相談コーナー 2013年3月14日
がん診療セミナー「胃がんの食事療法」2013年3月28日

□ 学術活動報告(学会・研究発表など)

区 分	演者・演題・学会名
国内学会	三浦あゆみ、松川愛、上村直子、永井満恵、落合恵、望月知奈美、久保速造、土屋宣之. 緩和ケア病棟での栄養士の関わりについて~食事を通じて気持ちの支援をすることができた1例を通して~. 第174回日本緩和医療学会. 2012年6月22日;神戸市
国内学会	片山蘭、村中和哉、佐々木洋介、山影一、真鍋悟、山地聡子、内川厳志、三浦あゆみ、後沙苗、安藤由美、谷川清、浅原哲子. 当院における外来患者向け体験型食事教育「メタボランチ」を通して. 京都糖尿病教育研究会. 2012年7月12日;京都市
国内学会	片山蘭、村中和哉、佐々木洋介、山影一、真鍋悟、山地聡子、内川厳志、三浦あゆみ、後沙苗、安藤由美、谷川清、浅原哲子. 当院における外来患者向け体験型食事教育「メタボランチ」を通して. 第66回国立病院総合医学会. 2012年11月16日;神戸市
国内学会	後沙苗、三浦あゆみ、藤井恵子、坂本尚人、桝村勝利、西田正直、真鍋悟、福井勝、谷川清、久保速三、土屋宣之. 緩和ケア病棟における栄養管理室の取り組みについて. 第66回国立病院総合医学会. 2012年11月17日;神戸市
国内学会	三浦あゆみ、村田敬、坂根直樹、後早苗、内川厳志、片山蘭、山地聡子、吉村友里、高畑紀子、山縣瑞帆、黒川久美子、真鍋悟、谷川清、島伸子、前川高天、大谷哲之. NST介入終了の理由から分析した重症低アルブミン血症(<2.0g/dl)と死亡リスクとの関連性. 第16回日本病態栄養学会. 2013年1月12日;京都市

医療技術部　臨床工学科

医療技術部長
伊藤　剛

□ スタッフ

平成24年10月1日時点

	氏　　名	専門医資格等
主任臨床工学技士	井上　裕之	３学会合同呼吸療法認定士・体外循環技術認定士
臨床工学技士	柳澤　雅美	３学会合同呼吸療法認定士・透析技術認定士
臨床工学技士	清水真樹子	３学会合同呼吸療法認定士
臨床工学技士	赤井健太郎	臨床検査技師
臨床工学技士	川西　恭輔	透析技術認定士
臨床工学技士	大谷　直哉	DMAT隊員
臨床工学技士	中村　健志	
臨床工学技士	井原　由奈	

□ 科(室)の特徴

患者さんへ、安全かつ安心して高度な医療技術が受けていただける環境づくりに努める。

□ 業務内容

臨床工学科の業務内容
臨床工学の業務は、大きく分けると【臨床支援業務】と【医療機器管理業務】の2つの分野があります。
『臨床支援業務』:呼吸・循環・代謝に関わる生命維持装置の操作
『医療機器管理業務』:院内での医療機器の効率的な運用を行う為、機器の選定から廃棄に至るまで医療機器の総合的管理

　高度化した医療において、不可欠な人工呼吸器（呼吸療法）・人工透析（血液浄化療法）・人工心肺（体外循環）など、生命に直結する重要な生体機能を代行する医療機器管理と操作のプロフェッショナルとして、活動しています。また、患者さんの状態に合わせて、安全に最適な条件で治療の手助けを行い、また、病院内の医療機器全般について、いつでも、有効かつ安全・安心して臨床使用できるように運用・保守管理するという重要な役割も担っています。医療の中心にある患者さんを見据え、臨床工学技士として必要な専門知識と技術について工学分野と医学分野を交えて日々業務しています。

□ 学術活動報告（学会・研究発表など）

区　分	演 者 ・ 演 題 ・ 学 会 名
国内学会	柳澤雅美、中村健志、大谷直哉、川西恭輔、赤井健太郎、清水真樹子、井上裕之　研究内容：救命センター建設に携わって. 第22回日本臨床工学会. 2012年5月１2～13日；富山

看護部

看護部長
森田　文

国立病院機構の理念に沿った病院の使命を認識し、機構の看護職員として以下の役割を果たす。

1. 機構及び病院の理念を踏まえた良質の看護サービスの提供に努める。
2. 看護の質の向上を目指し、臨床看護の研究、業務の改善を行う。
3. 良質な看護を提供するために、看護職員をはじめ看護に関係する職員の教育研修を行う。
4. 看護の提供と経営効率の調和を図り、病院経営に参画する。
5. チーム医療推進のための調整を図る。
6. 地域住民への健康教育活動に参画する。

□ 看護部の理念

私たちは、常に患者さんと共に歩み、
安心して納得のいく医療を受けていただくために、
わかりやすく丁寧な看護を提供いたします。

□ 看護部の運営計画

【ＢＳＣ】
別紙１：ＢＳＣ戦略

【平成２４年度　看護部目標】
スローガン　「語り合い、学び合い、成長する私たち」

１. 根拠・看護倫理に基づいた看護ができる人材の育成
・継続教育プログラムの強化・充実
・語り合い、学び合う職場環境の構築

２. 指差呼称による安全な看護の提供

３. 経営への積極的な参画
・診療報酬改定への迅速な対応
・コスト意識の向上
・効率的な病床運営
・地域医療連携強化

□ 看護部の体制

＊別紙２：看護部組織図
＊別紙３：看護部会議・委員会組織図（機能図）

Ⅰ. 会議

１. 看護師長会議
＜看護師長会ワーキング活動＞
　１）医療安全
　２）看護管理
　３）看護倫理
　４）認知症患者看護
２. 副看護師長会議
３. 専門看護師・認定看護師連絡会議

Ⅱ. 委員会

１. 継続教育
２. 看護の質改善
３. 看護記録

Ⅲ. プロジェクト

１. ＮＳＴ・褥瘡チーム
２. がん・緩和ケアチーム
３. 内分泌代謝ケアチーム
４. 感染チーム
５. 地域看護支援チーム
６. 呼吸ケアチーム

Ⅳ. 時期限定プロジェクト

別紙１：ＢＳＣ戦略

平成２４年度看護部運営方針

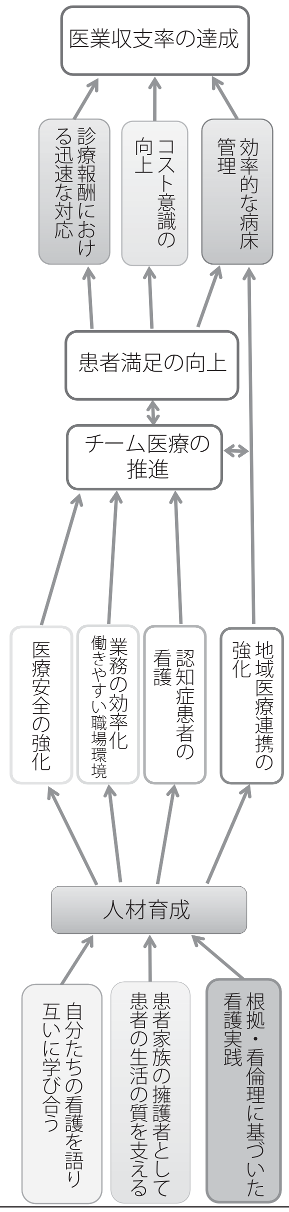
病院目標　「地域への安全で高度先進的な医療の提供」

看護部スローガン　「語り合い、学び合い、成長する私たち」

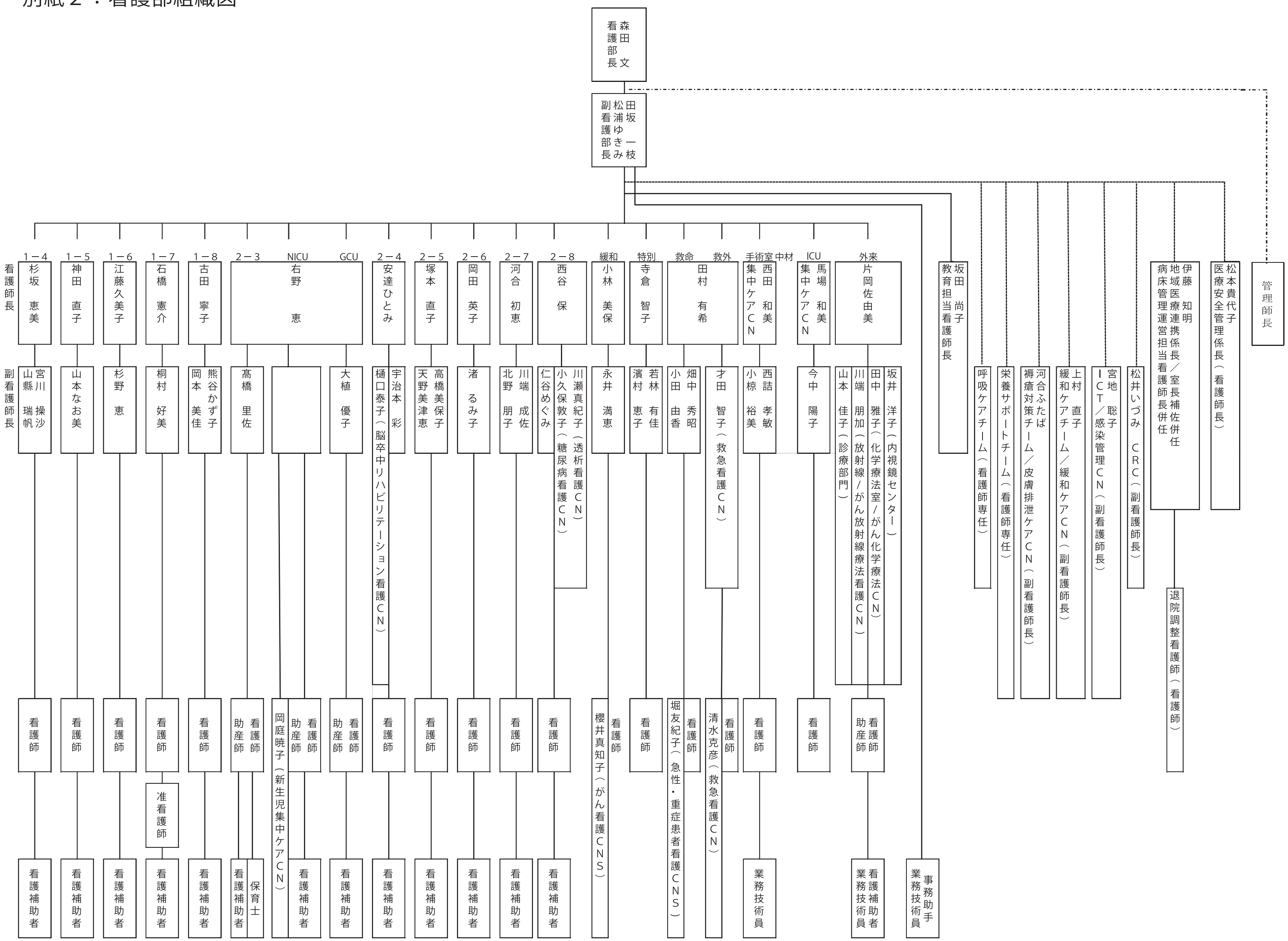
看護部目標

1. 根拠･看護倫理に基づいた看護ができる人材の育成
   - 継続教育プログラムの強化･充実
   - 語り合い、学び合う職場環境の構築
2. 指差呼称による安全な看護の提供
3. 経営への積極的な参画
   - 診療報酬改定への迅速な対応
   - コスト意識の向上
   - 効率的な病床運営
   - 地域医療連携強化

区分	戦略目標	戦略シナリオ	重要成功要因
財務の視点	○医業収支率の達成 ○診療報酬改定における迅速な対応 ○コスト意識の向上 ○効率的な病床管理		・医業収支の増加 ・患者数確保 ・特別個室の利用率の向上 ・診療報酬改定への対応 ・病診連携の強化 ・断らない医療 ・チーム医療の推進 ・薬、医療機器の破損の減少 ・医療用消耗品の使用量の推移
顧客の視点	○患者満足の向上		・退院時アンケート 療養環境、安全への項目を追加 ・看護の質の向上 ・療養環境の整備 ・専門性の発揮 ・リソースナースの活動と支援 感染アウトブレイク減少 褥瘡発生率低下
内部プロセスの視点	○地域医療連携の強化 ○認知症患者の看護 ○業務の効率化、働きやすい職場環境 ○医療安全の強化		・医療安全 ・認知症看護の強化 ・地域医療連携の強化 ・クリティカルパスの見直し推進（継続） ・退院支援スクリーニングの活用 ・長期入院患者数減少 ・働きやすい職場環境 ・業務改善 看護業務の整理 看護補助者の活用
成長と学習	○根拠・看護倫理に基づいた看護実践 ○患者家族の擁護者として患者の生活の質を支える ○自分たちの看護を語り互いに学び合う		・人材育成 社会性 倫理 新人教育

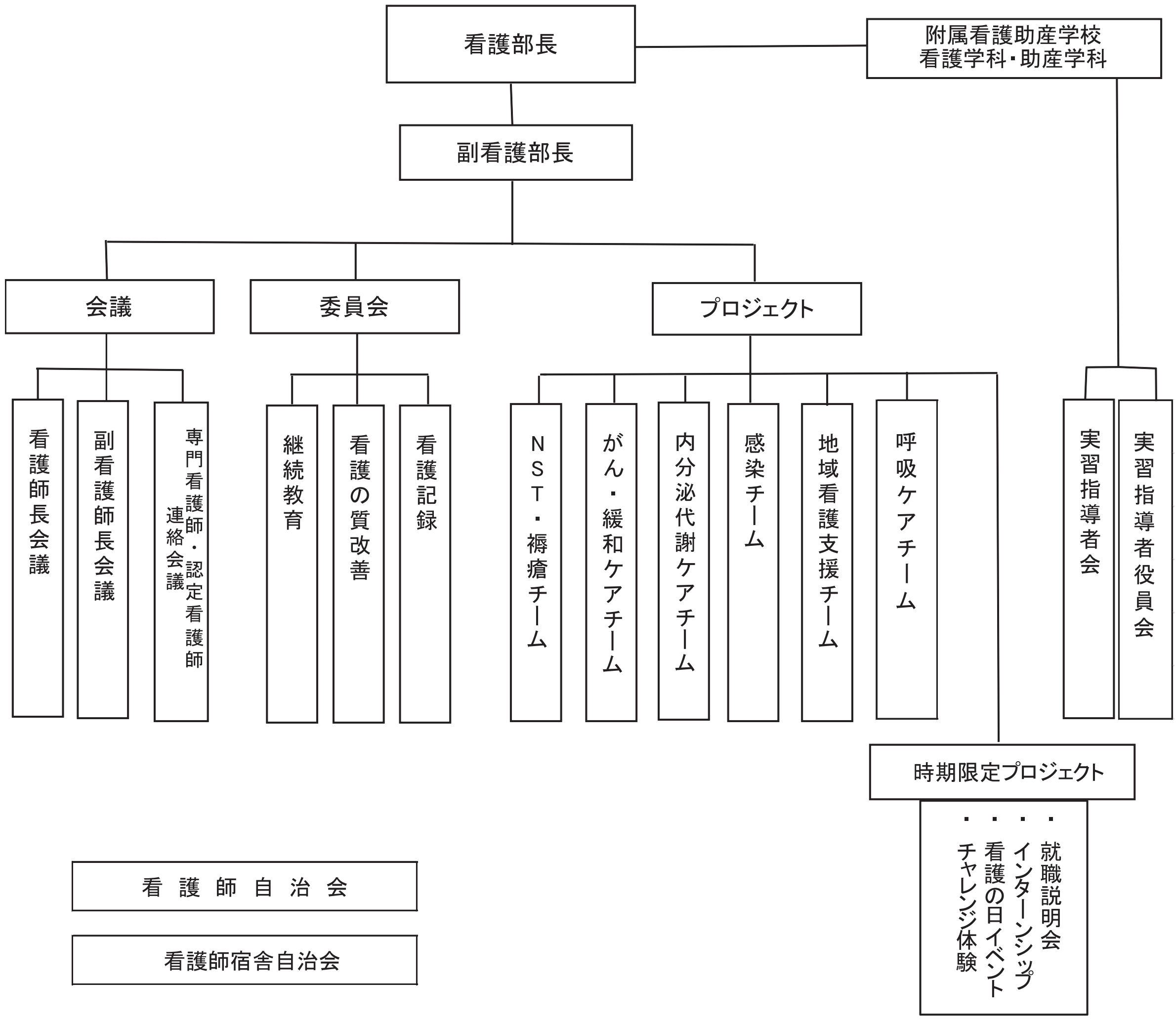


別紙２：看護部組織図



看護部長 森田文
副看護部長 田坂一枝 松浦ゆきみ
管理師長
医療安全管理係長（看護師長） 松本貴代子
病床管理運営担当看護師長併任 地域医療連携係長／室長補佐併任 伊藤知明
退院調整看護師（看護師）
松井いづみ CRC（副看護師長）
ICT／感染管理CN（副看護師長） 宮地聡子
緩和ケアチーム／緩和ケアCN（副看護師長） 上村直子
褥瘡対策チーム／皮膚排泄ケアCN（副看護師長） 河合ふたば
栄養サポートチーム（看護師専任）
呼吸ケアチーム（看護師専任）
教育担当看護師長 坂田尚子
事務助手 業務技術員
看護師長
副看護師長
外来 片岡佐由美
坂井洋子（内視鏡センター）
田中雅子（化学療法室／がん化学療法CN）
川端朋加（放射線／がん放射線療法看護CN）
山本佳子（診療部門）
看護師 助産師
看護補助者 業務技術員
ICU 馬場和美 集中ケアCN
今中陽子
看護師
手術室 中材 西田和美 集中ケアCN
西詰孝敏
小椋裕美
看護師
業務技術員
救外 救命 田村有希
才田智子（救急看護CN）
看護師
清水克彦（救急看護CN）
畑中秀昭
小田由香
看護師
堀友紀子（急性・重症患者看護CNS）
特別 寺倉智子
若林有佳
濱村恵子
看護師
緩和 小林美保
永井満恵
看護師
櫻井真知子（がん看護CNS）
2－8 西谷保
川瀬真紀子（透析看護CN）
小久保敦子（糖尿病看護CN）
仁谷めぐみ
看護師
看護補助者
2－7 河合初恵
川端成佐
北野朋子
看護師
看護補助者
2－6 岡田英子
渚るみ子
看護師
看護補助者
2－5 塚本直子
高橋美保子
天野美津恵
看護師
看護補助者
2－4 安達ひとみ
宇治本彩
樋口泰子（脳卒中リハビリテーション看護CN）
看護師
看護補助者
GCU NICU 2－3 右野恵
大植優子
看護師 助産師
看護補助者
岡庭暁子（新生児集中ケアCN）
髙橋里佐
保育士
1－8 古田寧子
熊谷かず子
岡本美佳
看護師
看護補助者
1－7 石橋憲介
桐村好美
看護師
准看護師
看護補助者
1－6 江藤久美子
杉野恵
看護師
看護補助者
1－5 神田直子
山本なお美
看護師
看護補助者
1－4 杉坂恵美
宮川操沙
山縣瑞帆
看護師
看護補助者

別紙３：看護部会議・委員会組織図（機能図）



看護部が関わる主な病院諸会議

○管理診療会議	○透析委員会・小委員会
○経営企画・業績評価委員会	○輸血療法委員会・小委員会
○サービス向上委員会	○化学療法委員会
○薬事委員会	○医療安全管理委員会
○診療報酬管理委員会	○医療事故対策委員会
○病床管理委員会	○リスクマネージャー会
○外来管理委員会	○院内感染対策委員会
○手術室運営委員会	○災害対策委員会
○集中治療室運営委員会	○医療機器安全管理委員会
○救命救急委員会	○医療情報委員会・小委員会
○緩和ケア運営委員会	○クリティカルパス委員会
○地域医療連携委員会	○広報委員会
○褥瘡対策委員会	○安全衛生委員会
○栄養管理委員会・NST委員会	○過半数代表者会議・選出選挙委員会

□ 会議・委員会活動

Ⅰ. 会議

1. 看護師長会議

看護師長会ワーキング活動

1）医療安全

インシデントを減少せせることにより安全な看護を提供するために以下の３点に取り組んだ

目標

（１）病棟毎に転棟防止活動を行い、転倒転落防止を図ると共に看護師要因を減少させる。

（２）インスリン関連インシデントの減少を図る

（３）指差呼称の徹底により与薬インシデントを減少させる

実施内容

目標（１）

＜取り組み内容＞

各病棟で前年度の転倒転落の原因等をアセスメントし問題点と課題を明らかにし計画立案、転倒転落の防止に取り組んだ。

＜結果＞

①看護師要因の転倒転落防止の中で、看護師の技術不足、離床センサーのスイッチの入れ忘れの減少

②明らかに転倒が減少した病棟は３個病棟

・毎日のカンファレンスの場で予防策の検討が行われ、病棟全体で共有している。

・転棟転落のハイリスク患者（認知症・せん妄・発熱・化学療法等）の転倒転落リスクをつかみ事前の対応策の計画立案実施評価ができている。

③転倒転落の多い病棟

・同一患者の複数回の転倒の患者が多い。

・患者の療養環境の現状の把握・評価・計画立案・実施の不十分である。

・転倒転落ハイリスク患者のスタッフ間の情報共有が不十分である。

＜次年度への課題と取り組み事項＞

①患者指導

・履物の選択・オーバーテーブルの危険性の対応

・筋力低下患者への指導内容の工夫

・家族・患者ともに考える離床センサー等の適切使用

②効果のあった取り組みの継続

・転倒転落のアセスメントシートの活用の徹底

・転倒転落看護計画の立案と定期的な評価

・患者の療養環境の現状把握・評価・計画立案・実施

・転倒転落ハイリスク患者のスタッフ間の情報共有

③転倒転落の看護のイノベーション

・患者指導のあり方の再構築

・病棟の療養環境の再構築

目標（２）

＜取り組み内容＞

①新採用者研修で、指差呼称について説明

②5年目研修で各病棟単位での「指差呼称」を取り組む

③「声だし指だし確認」バッジを作成し、全看護職員装着

④指差呼称のできない・できていない理由をカテゴリー分類

⑤指差呼称で防げるインシデントの評価

＜結果＞
3.8%のインシデントが減少している。
＜次年度への課題と取り組み事項＞
①指差呼称の形骸化の防止
②継続的な指差呼称の取り組み
③OJTの徹底
目標（３）
＜取り組み内容＞
内分泌代謝チーム会で、インスリン関連インシデントを統計的に提示する共に内容を振り返った。
①インスリン保管状況の確認・呼びかけ
②インスリンに関連する知識の向上
③病棟リンクナースが年間取り組み・病棟で勉強会などの取り組みを実施
④インスリン指示に関してテンプレートの作成の協議
＜結果＞
インスリン関連したインシデントが増加傾向にある。前年度比40件の増加50%以上の増加となった。
＜次年度への課題と取り組み事項＞
①指差呼称の徹底を呼びかける
②継続的なインスリン関連学習会の実施
③超速効型インスリン使用に関してガイドライン・看護手順の促進
④インスリン指示に関してのテンプレートの評価

２）看護管理塾
目標
（１）看護管理者として看護管理観を語り合う
（２）年３回の看護管理塾を開催する
実施内容
（１）ディスカッション
第１回　ＤＰＣの仕組みと基礎知識
第２回　入所したての既卒新採用者の離職について
第３回　「看護師の夜勤・交代制勤務に関するガイドライン」をもとに勤務体制を考える
第４回　副看護師長と連携した病棟運営について
第５回　看護補助者の戦略化とマネジメント
経営、人材育成、労務管理について意見交換を行い、他の看護師長の管理観や管理の実際について語り合うことができた。
（２）看護師長・副看護師長合同看護塾
「パートナーシップナーシングシステム（ＰＮＳ）導入の検討」
ＰＮＳについてのプレゼンテーションの後、導入の意義についてディスカッションし、その後、業務内容に沿ってどのように動くか等についてペーパーシュミレーションを行った。
各病棟の特徴に合わせ、可能な病棟から導入を検討する。

３）看護倫理
目的
（１）院内看護師の倫理観の育成
（２）各病棟で起こっている倫理的な問題を提案し、話し合いの持てるリンクナースの育成

目標
（1）倫理塾を年3回開催できる
（2）リンクナースが各病棟で倫理事例検討会を2〜3回開催でき、事例の中でのジレンマを明らかにできる
（3）各病棟での取り組み結果と今後の課題を明らかにする
＜活動の実際＞
（1）事例検討　３回　　対象者は4年目以上の看護師（参加者29名）
１回目：7/3：下肢に深部静脈血栓を生じた患者にマッサージを行うことについてのジレンマ
２回目：11/20：悪性疾患で症状増悪の中、急変しCPRが施行された症例
３回目：2/5：意識障害のある高齢者に対する医療のあり方について
研修参加者の意見
・日々ジレンマを感じることは多々あるが立ち止まって振り返る機会がなかなかとれなかった。倫理原則に基づいて考えることで患者家族の気持ちに近づけるし、どうすれば良かったのか導きだし今後に繋げる事ができる。
・参加者それぞれの看護観について知ることができた。意見交換の中で視野を広く持つことができるように思った。
・病棟に事例を持ち帰り何度か話し合いをする中で「これって倫理的にどうなんだろう」と言った声が聞かれるようになった。
・倫理原則を理解するのが難しかった。苦手な分野だが、人に伝達する機会を経験し自分自身成長できた気がする。
（2）成果発表会での検討事例の報告
＜今後の課題＞
倫理的視点で事例を検討することで改めて、日頃の看護について見直す機会を参加者が持てた。
しかし、参加者が各病棟の課題を明らかにするまでは到達できなかった。今後、看護倫理について学ぶ機会を継続することと、各病棟での倫理的な視点での患者カンファレンスを重ねていく事が課題である。

４）認知症患者看護
目的
（1）認知症患者を理解し、認知症患者が安心して尊厳ある入院生活が送れるようにする
（2）質の高い認知症ケアを提供できる看護師を育成する
＜実施内容＞　参加者延１８９名
（1）講演会　２回
講師：神戸海星病院の老人専門看護師の西山みどり先生
１回目：認知症の疾患・治療について
２回目：認知症患者の看護について
（2）事例検討会　１回
認知症患者への対応に実際についてのグループ討議
認知症看護研修会に参加することで、知識・観察力・対応能力の向上に繋がった。
（3）看護研究「京都医療センターにおける認知症患者看護の実態調査（平成24年度）」
研修内容にとりあげる項目として「周辺症状の悪化予防」「安全対策」「倫理的配慮」「望ましい対応」に関することが課題であることが明らかとなった。

２．副看護師長会議
目的　　看護部の目標達成に向け、副看護師長の役割を果たす

目標

１）根拠に基づいて活動できる看護師を育成する

２）セルフマネージングに基づいたチーム活動ができる

３）集合教育とOJTの連携が円滑に行えるように支援できる

４）看護師長補佐、代行としての役割と業務ができる

＜活動内容＞

第１回副看護師長会（平成24年4月13日）

・平成24年度看護部運営計画について
・平成24年度副師長会活動計画について

第１回副看護師長学習会（平成24年4月13日）

・年間の活動目標・内容について

第２回副看護師長会、第２回副看護師長学習会（平成24年5月11日）

・経年別教育担当者への関わりについて

　集合教育とＯＪＴの連携が円滑に行えるようにするためには、副看護師長としてどのよに関わっていく必要があるか、どのような役割を果たさなければならないか、グループで検討

第３回副看護師長会（平成24年6月8日）

・看護師長代行業務について業務内容の共通理解
・看護師長代行業務について項目ごと内容を具体的に話し合う

第３回副看護師長学習会

・中間管理者としての役割・行動を理解し、副看護師長としての看護管理観を高める

第４回副看護師長会（平成24年7月13日）

・フィジカルアセスメント能力向上への関わり方について

　～フィジカルアセスメントの指導方法について事例を通して考える～

第４回副看護師長学習会

・SBARについての理解を深め、スタッフ教育に必要な知識を身につける

第５回副看護師長会（平成24年9月14日）

・フィジカルアセスメント能力向上への関わり方について

　～フィジカルアセスメントの視点を持たせるために副看護師長として関わった実際の事例を通して～

第５回副看護師長学習会

・魅力的な副看護師長像を見つける
・自分の良い面を知り自己のリーダー像が分かり、役割モデルに活かす

第６回副看護師長会（平成24年10月12日）

・チームインベントリーについて理解を深める～共通理解～

第６回副看護師長学習会

・チームインベントリーを理解し、チームインベントリーの結果が分析できる
・副看護師長としてチーム力を高めるための働きかけを見出す

第７回副看護師長会（平成24年11月9日）

・中堅看護師との日々の関わりでのジレンマや課題を共有し、ジレンマや課題を解決するための自己の課題を導き出す

・中堅看護師との関わりの中での管理者としてのジレンマや課題を共通認識する
・中堅看護師との関わりの中でのジレンマや課題を解決するための方向性を見出す

第７回副看護師長学習会
・円滑なチーム活動運営、意図的な中堅看護師への働きかけのために、副看護師長のコミュニケーションスキルアップを図る
・事例検討を通して当院の中堅看護師が抱える悩みに対して、副看護師長としてどのように関わるべきかを導き出す
・円滑なチーム運営のためのコミュニケーション技法について理解できる

第８回副看護師長会、第８回副看護師長学習会（平成24年12月14日）
・集合教育とＯＪＴの連携が円滑に行えたか振り返る
・経年別担当者への効果的な関わりについて検討する

第９回副看護師長会（平成25年1月11日）
・フィジカルアセスメント能力向上に向けて副看護師長として関わった結果を評価し、課題を導き出す

第９回副看護師長学習会
・フィジカルアセスメント能力向上のため、リーダーへの指導方法について学び、スタッフ指導に活かすことができる
～ 事例を通し副師長としてリーダーへの具体的な関わり方を見出す～

第１０回副看護師長会（平成24年2月8日）
・働きがいのある職場環境～チームインベントリーについて～

第１０回副看護師長学習会
・学習会の今年度の評価を行ない次年度の課題を見出す

第１１回副看護師長会（平成25年3月8日）
・年間目標の評価
・次年度に向けての課題を見出す

第１１回副看護師長学習会
・次年度の看護部目標設定を踏まえて副看護師長会としてどう取り組むかを考える

３. 専門看護師・認定看護師連絡会議

目的

専門看護師・認定看護師が各分野において専門的知識・技術をもとに高度な看護実践を行うこと、そして各分野の専門看護師・認定看護師が協力し合い、看護師への教育・指導に携わり京都医療センターの看護の質向上を図る

活動内容

１）第4回認定看護師セミナーの企画・運営を行い、院内・院外合わせて116名の参加があった。
２）コンサルテーション体制の確立を目指し、コンサルテーション用紙の作成からコンサルテーションについての院内スタッフ対象の学習会を開催、コンサルテーション用紙の運用ができた。
３）認定看護師間での情報や知識の共有を目指し、各分野のトピックス内容の発表や、一人の患者に複数の専門・認定看護師が協同して介入した事例検討を行った。

Ⅱ. 委員会

1 . 継続教育

活動目標

１）経年別研修計画の企画運営ができ、到達目標に導くことができる

２）集合教育と機会教育の連携を図る

３）職場の活性化を図り離職防止に繋げる

実施内容

１）新採用者研修　10テーマ16回と4月の看護技術演習

２）実務Ⅰ前期（2年目）3テーマ6回、実務Ⅰ後期（3年目）3テーマ6回

３）実務Ⅱ（4年目）3テーマ3回、実務Ⅱ（5年目）3テーマ3回

４）実地指導者研修2テーマ2回

５）急変アセスメント研修2回

経年別到達目標をほぼ達成することができた。事前課題、事後課題を通して所属部署内で研修テーマについて伝達講習やカンファレンスを行ない、OJTとの連携を図った。

新卒新採用者82名のうち中途退職は4名、24年度新採用者の離職率は8.5％であった。

2 . 看護の質改善

目標

看護職員の資質の向上・発展を図るために、看護の質評価を行い、分析結果より看護ケアの質改善の推進する

実施内容

1）退院時アンケート調査

携帯電話使用に関する患者、家族への対応が多くあがったため、院内の携帯電話使用区域表示や入院時の説明内容、パンフレットの再検討を行った。その結果をもとに次年度はサービス向上委員会と協力して対策を行うことになった。

また、患者からの意見に対しては各病棟でのカンファレンスを経て対応策を病棟内に掲示した。

2）身だしなみチェック

毎月の強化内容を決め、判定に写真、色見本を用いることで可否の範囲を明確にした結果、合格者が増加した。今後も身だしなみの重要性を理解し自己管理ができるような取り組みを継続する予定である。

3）看護基準・手順の監査は監査表を使用し１２項目の監査を実施した。次年度は監査表を使用せず実際の手順、根拠などを基準に監査を早期に実施する予定である。

3 . 看護記録

目標

１）看護記録内容の質を向上させる

２）標準看護計画作成後の評価ができる

実施内容

１）看護記録監査

監査表の判断基準の明確化と監査方法の見直しを行い、各病棟で4例／月ずつ実施した。

全体の集計を2回／年実施し、問題点について検討し取り組みを行った。

２）看護記録の症例検討

3事例について検討し、看護過程の思考段階をしっかり行うことの重要性について再確認した。また、急変時の看護記録を振り返ることで、経過が明確にわかる時系列記録について検討ができた。

３）標準看護計画、略語周見直し昨年作成した標準看護計画は、ほとんど活用されていない現状がわかり、存在をアナウンスし周知した。

略語集は、10年ぶりの改訂ができた。次年度も、看護実践の見える質の高い記録を目指し取り組みを継続していく必要がある。

Ⅲ. プロジェクト

1．ＮＳＴ・褥瘡チーム

目標

院内褥瘡発生率を低下させること、嚥下障害のある患者のある患者の嚥下評価・摂食機能訓練、食事介助方法を理解し実践できる。

実施内容

１）ポジショニングラウンド

年４回行った。チェックリストを作成し全病棟をリンクナースが確認し病棟看護師へ指導を行い、リンクナース知識・技術の向上に繋がっている。

褥瘡発生率は1.16％であり、前年度から0.44％低下した。

２）嚥下機能評価、摂食機能訓練

講義・演習を実施した。リンクナースが勉強会を実施することを支援し知識の向上に繋がった。しかし実践までは至っておらず今後も継続して関わる必要がある。

３）勉強会

毎月リンクナース対象に褥瘡予防、摂食嚥下に関する勉強会を実施し知識の向上に繋がった。

2．がん・緩和ケアチーム

目標

１）患者の気持に寄り添ったエンゼルメイクができる

２）化学療法・放射線療法時にグレードによる評価ができる

３）疼痛アセスメントの強化を図る

４）患者・職員への緩和ケアの普及ができる

５）がん看護について語り合うことができる

実施内容

１）エンゼルケアの手順を見直し、勉強会を実施した。エンゼルケアセットが変更となったが、アンケートを調査の結果、使用していない物品（アームクリップ、ファンデーション、リップ）もあった。エンゼルケアの基本を新採用者や経験が少ないスタッフへレクチャーを継続する。

２）化学療法のCTCAE　v4.0評価のワンウィーク調査を行った。評価が定着しつつある。

３）第4回ホスピス緩和ケア週間の10月5日に催しを行った。「アロマオイルマッサージ」「ウィッグの相談」「パネル展示」「看護学生によるコンサート」「落語会」を実施し約130名が参加。落語会は初めての企画であったが、次回も開催してほしいという意見が患者から多かった。

４）「倫理事例の検討」7・11月の2回開催した。11月は、がん以外の高齢者の終末期ケアについて倫理原則を用いて検討し、「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン」を知る良い機会となった。今後も事例検討を継続していきたい。

3．内分泌代謝ケアチーム

目標

１）インスリン関連インシデントの減少を図る

２）糖尿病の基礎知識を習得し病棟で啓発を図る

３）患者の視点に立った看護実践ができる

実施内容

インスリンインシデント減少の取り組みとして、インシデントの振り返り11回／年、インスリンの学習会、指差呼称の実践についての検討を実施した。リンクナースが各病棟で勉強会やアンケート調査を実施した。しかし、インシデントの件数は年間99件と増加した。

チームとして、ＤＭ京都・糖尿病週間行事の企画や運営にも積極的に参加した。

引き続き指差呼称の徹底、学習会の実施、インスリン関連インシデントの分析、インスリンの院内統一テンプレートの運用（医師と調整）を実施していきたい。

糖尿病看護教育セミナーを開催し10名が修了した。今後も糖尿病の基礎教育を充実させ糖尿病看護の質の向上を図っていきたいと考える。

4. 感染チーム

目標

アウトブレイクをおこさないための感染対策が実施できる

1）ゴージョー使用量増加とMRSA新規発生の減少

2）根拠に基づいた感染対策の実施・啓発活動に取り組む

実施内容

1）ゴージョー使用量調査用紙を作成し、調査方法を検討した。6/15から毎週木曜に全病棟と一部の外来で使用量の調査を開始した。調査結果から手指衛生の遵守状況がわかるようになり、各部署でリンクナースが中心になって手指衛生の啓発活動を行った。

調査開始時から比べると、ゴージョー使用量は増加したが、目標量が達成できた部署は少なく取り組みの継続が必要である。しかし、MRSA新規検出は減少傾向が見られた。

2）ノロウイルスによる感染性胃腸炎対策・インフルエンザ対策について、リンクナースが各部署で講義を行い、感染対策の定着を図った。また、会議で事例検討を行うことで、感染対策の理解と認識を深めることができた。院内ラウンドを２回行い、環境の確認を行った。

１つの病棟でインフルエンザの複数発生が見られたが、大きなアウトブレイクにつながることはなく、ICTと連携しながら封じ込めることができた。

5. 地域看護支援チーム

目標

1）患者が安心して退院・転院を迎えることができるよう支援ができる

2）退院システムの定着ができる

実施内容

1）退院支援スクリーニング表の見直しを行い、退院支援スクリーニングと退院支援計画書を同一用紙で運用できるようにした。

退院調整については、病棟と地域医療連携室担当者とが定期的に在宅カンファレンスと事例検討を実施することで、地域医療連携室への在宅相談件数の増加に繋がった。

2）看護情報提供書内容の見直しと電子カルテ内への取り込みを行うことで記載漏れが減少した。

3）訪問看護ステーションとの連携強化として、訪問看護研修と交流会を実施した。交流会では８０名の参加があり、訪問看護研修での体験を踏まえ活発な意見交換や顔の見える関係作りができた。

6. 呼吸ケアチーム

目的　人工呼吸管理および呼吸ケアの質の向上

目標　呼吸ケアに関する知識・技術の向上

1）RST（院内呼吸ケアチーム）活動とリンクし、呼吸ケアの質の向上を図る

2）呼吸に関するフィジカルアセスメント能力の向上

3）人工呼吸器関連肺炎（VAP：Ventilator-Associated-Pneumonia）に関する知識の向上

4）呼吸ケアマニュアル（吸引・気管挿管チューブの固定・口腔ケア）が正しく活用できる

実施内容

呼吸ケアの知識技術の向上のために、呼吸ケアマニュアル（解剖生理・生体に及ぼす影響・フィジカルアセスメント・モニタリング・血液ガス分析・VAP・人工呼吸器関連肺障害）を作成し、RST（院内呼吸ケアチーム）主催の研修（人工呼吸管理初級編・中級編）・歯科口腔外科医による研修（口腔ケア）・理学療法士による研修（呼吸リハビリテーション）への参加を各病棟に勧めた。また、リンクナースが全病棟を対象に各病棟で「排痰のための体位変換」の伝達講習を行った。

呼吸ケアに関連するインシデント事例をリンクナースが各病棟で検討し、プロジェクトの中での検討内容

を病棟にフィードバックし事故防止に努めた。
呼吸ケアマニュアルの浸透具合と技術確認のため、閉鎖式吸引・気管挿管チューブの固定・口腔ケア（挿管・気切）についてリンクナースの病棟を中心にラウンドを行った。

Ⅳ. 時期限定プロジェクト

院外の広報活動の一環として、地域住民に向けた「一日まちの保健室」を開催し、健康に関する支援を行った。また、看護師確保に向けた活動として、看護学生に対し就職説明会や施設見学で当院の機能や設備・看護の実際・教育体制についての説明を行った。看護の魅力をアピールし看護師になる人を増やす活動として、ふれあい看護体験・インターシップ・中学生チャレンジ体験を行った。

実施内容

平成２４年5月	合同就職説明会
平成２４年7月7日	一日まちの保健室
平成２４年7月２３日	ふれあい看護体験
平成２４年7月２４日～２７日	インターンシップ
平成２４年１１月6日～8日	中学生チャレンジ体験（藤森中学生）
平成２４年１１月１３日～１５日	中学生チャレンジ体験（深草中学生）
平成２５年3月２１日～２７日	インターンシップ

□ 看護部の運営実績

別紙４

□ 研究業績

１. 投稿
　＊別紙５
２. 院外発表
　＊別紙６
３. 院内発表
　＊別紙７

別紙４

平成２４年度看護部運営実績

病院目標　「地域への安全で高度先進的な医療の提供」

看護部スローガン　「語り合い、学び合い、成長する私たち」

看護部目標
1. 根拠・看護倫理に基づいた看護ができる人材の育成
   - ・継続教育プログラムの強化・充実
   - ・語り合い、学び合う職場環境の構築
2. 指差呼称による安全な看護の提供
3. 経営への積極的な参画
   - ・診療報酬改定への迅速な対応
   - ・コスト意識の向上
   - ・効率的な病床運営
   - ・地域医療連携強化

看護部目標　モニタリングシート

<table>
<tr><th>区分</th><th>戦略目標</th><th>重要成功要因</th><th colspan="2">平成２４年度
目標値</th><th>実績</th><th>平成２４年度評価</th></tr>
<tr><td rowspan="9">財務の視点</td><td rowspan="9">●医業収支率の達成
●診療報酬改定における迅速な対応
●コスト意識の向上
●効率的な病床管理</td><td rowspan="9">○医業収支の増加
○患者数確保
○特別室個室の利用率の向上
○診療報酬改定への対応
○病診連携の強化
○断らない医療
○チーム医療の推進
○薬、医療機器の破損の減少
○医療用消耗品の使用量の推移</td><td>経常収支率</td><td>103.1%</td><td>104.57</td><td rowspan="2">一人１日当たりの診療点数が増加した。手術件数の増加、在院日数の短縮が増加の要因である。病床管理を病院全体で行ったことにより患者数が増加した。また、救命センターから１４日以内で転棟できている。診療報酬の改定に対して算定要件を満たすための人員配置・人材育成、システムの構築など迅速に対応できた。</td></tr>
<tr><td>医業収支率</td><td>101.3%</td><td>104.9</td></tr>
<tr><td>平均患者数</td><td>544.9人</td><td>544.9</td><td rowspan="2">病床利用率平均９１％。年末年始の患者数が確保できた。待機患者の状況を見ながら入院調整や、空き日数制限のあるベッドも活用できるようになった。また、午後退院を減少させ、午前退院・午後入院ができるようになった。スタッフにも方針が浸透し、転棟・入院受け入れもスムーズになり、土日でも患者数の減少が少なかった。</td></tr>
<tr><td>病床利用率</td><td>90.8%</td><td>91</td></tr>
<tr><td>平均在院日数</td><td>14.9日</td><td>14.5</td><td>地域医療連携室の後方支援強化により長期患者が減少した。　引き続き医師へのアプローチを行う。</td></tr>
<tr><td>特別室個室病棟利用率</td><td>67%
（20人以上）</td><td>61.8</td><td>特別室個室病棟に入院を経験した患者の中からリピーターとなる患者が増加。しかし、病院全体の入院患者数に影響されることが多く、特別室個室病棟を初めから希望する患者を増加させるために対外的ＰＲ強化が必要である。</td></tr>
<tr><td>救命センタークローズ時間</td><td>19日／年</td><td>0.1</td><td rowspan="2">緊急入院受け入れ体制や救命センターと病棟のベッド調整がスムーズになり救急端末クローズがなくなった。さらに救急入院を確保するためには在院日数の短縮が必要。また、母体搬送も全例受け入れている。</td></tr>
<tr><td>救急車不応受率</td><td>10%以下</td><td>8.1</td></tr>
</table>

			入院診療計画書作成	入院基本料施設基準維持	96.4	病棟クラークの活用と連携により作成率が上がっている。医師との協力や工夫が必要。あと３．６%をどう改善するか、数字に出してスタッフに周知したり、係りに取り組ませるなど工夫する。
			救命センター看護師配置4:1		2月から実施	９月２交替制勤務の導入。夜勤専従導入について１１月から準備し１月から開始した。1月５人、２月６人、３月９人が夜勤専従を行った。ＩＣＵ４名、ＨＣＵ６名の夜勤者を確保し施設基準取得ができた。
			薬破損金額	10万円以下／月	135,890	目標の１０万円以下を達成できなかった。医師の指示変更による破棄も多く、医師との連携が必要である。
			医療機器破損件数	破損前年度以下		
			SPO２プローブ		8	
			ベッド		82	８２件（ベッド本体、リモコン含む）　古いベッドが多いため計画的な更新ができるよう企画課と交渉する。
			ナースコール		6	本体の故障が２回あり。コンピュータ基盤の故障であり部品の調達も困難。平成２５年度更新予定。
			バーコードリーダー		1	
			医療用消耗品3回／年デッドストック調査各部署		手術室2回	ＯＰ室：年２回　ＳＰＣに協力依頼し棚卸を行った。デッドストックを抽出した。使用量と請求、在庫の単位（本・箱）の不一致を洗い出せた。
						平成２５年度より、3ヶ月毎に各病棟の利用率のデータをＳＰＣから提出してもらい、利用率の低い物品は定数を見直すことにする。
顧客の視点	●患者満足の向上	○退院時アンケート ・療養環境、安全への項目を追加 ○看護の質の向上 ○療養環境の整備 ○専門性の発揮 ○リソースナースの活動と支援 ・感染アウトブレイク減少 ・褥瘡発生率低下	総合評価	総合評価：92%以上	91.3	総合評価９２％以上を達成できなかったが、自由筆記のコメントについては悪い評価は減少したと感じる。
			・技術力	・看護師の技術力：90%以上	86.2	説明力の未熟さが技術力評価に関連していると思われる。看護師の個人差が大きいとの意見があるため、個々の技量に合わせた指導が必要である。
			・環境（携帯電話）	・環境：90%以上（携帯電話）	57.0	携帯電話についてはサービス向上委員会のＷＧで検討し使用可能エリアを決定し、表示・入院案内も変更する。
			・連携	・医師看護師間の連携：90%以上	83.0	看護師、医師ともにコミニュケーションが未熟である。医師一看護師、看護師間の連携は改善が必要である。
				・夜の静かな環境	88.8	
				・身だしなみ	96.7	身だしなみ徹底の方法は検討する。委員の働きかけだけではルールの理解、行動変容に結びついていない。日々の継続した指導が必要である。
				・名前の確認	94.3	
				・安心した入院生活	94.3	総合評価として大きな改善はみられないが、対応策は具体的に考えることができた。
			褥瘡発生率	1以下	1.169	褥瘡発生率は１以下にはならなかったが、前年度より改善した。１１月は患者数多く、緩和ケアの重症者が増えたことも原因である。また、ＯＰ室からの褥瘡発生申告が徹底した。体圧分散マットレスの変更と枚数を増やしたことは効果的であった。　課題：車いす乗車中の発生をなくすこと。

			ｽﾄｰﾏﾏｰｷﾝｸﾞ件数	前年度以上	23.0	マーキングの実施件数はあるが、9月より算定要件を満たす看護師がいなかったため算定できなかった。２５年４月から２人が算定要件をクリアできる。継続して算定ができるように人材育成が必要。
			便ﾄﾞﾚﾅｰｼﾞ件数	前年度以上	0.0	該当者なし
			感染ｱｳﾄﾌﾞﾚｰｸ	0	1	ゴージョー使用増加を目指し使用量の調査を開始。結果をリスクマネージャー会等で報告し看護部以外の使用についても働きかけた。しかし一般病棟での目標達成は１病棟のみであった。使用量を増やすための具体的な方法を各病棟で考え取り組む必要がある。職員の健康管理については体調不良時は勤務せず受診するなど、感染予防対策に対する意識は高くなった。感染症アウトブレイク予防対策は流行期以前から実施できた。しかし、２／１５からインフルエンザアウトブレイクが１病棟あった。病院を上げての早期の対応で拡大することなく終息できた。
			ﾘﾝﾊﾟ浮腫外来	前年度以上	124	担当者が１名となり隔週で実施している。対象者には算定要件に合わないケースもある。資格取得者が２名となり、１名は病棟の患者を対象に実施している。今後、次年度のリンパ浮腫外来に体制を考えること、実施しても算定要件以外の患者については自費診療にするなど、実施したことが反映される方法を検討する。
			ﾘﾝﾊﾟ浮腫指導管理料	前年度以上	45	
			糖尿病合併症指導管理料	前年度以上	14	フットケアの資格がある看護師を外来に配置しているが算定できていない。対象患者の有無やどのような活動を行っているのかなどの分析・検討が必要である。
				糖尿病透析予防指導料	35	１０月から糖尿病透析予防外来を開始した。現在の人員では月・火・木で３人／週まで可能。１０人/月目標としたい。対象患者をステージ２期をターゲットにし透析予防を強化する。
			がんｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ件数	前年度以上	1	コンサルテーションを行うための方法を検討し次年度の件数増加を図る。
内部プロセスの視点	●地域医療連携の強化 ●認知症患者の看護 ●業務の効率化、働きやすい職場環境 ●医療安全の強化	○医療安全 ○認知症看護の強化 ○地域医療連携の強化 ○クリティカルパスの見直し推進（継続） ○退院支援スクリーニングの活用 ○長期入院患者数減少 ○働きやすい職場環境 ○業務改善 ・看護業務の整理 ・看護補助者の活用	転倒率	0.33以下	0.36	各病棟での転倒転落防止の取り組みを行ったが、転倒率前年度以下は達成できなかった。転倒転落件数は病棟間で差があった。同一患者の転倒件数も多い。ベッド周囲の環境が整っていないことが要因の転倒があった。今後は看護師要因の転倒を減少させるための具体的な取り組みが必要である。
			誤薬件数	90／月以下	101.4	指差呼称を取り入れた成果として12月から減少傾向にあったが３月には１００件を超えた。この取り組みの効果について、指差呼称で防ぐことができたインシデントについて、平成２４年４月と今現在とで評価する。指差呼称のＤＶＤを作成したので全員が視聴したか確認する。4月のオリエンテーションに指差呼称の監査表とe-ランニング（ＤＶＤ）を連動させて活用する。
			ｲﾝｽﾘﾝｲﾝｼﾃﾞﾝﾄ	５／月以下	8.3	インスリン関係インシデントは減少しておらず前年度の１．５倍となった。インスリンの指示については、医師に働きかけ、テンプレートを作成し統一することを目標としたが、作成できていない。医療安全管理室も介入して医師働きかけている。。共通したテンプレートができれば、インシデントが半分に減ると考えている。次年度も継続して取り組む。
			認知症患者看護講義、事例検討実施		3回	３回開催できた。認知症看護は、継続しての受講生を育てることができなかった。認知症看護は今後も続く課題である。
			パス見直し件数		0.0	１年間電子カルテの準備のため保留としていた。病院のクリティカルパスワーキングメンバーに看護師長会からの担当を決定した。
			・脳卒中連携ﾊﾟｽ	75件／年	53.0	昨年度は50件であった。今年は５３件。10月よりＰＣからの入力がどの病棟からでもできるようシステムを導入した。患者の状況によりパス適応にならないケースがある。５３件はパスに適応し転院した件数である。今後は使用件数とパスを完遂し転院した件数をモニタリングする。使用件数は適用基準に合った患者で同意を得た患者する。

			・頚部骨折連携ﾊﾟｽ	25件／年	27.0	大腿骨頸部骨折は、産婦人科病棟以外ほとんどの病棟で入院をしている。連携パスの導入は救命科ではほとんどしていない。整形外科医師が連携パスにのせている。適応した患者の内、連携病院に転院できた件数が２７件であった。
			在宅支援件数	前年度以上　ＮＳ	77.0	緩和ケア病棟ができたこともあり、在宅支援に関する地域医療連携室の介入件数は減少している。転院件数は100件程増加している。11月から退院支援の強化により病棟での在宅支援件数が増えている。
				ＭＳＷ	50.0	
			退院調整加算件数	前年度１．５倍	141.8	11月から退院支援の取り組みを行ったため、算定件数は増加した。来年度は在宅支援内容の充実に取り組む。
			長期入院患者率（30日以上）	前年度以下	127.0	長期入院患者は昨年度より減少した。転院調整については、依頼から転院までの期間が１～2か月要している。来年度は、当院の急性期の機能を果たすために、医師と連携をはかり在院日数の短縮を図る。
					0.2	
			チームインベントリ	2回／年	2.0	病棟での活用については、チームの評価として取り組み、チームがまとまってきている。インベントリーを上手に活用する。ＰＮＳ導入したとしてもチームの評価（成長の変化）に活用できると考え次年度も使用する。
			年休取得日数	前年度以上	Ｈ24年:8.55	平成24年で平均8.55あり、昨年度より延びている。病棟クラークの導入により、業務の分担ができ、看護師の年休取得がしやすくなったと考える。
				常勤	Ｈ24年:8.34	
			超過勤務時間	前年度以下	7:23	今年度は月平均8.02と昨年度同じ程度である。２－８は、日勤でペアによるケアを導入し、１・２年目の超過勤務が減少した。ペアで動くことは仕事の段取りを覚えることができるのでよい。救命は、二交替勤務導入で超過勤務が減少した。救命センターの夜勤専従者は、体調に問題なく継続できている。今年度は、救命が二交替勤務導入、特別室個室病棟は、二交替と三交替勤務をいれた。制度を上手く活用する。今後、一般病棟で夜勤専従を取り入れていくか検討する。
				常勤	8:06	
			ローテーション研修	ローテーション研修件数	9	集中治療室は、1年目2名・2年目1名の3名が研修をした。集中治療室の2対１看護から７対１看護の課題を気付くことができた。手術室から１名、循環器病研究センターで研修を受けた。次年度は、必要な研修があれば院外研修を企画する。
成長と学習	●根拠・看護倫理に基づいた看護実践 ●患者家族の擁護者として患者の生活の質を支える ●自分たちの看護を語り互いに学び合う	○人材育成 ・社会性 ・倫理 ・新人教育	経年別研修の実施			経年別研修は計画通り実施できた。本年度は、１年目フジカルアセスメント、２年目ケーススタディ、３年目認知症看護・看護倫理、実地指導者研修（２回）を時間内に追加し強化した。ケーススタディについては、指導看護師のフォローもありよくまとめられていた。
			各部署の教育体制の運用の確認、評価			チューターが必要な時期は３か月から半年程度である。社会人に対しては、必ずしも２年目がチューターでなくても良い。次年度もチューター制は取り入れる。教育は、継続教育委員、実施指導が中心となり各病棟工夫して取り組むことができた。教育体制については屋根瓦方式を継続させる。
			・急変前ｱｾｽﾒﾝﾄ研修	4年目以上 2回／年	2	計画通りに開催できた。次年度は、専門看護師・認定看護師が企画運営し定期的に開催できるようにする。
				副看護師長 2回／年	2	
			・倫理研修	看護倫理塾（師長会ＷＧ）3回／年	3	計画通り３回実施できた。急性期・慢性期の看護倫理の考え方が理解できた。
			看護管理塾（師長会ＷＧ）3回／年		6	６回開催し、看護師長間で勉強会や意見交換を行うことで看護管理を考えることができた。来年度も看護師長ワーキングで継続して行う。

別紙5

平成24年度　雑誌投稿・執筆依頼

発行者	雑誌名	テーマ	病棟	発表者
日総研	実践安全　手術看護 3月・4月号	手術を受ける子どもの親へのサポート	手術室	書間　梓
メディカ出版	エマージェンシーケア　10月号	ＥＲ　Ｆｉｌｅ	救命・救外	田村有希・清水克彦 村上涼子・分銅朋子
メディカ出版	透析ケア　11月号	透析患者のフットケア	２－８	川瀬真紀子 小久保敦子
(株)技術情報協会	月刊PHARMSTAGE　8月号	救急患者を対象とした治験における迅速な被験者エントリーへの取り組み	外来	松井いずみ
(株)エードライブコミュニケーション	中外製薬(株)医療従事者向けサイト「腎ナビ」医療連携コンテンツ	「CKD病診連携に関する取り組み」	２－８	川瀬真紀子
(株)メディカル教育研究社	チームで取り組む乳癌放射線療法	放射線皮膚炎のケア	外来	川端　朋香

別紙６

No.	月日	学会名	テーマ	病棟	発表者	種別	開催場所
1	6月22・23日	緩和医療学会	地域がん拠点病院における緩和ケア病棟の役割 ～院内一般病棟から転入してきた患者の現状からの課題～	緩和ケア	落合　恵	ポスター	神戸
2	〃	〃	終末期患者を支える家族が求めるケア ～緩和ケア病棟開設後、半年間の評価を振り返って～	〃	寺戸　沙耶花	ポスター	〃
3	〃	〃	病的骨折を繰り返す患者への援助で生じたジレンマの検討	〃	宮城　智恵美	ポスター	〃
4	6月2日	第54回関西ストーマ研究会	統一したケアを継続させるためのスタッフ指導	2－6	河合　ふたば	口述	芦屋
5	7月14・15日	心臓リハビリテーション学会	効果的な患者教育を目指して一疾患別退院指導パンフレットの作成一	2－7	炬口　友希	ポスター	大宮
6	9月29・30日	第17回日本糖尿病教育看護学会学術集会	1型糖尿病患者のインスリン注射手技と保管状況についての実態調査	2－8	森継ゆか	口述	京都
7	10月14日	第54回看護学会	1型糖尿病患者のインスリン手技についての実態調査	2－8	森継ゆか	口述	大阪
8	〃	〃	多発奇形を有した低出生体重児の退院支援～家族と共に歩む在宅支援～	2－3	森　小百合	ポスター	〃
9	10月19日	日本脳神経看護研究学会	若年AVM出血患者のリハビリテーション看護～カッコ悪くない歩行獲得を目指して～	2－4	樋口　泰子	ポスター	大阪
10	11月3・4日	第36回日本死の臨床研究会年次大会	一般病棟での音楽療法の一症例～病院でこんな日々を送れるなんて思わなかった～	看護部長室	上村　直子	ポスター	京都
11	11月16・17日	第66回国立病院総合医学会	下肢にに深部静脈血栓を生じた患者にマッサージを行うことの是非についてのジレンマの検討	緩和	西村成美	ポスター	神戸
12	〃	〃	がん性疼痛アセスメントと医療用麻薬に関する看護師の学習効果	緩和	内村未央	ポスター	〃
13	〃	〃	白内障患者の点眼指導一外来から点眼指導を導入して一	1－5	山本詩子	ポスター	〃
14	〃	〃	咽頭喉頭食道全摘術・遊離空腸再建術を受けた患者に対する嚥下訓練計画表の有効性	1－4	石浦麻貴	ポスター	〃
15	〃	〃	実習指導者専任化体制での病棟スタッフの教育体制統一への取り組み	2－4	鈴木里香	ポスター	〃
16	〃	〃	統一したストーマセルフケアの指導 ～看護師用チェックシートを活用し、在院日数の短縮を図る～	2－6	上垣絵理	ポスター	〃
17	〃	〃	頭頸部外科領域における術後創傷治癒促進を目的としたアバンド使用症例	1－4	山縣瑞帆	ポスター	〃
18	〃	〃	KYTによる手術室看護師の行動の変化とKYTの効果	手術室	加柴結可	ポスター	〃
19	〃	〃	第1回緩和ケア病棟遺族会を開催して【今年度の遺族会に向けて課題の検討】	緩和	北村美津惠	ポスター	〃
20	〃	〃	根拠に基づいたエンゼルメイクの実施を目指した取り組み	緩和	永井満恵	ポスター	〃
21	〃	〃	術後せん妄アセスメントスケールを用いた術後せん妄発症予測の効果 一転倒・ルート類の自己抜去減少を目指して一	2－6	中野達也	ポスター	〃
22	〃	〃	全室個室病棟を開設後の報告 ～特別室個室病棟と一般病棟の患者満足度の比較～	特個	岡田優美	ポスター	〃
23	〃	〃	手術環境の整備を行うと・・・ ～手術看護の専門性アップと効率的な手術ができる～	看護部長室	田坂一枝	ランチョンセミナー	〃
24	11月29日～12月1日	日本臨床薬理学会学術総会	医師指導治験における電子カルテ・テンプレートの活用	治験	松井いづみ	ポスター	沖縄
25	2月16日	日本医療マネジメント学会第10回京滋支部学術集会	頭頸部外科領域における術後創傷治癒促進を目的としたアバンド使用症例	1－4	山縣瑞帆	口述	滋賀
26	〃	〃	根拠に基づいたエンゼルメイクの実施を目指した取り組み	緩和	永井満恵	口述	〃
27	〃	〃	KYTによる手術室看護師の行動の変化とその効果	手術室	加柴結可	口述	〃
28	〃	〃	医療安全は自分自身の問題～安全意識を高めるための情報共有の工夫～	看護部長室	松本貴代子	口述	〃
29	2月17日	がん看護学会	外来で抗がん剤治療を受けているがん患者の体験	緩和ケア	櫻井　真知子	口述	金沢

別紙７

No.	テーマ	タイトル	部署	発表者	発表形式
1	看護の質Ⅰ	救命救急センター看護師が行う早期離床に関する実態についての研究	救命救急センター	平田　典子	口述
2		手術室における安全管理対策の推進活動報告	手術室	西田　和美	口述
3		集中治療室で看護計画開示を受ける患者家族の意識調査—患者家族の思いに添う開示を目指して—	集中治療室	石井　宏美	口述
4		頭頚部外科領域における術後せん妄を起こした患者の実態と要因の分析	1病棟4階	綿谷　美紀	口述
5		2-6版術後せん妄アセスメントスケールを用いた術後せん妄発症予測ー有用なアセスメントスケールの確立ー	2病棟6階	中野　達也	口述
6	活動報告	胃チューブの計画外抜去を防ぐ為の固定方法について	NICU	西野　梨未子	口述
7		統一したトリアージ実践への取り組み	救急外来	深川　哲嗣	口述
8		終末期がん患者の在宅療養への支援	1病棟6階	藤井　裕子	口述
9		第4回認定看護師セミナー開催報告と今後の課題	専門・認定看護師連絡会	清水　克彦	口述
10		CRCによるNHO主導臨床研究支援への取組み～MARK研究の円滑な実施に向けて～	治験管理室	味山　陽子	口述
11		京都府南部豪雨における当院DMATの活動報告	救命救急センター	清水　克彦	口述
12	医療安全Ⅰ	安全なCT・MR検査に向けての活動	外来	神尾　かおり	ポスター
13		内視鏡室の感染対策	外来	松岡　律子	ポスター
14		平成24年度感染チーム会活動報告	看護部感染チーム会	山本　詩子	ポスター
15		感染拡大予防の取り組みについて～ゴージョ使用量目標達成に向けて～	2病棟6階	田村　祥子	ポスター
16	看護の質Ⅰ	肝性脳症における排便コントロールの有効性	1病棟7階	西原　絵美	ポスター
17		脳血管障害による意識障害のある患者に対する腹臥位療法の効果の検討～1事例を通して～	2病棟4階	安井　優美	ポスター
18		術前リハビリの標準化に向けて～開胸術を受けた患者の離床経過～	2病棟7階	櫻井　大樹	ポスター
19		救命救急センターにおける口腔ケア・呼吸リハビリプロジェクトチームの活動報告	救命救急センター	森　香代	ポスター
20		医療リンパドレナージセラピストの婦人科病棟におけるリンパ浮腫患者への取り組みの実際と課題	2病棟3階	小谷　真弓	ポスター
21		リンパ浮腫外来の現状と今後の課題	緩和ケア病棟	永井　満恵	ポスター
22	看護の質Ⅱ	新生児観察表の導入～新生児看護の向上を目指して～	2病棟3階	毛利　洋子	ポスター
23		GCUでの退院支援の取り組み	GCU	西田　有希子	ポスター
24		パークベンチポジションにおける褥瘡予防	手術室	本間　美紗都	ポスター
25		褥瘡発生数が減少しない原因検索	救命救急センター	上村　綾	ポスター
26		疼痛アセスメントの強化に向けての取り組み	がん・緩和ケアチーム会	小谷　真弓	ポスター
27		腰椎術後に残存する下肢痺れに対する足浴効果の有用性	2病棟5階	佐々木　円	ポスター
28	医療安全Ⅱ	手術室における間接看護業務減少への取り組み～手術室支援システムを導入して～	手術室	鎌田　令子	ポスター
29		特別室個室病棟入院患者へのよりよい接遇のあり方を考える	特別室個室病棟	西谷　由香	ポスター
30		集中治療室における音環境の実態調査～患者が不快と感じる音の調査～	集中治療室	桐間　美夏	ポスター
31		インスリン関連インシデント減少に向けた取り組み～リンクナースの活動を通して～	2病棟8階	小久保　敦子	ポスター
32		指差呼称への取り組み	看護師長会医療安全ワーキング	片岡　佐由美	ポスター
33		転倒転落に関するインシデントの分析	1病棟5階	中尾　佳永	ポスター
34		脳疾患の患者における胃管チューブの自己抜去によるインシデントの傾向と対策	2病棟4階	安井　優美	ポスター
35		ラテックスアレルギーのある患者への対応マニュアルについて	手術室	涌嶋　奈津子	ポスター
36	教育・認知症看護	ようこそ看護学校へ～看護学校インターンシップを実施して～	看護助産学校	松元　由美	ポスター
37		統合力を考える授業の実践	看護助産学校	神木　京子	ポスター
38		実践能力を育成するための看護技術教育についての一考察	看護助産学校	本田　直子	ポスター
39		当院における認知症看護の実態調査	看護師長会認知症看護ワーキング	神田　直子	ポスター
40		認知症のある患者との関わりを振り返ってーフライの倫理原則に基づいてー	1病棟4階	荒木　鈴子	ポスター
41		高齢者看護～場所を認識できたことで患者のせん妄が改善した1症例～	1病棟5階	榊原　奈々	ポスター
42		自宅退院を目指す認知症患者とその家族への関わり	2病棟4階	十河　謙一	ポスター
43	がん・緩和ケア・グリーフケア	エンゼルケアセットの導入と手順の周知徹底を目指した取り組み	がん・緩和ケアチーム会	南　真由美	ポスター
44		1ー8病棟緩和ケアチームのエンゼルケアに関する成果～エンゼルメイクへの意識の変化～	1病棟8階	佐藤　麻奈美	ポスター
45		エンゲルケアにミスト浴を取り入れたグリーフケア	緩和ケア病棟	宮城　智恵美	ポスター
46		化学療法における症状評価基準使用の定着に向けた取り組み～CTCAE　v．4．0を用いて～	がん・緩和ケアチーム会	辻本　円香	ポスター
47		緩和ケアチーム基礎研修修了後のチームの課題	緩和ケアチーム	上村　直子	ポスター
48		第1回緩和ケア病棟遺族会を開催して～今年度の遺族会に向けて課題の検討～	緩和ケア病棟	北村　美津江	ポスター
49		外来化学療法センターでのホルモン療法～看護師の役割～	外来	岩松　美穂	ポスター
50	倫理	倫理カンファレンスー悪性疾患で症状増悪の中、急変しCPRが施行された症例の検討ー	集中治療室	田中　沙紀	ポスター
51		がん・緩和ケアチーム会で倫理問題を語る～被殻出血患者の意思決定の検討～	がん・緩和ケアチーム会	原口　裕美子	ポスター
52		下肢に深部静脈血栓を生じた患者にマッサージを行うことの是非についてのジレンマの検討	緩和ケア病棟	西村　成美	ポスター
53		「終末期患者の自己決定を支える看護」～療養の場を選択する上でのチーム医療～	2病棟3階	茨木　薫	ポスター
54		身体抑制をしている患者に対する看護師の葛藤	2病棟4階	三野　恵子	ポスター

京都看護助産学校




副学校長
山本　薫里

助産師科　教育主事
渡邊　玲子

看護師科　教育主事
松元　由美

看護師科　教育主事
岡本　稔子

Ⅰ　看護学校の概要

1. 名称
独立行政法人　国立病院機構　京都医療センター附属京都看護助産学校

2. 所在地
〒612－8555　京都市伏見区深草向畑町１の１
TEL（075）641－9191（直通）　HP　http://www.hosp.go.jp/-kyotolan/

3. 沿革

昭和24年４月１日	国立京都病院附属高等看護学院として開設 １学年定員30名　総定員90名
昭和43年４月１日	１学年定員50名　総定員150名
昭和44年４月１日	助産婦科の附設　　１学年定員35名　総定員35名 国立京都病院附属高等看護助産学院に名称変更
昭和50年４月１日	国立京都病院附属看護助産学校に名称変更
昭和51年４月１日	専修学校（専門課程）に認定
平成16年４月１日	国立療養所宇多野病院附属看護学校（３年課程）と国立療養所南京都病院附属看護学校（２年課程）と３校が統合、大型校となり独立行政法人国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校に名称変更 看護師科　１学年定員80名　総定員240名 助産師科　１学年定員35名　総定員 35名

卒業生数（平成25年 3月31日現在）
看護師科（１回生～53回生）… 1,968名
（１回生～9回生）…　669名（統合後）
助産師科（１回生～44回生）… 1,303名

4. 課程・定員

課程	学科	入学定員	総定員	在籍者数（平成 25年3月1日現在）			
				1年生	2年生	3年生	合計
看護専門課程	看護師科(3年課程)	80人	240人	77人	79人	75人	231人
看護専門課程	助産師科	35人	35人	29人			29人
計		115人	275人	106人	79人	75人	260人

II　教育理念・目的

1. 教　育　理　念

本校は、国立病院機構附属の養成所であり、国立病院機構の病院が担っている役割や機能を理解し、将来の国立病院機構の医療をリードしていく看護実践力をもつ看護師を育成することを責務としている。

人間愛を基盤とし、生命の尊厳と人権の尊重ができる感性豊かな人間性を育てることに主眼をおき、感じる心・考える力・主体的に行動する学生の育成を目指している。感じる心とは、人間に関心をもつことができ、生命の大切さや多様な価値観を感性豊かに感じとり物事の変化に気づくこと、考える力とは、状況の意味を自ら考え、専門的知識を活用して分析・判断する力のこと、主体的に行動するとは、感じ考えたことを自らすすんで表現し行動に繋げることができ責任がとれること、自己の目標達成に向けて卒業後も継続的に学習することを言う。

人間は、自己実現を目指し変化しようとしている存在であるが、現代の若者は生活体験が乏しいことから事象をイメージしにくく想像力・理解力が未熟な傾向にあるため、看護専門職として必要な基礎的知識、技術、態度を習得にあたり、体験的・実践的学習をとりいれわかりやすい授業を実践する。また、臨地実習での学びを充実させるために学びやすい環境づくりに力を入れる。さらに、医療・看護の動向をふまえ、保健医療福祉の変化に対応できる人材を育成する。

2. 教　育　目　的

看護師若しくは助産師として必要な知識及び技術を教授し、独立行政法人国立病院機構及び社会に貢献し得る有能な人材を育成する。

3. 教　育　目　標

1. 生命の尊厳と個々の人権を尊重できる感性豊かな人間性を養う。
2. 看護の対象である人間を総合的に理解する能力を養う。
3. 科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 人々の多様な価値観を認識し、専門職業人として共感的態度及び倫理に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
5. 人々の最適な健康状態を目指し、生活を支援できる看護実践の基礎的能力を養う。
6. 保健・医療・福祉の連携の中で調整的役割を果たす基礎的能力を養う。
7. 国際化・情報化時代に対応できる基礎的能力を養う。
8. 専門職業人としての自覚と責任をもち、主体的に看護を向上発展させていく姿勢を養う。

コンセプト

感じる心　　考える力　　そして・・・行動を

4.平成２４年度　部門（看護学校）目標

部門目標			重点目標
1	看護師として必要な基本・基礎的な知識と技術の確かな定着を図り、実践的に国立病院機構に貢献できる人材を育成する	○	カリキュラム評価により随時教育内容の見直し
		○	カリキュラムの円滑な運営･実施
		○	臨床との連携による看護技術教育の充実
		○	国立病院機構への就職率看護師科７０％以上、助産師科５０％以上
2	地域との連携を密にし、相互理解と連携強化に努める	○	地域・看護協会等との積極的交流や連携強化
		○	継続教育への講師派遣･研修受け入れ
		○	病院・地域と連携した公開講座の実施
		○	高校訪問、出前授業等の実施数アップ
		○	広報活動強化（ HP、学校パンフレット見直し）
3	学校評価の充実と、学校の透明性を推進する	○	自己点検･自己評価及び第三者評価の実施と公表
		○	学生による授業評価の実施と講師へのフィードバック
		○	卒業時カリキュラム評価の目標平均値２．８以上
4	指導計画や授業実践の改善・充実につながる授業評価や研修の充実を図り、教員の指導力の向上に努める	○	授業研究活動の活発化（教員最低１回）による授業力アップ
		○	研究等の発表数の増加
		○	専門領域の研修
		○	研修日の確保（月１日）
5	認め合い支えあう職場環境の醸成および組織の活性化に努める	○	チームとしての業務遂行（連携・調整の強化）
		○	効率的で確実な教育態勢作り
		○	勤務時間管理の徹底と自己管理（自己コントロール）
6	学生が自ら学び自ら問題を解決していく意志と態度や、つねに探求する姿勢を養う。《感じ、考え、行動する》	○	少人数制の授業･演習形態やグループワークの活用
		○	「自分で創る学校生活」を意識させ、学生主体で企画・運営する機会を設ける
		○	活発な自治会活動・クラブ活動への支援
		○	ボランティア活動等の推奨

Ⅲ.　本学の組織

1．組織図

- 学校長　中村　孝志
  - 副学校長　山本　薫里
    - 看護師科教育主事　松元　由美
    - 看護師科教育主事　岡村　稔子（実習調整者）
      - 教員　神木　京子
      - 教員（１年）　近藤　尚子
      - 教員（１年）　中溝　好美
      - 教員（１年）　寺田　博子
      - 教員（１年）　浦田　由希子
      - 教員（２年）　榮　圭子
      - 教員（２年）　大上　寿子
      - 教員（２年）　文元　さだ子
      - 教員（３年）　本田　直子
      - 教員（３年）　榎本　里香
      - 教員（３年）　江端　深雪
        - 実習助手　宮崎　千代子
    - 助産師科教育主事　渡邊　玲子
      - 教員　川﨑　純子
      - 教員　辻本　陽子
      - 教員　北井　英子
        - 実習助手　北村　妙子、緒方　京、中川　明子、勢力　陽子、中本　智子、吉井　恵美子
    - 事務長　長井　義美
      - 事務長補佐　長谷川　弘和
        - 事務主任　北尾　義隆
          - 事務助手　野口　真理子
          - 事務助手　倉本　佳美
          - 事務助手　田代　美香
          - 事務助手　小林　陽子

2. 教育経験年数

	教 員 の 種 別	教 育 年 数	専 門 領 域
	副学校長（山本　薫里）	17 年	基礎看護学
看護師科	教育主事（松元　由美）	14 年	基礎看護学
	教育主事（岡村　稔子）	11 年	基礎看護学
	教　　員（近藤　尚子）	18 年	基礎看護学
	教　　員（榮　　圭子）	12 年	精神看護学
	教　　員（神木　京子）	6 年	成人看護学
	教　　員（本田　直子）	6 年	成人看護学
	教　　員（文元さだ子）	6 年	成人看護学
	教　　員（中溝　好美）	4 年	老年看護学
	教　　員（浦田由希子）	4 年	小児看護学
	教　　員（榎本　里香）	2 年	成人看護学
	教　　員（大上　寿子）	1 年	成人看護学
	教　　員（寺田　博子）	1 年	成人看護学
	教　　員（江端　深雪）	0 年	成人看護学
	実習助手（宮崎　千代子）		母性看護学
助産師科	教育主事（渡邊　玲子）	助８年	助産学・母性看護学
	教　　員（川崎　純子）	看５年・助４年	助産学・母性看護学
	教　　員（辻本　陽子）	助２年	助産学
	教　　員（北井　英子）	0 年	助産学
	実習助手（北村　妙子） （緒方　　京） （中川　明子） （勢力　陽子） （中本　智子） （吉井　恵美子）		

3. 職員・講師数

教職員に関する事項	教員の種別	専　任	兼　任		職員の種別	専　任	兼　任
			（看）	（助）			
	保健師	０名	０名	１名	事務職員	３名	３名
	助産師	４名	６名	９名	その他の職員	０名	０名
	看護師	１３名	２４名	３名	合　計	３名	３名
	医　師 （歯科医師含む）	０名	３３名	１７名			
	その他の教員	０名	２５名	６名			
	合　計	１７名	８８名	３６名			

Ⅳ.　学生募集

1．入学試験実施状況

＜看護師科＞

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成25年　1月24日（木）	平成25年　1月26日（土）	平成25年　1月31日（木）
社会人入学試験	平成24年11月29日（木）	平成24年12月　1日（土）	平成24年12月　6日（木）
推薦入学試験	平成24年11月29日（木）		平成24年12月　6日（木）

＜助産師科＞

	一次試験	二次試験	合格発表
一般入学試験	平成25年　1月24日（木）	平成25年　1月26日（土）	平成25年　1月31日（木）
特別選抜入学試験	平成24年11月29日（木）		平成24年12月　6日（木）

2．入学試験実施状況

＜看護師科＞

年度（回生）	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成 20 年（第 7 回生）	社会人	90	83	41	37		
	一般	190	182	82	57		
	合計	280	265	123	94	1	97
平成 21 年（第 8 回生）	社会人	66	63	42	39		
	一般	137	127	53	41		
	合計	203	190	95	80	4	74
平成 22 年（第 9 回生）	社会人	109	101	43	39		
	一般	156	147	56	42		
	合計	265	248	99	81	7	75
平成 23 年（第 10 回生）在学中	社会人	108	106	44	39		
	一般	177	172	61	43		
	合計	285	278	105	82	1	
平成 24 年（第 11 回生）在学中	社会人	108	100	46	42		
	一般	134	130	59	37		
	合計	242	230	105	79	1	
平　均		255	242	105	83	2.8	

＜助産師科＞

年度（回生）	試験	応募者数	受験者数	合格者数	入学者数	退学者数	卒業者数
平成22年（第42回生）	特別選抜（学校）	8	8	8	8		
	特別選抜（施設）	2	2	2	1		
	一般	137	136	28	25		
	合計	147	146	38	34	2	32
平成23年（第43回生）	特別選抜（学校）	16	16	16	16		
	特別選抜（施設）	5	5	5	5		
	一般	108	106	17	14		
	合計	129	127	38	35	1	34
平成24年（第44回生）	特別選抜（学校）	11	11	11	11		
	特別選抜（施設）	2	2	2	1		
	一般	89	87	23	8		
	合計	102	100	36	30	1	29
平　均		126	124	37	33	1.3	

3．オープンキャンパスの実施

＜看護師科＞

	日　程	内　容　／　参加人数	
1	平成 24 年 5 月 2 日（水）	看護の記念行事として卒業高校の訪問　（19施設）	
2	平成 24 年 6 月 12 日（火）	高校の進路指導部の教員対象の説明会	5人
3	平成 24 年 7 月 29 日（日）	学校の概要説明、校舎内見学 学校生活紹介、学生メッセージ 入試概要説明 質疑・応答、個別相談	63人
4	平成 24 年 7 月 30 日（月）		48人
5	平成 24 年 8 月 1 日（水）		7人
6	平成 24 年 8 月 18 日（土）		77人
7	平成 24 年 8 月 20 日（月）		26人
8	平成 25 年 9 月 29 日（土）		35人
9	平成 24 年 10 月 20 日（土）	学校説明会・公開講座	39人
		合計	300人

＜助産師科＞

	日　程	内　容　／　参加人数	
1	平成24年7月21日（土）	学校の概要説明、校舎内見学 学校生活紹介、学生メッセージ 入試概要説明 質疑・応答	15人
2	平成24年8月11日（土）		62人
3	平成24年8月26日（土）		37人
		合計	114人

Ⅴ.　学生生活

１. 心身の健康保持・増進

１）カウンセリング

カウンセラーによるカウンセリングを週１回（放課後）に実施している。

２）健康診断

健康管理規定に基づき、定期的に実施している。

項　目	対　象	４月	７月	１０月	１月
１．身体測定	全学生	○	○	○	○
２．胸部Ｘ線撮影	全学生	○			
３．血圧測定	全学生	○		○	
４．検尿 （糖、蛋白、潜血、ｳﾛﾋﾞﾘﾉｰｹﾞﾝ）	全学生	○		○	
５．内科総合診断	全学生	○		○	
６．採血 （梅毒反応、HB、HCV、麻疹、風疹 水痘、ムンプス抗体検査）	新入生	○			
７．ツベルクリン反応検査	新入生（2,3 年生の陰性者）	○			
＊検便は実習前に実施					

２. 課外活動　：　看護師科

１）自治会活動

	＜　前　期　＞		＜　後　期　＞
５月	自治会総会	11月	自治会総会
６月		12月	大掃除
７月	大掃除	１月	新春コンサートへの参加
８月		２月	国家試験激励会
９月		３月	予選会
10月	戴帽式のお祝い 自治会総括 後期自治会選挙	４月	新入生歓迎会 自治会総括 前期自治会選挙

２）クラブ活動

（１）バレーボール部

毎週　水・木・金　曜日　１６：３０～１８：００　体育館

あじさい杯　平成24年7月14日（土）　開催

＊京都看護助産学校主催で近畿ブロック附属看護学校5校のバレーボール部が集まる大会。毎年開催している。

（2）茶道部

隔週　木　曜日　１６：３０～１８：３０　在宅看護実習室

七夕茶会　平成24年7月13日（金）　開催

初釜茶会　平成25年2月 1日（金）　開催

（3）園芸部

不定期開催

患者さんたちに季節の花を見てもらえるよう、草花を植えて手入れをしている。

3）ボランティア活動

	実施時期	学年	実施内容
1	平成 24 年 5 月	学生全員	看護の日記念行事コンサート・カードの配布 （京都医療センター、宇多野病院、南京都病院）
2	平成 24 年 6 月 20 日	2 年生	キャンサーリボンズ　　コンサート
3	平成 24 年 10 月	1 年生	緩和ケアコンサート
4	平成 24 年 11 月	学生有志	引越しボランティア　（宇多野病院）
5	平成 24 年 12 月	1 年生	クリスマスコンサート
6	平成 25 年 3 月	3 年生	病院清掃ボランティア 禁煙キャンペーン（花の植え替え）
7	平成 25 年 3 月	学生有志	紫香楽病院　 引越しボランティア
8	年間の活動	学生有志 12 名	キレイの力プロジェクト ウィッグ作成のための髪の毛を提供

Ⅵ.　卒業生の進路

1. 就職・進学状況

＜看護師科＞

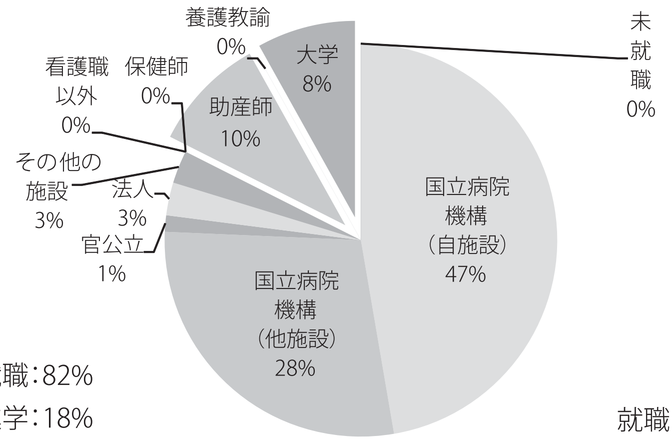
<table>
<tr><th rowspan="3">年月</th><th rowspan="3">回生</th><th rowspan="3">卒業者数（人）</th><th colspan="6">就　職（人）</th><th colspan="4">進学（人）</th><th rowspan="3">未就職</th></tr>
<tr><th colspan="2">国立病院機構</th><th rowspan="2">官公立</th><th rowspan="2">法人</th><th rowspan="2">その他</th><th>看護職</th><th rowspan="2">保健師</th><th rowspan="2">助産師</th><th rowspan="2">養護教諭</th><th rowspan="2">大学</th></tr>
<tr><th>自施設</th><th>他施設</th><th>以外</th></tr>
<tr><td>平成 23 年 3 月</td><td>第 7 回生</td><td>97</td><td>34</td><td>41</td><td>7</td><td>2</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td></tr>
<tr><td>平成 24 年 3 月</td><td>第 8 回生</td><td>75</td><td>35</td><td>20</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>11</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td></tr>
<tr><td>平成 25 年 3 月</td><td>第 9 回生</td><td>75</td><td>35</td><td>21</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>7</td><td>0</td><td>6</td><td>0</td></tr>
<tr><td colspan="3">平　　均</td><td>35</td><td>27</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td><td>0</td><td>3</td><td>0</td></tr>
</table>

＜助産師科＞

年月	回生	卒業者数（人）	就　職（人）						進学	未就職
			国立病院機構		官公立	法人	その他	看護職以外		
			自施設	他施設						
平成23年3月	第42回生	32	3	9	11	7	2	0	0	0
平成24年3月	第43回生	34	6	16	6	2	2	0	0	0
平成25年3月	第44回生	29	5	10	9	2	3	0	0	0
平　均			5	12	9	4	2	0	0	0

平成25年3月　進路状況

＜看護師科　第9回生＞

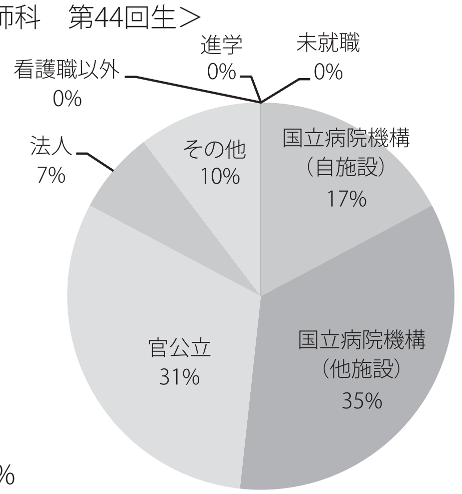


就職：82%

進学：18%

就職者の中の機構就職率：91.8%

＜助産師科　第44回生＞



就職：100%

就職者の中の機構就職率：51.7%

2. 国家試験

＜看護師科＞

		全国（%）	機構附属（%）		
			全国	近畿	京都
１０１回（H24.3）	全体（新卒）	90.1（95.1）	98.6（98.9）	99.1	100
１０２回（H25.3）	全体（新卒）	88.8（94.1）	97.3（97.7）	99.1	100

＜助産師科＞

		全国（%）	機構附属（%）	
			全国	京都
９５回（H24.3）	全体（新卒）	95.0（96.0）	100	100
９６回（H25.3）	全体（新卒）	98.1（98.9）	100	100

Ⅶ.　教員の研究および研修参加

1．研究活動

＜学会発表＞

日程	学会名	テーマ	研究者（○発表）
平成24年 11月16日 ・17日	第65回国立病院療養所総合医学会	ようこそ看護学校へ　～看護学校インターンシップを実施して～	近畿ブロック副学校長教育主事協議会グループ研究 松元　由美（山本薫里・岡村稔子・渡邊玲子）
		統合力を考える授業の実践	神木　京子
		実践力を高めるための看護技術教育についての一考察	本田　直子
		卒後1、2年目看護師による卒業前演習の評価	平成23年度教員研修会統合分野グループ研究 (神木京子・本田直子)
		看護学生の高齢者疑似体験演習を生かした授業の学び	平成23年度教員研修会老年看護グループ研究 （榮圭子・中溝好美）
平成24年 11月16日 ・17日	第53回 日本母性衛生学会	入学時点での助産師学生の技術経験から基礎看護教育との連携を考える	川﨑　純子
		助産師学生の助産技術経験　卒業時到達から見た技術習得状況	辻本　陽子

＜教員研修会　研究グループ＞

	テーマ	教員
1G　マニュアル	学校運営マニュアルの改訂（1・2G合同）	川﨑　純子 神木　京子
2G　マニュアル		中溝　好美
3G　学生確保	看護学生確保対策における課題と今後の広報活動の検討	榮　圭子 江端　深雪
4G　実習指導	実習指導者の育成　～新任実習指導者の研修プログラム作成の取り組み～	北井　英子 大上　寿子 寺田　博子
5G　統合分野	「統合する力」を育成する演習指導案の検討・作成	辻本　陽子 本田　直子
6G　基礎看護学	基礎看護学におけるコミュニケーション能力育成のための授業案の検討	近藤　尚子 文元　さだ子
7G　成人看護学	成人終末期患者の全人的苦痛を理解するための授業方法の検討	榎本　里香

＜授業研究＞

日 程	授業内容	教 員
平成 24 年 9 月 18 日 大阪医療センター附属看護学校	1･2 年目教員の育成（授業見学） 老年主要症状別援助論 「視聴覚機能低下した高齢者の看護」	寺 田　博 子 大 上　寿 子 江 端　深 雪 北 井　英 子
平成 24 年 9 月 26 日 大阪南医療センター附属大阪南看護学校	1･2 年目教員の育成（授業見学） 基礎看護技術Ⅲ 「安全・安楽（無菌操作）」	江 端　深 雪
平成 24 年 12 月 13 日 当校	1･2 年目教員の育成（公開授業） 基礎看護技術Ⅴ 「呼吸を整える援助（酸素吸入）」	江 端　深 雪
	1･2 年目教員の育成（授業見学） 同上	寺 田　博 子 大 上　寿 子 北 井　英 子
平成 25 年 1 月 30 日 大阪医療センター附属看護学校	（授業見学）精神看護学概論	榮　圭 子
平成 25 年 2 月 4 日 大阪医療センター附属看護学校	（授業見学）臨床看護総論「看護過程」	浦 田　由 希 子
平成 25 年 2 月 15 日 当校	（公開授業） 成人看護援助技術Ⅰ～疼痛のある患者の看護～ アセスメント演習	神 木　京 子

2. 研修参加状況

日 程	主 催	研 修 内 容	参 加 人 数
平成 24 年 5 月 2 日	近畿ブロック	新採用教員研修	1 人
平成 24 年 6 月 1 日	近畿ブロック	新任教員研修①	3 人
平成 24 年 7 月 2 日 ・3 日	近畿ブロック	新任中間監督者研修	3 人
平成 24 年 7 月 10 日～27 日	機構本部	幹部看護師（看護師長等） 管理研修Ⅰ	1 人
平成 24 年 8 月 3 日	近畿ブロック	3 年目以上教員研修	11 人
平成 24 年 9 月 15 日	近畿ブロック副学校長教育主事協議会・教員研修会	夏期合同研修会	16 人
平成 24 年 9 月 28 日	近畿ブロック	新任教員研修②	4 人
平成 24 年 11 月 21 日・22 日	機構本部	新人教員研修	2 人
平成 24 年 11 月 21 日	近畿ブロック	新採用教員研修	1 人
平成 24 年 5 月 14 日～16 日 12 月 6 日・7 日	機構本部	平成 24 年度医療安全 管理研修会	5 月：1 人 12 月：2 人
平成 24 年 10 月 6 日～ 平成 25 年 2 月 23 日 （ 9 日間）	京都府 看護協会	平成 24 年度 看護教員継続研修	1 人

Ⅷ. 社会への貢献

1. 公開講座

	日 程	テーマ	参加者数
看護師科	平成24年 7月25日（水）	基礎看護技術「臥床患者の寝衣交換」援助	24人
	平成24年 7月29日（日）	看護学生体験：手洗い・体位変換、BLS体験・血圧測定体験	34人
	平成24年 7月30日（月）	看護学生体験：手洗い・体位変換、BLS体験・血圧測定体験	31人
	平成24年 8月18日（日）	看護学生体験：手洗い・体位変換、BLS体験・血圧測定体験	42人
	平成24年8月 1日（水）	模擬授業：血圧測定	3人
	平成24年8月20日（月）	模擬授業：血圧測定	8人
	平成24年10月15日（土）	やすらかなひとときを日常に 〜ストレスをためないストレッチ、指ヨガで簡単リラックス〜	17人
助産師科	平成24年8月11日（土）	女性のための健康教室	12人
		合計	122人

2. 教員の講習会、研修等の講師

日程	研修内容	教員
平成24年6月〜7月	平成24年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会　講義講師	山本　薫里 松元　由美 岡村　稔子 川﨑　純子
	平成24年度保健師助産師看護師 実習指導者講習会 演習指導案助言講師	神木　京子
平成24年7月〜8月	平成24年度京都滋賀合同 看護教員養成講習会 講義講師・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ講師 教育実習講師	山本　薫里

3. 研修受け入れ

日程	研修内容		受け入れ数
平成 24 年 6 月 4 日～ 6 日	教員実務 研修	愛仁会看護助産学校	2 人
平成 24 年 10 月 9 日～26 日	教育実習	平成 24 年度京都滋賀合同 看護教員養成講習会	2 人
平成 24 年 9 月 平成 25 年 3 月 （各 2 日間）	教員インターンシップ	近畿ﾌﾞﾛｯｸ副学校長教育主事協議会主催	9 月： 2 人 3 月： 2 人
平成 25 年 1 月 8 日～2 月 15 日 3 月 4 日～6 日	教育実習	市立奈良病院附属看護学校	1 人

IX.　施設と設備

1. 建物の概要

	区　分	建築年数	構造・階	面積（㎡）	摘　要
看護師科	校　舎	平成１６年	RC4 階	延：3037㎡ 建：1002㎡	
助産師科	校　舎	昭和５４年	RC2 階	延：850㎡ 建：469㎡	
	寄宿舎		RC5 階	延：540㎡ 建：111㎡	
共通	図書棟	平成１６年	RC2 階	延：704㎡ 建：421㎡	
	体育館	平成３年	RC2 階	延：664㎡ 建：600㎡	

2. 図書・ビデオ保有数

＜図書＞　（平成25年3月31日現在）

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	雑誌	合計
看護師科	3,281	2,604	8,478	33	33種	14,807
助産師科	548	973	2,026	8	18種	3,573

＜ビデオ＞　（平成25年3月31日現在）

	基礎科目	専門基礎科目	専門分野	その他	合　計
看護師科	28	123	713	0	864
助産師科	0	74	240	0	314

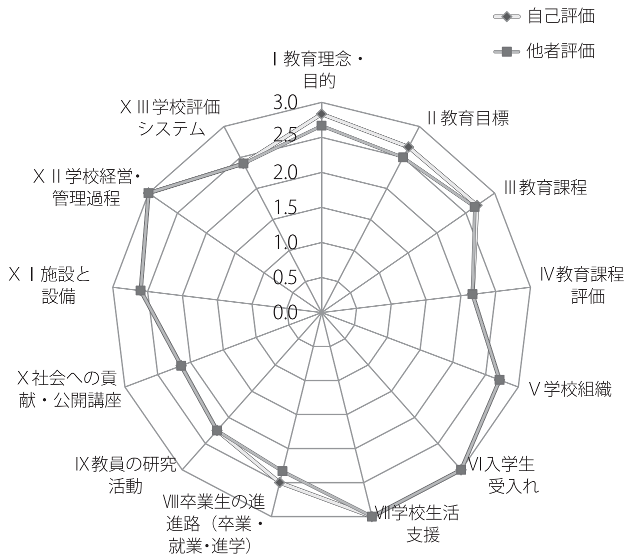
X.　会議一覧

月	平成 24 年度　開催状況
4 月	運営会議・ 講師会議 実習指導者会議 ・ 実習指導者役員会 教員会議 （5 回／月）
5 月	実習指導者会議 ・ 実習指導者役員会 教員会議 （4 回／月）
6 月	運営会議 実習指導者会議 ・ 実習指導者役員会 教員会議 （3 回／月）
7 月	実習指導者会議 ・ 実習指導者役員会 教員会議 （4 回／月）
8 月	教員会議 （9 回／月）
9 月	実習指導者会議 ・ 実習指導者役員会 教員会議 （4 回／月）
10 月	実習指導者会議 ・ 実習指導者役員会 教員会議 （5 回／月）
11 月	運営会議 実習指導者会議 ・ 実習指導者役員会 教員会議 （4 回／月） 入試委員会（社会人入試・特別選抜入試） 一次試験 合否判定会議 ・二次試験 合否判定会議
12 月	実習指導 者会議・ 実習指導者役員会 教員会議 （3 回／月）
1 月	運営会議 教員会議 （4 回／月） 入試委員会（一般入試） 一次試験 合否判定会議 ・二次試験 合否判定会議
2 月	運営会議・ 講師会議 実習指導者会議 ・ 実習指導者役員会 教員会議 （4 回／月）
3 月	運営会議・ 講師会議 実習指導者会議 ・ 実習指導者役員会 教員会議 （4 回／月）

XI.　平成24年度　　看護師養成所自己点検・自己評価結果

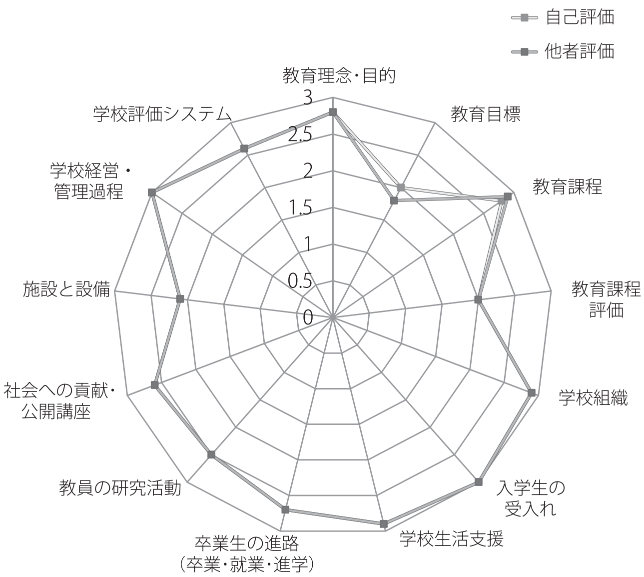
＜看護師科＞

No	評価項目		自己評価	他者評価
Ⅰ	教育理念・目的	6項目	2.8	2.7
Ⅱ	教育目標	6項目	2.7	2.5
Ⅲ	教育課程	26項目	2.7	2.7
Ⅳ	教育課程評価	6項目	2.2	2.2
Ⅴ	学校組織	7項目	2.7	2.7
Ⅵ	入学生の受け入れ	5項目	3.0	3.0
Ⅶ	学校生活支援	12項目	3.0	3.0
Ⅷ	卒業生の進路	6項目	2.5	2.3
Ⅸ	教員の研究活動	4項目	2.3	2.3
Ⅹ	社会への貢献・公開講座	7項目	2.1	2.1
Ⅺ	施設と設備	5項目	2.6	2.6
Ⅻ	学校経営・管理過程	7項目	3.0	3.0
XⅢ	学校評価システム	7項目	2.4	2.4
		全体の平均	2.6	2.6



＜助産師科＞

Ｎｏ	評価項目		自己評価	他者評価
Ⅰ	教育理念･目的	6項目	2.8	2.8
Ⅱ	教育目標	6項目	2.0	1.8
Ⅲ	教育課程	26項目	2.8	2.9
Ⅳ	教育課程評価	6項目	2.0	2.0
Ⅴ	学校組織	7項目	2.9	2.9
Ⅵ	入学生の受入れ	5項目	3.0	3.0
Ⅶ	学校生活支援	12項目	2.9	2.9
Ⅷ	卒業生の進路	6項目	2.7	2.7
Ⅸ	教員の研究活動	4項目	2.5	2.5
Ⅹ	社会への貢献･公開講座	7項目	2.6	2.6
Ⅺ	施設と設備	5項目	2.1	2.1
Ⅻ	学校経営・管理過程	7項目	3.0	3.0
XⅢ	学校評価システム	7項目	2.6	2.6
		全体の平均	2.6	2.6



編集後記

2012年4月に広報委員会が拡充されたのを契機に、途絶えていた診療年報を2011年度分から再開させ、今回は2刊目となります。京都医療センターが一丸となって作成にたずさわり、2011年度よりよいものを作ることが出来たと思っています。

新しくなった広報委員会が2012年度に行った大きなこととしては、この診療年報の復活の他に、当院の広報誌にあたる「京都医療センターだより」の充実が挙げられます。これまで、翌月の上旬に前の月の号が発行されていたのを、発行日を少しずつ前倒しして、その月の頭にその月の号が発行されるようにしました。また、メッセージ性を高めるために患者さん向けと医療従事者向けで記事を分けるようにしました。さらに2102年12月号からは、表紙に写真を載せるようにしました。記念すべき最初の写真は、当院看護学校の戴帽式の幻想的な写真でした。当院ホームページの「京都医療センター広報誌」からもご覧いただけます。その他の2012年度の広報委員会の取り組みといえば、患者さん向けのクリスマスコンサートを保育所園児も含めた院内の他職種にわたるスタッフで盛大に開催したことです。特に看護学生のみなさんが熱心に取り組んでくれ、患者さんたちにも喜んでいただける楽しい会ができました。

さて、2012年度の診療年報に目を通していただき、いかがだったでしょうか。当院の外部の方、京都医療センターに大切な患者さんを紹介したいと思っていただけたでしょうか？あるいは、京都医療センターで働きたいと思っていただけたでしょうか？逆に叱咤激励いただける点がありますでしょうか？病院内の職員の方は、どうでしょう。隣の部門の仲間の刻苦勉励の足跡が見えたでしょうか？この病院の一員であることに誇りを持ってもらえたでしょうか？

この診療年報により、私たちの昨年一年間の活動を外部の皆様にお知らせいたしますが、病院内の皆様には、鏡に映った自分の姿を見るように、昨年の活動を今一度振り返っていただければ嬉しく思います。そのことが、明日の活動へのモチベーションにつながり、京都医療センターをますます発展させ、さらに地域医療に貢献する一助になれば甚だ幸いです。

2013年　広報委員会
瀬田公一
塚原徹也